

授業名	現代家政学論 I	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Contemporary Home Economics I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	吉田 博子	対象学生	全1回生		
授業の概要	本授業では、未来の健全な社会の建設、新しい時代の家族・家庭を中心とした人間生活のあり方の探究を目的とする。さらに、現代社会における「人間、家族・家庭、地域、社会」それぞれをめぐる諸問題を見据えて、学習研究課題の把握をめざす。具体的には、人間生活の幸福な在り方、心豊かな在り方について、子育て、家族、家庭教育、地域等における人間としての広範な関わりに目を向け、今（現在）を考え、未来社会の在り方を探求する。講義とともに参加型の授業とする。				
学習成果到達目標	1)諸外国の状況と比較して、現代日本の家族・家庭・地域・社会の現状を理解する。 2)現状理解を踏まえて、家族・家庭・地域を中心とした人間生活の新しいあり方、未来社会の在り方を探求理解する。 3)諸問題を見据え、次世代を切り拓くための学習研究課題を見つける。				
評価方法	定期試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (課題発見力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	佐藤淑子『イギリスのいい子 日本のいい子～自己主張とがまんの教育学～』(中公新書) 平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』(PHP 研究所) (¥1200)				
参考書	適宜参考書を紹介する				
留意事項	テキスト・配付資料・参考文献をしっかりと読み込むこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 「家政とは」「家政学とは」「現代家政学とは」 (1) 家政学の歩み	(内 容) 本講義の目標を理解し学習計画を立てる。 「家政」「家政学」「家政学の歩み」について考える。 (必要な準備) テキストを持ってくる。			
第2回	オリエンテーション 「家政とは」「家政学とは」「現代家政学とは」 (2) どんな研究領域か	(内 容) 本講義の目標を理解し学習計画を立てる。 「家政」「家政学」「現代家政学」はどんな研究領域か (必要な準備) 配付資料を読み、課題に取り組む。			
第3回	調査研究の実施に向けて：研究レポートの作成、研究発表についてのオリエンテーション (1) 研究テーマの設定・研究計画・調査研究の方法	(内 容) 自らテーマを設定し、研究計画を立て、調査研究を実施。データの収集・集計・分析・考察により研究レポートを作成。そして、授業の最後に研究成果を発表する。 (必要な準備) エクセル、ワードに慣れておくこと。			
第4回	調査研究の実施に向けて：研究レポートの作成、研究発表についてのオリエンテーション (2) データの収集・分析考察の方法・レジユメの作成	(内 容) 研究テーマの設定、調査方法、調査ガイドライン、データの収集・集計・図表の作成、分析・考察の方法、引用文献・参考文献の含め方等、レジユメの作成についての解説。 (必要な準備) エクセル、ワードに慣れておくこと。			
第5回	「世界の中の日本」について (1) 日本の家族、日本の親と子	(内 容) 日本の家族、日本の親と子について考える。 (必要な準備) 「いい子」について考えてくる。			
第6回	「世界の中の日本」について (2) 日本・イギリス・アメリカの家族・親子	(内 容) 「世界の中の日本」について考える。 (必要な準備) テキストを読み、課題に取り組む。			
第7回	「世界の中の日本」について (2) 自己主張・自己抑制	(内 容) 「世界の中の日本」について考える。 (必要な準備) テキストを読み、課題に取り組む。			
第8回	「学ぶとは」ということ：何のために学ぶのか	(内 容) 「何のために」学ぶのかについての問題提起 (必要な準備) 配付資料を読み、課題に取り組む。			
第9回	意見交換あるいはディベート	(内 容) 「何のために学ぶのか」について意見交換あるいはディベートを行う。 (必要な準備) 自分の意見、反対意見を考えておく。			
第10回	「愛する」ということ (1) 愛することは本能か	(内 容) 「愛することは本能か」についての問題提起 (必要な準備) 配付資料を読み、課題に取り組む。			
第11回	「愛する」ということ (2) 「愛するということ」の事例検討	(内 容) 「愛するということ」について事例検討。意見交換あるいはディベートを行う。 (必要な準備) 配付資料を読み、課題に取り組む。			
第12回	「働く」ということ、「生きる」ということ	(内 容) 「何のために働くのか」「何のために生きるのか」についての問題提起 (必要な準備) テキスト・配付資料を読み、課題に取り組む。			

第 13 回	意見交換あるいはディベート	(内 容) 「働く」「生きる」ということについて意見交換 あるいはディベートを行う。 (必要な準備) 自分の意見、反対意見を考えておく。
第 14 回	調査研究の発表会 (1)	(内 容) 発表者はプレゼンテーションスキルを十分に活 用して発表する。フロア (聴く側) は質疑応答・ コメントをする。 (必要な準備) 発表者は発表の準備をする。
第 15 回	調査研究の発表会 (2)	(内 容) 発表者はプレゼンテーションスキルを十分に活 用して発表する。フロア (聴く側) は質疑応答・ コメントをする。 (必要な準備) 発表者は発表の準備をする。
オフィス アワー	毎週 1 回 (休業期間中を除く) オフィスアワーを設けます (曜日・時間を研究室に掲示)。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約を。	

授業名	現代家政学論Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Contemporary Home EconomicsⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	秋山 裕之	対象学生	全1回生		
授業の概要	家庭生活と地球環境は密接に関連している。本科目ではその具体的な諸相をとりあげ、将来を展望する。具体的には、アフリカの伝統的な社会における人々の生活と自然環境との関係と、現代日本の都市部におけるそれとの対比を通して、現代文明社会における家庭が持続可能な社会に寄与するための方向性を探る。				
学習成果到達目標	1) 環境学の基礎を学び、資源利用への生態学的な視点を理解する。 2) アフリカの伝統的な社会における人間と自然環境との関係について学び、視野を広げる。 3) 現代日本において持続可能な社会を目指すための指針をもち、自分で考えられるようになる。				
評価方法	定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> (思考力)	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	()
テキスト	使用しない。毎回プリントを配布する。映像資料もほぼ毎回用いる。				
参考書	適宜参考書を紹介する。				
留意事項	講義中に疑問点があれば遠慮なく、話の途中でどんどん質問してください。座席は指定します。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション 環境とは何か		(内 容) 本科目の進め方、環境について (必要な準備) シラバスを読んでくる		
第2回	持続的発展の理論形成史		(内 容) 持続的発展、MSY 理論、宇宙船地球号 (必要な準備) 「持続可能な社会」について考える		
第3回	地球温暖化のメカニズムと社会的影響		(内 容) 地球温暖化、生態学的な視点 (必要な準備) 地球温暖化について調べておく		
第4回	地球温暖化への取り組み		(内 容) 二酸化炭素排出量、家庭生活 (必要な準備) 家庭生活でできることを考える		
第5回	コモンズの悲劇の成立条件と回避条件		(内 容) コモンズの悲劇 (必要な準備) 共有資源について考える		
第6回	食糧問題の現状と乾燥地での農耕の可能性		(内 容) 食糧問題、アグロフォレストリー (必要な準備) ふだん何を食べているか考える		
第7回	食の問題 日本を中心に		(内 容) 食料自給率、有機栽培 (必要な準備) 日本の食の問題について考える		
第8回	持続的な環境利用 アフリカ狩猟採集社会		(内 容) ブッシュマン、ピグミー (必要な準備) 狩猟採集生活について想像する		
第9回	人口を抑制する社会制度 東アフリカ牧畜民		(内 容) 人口抑制、婚姻規則、東アフリカ牧畜民 (必要な準備) 牧畜民の暮らしについて想像する		
第10回	焼畑農耕の持続可能性		(内 容) 焼畑農耕、自然のサイクルと人の営み (必要な準備) 生態学的に持続可能なモデルを考える		
第11回	持続性を支える経済		(内 容) 分配、交換、使用価値、生業経済、貨幣 (必要な準備) 現金で買うことと物々交換との違いを考える		
第12回	循環型社会への取り組み		(内 容) 物質循環、ゴミ問題、リサイクル (必要な準備) リユース経験のリストを作る		
第13回	人類社会と自然環境		(内 容) 汚染、自然保護、現代文明社会の持続可能性 (必要な準備) 自然のサイクルと人の営みの関係を考える		
第14回	暮らしと地球環境		(内 容) 持続可能な社会、日常生活 (必要な準備) 上記二つの関係について考える		
第15回	地球環境の現状：野生動物を通して		(内 容) 野生動物の現状、地球環境 (必要な準備) 上記について考える		
オフィスアワー	週に1時間×2回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。				

授業名	生活構造論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Living Structure	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	藤井 伸生	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	生活の基礎単位は世帯（家族・家庭）にあるが、この世帯の現状と変化をまず検討したい。そして生活の場である地域の現状と変化を検討しながら生活の実情を考えていきたい。さらに生活は身近な地域を超えた社会の仕組みとの関係によって成り立っているといえ、この社会の仕組みの現状と変化から生活を考えていきたい。以上は生活の広がりという視点で述べたが、一方、今日の生活の中身は、①くらしの基盤である労働、②日常的な交流と連帯、③生活の社会化によって規定されているといえる。講義形式の授業によって、これらのことについて実態調査等をもとに構造的な分析・把握をしていきたい。				
学習成果到達目標	1) 生活に対して、健康問題、世帯の変化、地域の変化等を押さえながら認識していく。 2) 人間らしい生活（くらし）には、くらしの基盤である仕事、日常的な協力・共同といったヨコのつながり、社会政策・公共一般施策・社会福祉といった生活の社会化の発展・拡充が欠かせないことを認識していく。				
評価方法	定期試験 (100%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 () <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(論理的な展開力) <input type="/> ()			
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料』高菅出版、2014年。				
参考書	授業時に紹介する				
留意事項	くらしについて家族と一緒に考える				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	生活とは？－いのちとくらしは一体－	(内 容) 生活をとらえる視点について (必要な準備) 自らの生活を振り返る			
第2回	くらしの実態把握－視点と枠組み－	(内 容) 生活問題の視点と枠組み (必要な準備) くらし・地域への考察			
第3回	くらしの実態把握－くらしの中身－	(内 容) くらしの中身について (必要な準備) くらしの中身についての考察			
第4回	くらしの実態把握－健康状態－	(内 容) くらしと健康状態について (必要な準備) くらしと健康の考察			
第5回	くらしの実態把握－くらしの単位－	(内 容) くらしの単位について (必要な準備) 家族・家庭の考察			
第6回	くらしの実態把握－世帯構成の変化－	(内 容) 世帯構成の変化について (必要な準備) わが家の歴史を振り返る			
第7回	くらしの実態把握－くらしの場－	(内 容) くらしの場について (必要な準備) 地域とくらしの関係性考察			
第8回	くらしの実態把握－地域の変化－	(内 容) 地域の変化について (必要な準備) 地域の変化を考える			
第9回	くらしの実態把握－くらしの基盤・しごと－	(内 容) くらしの基盤について (必要な準備) しごととくらしの関係性考察			
第10回	くらしの実態把握－ヨコのつながり－	(内 容) ヨコのつながりについて (必要な準備) ヨコのつながりとくらしについて考察			
第11回	くらしの実態把握－日常的協力・共同－	(内 容) 日常的な協力・共同について (必要な準備) 日常的な協力・共同とくらしについて考察			
第12回	くらしの実態把握－生活の社会化－	(内 容) 生活の社会化について (必要な準備) くらしを支える制度について考察			
第13回	くらしの実態把握－社会政策とくらし－	(内 容) 生活の社会化・社会政策について (必要な準備) くらしを支える制度・社会政策の考察			
第14回	くらしの実態把握－公共一般施策とくらし－	(内 容) 生活の社会化・公共一般施策について (必要な準備) くらしを支える制度・公共一般施策の考察			
第15回	くらしの実態把握－社会福祉とくらし－	(内 容) 生活の社会化・社会福祉について (必要な準備) くらしを支える制度・社会福祉の考察			
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前に E メールしてください。				

授業名	ライフデザイン論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Life Design	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	斧出 節子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現在、少子高齢化やグローバル化した経済の変化といった社会変動が生じている。それに伴い、家族や個人の生活も変化しつつある。これまで一般的とされてきたライフコースも多様化し、個人の中での家族・職業の位置づけ方も再編成していかなければならない。本講義では、「ワーク・ライフ・バランス」、「ジェンダー」などの視点を含めながら、新しい社会に向けたライフデザインを考えていく。				
学習成果到達目標	1) 現代の女性と男性のさまざまなライフコースの実態を知ることができる。 2) 自分自身のライフデザインを描くことができるようになる。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (積極的な調査の実施) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	適宜資料を配布する。				
参考書	『ライフストーリー分析—質的調査入門』大久保孝治 (学文社)、ほかは授業内で紹介する。				
留意事項	講義だけでなく半期間で大きな課題 (インタビュー調査) に挑戦するので、積極的な取り組みが必要である				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業計画について (必要な準備) シラバスの内容を確認しておくこと			
第2回	社会変動と人生:ライフコースの変化	(内 容) ライフストーリーを学ぶ意義について (必要な準備) 前回のまとめをしておく			
第3回	社会変動と人生:高度経済成長期の人生	(内 容) 人生と社会変動の関連性について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく			
第4回	インタビュー調査について	(内 容) インタビュー調査の目的について理解する (必要な準備) 自分の出生から現在までの社会の出来事を調べておく			
第5回	インタビュー調査の方法	(内 容) インタビューの方法について理解する。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく			
第6回	仕事と自己実現	(内 容) 自己実現と仕事の関係について考える (必要な準備) 仕事をする意味について考えておく			
第7回	親子関係と自立	(内 容) 自立するということの意味について考える (必要な準備) 配布資料を読んでおく			
第8回	女性と就労 1:実態	(内 容) 日本女性の就労の実態について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく			
第9回	女性と就労 2:課題	(内 容) 日本女性の就労の問題点について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく。			
第10回	インタビュー調査のケース報告書作成	(内 容) インタビューデータの整理をする (必要な準備) データをまとめておく			
第11回	ケーススタディ1:グループワーク	(内 容) インタビューケースを紹介する。 (必要な準備) 発表の準備をしておく。			
第12回	ケーススタディ2:さまざまな就労のかたち	(内 容) 現在の男女の就労の様々なケースを理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく。			
第13回	ライフデザインと政策:ライフコースと政策	(内 容) 仕事と家庭生活を支える政策について (必要な準備) 女性の就労に関係する政策について調べておく			
第14回	ライフデザインと政策:外国の政策とライフ コース	(内 容) 外国のケースを例に考える。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく。			
第15回	まとめ	(内 容) 授業の振り返りをする (必要な準備) 半期間のまとめをしておく			
オフィスアワー	毎週1回 (休業期間中を除く。) オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください				

授業名	現代家政学演習 I a	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	秋山 裕之	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現代日本におけるソーシャル・キャピタルについて、テキストの輪読と討論を通じて考える。輪読の担当者は発表資料を必ず事前に提出する。また、地域のさまざまな取り組みから1つを選んで、調べてまとめたものをパワーポイントで発表する。夏休みから取り組む個人研究のテーマを考えながら、地域が抱えている現代的問題や、日本社会が現在直面している課題への地域・コミュニティでみられる対処について学ぶ。				
学習成果到達目標	1) テキストの輪読と討論を通じて、現代日本における人と人の絆について理解と考えを深める。 2) 調査・研究の適切な方法について、実践と討論を繰り返しながら習得することを目指す。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門 孤立から絆へ』[中公新書] 2011年				
参考書	issue + design project 『地域を変えるデザイン』[英治出版]				
留意事項	課題には真摯に取り組んでください。夏休み中に個人研究を進めてもらいます。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション、自己紹介、担当者決め	(内 容) オリエンテーション、輪読の担当者決め (必要な準備) テキストを持ってくる			
第2回	テキスト輪読1	(内 容) 第1章、輪読の発表資料の作り方 (必要な準備) 第1章を読んでおく			
第3回	テキスト輪読2	(内 容) 第2章 (必要な準備) 第2章を読んでおく			
第4回	テキスト輪読3	(内 容) 第3章 (必要な準備) 第3章を読んでおく			
第5回	テキスト輪読4	(内 容) 第4章 (必要な準備) 第4章を読んでおく			
第6回	テキスト輪読5	(内 容) 第5章 (必要な準備) 第5章を読んでおく			
第7回	テキスト輪読5	(内 容) 第6章 (必要な準備) 第6章を読んでおく			
第8回	テキスト輪読5	(内 容) 第7章前半 (必要な準備) 第7章前半を読んでおく			
第9回	テキスト輪読5	(内 容) 第7章後半 (必要な準備) 第7章後半を読んでおく			
第10回	テキスト輪読5	(内 容) 第8章 (必要な準備) 第8章を読んでおく			
第11回	テキスト輪読5	(内 容) 第9章、結語 (必要な準備) 第9章と結語を読んでおく			
第12回	地域の取り組み1	(内 容) 調べ学習の発表 (PowerPoint) (必要な準備) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく			
第13回	地域の取り組み2	(内 容) 調べ学習の発表 (PowerPoint) (必要な準備) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく			
第14回	地域の取り組み3	(内 容) 調べ学習の発表 (PowerPoint) (必要な準備) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく			
第15回	研究テーマと調査方法	(内 容) 個人研究のテーマ・方法 (必要な準備) 研究テーマと調査方法を考えてくる			
オフィスアワー	週に1時間×2回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。				

授業名	現代家政学演習 I b	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	西川 由紀子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	児童学に関連する文献をゼミの参加者で1冊選び、それを分担して読み、担当箇所を発表し、ゼミの中で議論をしてゆく。ボランティアや記憶など乳幼児についての実際の知識とあわせて、文献の理解を深めるようにしてゆきたい。また、動物園や保育所の見学を通して、視点を定めて観察をする経験を重ねたい。ゼミの仲間と話し合うことによって、保育についての理解を深め、自分の問題意識を明確にする期間としたい。				
学習成果到達目標	1) 保育の歴史の中で培われてきた日本の保育の遺産に学ぶ。 2) 保育者として子どもと接する上で大切なことを把握する。				
評価方法	定期試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/>()</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 受講生の興味にあわせて選択したテキストを使用する。			
参考書					
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	このゼミに望むこと	(内 容) この1年、どのように学んでいくかを伝える (必要な準備)			
第2回	保育のおもしろさとは？	(内 容) 保育についてのイメージを分かち合う (必要な準備)			
第3回	動物園見学(予定)	(内 容) 動物園での子どもたちの様子を見学する (必要な準備)			
第4回	見学内容の分かち合い	(内 容) 見学によって得られた学びを分かち合う (必要な準備) 見学内容を記録してくる			
第5回	文献発表1	(内 容) 文献発表を聞き、質疑応答を行う (必要な準備) 文献発表の用意、もしくは文献を読んてくる			
第6回	文献発表2	(内 容) 文献発表を聞き、質疑応答を行う (必要な準備) 文献発表の用意、もしくは文献を読んてくる			
第7回	文献発表3	(内 容) 文献発表を聞き、質疑応答を行う (必要な準備) 文献発表の用意、もしくは文献を読んてくる			
第8回	文献発表4	(内 容) 文献発表を聞き、質疑応答を行う (必要な準備) 文献発表の用意、もしくは文献を読んてくる			
第9回	文献発表5	(内 容) 文献発表を聞き、質疑応答を行う (必要な準備) 文献発表の用意、もしくは文献を読んてくる			
第10回	文献発表6	(内 容) 文献発表を聞き、質疑応答を行う (必要な準備) 文献発表の用意、もしくは文献を読んてくる			
第11回	文献検索の仕方	(内 容) 文献検索の仕方を解説する (必要な準備) 探したい文献の内容を考えてくる			
第12回	保育所を見学する際の留意事項	(内 容) 保育所見学に必要な知識を得る (必要な準備)			
第13回	保育所見学	(内 容) 保育所を見学する (必要な準備) 見学に際しての目標を立てる			
第14回	保育所見学で学んだことの交流	(内 容) 見学で学んだことを交流する (必要な準備) 見学で学んだことをまとめてくる			
第15回	春学期のまとめ	(内 容) 春学期を振り返り、夏休みの課題をたてる (必要な準備) 春学期振り返りレポート			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。				

授業名	現代家政学演習 I c	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	馬場 まみ	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現代家政学では、①女性は、生活者としてまた職業人としてどのような生活設計が考えられ、どのような課題があるのか、②衣食住や家族関係など現代生活をとりまく事象にどのような問題が生じているのか、を究明することが重要な課題となる。そこで、学生自身が上記に関わるテーマを設定し、資料を集め、考えをまとめて発表する。ゼミでの調査・発表・議論を通して、現代家政学で対象とする研究課題に対する理解を深める。				
学習成果到達目標	現代家政学で取り組む課題を認識することができる。				
評価方法	定期試験 (70 %) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験 (30 %) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/>	
テキスト	使用しない				
参考書					
留意事項	積極的に取り組むことが重要。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 授業の進め方 (必要な準備)			
第2回	テーマに関するディスカッション①	(内 容) テーマを考え、議論する (必要な準備) テーマを考えてくる			
第3回	テーマに関するディスカッション②	(内 容) テーマを具体的に設定する (必要な準備) テーマについて考えを深める			
第4回	テーマの発表と意見交換	(内 容) テーマを発表し、意見交換する (必要な準備) テーマについて考えを深める			
第5回	基本的な文献資料を読み、要点を発表①	(内 容) 資料を読み、発表する (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第6回	基本的な文献資料を読み、要点を発表②	(内 容) 資料のまとめ、発表、ディスカッション (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第7回	基本的な文献資料を読み、要点を発表③	(内 容) 資料のまとめ、発表、ディスカッション (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第8回	基本的な文献資料を読み、要点を発表④	(内 容) 資料のまとめ、発表、ディスカッション (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第9回	問題点を整理する①	(内 容) 問題点を整理し、今後の方向性を考える (必要な準備)			
第10回	問題点を整理する②	(内 容) 問題点を整理し、今後の方個性を考える (必要な準備)			
第11回	意見をまとめ、発表する①	(内 容) まとめと発表 (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第12回	意見をまとめ、発表する②	(内 容) まとめと発表 (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第13回	研究成果のまとめ・レポート作成①	(内 容) レポート作成 (必要な準備)			
第14回	研究成果のまとめ・レポート作成②	(内 容) レポート作成 (必要な準備)			
第15回	総括	(内 容) 総括 (必要な準備)			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで在室できない場合がある。				

授業名	現代家政学演習 I d	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	吉田 博子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	「発達・教育・生活文化・コミュニケーション」ならびに「おとなの役割」をこのゼミの基本テーマとする。「4歳までの重要性」「7・8歳までの重要性」「9・10歳までの重要性」「14～17歳の重要性」について学ぶとともに、各段階での「家族・おとな」「教育」の役割について考える。さらに、急速に変化し続ける日本の家族・家庭について、消費文化についての意見交換と探究を行い、私たちはどのような方向に向かおうとしているのかを把握する。文献の輪読・講読、意見交換、発表を通して、問題を発見する力、探究する力、意見交換する力、プレゼンテーションする力を高めることをめざす。さらに、読書の楽しさを知り、読書力を高めることをめざす。主体的な参加を望む。				
学習成果到達目標	1) 現代の家族・家庭・地域・社会の現状と課題を把握し、「大人とは」「大人の役割とは」についての理解を深める。 2) 課題に即して、情報収集・分析し結論を導き出すなど論理を構築する力をつける。 3) グループ研究や発表・意見交換・議論を通して、コミュニケーション力や意見交換力を高める。 4) 読書の楽しさを知り、読書力を高める				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見力) □()			
テキスト	河合隼雄(著)河合俊雄(編)『大人になることのむずかしさ』(岩波現代文庫)				
参考書	その他 随時紹介する。あるいは、必要に応じて資料を配付する。				
留意事項	積極的に研究に取り組む。積極的にゼミ活動に参画する。積極的に発言・発表する。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 2回生ゼミの目的、到達目標等をたてる。自己紹介。これ迄の学びを踏まえて意見交換。輪読担当の決定。春学期課題の提示。 (必要な準備) テキストを持参する。			
第2回	これまでの学びを踏まえての意見交換	(内 容) これまでの学びを踏まえての意見交換 (必要な準備) 意見交換テーマを考えておく			
第3回	テキスト輪読1	(内 容) 輪読と意見交換 (必要な準備) 関連事例やトピックスの準備			
第4回	テキスト輪読2	(内 容) 輪読と意見交換 (必要な準備) 関連事例やトピックスの準備			
第5回	テキスト輪読3	(内 容) 輪読と意見交換 (必要な準備) 関連事例やトピックスの準備			
第6回	発表：グループ・プレゼンテーション①	(内 容) 各グループ毎にプレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備			
第7回	テキスト輪読4	(内 容) 意見交換・討議 (必要な準備) 自分の考えをまとめておく			
第8回	テキスト輪読5	(内 容) 輪読と意見交換 (必要な準備) 関連事例やトピックスの準備			
第9回	テキスト輪読6	(内 容) 意見交換・討議 (必要な準備) 自分の考えをまとめておく			
第10回	テキスト輪読7	(内 容) 輪読と意見交換 (必要な準備) 関連事例やトピックスの準備			
第11回	「おとなになること」「おとなの役割」についての意見交換：ディスカッション・ディベート	(内 容) 輪読と意見交換 (必要な準備) 関連事例やトピックスの準備			
第12回	発表：グループ・プレゼンテーション②	(内 容) 各グループ毎にプレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備			
第13回	テキスト輪読8	(内 容) 輪読と意見交換 (必要な準備) 関連事例やトピックスの準備			
第14回	テキスト輪読9	(内 容) 輪読と意見交換 (必要な準備) 関連事例やトピックスの準備			
第15回	心の発達、おとなの役割、教育の役割についての意見交換・ディスカッション・ディベート。春学期ゼミのまとめ。	(内 容) 意見交換・討議。夏期課題の提示。秋学期予定の確認。 (必要な準備) 資料準備、討議の準備			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く) オフィスアワーを設けます(曜日・時間を研究室に掲示します)。研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約を。				

授業名	現代家政学演習 I e	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	松浦 真理	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現代家政学部で学ぶ学生として、自分なりの課題をみつけ深めていくことを目的とする。そのためには、自分が社会とつながっている実感を持ち、その中で、さらに知りたいことを掘り下げ、なぜそうなっているのか、疑問を持つことが大切である。グループでプロジェクト学習を行う。				
学習成果到達目標	1) 現代社会と自分とのつながりを認識できる。 2) 探求したいテーマをグループで共有し、社会の様々な面がつながりを持つことを認識する。 3) 自分の意見を持ち、異なる意見に耳を傾け、視野を広げる。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	参加者との合議でグループごとに最低1冊選択する。				
参考書	適宜紹介する				
留意事項	社会と自分とがいかにつながっているかを実感し、そこから、知りたいこと、疑問を深めていけることを期待している。プロジェクトによっては学外授業も実施する。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション		(内 容) ゼミの進め方の確認 (必要な準備) ゼミの意義を考えておく		
第2回	社会と自分とのつながりの模索		(内 容) 社会と自分とのつながりを考える (必要な準備) 課題をしておく		
第3回	社会と自分とのつながりの発表		(内 容) 社会と自分のつながりについて各自発表 (必要な準備) 具体的な資料と自分の考えをつなげておく		
第4回	類似テーマの人とグループワーク(プロジェクトのテーマの策定)		(内 容) 興味の同じ人と調べたい大きな柱を考える (必要な準備) 課題をしておく		
第5回	グループワークによるプロジェクト実施計画提出		(内 容) グループごとのプロジェクト実施計画発表 (必要な準備) 課題をしておく		
第6回	プロジェクト第1段階発表(ex.子育て支援)		(内 容) プロジェクトの第1段階の発表 (必要な準備) 発表者はレジュメと資料を準備		
第7回	プロジェクト第1段階発表(ex.表現の自由)		(内 容) プロジェクトの第1段階の発表 (必要な準備) 発表者はレジュメと資料を準備		
第8回	プロジェクト第1段階発表(ex.食文化)		(内 容) プロジェクトの第1段階の発表 (必要な準備) 発表者はレジュメと資料を準備		
第9回	各プロジェクトの次段階への計画策定		(内 容) プロジェクトをさらに深めるための計画策定 (必要な準備) 課題をしておく		
第10回	プロジェクト第2段階発表(ex.子育て支援)		(内 容) プロジェクトの第2段階の発表 (必要な準備) 発表者はレジュメ準備、参加者は資料を読む		
第11回	プロジェクト第2段階発表(ex.表現の自由)		(内 容) プロジェクトの第2段階の発表 (必要な準備) 発表者はレジュメ準備、参加者は資料を読む		
第12回	プロジェクト第2段階発表(ex.食文化)		(内 容) プロジェクトの第2段階の発表 (必要な準備) 発表者はレジュメ準備、参加者は資料を読む		
第13回	各プロジェクトの課題の設定		(内 容) 各プロジェクトから新たな課題を見つける (必要な準備) これまでの発表を整理しておく		
第14回	課題実施計画(個別の課題遂行計画)		(内 容) 各人の課題をみつけ、発表する (必要な準備) 新たな課題をできるだけ具体的に設定しておく		
第15回	まとめ		(内 容) これまでの内容を振り返り、夏休みの課題につなげる		
オフィスアワー	随時、ただし予約を入れることが望ましい。				

授業名	現代家政学演習Ⅱa	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	秋山 裕之	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現代家政学演習Ⅰをふまえて、学生が自身の興味関心に基づいてより個別的・具体的なテーマを定め、深く調査研究をすすめる。自身の調査テーマが、現代日本社会においてどのように位置づけられるのかについて文献などから学び、個人研究を相対化するための視座をもつ。春学期と同様に、地域の取り組みを題材にした調べ学習も行う。地域社会・コミュニティを素材にして発表と討論を重ね、調査研究の基礎を習得する。				
学習成果到達目標	1) 調査研究の手法や論文へのまとめ方について、基本的なことがらを身につける。 2) 自身や他の学生たちの発表を通して「地域社会・コミュニティ」について新たな知見を得る。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	なし				
参考書	issue + design project 『地域を変えるデザイン』[英治出版]				
留意事項	学生の発表そのものが学びのための資料となります。しっかりした準備と活発な発言を心がけてください。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	参考文献の見つけ方	(内 容) 学術論文の検索方法について (必要な準備) 読みたい論文のキーワードを考えてくる			
第2回	発表資料の作り方	(内 容) 発表資料の作り方について (必要な準備) 個人研究の概要を話す用意をしておく			
第3回	文献発表1	(内 容) 読んだ論文の内容をプレゼンする (必要な準備) 発表準備 (Word 資料提出)			
第4回	文献発表2	(内 容) 読んだ論文の内容をプレゼンする (必要な準備) 発表準備 (Word 資料提出)			
第5回	文献発表3	(内 容) 読んだ論文の内容をプレゼンする (必要な準備) 発表準備 (Word 資料提出)			
第6回	パソコンでの資料作成	(内 容) 地図や Excel の図表を発表資料に用いる (必要な準備) 個人研究のデータ			
第7回	調査研究発表1-1	(内 容) 学生の調査研究発表1回目 (必要な準備) 発表準備 (Word 資料提出)			
第8回	調査研究発表1-2	(内 容) 学生の調査研究発表1回目 (必要な準備) 発表準備 (Word 資料提出)			
第9回	調査研究発表1-3	(内 容) 学生の調査研究発表1回目 (必要な準備) 発表準備 (Word 資料提出)			
第10回	調査研究発表1-4	(内 容) 学生の調査研究発表1回目 (必要な準備) 発表準備 (Word 資料提出)			
第11回	調査研究発表2-1	(内 容) 学生の調査研究発表2回目 (必要な準備) 発表準備 (PowerPoint 提出)			
第12回	調査研究発表2-2	(内 容) 学生の調査研究発表2回目 (必要な準備) 発表準備 (PowerPoint 提出)			
第13回	調査研究発表2-3	(内 容) 学生の調査研究発表2回目 (必要な準備) 発表準備 (PowerPoint 提出)			
第14回	調査研究発表2-4	(内 容) 学生の調査研究発表2回目 (必要な準備) 発表準備 (PowerPoint 提出)			
第15回	振り返り	(内 容) 卒論ゼミへ向けて (必要な準備) 研究成果を Word にまとめる (レポート提出)			
オフィスアワー	週に1時間×2回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。				

授業名	現代家政学演習Ⅱb	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	西川 由紀子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	自分が興味をもった文献の紹介と、グループで調べたテーマについての報告を行い、論点を定めて議論していく場とする。春学期に引き続き、子どものイメージをしっかりとって、自分の課題をしぼっていきけるようにする。自分の考えをまとめて発表することとともに、演習の他のメンバーの発表についても主体的に学習しようとする姿勢がもてるような演習の運営をこころがけたい。				
学習成果到達目標	1) 保育者として子どもと接する上で大切なことを自分なりに考える。 2) ゼミ参加者にわかりやすく発表をおこなう。 3) ゼミ参加者の発表に対して積極的に意見を交換する。				
評価方法	定期試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/>()</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/>			
参考書	保育について書かれた文献を各自が用意する				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	夏休みの課題の達成について	(内 容) 夏休みの課題の達成についてわかちあう (必要な準備) 夏休みの課題をまとめてくる			
第2回	自分で選んだ文献の発表1	(内 容) 文献を発表する、もしくは聞く (必要な準備) 文献のレジメをまとめてくる			
第3回	自分で選んだ文献の発表2	(内 容) 文献を発表する、もしくは聞く (必要な準備) 文献のレジメをまとめてくる			
第4回	自分で選んだ文献の発表3	(内 容) 文献を発表する、もしくは聞く (必要な準備) 文献のレジメをまとめてくる			
第5回	自分で選んだ文献の発表4	(内 容) 文献を発表する、もしくは聞く (必要な準備) 文献のレジメをまとめてくる			
第6回	自分で選んだ文献の発表5	(内 容) 文献を発表する、もしくは聞く (必要な準備) 文献のレジメをまとめてくる			
第7回	文献発表から学んだことのまとめ	(内 容) 文献から学んだことをどう深めるか (必要な準備)			
第8回	プレゼンテーションの方法	(内 容) プレゼンテーションの方法を学ぶ (必要な準備)			
第9回	保育に関連する小物製作	(内 容) 実習を見通して手作り作品をつくる (必要な準備)			
第10回	グループで調べたテーマについての発表1	(内 容) 発表をする、もしくは聞く (必要な準備) プレゼンテーションのスライドをつくる			
第11回	グループで調べたテーマについての発表2	(内 容) 発表をする、もしくは聞く (必要な準備) プレゼンテーションのスライドをつくる			
第12回	グループで調べたテーマについての発表3	(内 容) 発表をする、もしくは聞く (必要な準備) プレゼンテーションのスライドをつくる			
第13回	グループで調べたテーマについての発表4	(内 容) 発表をする、もしくは聞く (必要な準備) プレゼンテーションのスライドをつくる			
第14回	4回生との交流会	(内 容) 4回生に学びや就職、実習についてきく (必要な準備) 自分のこれからの進路を展望する			
第15回	秋学期のまとめ	(内 容) 秋学期を振り返り、わかちあう (必要な準備)			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。				

授業名	現代家政学演習Ⅱc	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	馬場 まみ	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	春学期での考察をふまえて各自が秋学期に取り組むテーマを設定する。テーマに関する資料を収集し、レポートにまとめる。一つの課題に取り組むことにより、①必要な文献資料や情報を探し出し、②問題点を明確化し、自分の考えをまとめ、③論文作成の基本的な知識を身につけることを目指す。現代生活をとりまく課題を多面的に考察することにより、問題意識を深め、その後の研究テーマ設定につなげる。				
学習成果到達目標	設定したテーマについて、自分の考えをもち、発表し、文章にまとめることができる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	
テキスト	使用しない				
参考書					
留意事項	積極的な取り組みが重要。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 授業の進め方 (必要な準備)			
第2回	テーマ設定①	(内 容) テーマを考える (必要な準備) テーマについて考えてくる			
第3回	テーマ設定②	(内 容) テーマを決定する (必要な準備) テーマについて考えてくる			
第4回	調査研究・資料収集①	(内 容) 資料を収集する (必要な準備)			
第5回	調査研究・資料収集②	(内 容) 資料を収集する (必要な準備)			
第6回	調査研究・資料収集③	(内 容) 資料を収集する (必要な準備)			
第7回	発表とディスカッション①	(内 容) 資料のまとめ、発表、ディスカッション (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第8回	発表とディスカッション②	(内 容) 資料のまとめ、発表、ディスカッション (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第9回	発表とディスカッション③	(内 容) 資料のまとめ、発表、ディスカッション (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第10回	発表とディスカッション④	(内 容) 資料のまとめ、発表、ディスカッション (必要な準備) 担当者は発表の準備をする			
第11回	資料のまとめ①	(内 容) 資料を整理し、レポートの構想をまとめる (必要な準備) 資料の整理			
第12回	資料のまとめ②	(内 容) 資料を整理し、レポートの構想をまとめる (必要な準備) 資料の整理			
第13回	レポート作成①	(内 容) レポート作成 (必要な準備) 資料の整理			
第14回	レポート作成②	(内 容) レポート作成 (必要な準備) 資料の整理			
第15回	総括	(内 容) 総括 (必要な準備)			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで在室できない場合がある。				

授業名	現代家政学演習Ⅱd		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	吉田 博子		対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現代家政学演習Ⅱでは、現代家政学演習Ⅰを踏まえてグループ研究発表を行う。更に、ゼミ生各自の興味関心、問題意識のもと個人研究を進め、課題発見力・考察力・コミュニケーション力・プレゼン力を高める。さらに、読書の楽しさを知り、読書力をさらに高めることをめざす。主体的な参加を望む。					
学習成果到達目標	1) 調査研究の基礎を身につける。 2) 論文の構成を知り、その骨格にあった簡単な論文が書ける。 3) 効果的なプレゼンテーション方法を知り実践する。 4) グループ研究と個人研究を通して問題意識を深化させる。 5) 読書の楽しさを知り、読書力をさらに高める					
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(課題発見力) <input type="/> ()				
テキスト	現代家政学演習Ⅰgと同じ					
参考書	随時紹介する					
留意事項	積極的に研究に取り組む。積極的にゼミ活動に参画する。積極的に発言・発表する。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション グループ研究に向けての意見交換：問題意識・研究テーマ・研究方法の相談		(内 容) 秋学期の目的、到達目標等をたてる。問題意識・グループ研究テーマ・研究方法についての意見交換 (必要な準備) 夏期課題の提出・進行状況の報告準備			
第2回	グループ研究1 (研究テーマ・問題意識・研究方法)		(内 容) グループ研究：研究テーマ・問題意識の共有・研究方法の共有 (必要な準備) 進行状況の発表準備			
第3回	グループ研究2 (質問紙調査・聞き取り調査の実施・データの収集)		(内 容) グループ研究：質問紙調査・聞き取り調査の実施、データの収集 (必要な準備) 進行状況の発表準備			
第4回	グループ研究3 (データの分析・考察)		(内 容) グループ研究：データの分析・考察 (必要な準備) 進行状況の発表準備			
第5回	グループ研究4 (研究発表1)		(内 容) 研究発表 (必要な準備) 研究発表準備			
第6回	グループ研究5 (研究発表2)		(内 容) 研究発表 (必要な準備) 研究発表準備			
第7回	グループ研究6 (研究のふりかえり)		(内 容) 研究のふりかえり・発表のふりかえり (必要な準備) 自分の考えをまとめておく			
第8回	個人研究1 (研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介)		(内 容) テーマ・問題意識・先行研究の紹介：意見交換と討議 (必要な準備) 研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介の準備			
第9回	個人研究2 (研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介)		(内 容) テーマ・問題意識・先行研究の紹介：意見交換と討議 (必要な準備) 研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介の準備			
第10回	個人研究3 (研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介)		(内 容) テーマ・問題意識・先行研究の紹介：意見交換と討議 (必要な準備) 研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介の準備			
第11回	個人研究4 (研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介)		(内 容) テーマ・問題意識・先行研究の紹介：意見交換と討議 (必要な準備) 研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介の準備			
第12回	個人研究5 (研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介)		(内 容) テーマ・問題意識・先行研究の紹介：意見交換と討議 (必要な準備) テーマ・問題意識・先行研究の紹介の準備			
第13回	個人研究6 (研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介)		(内 容) テーマ・問題意識・先行研究の紹介：意見交換と討議 (必要な準備) 研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介の準備			
第14回	個人研究7 (研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介)		(内 容) テーマ・問題意識・先行研究の紹介：意見交換と討議 (必要な準備) 研究テーマ・問題意識・先行研究の紹介の準備			
第15回	1年間の演習のまとめ・意見交換		(内 容) 1年間の演習のまとめ (必要な準備) まとめと今後の課題を考えておく			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く) オフィスアワーを設けます(曜日・時間を研究室に掲示)。研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。					

授業名	現代家政学演習Ⅱe	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics Seminar I	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	松浦 真理	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	春学期の授業を受け、つながりのあるいくつかのテーマの中から、自分が特に興味を持つテーマを設定し、そのテーマを深めていくために自分に合った方法を見つけ出し、基本的な文献を読み進める。				
学習成果到達目標	1) 自分なりのテーマを設定し、方法を確立し、必要な文献や資料を収集できる。 2) 文献を正しく読み取り、文章化し、わかりやすくまとめることができる。 3) 自分の主張を持ち、他者の意見やアドバイスに耳を傾け、視野を広げる				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	参加者との合議で決定する				
参考書	適宜紹介する				
留意事項					
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション・各人のテーマ発表		(内 容) 秋学期の進め方を確認する (必要な準備) 夏休みの課題をもってくる		
第2回	発表計画と方法の決定		(内 容) 各人のテーマ発表を進める計画を立てる (必要な準備) 基本文献や資料を持ってくる		
第3回	基本文献の輪読(ex.序章 保育における親参加)		(内 容) 基本的な文献を丁寧に読み解く (必要な準備) 文献・資料を読み、語彙、疑問を挙げる		
第4回	基本文献の輪読(ex.Ⅰ部 保育施設の親の会)		(内 容) 基本的な文献を丁寧に読み解く (必要な準備) 文献・資料を読み、語彙、疑問を挙げる		
第5回	基本文献の輪読(ex.Ⅱ部 親が運営する施設)		(内 容) 基本的な文献を丁寧に読み解く (必要な準備) 文献・資料を読み、語彙、疑問を挙げる		
第6回	基本文献の輪読(ex.各国の親参加の事例)		(内 容) 基本的な文献を丁寧に読み解く (必要な準備) 文献・資料を読み、語彙、疑問を挙げる		
第7回	基本文献の輪読(ex.消費者から共同生産者へ)		(内 容) 基本的な文献を丁寧に読み解く (必要な準備) 文献・資料を読み、語彙、疑問を挙げる		
第8回	テーマの先行研究や方法論の発表①		(内 容) 自分のテーマについての先行研究など発表 (必要な準備) 発表者はレジュメ作成など準備		
第9回	テーマの先行研究や方法論の発表②		(内 容) 自分のテーマについての先行研究など発表 (必要な準備) 発表者はレジュメ作成など準備		
第10回	テーマの先行研究や方法論の発表③		(内 容) 自分のテーマについての先行研究など発表 (必要な準備) 発表者はレジュメ作成など準備		
第11回	テーマの先行研究や方法論の発表④		(内 容) 自分のテーマについての先行研究など発表 (必要な準備) 発表者はレジュメ作成など準備		
第12回	個人研究発表①		(内 容) 前回の発表から進めたものを発表する (必要な準備) 発表者は準備、それ以外は前発表の復習		
第13回	個人研究発表②		(内 容) 前回の発表から進めたものを発表する (必要な準備) 発表者は準備、それ以外は前発表の復習		
第14回	個人研究発表③		(内 容) 前回の発表から進めたものを発表する (必要な準備) 発表者は準備、それ以外は前発表の復習		
第15回	個人研究発表④		(内 容) 前回の発表から進めたものを発表する (必要な準備) 発表者は準備、それ以外は前発表の復習		
オフィスアワー	随時、ただし予約が望ましい				

授業名	キャリア教育	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Career Design Including Internship	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	足塚 智志	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	<p>現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に、企業組織と従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」ではなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくが必要になっている。</p> <p>自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性・自律性をもったキャリア開発を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識するため、講義と共にグループワークやプレゼンテーションを行う。</p>				
学習成果到達目標	<p>1) 働く意味、キャリア開発の重要性を理解することができる。</p> <p>2) 自分の大学生生活の送り方について明確な意識を持つことができる。</p> <p>3) インターンシップの意義と心構えを理解することができる。</p>				
評価方法	定期試験 (20 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (80 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()	
テキスト	大宮登監修『キャリアデザイン講座 (第2版)』 日経 BP ソフトプレス 2014				
参考書	授業時に随時指示する。				
留意事項					
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション		(内 容) 授業計画・内容・注意事項等。 (必要な準備) シラバスを一読しておく。		
第2回	現代社会とキャリアデザイン: キャリアデザインの概念		(内 容) キャリアデザインの概念、必要性について学ぶ。 (必要な準備) 自分自身の夢や目標について考えをまとめておく。		
第3回	現代社会とキャリアデザイン: キャリアデザインの基本と方法		(内 容) キャリアデザインの基本と方法を学ぶ。 (必要な準備) テキスト p 12～p 15 まで一読しておく。		
第4回	キャリアデザインと人生設計: ライフサイクルの変遷		(内 容) 現代人のライフサイクルと職業の意味について考える。 (必要な準備) 旧家制度、近代家族、現代家族の相違点について調べておく。		
第5回	キャリアデザインと人生設計: 職業の経済的側面		(内 容) 現代人の生涯収入と職業の経済的側面について考える。 (必要な準備) マズローの欲求5段階説について事前に調べておく。		
第6回	キャリアデザインと人生設計: ライフキャリアの空間的・時間的な広がり		(内 容) ライフキャリアの空間的・時間的な広がりについて考える。 (必要な準備) 10年後の30歳になったとき、どうなっていたいかを3つ(仕事・家庭・趣味)の視点でまとめておく。		
第7回	キャリアデザインのための自己理解: 働く意味づけ		(内 容) 働く意味と自己の職業観など、「自己理解」について様々なアプローチで考える。 (必要な準備) 人はなぜ働くのかについてまとめておく。		
第8回	キャリアデザインのための自己理解: グループディスカッションの実践		(内 容) グループディスカッションの進め方、グループディスカッションによる自己理解と他者理解を実践する。 (必要な準備) グループディスカッションのテーマ「夢や目標の実現」について、意見交換できるように再度考えをまとめておく。		
第9回	キャリアデザインのための自己理解: プレゼンテーションの実践		(内 容) グループディスカッションの成果をプレゼンテーションする。他のグループとの相違点を比較する。 (必要な準備) プレゼンテーションの事前準備とリハーサルしておく。		
第10回	キャリアデザインのための自己理解: 相互インタビューの実践		(内 容) 自分史の作成と相互インタビューにより「他者から見た自分」について焦点をあてて、実践する。 (必要な準備) テキストのp60「自分史チェックシート」を作成しておく。		
第11回	仕事理解: キャリア意識の明確化		(内 容) 学生生活で得るキャリア意識の明確化、企業からみた学生に求められる資質を学ぶ。 (必要な準備) 学生生活と企業の仕事との共通点について考えをまとめておく。		
第12回	仕事理解: 働き方の多様化		(内 容) 経済・雇用環境に応じた働き方の理解、キャリア形成の外的環境(社会、就労環境)を理解し、分析する。 (必要な準備) 正社員の働き方の特徴についてまとめておく。		

第 13 回	職場理解:業種と職種の理解	(内 容) 多彩な職種や業種と自分の適職、社会にはさまざまな業種や職種があることを学ぶ。 (必要な準備) 希望する職種や業種について調べておく。
第 14 回	職場理解:インターンシップの定義	(内 容) インターンシップの定義・目的・実施形態・現状などについて学ぶ。 (必要な準備) なぜ、今日インターンシップが必要になっているのかを調べておく。
第 15 回	職場理解:インターンシップの心構え	(内 容) インターンシップの心構えと基本マナー、事前研究などについて学ぶ。 (必要な準備) インターンシップへの期待や不安などがあれば、事前にまとめておく。
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する	

授業名	文献講読 a	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Literature Reading	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	松浦 真理	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	文章理解力を高め、問題意識を持った読み方ができるためのアドバイスを資料から読み解く。基本的な文献を読んで、理解し、レジユメを作成すると同時に、自分の問題意識へとつなげる。				
学習成果到達目標	1) 基本的な文献の内容を理解し、自分の既成概念と結びつけて説明できる。 2) 自分が理解でき、相手にもわかりやすいレジユメを作成し、内容を説明できる。 3) 問題意識を持ち、さらにそれを深めることができる。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	子どもと保育総合研究所編『子どもを「人間としてみる」ということ』、他 1冊。参加者とともに決定する。				
参考書	西林克彦『わかったつもり』、橋本努『学問の技法』				
留意事項	初回に授業の進め方の詳細を提示するので必ず出席すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業進め方を説明し a か b の割り振りを行う。 (必要な準備) シラバスに目を通しておく。			
第2回	文献講読の基本「読み方」	(内 容) 配付資料の課題を説明し、「読む」基本を確認する。 (必要な準備) 課題をしておく。			
第3回	文献講読の基本「文献の探し方」	(内 容) 配布資料を読み、「文献の探し方」を確認する。 (必要な準備) 該当箇所を読み、予習をしておく。			
第4回	テキスト1章を読解する	(内 容) テキスト1章を読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、レジユメを作成する。			
第5回	テキスト2章を読解する	(内 容) テキスト2章を読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、レジユメを作成する。			
第6回	テキスト3章を読解する	(内 容) テキスト3章を読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、レジユメを作成する。			
第7回	テキスト4章を読解する	(内 容) テキスト4章を読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、レジユメを作成する。			
第8回	小まとめ	(内 容) これまで理解したことを整理する。 (必要な準備) これまでの復習をしておく。			
第9回	2冊目テキスト「はじめに」	(内 容) 「はじめに」に基づき発表をする。 (必要な準備) レジユメの作成と論点整理、問題設定			
第10回	2冊目テキスト「1章」	(内 容) 「1章」に基づき発表をする。 (必要な準備) レジユメの作成と論点整理、問題設定			
第11回	2冊目テキスト「2章」	(内 容) 「2章」に基づき発表をする。 (必要な準備) レジユメの作成と論点整理、問題設定			
第12回	2冊目テキスト「3章」	(内 容) 「3章」に基づき発表をする。 (必要な準備) レジユメの作成と論点整理、問題設定			
第13回	2冊目テキスト「4章」	(内 容) 「4章」に基づき発表をする。 (必要な準備) レジユメの作成と論点整理、問題設定			
第14回	2冊目テキスト「おわりに」	(内 容) 「おわりに」に基づき発表をする。 (必要な準備) レジユメの作成と論点整理、問題設定			
第15回	まとめと今後の課題	(内 容) これまでの方法を体系的に理解する。 (必要な準備) これまでしてきたことの復習をしておく			
オフィスアワー	毎水曜日昼休み、またはメールにて受付				

授業名	文献講読 b	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Literature Reading	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	秋山 裕之	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	現代家政学の関連領域では統計データを活用した研究が多い。卒業論文においても学生が公的資料などの統計データを活用したり、自らが得たデータを図表化したりすることがある。このクラスでは統計データを中心とした文献の精読を通じて、文脈に即した図表の理解に習熟し、汎用的な読解力を身につけることを目指す。				
学習成果到達目標	1) 統計データを文脈に即して理解できるようになる。 2) 文章の論理構造を理解し、正しく読解できるようになる。 3) 自分が理解した内容を、他者に適切に伝えられるようになる。				
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	久我尚子, 2014, 『若者は本当にお金がないのか? 統計データが語る意外な真実』 光文社新書				
参考書	工藤啓・西田亮介, 2014, 『無業者会 働くことができない若者たちの未来』 朝日新書				
留意事項	毎週の課題に真摯に取り組むことで確実に力が付きます。しっかりやってください。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	ガイダンス		(内 容) 授業の内容と進め方について説明します (必要な準備) シラバスを読んでおく		
第2回	第1章 統計データを読み解くポイント		(内 容) 課題への取り組み方を例示します (必要な準備) 第1章を読んでおく		
第3回	テキスト P. 37-62		(内 容) 図表 7-19 (必要な準備) テキスト P.37-62 を読んで図表の説明		
第4回	テキスト P. 62-77		(内 容) 図表 20-21 と図表の作成 (必要な準備) テキスト P.63-77 を読んで図表の説明・作成		
第5回	テキスト P. 77-99		(内 容) 図表 22-27 (必要な準備) テキスト P.77-99 を読んで図表の説明		
第6回	テキスト P. 99-115		(内 容) 図表 28-34 (必要な準備) テキスト P.96-115 を読んで図表の説明		
第7回	テキスト P. 115-134		(内 容) 図表 35-42 (必要な準備) テキスト P.115-134 を読んで図表の説明		
第8回	テキスト P. 134-153		(内 容) 図表 43-55 (必要な準備) テキスト P.134-153 を読んで図表の説明		
第9回	テキスト P. 153-174		(内 容) 図表 56-65 (必要な準備) テキスト P.153-174 を読んで図表の説明		
第10回	テキスト P. 174-194		(内 容) 図表 66-76 (必要な準備) テキスト P.174-194 を読んで図表の説明		
第11回	テキスト P. 194-216		(内 容) 図表 77-87 (必要な準備) テキスト P.194-216 を読んで図表の説明		
第12回	テキスト P. 217-236		(内 容) 図表 88-100 (必要な準備) テキスト P.217-236 を読んで図表の説明		
第13回	テキスト P. 236-252		(内 容) 図表 101-109 (必要な準備) テキスト P.236-252 を読んで図表の説明		
第14回	テキスト P. 253-274		(内 容) 図表 110-121 (必要な準備) テキスト P.253-274 を読んで図表の説明		
第15回	テキスト P. 275-279 実力テスト		(内 容) おわりに、実力テスト (必要な準備) テキスト P.275-279 を読んでくる		
オフィスアワー	週に1時間×2回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。				

授業名	現代家政学特講 I (ライフデザイン)	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home Economics I (Life Design)	開講時期	春学期	必修・選択	選択必修
担当者	斧出 節子	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	現代家政学の領域は「生活」を対象とするという意味で非常に広い。本特講では、1、2回生まで広く学んできたことを、社会学的視点から再度検討していく。具体的には、「食」を題材として取り上げ、「食」を通して見えてくる現代の家族・家庭はどのように位置づけられるのか、また、その課題はどのようなものであるのかを探っていく。				
学習成果到達目標	1) 現代の家庭・家族の生活実態を、食の領域から分析できるようになる。 2) 生活の現代的課題を把握し、解決の道筋を考えることができる。 3) アンケート調査を分析・考察できる。				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 積極的な授業参画態度	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/>			
テキスト	『平成の家族と食』品田知美編 (晶文社)				
参考書	適宜紹介する				
留意事項	毎回、授業のテーマについて、受講生は身近なところで調査を行い、それをもとに発表・議論をします。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方についての講義 (必要な準備) シラバスを読んでおく			
第2回	和食について	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第3回	食事時間	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第4回	食のファーストフード化	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第5回	男性の食事作り	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第6回	子どもの食事としつけ	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第7回	食事中の会話	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第8回	弁当	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第9回	食のエコ意識	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第10回	食の東西・都市規模と食事	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。			
第11回	基礎編のまとめ	(内 容) これまでの基礎編を振り返り、総括する。 (必要な準備) これまでの学びを復習しておく。			
第12回	分析:家族のコミュニケーション	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第13回	分析:食を通じた健康意識	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第14回	分析:家族と共食	(内 容) 該当箇所を、調査をふまえて実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、調査しておく。			
第15回	まとめ:食から見た日本の家族の現状	(内 容) テキスト全体を通じた総括 (必要な準備) 問題意識を深めておく。			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください				

授業名	現代家政学特講Ⅱ(児童学)	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home EconomicsⅡ(Pedology)	開講時期	春学期	必修・選択	選択必修
担当者	松浦 真理	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	児童学コースの学生が将来人と関わる職業に就くことを前提として、教育という営みとマクロな次元で真剣に向き合う授業を行う。教育という営みが如何に複雑で一朝一夕に解決できないものか、如何に思い込みや恣意が働く営みであるかについて根拠を示しながら解説する。授業は講義形式で行う。				
学習成果到達目標	1) 教育問題の論じられ方の「常識を疑う」思考を身につけ、物事に対する批判的思考を身につける。 2) 論文執筆に役立つデータの利用法などを身につける。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	広田照幸・伊藤茂樹『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』(日本図書センター)				
参考書	広田照幸『教育論議の作法』(時事通信社)、荻谷剛彦『知的複眼思考法』(講談社+α文庫)ほか				
留意事項	教育問題の基礎事項については、各自で予習を前提とする。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	イントロダクション	(内 容) 進め方説明の後、「はじめに」を解説する。 (必要な準備) 教育についての自分の問題意識を整理する。			
第2回	教育問題って何?	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、予習をしておく。			
第3回	事実認識を疑ってみる	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、予習をしておく。			
第4回	事実を読み解くカギ	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、予習をしておく。			
第5回	情報はどうにでもなる	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、予習をしておく。			
第6回	「原因の説明」「評価の仕方」	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、予習をしておく。			
第7回	「解決策」の問題点	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、予習をしておく。			
第8回	「心の問題」としての教育問題?	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、予習をしておく。			
第9回	教育問題への向き合い方	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 該当箇所を読み、予習をしておく。			
第10回	教育に関わる「あやしい」言葉	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 事前の配付資料を読んでおく。			
第11回	教育政策を多角的にとらえる	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 事前の配付資料を読んでおく。			
第12回	教育改革を多角的にとらえる	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 事前の配付資料を読んでおく。			
第13回	家庭と学校	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 事前の配付資料を読んでおく。			
第14回	学校と社会	(内 容) 該当箇所を、課題を明確にしながら読み解く。 (必要な準備) 事前の配付資料を読んでおく。			
第15回	まとめ	(内 容) 講義全体を通して言えることと各自の問題意識を喚起する。 (必要な準備) 講義全体を振り返り、問題意識を深めておく。			
オフィスアワー	毎水曜昼休みまたはメールにて受付				

授業名	現代家政学特講Ⅲ(人間福祉学)	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Contemporary Home EconomicsⅢ(Human Welfare)	開講時期	春学期	必修・選択	選択必修
担当者	湯浅 俊郎	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	講義形式の授業を通して、現実の家族や地域などにおける人間関係、社会関係の変化・変動と関連づけて福祉のありかたについて考察することを目指す。そのために、福祉のニーズを生み出す社会の変化・変動とともに現れてくる社会的な諸問題の実態を把握していく。具体的には、少子高齢化など現実にもわれわれの身の回りで起きている社会問題をとりあげ、統計データやドキュメンタリー映像、ルポルターージュなどを通して、その問題の実態を把握し、現実の人間関係、社会関係の変化・変動とその行方について考察していく(授業の進展度合いにより予定の変更もあります)。				
学習成果到達目標	1) 人口減少社会に遭遇している日本社会の課題を把握することができるようになる。 2) 上述のような状況下における福祉のありかたを考察できるようになる。 3) 統計データなどを読むことができるようになる。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	鬼頭宏,2011『2100年、人口3分の1の日本』メディアファクトリー新書。				
参考書					
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について説明します。 (必要な準備)			
第2回	人口が日本の未来を映し出す	(内 容) 「人口」という視点から社会を見ていく有効性について (必要な準備) テキスト 11~20 頁を読んできてください。			
第3回	日本の人口の動向についてⅠ-将来の日本の人口	(内 容) 将来の日本の人口推移について (必要な準備) テキスト 21~39 頁を読んできてください。			
第4回	日本の人口の動向についてⅡ-日本の人口動向の変遷	(内 容) 人口の動向の変遷について (必要な準備) テキスト 39~57 頁を読んできてください。			
第5回	人口減少による暮らしと経済の問題Ⅰ-経済行政の国家の広がりとその変化	(内 容) 経済の問題について (必要な準備) テキスト 59~69 頁を読んできてください。			
第6回	人口減少による暮らしと経済の問題Ⅱ-働き方行政の国家の広がりとその変化	(内 容) 働き方の問題について (必要な準備) テキスト 70~89 頁を読んできてください。			
第7回	人口減少による都市と地方の変化Ⅰ-地域間格差	(内 容) 人口の地理的分布について (必要な準備) テキスト 92~103 頁を読んできてください。			
第8回	人口減少による都市と地方の変化Ⅱ-課題と展望	(内 容) 人口の地理的分布における課題と展望について (必要な準備) テキスト 103~116 頁を読んできてください。			
第9回	人口減少による人間関係の問題についてⅠ-家族の変化	(内 容) 家族の変化について (必要な準備) テキスト 120~132 頁を読んできてください。			
第10回	人口減少による人間関係の問題についてⅡ-無縁社会	(内 容) 無縁社会の課題と展望について (必要な準備) テキスト 132~153 頁を読んできてください。			
第11回	外国人の問題Ⅰ-外国人の受け入れ	(内 容) 外国人の受け入れの問題について。 (必要な準備) テキスト 156~179 頁を読んできてください。			
第12回	外国人の問題Ⅱ-コミュニティのありかた	(内 容) 外国人がもたらす新しいコミュニティのありかたについて (必要な準備) テキスト 179~188 頁を読んできてください。			
第13回	人口 100 億人の世界Ⅰ-世界的な人口問題	(内 容) 世界的な人口問題について (必要な準備) テキスト 192~206 頁を読んできてください。			
第14回	人口 100 億人の世界Ⅱ-将来の人口変動	(内 容) 将来の人口変動について。 (必要な準備) テキスト 206~214 頁を読んできてください。			
第15回	未来への展望	(内 容) 今後の人口問題における課題と展望について。 (必要な準備) テキスト 216~224 頁を読んできてください。			
オフィスアワー	毎週 1 回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。				

授業名	卒業演習(論文を含む。)a~g		開講学年	3 回生	単位数	6 単位
英文名	Graduation Thesis		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	斧出節子・川島智生・流石智子・西川由紀子・馬場まみ・藤井伸生・吉田博子		対象学生	現代家政学部 3 回生		
授業の概要	3 回生春学期には卒業演習プレゼミを実施。3 回生秋学期には、3 回春学期の学習を踏まえて、先行研究や関連資料を収集し、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について学び把握する。ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して、卒業研究のテーマを確定する。同時に、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4 回生春学期 7 月に「論文題目」を提出。秋学期 12 月 15 日に「卒業論文」を提出。2 月に「口頭試問」に臨む。					
学習成果到達目標	1) 卒業研究テーマを自ら決定し、何をどこまで、どのような方法で明らかにするのか、研究目的と研究方法を決定する。 2) 学士論文としてふさわしい卒業研究論文を完成させるための分析考察方法、結果のまとめ方などを身につける。					
評価方法	定期試験 (80 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()	
テキスト	ゼミ担当者より指示する。					
参考書	ゼミ担当者より指示する。					
留意事項	3回生春学期の学習を通して興味関心の幅を広げるとともに、積極的に先行研究や関連資料にあたる。研究テーマにかかわる事象や事例に興味関心をもち、意見交換・考察・討議する習慣をもつ。主体的積極的に研究を進める。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	3 回生秋学期ガイダンス 自己紹介、研究テーマの紹介、プレゼミ課題・夏期課題の提出		(内 容) 3 回秋～4 回秋 (1 年半) のスケジュール、卒業論文作成要項、3 回秋ゼミの進め方の確認。プレゼミ課題・夏期課題提出。研究発表日程等を決める。 (必要な準備) プレゼミ課題・夏期課題の提出			
第2回	研究発表 1 - ① (研究テーマ・問題意識・研究概要)		(内 容) 研究発表・質疑応答・討論 (発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備			
第3回	研究発表 1 - ② (研究テーマ・問題意識・研究概要)		(内 容) 研究発表・質疑応答・討論 (発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備			
第4回	研究発表 1 - ③ (研究テーマ・問題意識・研究概要)		(内 容) 研究発表・質疑応答・討論 (発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備			
第5回	個別指導 (面談) 1 - ① (研究進捗状況の確認と検討)		(内 容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参 (ゼミ担当分 1 部 ; 自分用 1 部)			
第6回	個別指導 (面談) 1 - ② (研究進捗状況の確認と検討)		(内 容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参 (ゼミ担当分 1 部 ; 自分用 1 部)			
第7回	個別指導 (面談) 1 - ③ (研究進捗状況の確認と検討)		(内 容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参 (ゼミ担当分 1 部 ; 自分用 1 部)			
第8回	研究発表 2 - ① (先行研究・資料の研究)		(内 容) 研究発表・質疑応答・討論 (発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備			
第9回	研究発表 2 - ② (先行研究・資料の研究)		(内 容) 研究発表・質疑応答・討論 (発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備			
第10回	研究発表 2 - ③ (先行研究・資料の研究)		(内 容) 研究発表・質疑応答・討論 (発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備			
第11回	個別指導 (面談) 2 - ① (研究進捗状況の確認と検討)		(内 容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参 (ゼミ担当分 1 部 ; 自分用 1 部)			
第12回	個別指導 (面談) 2 - ② (研究進捗状況の確認と検討)		(内 容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参 (ゼミ担当分 1 部 ; 自分用 1 部)			
第13回	個別指導 (面談) 2 - ③ (研究進捗状況の確認と検討)		(内 容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参 (ゼミ担当分 1 部 ; 自分用 1 部)			
第14回	研究発表 3 - ① (研究テーマの確定) (3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)		(内 容) 研究テーマの確定・3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握 (発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備			
第15回	研究発表 3 - ② (研究テーマの確定) (3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)		(内 容) 研究テーマの確定・3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握 (発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者：レジュメ配布準備・討論テーマ準備			
オフィスアワー	毎週 1 回 (休業期間中を除く) オフィスアワーを設けます (曜日・時間を研究室に掲示) 。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。					

授業名	卒業演習(論文を含む。)a~g		開講学年	4回生	単位数	6単位
英文名	Graduation Thesis		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	斧出節子・川島智生・西川由紀子・馬場まみ・藤井伸生・藤村法子・吉田博子		対象学生	現代家政学部4回生		
授業の概要	卒論テーマについて、先行研究や関連資料を読み込み、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について、ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して深めていく。課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。					
学習成果到達目標	1) 卒業論文題目を確定し、主体的積極的に研究を進める。 2) 各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において研究の進捗状況、研究成果を発表する。					
評価方法	定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()				
テキスト	ゼミ担当者より指示する。					
参考書	ゼミ担当者より指示する。					
留意事項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかむ。 意見交換・考察・討議する習慣をもち、主体的積極的に自らの研究を進める。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	研究進捗状況の確認、論文作成手引の確認		(内 容)	研究の目的、研究進捗状況の確認をする (必要な準備) 先行研究を読み込んでおく		
第2回	研究発表1-①(研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表)		(内 容)	研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備		
第3回	研究発表1-②(研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表)		(内 容)	研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備		
第4回	研究発表1-③(研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表)		(内 容)	研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備		
第5回	個別指導(面談)1-①(研究進捗状況の確認と検討)		(内 容)	研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分分1部)		
第6回	個別指導(面談)1-②(研究進捗状況の確認と検討)		(内 容)	研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分分1部)		
第7回	個別指導(面談)1-③(研究進捗状況の確認と検討)		(内 容)	研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分分1部)		
第8回	個別指導(面談)1-④(研究進捗状況の確認と検討)		(内 容)	研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分分1部)		
第9回	個別指導(面談)1-⑤(研究進捗状況の確認と検討)		(内 容)	研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分分1部)		
第10回	研究発表2-①(研究進捗状況の発表)		(内 容)	研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) レジュメ配布準備・討論テーマ準備		
第11回	研究発表2-②(研究進捗状況の発表)		(内 容)	研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) レジュメ配布準備・討論テーマ準備		
第12回	研究発表2-③(研究進捗状況の発表)		(内 容)	研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) レジュメ配布準備・討論テーマ準備		
第13回	個別指導(面談)2-①(現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討)		(内 容)	研究進捗状況報告に基づいて面談 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分分1部)		
第14回	個別指導(面談)2-②(現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討)		(内 容)	研究進捗状況報告に基づいて面談 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分分1部)		
第15回	個別指導(面談)2-③(現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討)		(内 容)	研究進捗状況報告に基づいて面談 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分分1部)		
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)オフィスアワーを設けます(曜日・時間を研究室に掲示)。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。					

授業名	卒業演習(論文を含む。)a~g		開講学年	4回生	単位数	6単位
英文名	Graduation Thesis		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	斧出節子・川島智生・西川由紀子・馬場まみ・藤井伸生・藤村法子・吉田博子		対象学生	現代家政学部4回生		
授業の概要	先行研究や関連資料を読み込み、学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文を完成させる。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。					
学習成果到達目標	1)自ら決定した研究テーマについて、主体的積極的に自らの研究を進める。 2)学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文として完成させる。					
評価方法	定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()					
テキスト	ゼミ担当者より指示する。					
参考書	ゼミ担当者より指示する。					
留意事項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかみ、自分の研究を進めていく。 学士論文としてふさわしい内容の卒業研究論文を完成させる。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認			(内 容) 研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認 (必要な準備) 先行研究を読み込んでおく		
第2回	研究発表1-①(研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認)			(内 容) 研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 (必要な準備) 研究発表、レジュメの準備		
第3回	研究発表1-②(研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認)			(内 容) 研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 (必要な準備) 研究発表、レジュメの準備		
第4回	研究発表1-③(研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認)			(内 容) 研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 (必要な準備) 研究発表、レジュメの準備		
第5回	個別指導(面談)1-①(研究進捗状況の確認と検討)			(内 容) 研究進捗状況報告と面談 (必要な準備) 研究進捗状況報告を準備する		
第6回	個別指導(面談)1-②(研究進捗状況の確認と検討)			(内 容) 研究進捗状況報告と面談 (必要な準備) 研究進捗状況報告を準備する		
第7回	個別指導(面談)1-③(研究進捗状況の確認と検討)			(内 容) 研究進捗状況報告と面談 (必要な準備) 研究進捗状況報告を準備する		
第8回	個別指導(面談)1-④(研究進捗状況の確認と検討)			(内 容) 研究進捗状況報告と面談 (必要な準備) 研究進捗状況報告を準備する		
第9回	研究発表2-①(研究進捗状況の発表)			(内 容) 研究進捗状況の発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) レジュメ配布準備・討論テーマ準備		
第10回	研究発表2-②(研究進捗状況の発表)			(内 容) 研究進捗状況の発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) レジュメ配布準備・討論テーマ準備		
第11回	個別指導(面談)2-①(卒論の仕上げ)			(内 容) 卒論の仕上げ・提出 (必要な準備) 卒業論文の提出原稿の準備		
第12回	個別指導(面談)2-②(卒論の仕上げ)			(内 容) 卒論の仕上げ・提出 (必要な準備) 卒業論文の提出原稿の準備		
第13回	個別指導(面談)2-③(卒論の仕上げ)			(内 容) 卒論の仕上げ・提出 (必要な準備) 卒業論文の提出原稿の準備		
第14回	口頭試問準備			(内 容) 口頭試問に向けての準備 (必要な準備) 口頭試問の質疑応答準備		
第15回	口頭試問準備			(内 容) 口頭試問に向けての準備 (必要な準備) 口頭試問の質疑応答準備		
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)オフィスアワーを設けます(曜日・時間を研究室に掲示)。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。					

授業名	からだのしくみu	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Mechanism of Human Body	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	小西 憲子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	人体の構造と機能および疾病のなりたちについて学んでいく。さらに、健康の概念について学び、豊かな生活を送るための健康の重要性について考えていく。				
学習成果 到達目標	1) 人体の構造と機能の基礎的事項が理解できる。 2) 疾病のなりたちについて理解し予防する力を養う 3) 健康の概念を理解し生活に活かしていくことができる				
評価方法	定期試験 (80 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の 観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (汎用的能力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	人体の構造と機能及び疾病、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規				
参考書	使用しない。				
留意事項	難解な 医学用語、内容が多いので、毎回の予習および復習は必要である。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	人の成長・発達・老化		(内 容) 成長・発達および老化による身体の変化について (必要な準備) 教科書 p2～23 を一読しておく事		
第2回	循環器系について		(内 容) 心臓の構造と機能、血液およびリンパ液の成分と循環について (必要な準備) 教科書 p30～31 を一読しておく事		
第3回	循環器系疾患		(内 容) 血管と血液の疾患 (必要な準備) 教科書 p61～71 を一読しておく事		
第4回	泌尿器系について		(内 容) 腎臓の構造と機能 (必要な準備) 教科書 p34～36 を一読しておく事		
第5回	泌尿器系疾患		(内 容) 腎臓の疾患 (必要な準備) 教科書 p86～93 を一読しておく事		
第6回	消化器系について		(内 容) 消化器系の構造と機能 (必要な準備) 教科書 p37～40 を一読しておく事		
第7回	消化器系疾患		(内 容) 消化性潰瘍と肝炎 (必要な準備) 教科書 p79～82 を一読しておく事		
第8回	呼吸器系について		(内 容) 呼吸器系の構造と機能 (必要な準備) 教科書 p36～37 を一読しておく事		
第9回	呼吸器系疾患		(内 容) 肺炎と肺結核 (必要な準備) 教科書 p76～78 を一読しておく事		
第10回	神経系について		(内 容) 神経系の構造と機能、神経疾患について (必要な準備) 教科書 p40～44, p105～108 を一読しておく事		
第11回	内分泌系について		(内 容) 内分泌系の相互作用 (必要な準備) 教科書 p44～45 を一読しておく事		
第12回	内分泌疾患		(内 容) 糖尿病と内分泌疾患について (必要な準備) 教科書 p72～75 を一読しておく事		
第13回	感染症について		(内 容) 感染症の種類と原因 (必要な準備) 教科書 p101～104 を一読しておく事		
第14回	リハビリテーションの概要		(内 容) リハビリテーションの概念と範囲 (必要な準備) 教科書 p164～184 を一読しておく事		
第15回	健康のとらえ方		(内 容) WHO 憲章他における健康の概念など (必要な準備) 教科書 p192～213 を一読しておく事		
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。				

授業名	食生活論u	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Dietary Life	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	豊原 容子	対象学生	全1回生		
授業の概要	食に関するさまざまな資料を通して、食にまつわる問題が生じる原因について考える。また理想的な食生活をめざしていくための指針となる事項について学んでいく。				
学習成果到達目標	1) 食の問題点とその原因について理解する 2) 自らの食と環境との関連性について理解する 3) 理想的な食生活を営むために、正しい判断基準をもち行動することができる				
評価方法	定期試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用的能力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力) <input type="checkbox"/> ()
テキスト	食生活—健康に暮らすために— 市川朝子、下坂智恵編著、八千代出版				
参考書	使用しない。				
留意事項	自分で考えることが大切です。自分の身の回りではどうか、常に意識してください。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	「食べる」とは		(内 容) なぜ食べなくてははいけないのかについて考える (必要な準備)		
第2回	若年者の食生活の問題点1 欠食		(内 容) 若年者の欠食の状況とその弊害について概説 (必要な準備) 自分の食生活を振り返っておく		
第3回	若年者の食生活の問題点2 肥満		(内 容) 肥満の定義、肥満と疾病との関連性について (必要な準備) 理想的な体型について考えておく		
第4回	若年者の食生活の問題点3 やせ		(内 容) やせの定義、やせと疾病との関連性について (必要な準備) 若年者の食の問題についてまとめる		
第5回	乳幼児・学童期の食生活の問題点		(内 容) ライフステージ別の食生活の問題点について知る (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第6回	成人・高齢期の食生活の問題点		(内 容) ライフステージ別の食生活の問題点について知る (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第7回	食事の評価方法1 食事バランスガイド		(内 容) 食事バランスガイドを用いた1日の食事の評価方法について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第8回	食事の評価方法2 六つの基礎食品群・食生活指針		(内 容) 六つの基礎食品群や食生活指針を用いた食生活の評価方法について (必要な準備) 教科書の五大栄養素について復習しておく		
第9回	食に関する情報①誤った情報		(内 容) フードフェディズム、食の流行などを生む食の情報について (必要な準備) 誤った食の情報を集めてみる		
第10回	食に関する情報②情報の取捨選択		(内 容) 食品を選択する場合、信頼できる情報をどこから得るのかについて (必要な準備) 食の情報をどこから得ているのかについて考えておく		
第11回	目に見えない食の危険について		(内 容) 食べ物に含まれる有害物質やさまざまなリスクの除去について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第12回	飢餓と食糧輸入		(内 容) 世界の食糧事情についておよび日本の食との関連性について概説する (必要な準備) 日常用いられている外国の食品について調べておく		
第13回	世界の食		(内 容) 世界各地の食事内容や食のタブーなどについて宗教や環境から考察する (必要な準備) 日本の食のタブーについて調べておく		
第14回	環境問題と食		(内 容) 環境にやさしい食生活を目指して各自ができることについて考える (必要な準備) 各自家庭の食糧購入状況について調べておく		
第15回	まとめ		(内 容) 自らの食生活をどのように営んでいったらよいのかについて考えていく (必要な準備) 講義内容を復習しておく		
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授業名	小児保健 I u	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Infant Health I	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	石井 信子	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	子どもの人生は遠い未来へつながり、子どもの生活は将来の社会をつくる。その初期段階としての乳幼児期は特に健康な体と健全な心に成長発達させていくために、知識と実践が大切となる。子ども時代に健康を守り、健康増進するために、医学的知識を中心に健康・保健を学んでいく。				
学習成果到達目標	1) 胎生期、乳幼児期、学童期の子どもの身体の仕組みや精神的発達を理解する 2) どのように支援援助したらいいのか、親や受講者自身のメンタルヘルスを学ぶ。 3) 医学的基礎知識を理解し、保育・育児の場で対応できる。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	精神医学・内科学・心理学の視点からメンタルヘルスを学ぶ (ミネルヴァ書房)				
参考書	「図表で学ぶ子どもの保健 I」(健帛社)「大人が知らない子どもの身体の不思議」(講談社)				
留意事項	子どもの健康については小児医学や保健知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	小児保健の目的と意義	(内 容) 本講義の目的と意義を理解し、学習にのぞむ (必要な準備)			
第2回	子どもの成長と発達 1	(内 容) 胎児の成長と発達と母体の仕組みについて (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第3回	子どもの成長と発達 2	(内 容) 乳児の成長と発達について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第4回	子どもの成長と発達 3	(内 容) 幼児の成長と発達について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第5回	子どもの成長と発達、まとめ	(内 容) 子どもの成長と発達について (必要な準備) レポート提出			
第6回	子どものメンタルヘルス 1	(内 容) 子どものメンタルヘルスについて (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第7回	子どものメンタルヘルス 2	(内 容) 子どものメンタルヘルスについて (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第8回	親のメンタルヘルス 1	(内 容) 親のメンタルヘルスについて (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第9回	家族のメンタルヘルス 2	(内 容) 家族のメンタルヘルスについて (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第10回	メンタルヘルス、まとめ	(内 容) メンタルヘルスについて (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第11回	子どもの精神発達(神経系)	(内 容) 新生児期からの神経系の発達評価について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第12回	子どもの精神発達(ことばと情緒)	(内 容) 精神発達評価について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第13回	子どもの食生活	(内 容) 子どもの食生活について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第14回	母子保健	(内 容) 母子保健について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおく事			
第15回	まとめ	(内 容) これまでの総復習をする (必要な準備) 教科書・配布資料を見直す			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	栄養学	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Dietetics	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	豊原 容子	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	健康の保持・増進、疾病の予防における栄養の役割および 栄養素の代謝とその生理的意義を理解するための基礎事項について学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 五大栄養素の基礎知識が理解できる。 2) 栄養素の代謝について理解できる 3) 健康に対する栄養素の重要性が理解できる。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用的能力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	栄養と健康、日本フードスペシャリスト協会編、建帛社				
参考書	使用しない。				
留意事項					
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	栄養とは		(内 容) 栄養の定義、からだのしくみについて (必要な準備) 教科書 p1～25 を一読しておく事		
第2回	糖質について		(内 容) 糖質の種類と構造 (必要な準備) 教科書 p40～47 を一読しておく事		
第3回	糖質の働き		(内 容) 糖質の機能 (必要な準備) 前回の復習および教科書 p25～27 を一読しておく事		
第4回	脂質について		(内 容) 脂質の種類と構造 (必要な準備) 教科書 p48～53 を一読しておく事		
第5回	脂質の働き		(内 容) 脂質の機能 (必要な準備) 前回の復習をしておく		
第6回	タンパク質について		(内 容) タンパク質の種類と構造 (必要な準備) 教科書 p18～21 を一読しておく事		
第7回	タンパク質の働き		(内 容) タンパク質の機能 (必要な準備) 前回の復習をしておく		
第8回	ビタミンについて		(内 容) ビタミンの種類と機能 (必要な準備) 教科書 p61～64 を一読しておく事		
第9回	ミネラルについて		(内 容) ミネラルの種類と機能 (必要な準備) 教科書 p58～60 を一読しておく事		
第10回	消化のしくみ		(内 容) 消化器系の構造と機能 (必要な準備) 教科書 p15、27～35 を一読しておく事		
第11回	吸収のしくみ		(内 容) 吸収のしくみ (必要な準備) 教科書 p12～14 を一読しておく事		
第12回	エネルギー代謝		(内 容) 三大栄養素とエネルギー代謝 (必要な準備) 教科書 p38～42 を一読しておく事		
第13回	食事摂取基準について		(内 容) 食事摂取基準の解説 (必要な準備) 教科書 p76～99 を一読しておく事		
第14回	代謝異常と疾病 ①糖尿病		(内 容) 糖尿病について (必要な準備) 教科書 p117～128,149～157 を一読しておく事		
第15回	代謝異常と疾病 ②脂質異常症		(内 容) 脂質異常症について (必要な準備) 教科書 p158～168 を一読しておく事		
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授業名	食生活実習	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Dietary Life Training	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	塩田 二三子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	基本的な調理技術を習得するとともに、その理論を科学的な視点から理解することを目的とする。また、グローバル化が進む今だからこそ、日本食の伝統的文化を再確認するとともに、諸外国の食文化についても理解を深める。さらに、中学校、高等学校の調理実習で指導するうえで必要な技術と知識の習得も目指す。				
学習成果到達目標	1) 基本的な調理技術の習得。 2) 調理技術や食品の調理性について科学的に理解する。 3) 中学校、高等学校の調理実習で指導できる力を習得する。				
評価方法	定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (基本的な調理技術の習得) <input checked="" type="checkbox"/> (主体性)			
テキスト	「これからの調理学実習 ―基本手法から各国料理、行事食まで―」新調理研究会編 (オーム社)				
参考書	使用しない				
留意事項	4~5名を1グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 諸注意、計量、包丁法 (必要な準備)			
第2回	米粉の電子レンジによる糊化、 緑茶のうま味成分の抽出	(内 容) 電子レンジを利用した和菓子制作 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第3回	炊飯の科学、野菜の調理(クロロフィルの理解)、 煮干しのうま味成分の抽出	(内 容) 炊飯、青茹で、みそ汁の調理 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第4回	小麦粉の膨化調理(イースト発酵)、 野菜の調理(カロテンの理解)	(内 容) パン生地、野菜の煮物 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第5回	加熱調理の科学Ⅰ(揚げ物、炒め物)、 和え物の調理	(内 容) 揚げ物(炸菜)、炒め物(炒菜)、和え物(拌菜) (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第6回	米飯調理(すし飯)の基本、 卵の熱凝固性(希釈卵液)	(内 容) すし飯、希釈卵液の蒸し物 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第7回	鶏骨からのうま味成分の抽出、 ひき肉調理の科学、エマルションの科学	(内 容) コンソメスープ、ひき肉料理、サラダ (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第8回	米飯調理(炒飯)の基本、 中華食材(干貝柱等)の理解	(内 容) 炒飯(点心)、湯菜 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第9回	魚の調理、ゲル化剤(ゼラチン)を用いた調理	(内 容) ムニエル、サラダ、ゼリー (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第10回	加熱調理の科学Ⅱ(焼き物、蒸し物)、 ゲル化剤(寒天)を用いた調理	(内 容) 焼き物、蒸し物、寒天 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第11回	衣揚げの基本、和え物の要点、 昆布とかつお節のうま味成分の抽出	(内 容) 天ぷら、和え物、汁物 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第12回	乾麺の扱い方、焼き菓子の科学、 油脂のショートニング性	(内 容) パスタ、クッキー (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第13回	加熱調理の科学Ⅲ(あんかけ物)、卵の起泡性	(内 容) あんかけ物(溜菜)、蒸しカステラ (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第14回	もち米の調理、煮物調理の基本	(内 容) もてなし料理(赤飯、炊き合わせ等) (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。			
第15回	テーブルセッティングとマナー	(内 容) 和洋の基本的なセッティングとマナー (必要な準備)			
オフィスアワー	初回の授業で指示します。				

授業名	子どもと運動	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Children and Exercise	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	西村 誠	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	健康（体育）は身体そのものの学習指導であり、あわせて身体活動を通しての心のあり方の学習である。本科目では、その指導の方法論の実際を学習・研究する。この大切な学習指導を進めるためには、子どもの心身の発育・発達の状態の十分な把握と子ども一人ひとりの実態をふまえた展開が重要である。また、この年齢期に将来にわたって不可欠な健康の保持促進、コミュニケーション、レクリエーション等の諸資質を培う。また、その際、教材として児童文化財にかかわる機会を設定するなどし、言語表現を交えた身体表現のあり方を考えていく。				
学習成果到達目標	<p>体育は応用科学の代表的な分野だといわれています。そのために多様な視点からの学習・研究が求められます。学習・研究の要点として、次にあげた諸点を大切にしながら取り組んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが積極的に取り組むであろう遊びの種類とその展開の方法について。 ・子どもがいろいろな場所、場面でのどのような行動の仕方をするかを理解し、安全に気をつけて行動するようになるための指導上の留意点について。 ・体育（運動）ぎらいを生みださない学習指導のあり方の研究は大切です。 ・体育実技（健康）を指導する者として、ぜひ身につけておきたい考え方や資質とはどのようなことなのだろうかを常に念頭においておきたい。 ・教師自身の立居振舞・服装等は直ちに幼児に伝授するものである事を心しておく必要がある。 ・子どもはこの時期に健康で安全な生活を送り、日常の生活の中で基本的な習慣や態度を身につけさせることが大切である。 ・子どもは一般に種々な感染症にかかりやすい。それを防ぐには、子ども一人ひとりのどのような点に留意して観察する必要があるのかについて理解する必要がある。 				
評価方法	定期試験 () %	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input "="" checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 2"="" checked="" type="checkbox/>(グループによる研究とその成果)</td> <td colspan="/>			
テキスト	『絆づくりの遊び百科』 西村誠 ほか監修 昭和堂				
参考書	『体育あそびアラカルト』 榎岡義明 西村誠 編著 朱鷺書房				
留意事項	<p>実技を中心として集中的に展開することになるので、受講にあたっては体育遊びの実体験に耐えられる体力を培っておいてください。「毎回の学習内容・課題」で提示された内容について、事前に調べておくこと。</p> <p><準備物> 運動するのに適した服装（トレーニングズボン、トレーニングシャツ）、体育館シューズ（上履きと下履きの区別をしておく）。</p>				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内 容) 幼児期の心身の実態。幼児の喜ぶ運動の分類。 (必要な準備)			
第2回	体づくり運動	(内 容) 多様な動きをつくる運動遊びを行い、体力の基礎を培う。 (必要な準備) 多様な動きとはどんな動きかを調べておく			
第3回	伝承遊びを主としたハンドメイキングあそび	(内 容) 何も使わずに出来る伝承あそびを行う。 (必要な準備) 伝承あそびを調べておく。			
第4回	伝承遊びを主としたハンドメイキングあそび・ゲーム	(内 容) 鬼ごっこ、だるまさんが転んだ等の伝承あそび・ゲームを行う。 (必要な準備) 伝承あそび・ゲームを調べておく。			
第5回	ボール遊び	(内 容) ボールの特性について知る。ボールの扱いになれる。少人数でのボール遊びを行う。 (必要な準備) ボールの特性について調べる。			
第6回	ボールでゲーム遊び	(内 容) ボールを使ったゲーム遊びを行う。 (必要な準備) 子どもの頃に行ったゲームを調べておく。			
第7回	フープ遊び	(内 容) フープの特性について知る。まわす・くぐる・転がす・跳ぶなどの遊びを行う。 (必要な準備) 簡単な遊びを考えておく。			
第8回	フープでゲーム遊び	(内 容) フープを使ってゲーム遊びを行う。ゲーム遊びを考える。発表する。 (必要な準備) グループでゲーム遊びを考えておく			
第9回	マット遊び	(内 容) マットを使った運動遊びとマット運動に必要な基本的な動きを行う。 (必要な準備) 腕を使った動物遊びを考えておく			

第 10 回	マット運動	(内 容) 横転・前転・後転・側転・倒立を行う。補助の方法を学ぶ。(二人組で補助の練習) (必要な準備) 補助の仕方を調べておく。
第 11 回	とび箱遊び	(内 容) とび箱に慣れる遊びから、跳び越える遊びに発展させる。跳び越えるためのポイントはどこなのかを考える。 (必要な準備) とび箱を跳ぶには何が大切なのか考えておく。
第 12 回	とび箱遊び・ゲーム	(内 容) とび箱を使った遊びを行う。ゲーム遊びを考え発表する。 (必要な準備) グループでゲーム遊びを考えておく。
第 13 回	縄遊び	(内 容) 短い縄を使っての遊び。1人で遊ぶ・2人で遊ぶ・色々な方法で跳ぶ。長縄を使って皆で跳んでみる。 (必要な準備) 色々な跳び方を考えておく。
第 14 回	体操を考える	(内 容) 子ども達が積極的に取り組みたくなるような、ウォーミングアップの方法を考える。グループでまとめる。 (必要な準備) 体操を考えておく
第 15 回	まとめ	(内 容) 本授業を振り返りながら、学びや課題等について話し合う。 (必要な準備) 運動を生涯継続していくための良き方法をまとめておく。
オフィス アワー		

授業名	子どもの食と栄養 u	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Infant Nutrition	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	豊原 容子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	小児にとって食生活は単に栄養補給にとどまらず、情緒面などの成長・発達にも影響を及ぼす重要なものである。本演習では、食生活に関する基本的な知識や小児の食生活の問題点などについて学び、正しい小児の食生活を理解する。小児が正しい食生活を営むことができる力をつけていくための食育の進め方などについても考えていく。				
学習成果到達目標	1) 栄養に関する基礎的事項を理解する 2) 小児の食生活のありかたについて正しく把握する 3) 子どもたちに食育していくことのできる力を養う				
評価方法	定期試験 (70 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用的能力) □()			
テキスト	『子どもの食と栄養』 進藤容子 編、あいり出版				
参考書	使用しない。				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方についての説明および「食べる」ことについての重要性について (必要な準備) 自分の食生活を振り返っておく			
第2回	子どもの健康と食生活	(内 容) 子どもの健康と心身の発育・発達における食生活の役割について (必要な準備) 大人と子どもの食の違いについて考えておく			
第3回	栄養の基礎知識(五大栄養素)	(内 容) 栄養素の種類とその役割について (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第4回	栄養の基礎知識(食事摂取基準と食構成)	(内 容) 必要な栄養素を満たすために何をどのように食べたらよいかについて (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第5回	栄養の基礎知識(献立作成)	(内 容) 献立作成の注意事項と手順について (必要な準備) 栄養の基礎的事項について復習しておく			
第6回	乳児期の栄養の特性	(内 容) 乳児期の食生活の留意点などについて (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第7回	乳汁栄養の特徴(実習含む)	(内 容) 母乳栄養、人工栄養の特徴について (必要な準備) 調乳方法について復習しておく			
第8回	離乳の進め方	(内 容) 離乳の必要性和授乳・離乳の支援ガイドの概説 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第9回	離乳食の実際(実習含む)	(内 容) 離乳食の進め方と留意点について (必要な準備) 支援ガイドを読んで復習しておく			
第10回	幼児期の栄養の特性	(内 容) 幼児の食事摂取基準と食構成および献立作成時の留意点 (必要な準備) 栄養の基礎知識について復習しておく			
第11回	幼児期の食生活の実際(実習含む)	(内 容) 幼児期の食生活の留意点などについて (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第12回	幼児期の食生活上の問題点	(内 容) 偏食、遊び食べなどの問題行動に関する対応について (必要な準備) 幼児期の問題行動の原因について考えておく			
第13回	特別な配慮を要する子どもの食生活の実際	(内 容) 食物アレルギーや疾病のある子どもへの対応、障害のある子どもへの対応について (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第14回	食育計画	(内 容) 幼児につけてあげたい力を理解し、食育指導計画をたてる (必要な準備) 保育所保育指針・保育所における食育に関する指針などを読み直しておく			
第15回	家庭における食育	(内 容) 家庭における望ましい食育について考える (必要な準備) 育児支援について考えておく			
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授業名	健康マネジメント		開講学年	2年生	単位数	2単位
英文名	Health Management		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	小西 憲子		対象学生	現代家政2年生		
授業の概要	生涯を通じて健康なからだところを維持することは、人生をより豊かにするために重要なことである。講義形式の授業を通して、健康に影響を及ぼすさまざまな要因について、さらに健康日本21のような日本の健康保持・増進のための施策についてなど、健康を管理するために必要となる基礎知識について学ぶ。また、知識の獲得にとどまらず、自ら実践する力を養っていくことも目標とする。さらに、主要な疾病について学び、これらの疾病の予防についても理解していく。さらに、月に1回程度体組成の測定を行い各自の健康管理の意識を高める。					
学習成果到達目標	1) 生活習慣病の背景要因を理解する。 2) 特に若年女性の健康問題について理解する。 3) 体力維持向上についての実践方法を修得する。					
評価方法	定期試験 (80%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点		<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> (汎用的能力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	健康・スポーツ科学講義 第2版 (株式会社 杏林書院)					
参考書	使用しない。					
留意事項	予習、復習を必ず行うこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス、授業の目的と意義		(内 容) 本講義の目的と意義の説明及び進め方 (必要な準備)			
第2回	健康の捉え方と獲得するためのポイント		(内 容) 健康の定義、健康日本21、健康増進法について (必要な準備) テキスト P.2~22 を読んでおくこと			
第3回	生活習慣病と関連する要因(総論)		(内 容) 生活習慣病の概要 (必要な準備) テキスト P.24~35 を読んでおくこと			
第4回	生活習慣病について① 糖尿病、骨粗鬆症		(内 容) 糖尿病、骨粗鬆症について (必要な準備) 第3回の内容を復習しておくこと。			
第5回	生活習慣病について② 高血圧、心臓循環器系		(内 容) 高血圧、心臓循環器系疾患について (必要な準備) 第3回の内容を復習しておくこと。			
第6回	フィットネス基礎知識 体力とは何か		(内 容) 体力の定義、体力測定法、体力の衰え等 (必要な準備) テキスト P.38~55 を読んでおくこと			
第7回	フィットネス基礎知識 運動の仕組み		(内 容) 身体エネルギー産生の仕組み、骨格筋、神経系について (必要な準備) テキスト P.60~82 を読んでおくこと			
第8回	フィットネス基礎理論 トレーニング理論、方法		(内 容) トレーニングの原理、筋肥大のメカニズム等 (必要な準備) テキスト P.89~119 を読んでおくこと			
第9回	フィットネス基礎理論 健康を維持増進するための運動		(内 容) 有酸素運動について、運動のエネルギー消費 (必要な準備) テキスト P.125~134 を読んでおくこと			
第10回	フィットネス基礎理論 ダイエット		(内 容) ダイエットとは、リバウンドについて、 (必要な準備) テキスト P.136~145 を読んでおくこと			
第11回	運動と水分補給、熱中症		(内 容) 体温調節の仕組み、水分補給について (必要な準備) テキスト P.150~166 を読んでおくこと			
第12回	応急処置		(内 容) 医療機関搬送までの手順や応急手当の基本 (必要な準備) テキスト P.179~187 を読んでおくこと			
第13回	スポーツと心理のかかわり		(内 容) スポーツ場面における心理について (必要な準備) テキスト P.191~198 を読んでおくこと			
第14回	学校保健に関する諸問題		(内 容) 薬物、喫煙、飲酒、性感染症と健康について (必要な準備) テキスト P.204~215 を読んでおくこと			
第15回	ストレス、疲労と健康		(内 容) ストレスに対する対処行動の重要性について (必要な準備) テキスト P.218~233 を読んでおくこと			
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。					

授業名	道徳教育論		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Moral Education		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	三宅 康夫		対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	<p>理論的な内容から実践的な内容へ。道徳授業の実践例を挙げて展開する。 また、一般的な内容から具体的な内容へ。出来るだけ具体例を挙げて展開する。 ○座席を決めて出欠、遅刻、態度などを確認する。また、指名発問も実施する。 ○適宜、授業資料、参考資料、レポート課題等の提示を行う。 ○演習形式を取り入れた主体的な学習を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回、学びシートで学習後の思いの記入を行い、課題解決能力を高める。 2) 毎回、数名の学びシートを紹介し、課題を共有する。 3) ほぼ毎回、学生同士で話し合うなどの演習を取り入れる。コミュニケーション力を高める。 4) レポートとして作成した道徳学習指導案に従い、代表者による模擬授業を行う。 代表者はプレゼンテーション力を、出席者はコメントを通して分析力、思考力を養う。 					
学習成果到達目標	<p>学校における道徳教育を進めるにあたって、講義や演習を通して指導方法など教員として必要な資質能力を修得することを目標とする。また、社会人として社会における道徳教育の振興に果たす役割について理解し、実践への意欲を持たせる。</p>					
評価方法	定期試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」東洋館出版社					
参考書	赤堀博行『道徳授業で大切なこと』『道徳教育で大切なこと』東洋館出版社 2013. 横山利弘『道徳教育とは何だろうか・道徳をどう解く』『道徳教育、画餅からの脱却・道徳をどう説く』暁教育図書 2007.					
留意事項	教職を強く志望する学生の履修を望む。授業資料（新学習指導要領道徳 平成 27 年 3 月告示）や現行学習指導要領解説を授業前に目を通し、メモを取っておくこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 道徳教育の実際		(内 容) オリエンテーション (授業の役割、授業の展開、評価の方法、マナーなどについて)。道徳教育の実際を知る。 (必要な準備) 筆記用具			
第2回	「特別の教科 道徳」の概要について		(内 容) 「特別の教科 道徳」の設置に当たっての経過を含めたその概要を理解する。 (必要な準備) テキスト、プリント			
第3回	道徳教育と道徳の時間について		(内 容) 道徳教育と道徳の時間のそれぞれの特質について理解する。 (必要な準備) テキスト、プリント			
第4回	道徳教育の「内容」と「評価」について		(内 容) 道徳教育の目標やその内容、また評価について実践的に理解する。レポート課題を提示する。 (必要な準備) テキスト、プリント			
第5回	道徳の学級経営に果たす役割、地域社会と連携した道徳教育について		(内 容) 道徳の学級経営に果たす役割と地域社会と連携した道徳教育の有効性について考える。 (必要な準備) テキスト、プリント			
第6回	「道徳の時間」の授業づくりの基本型について		(内 容) 「道徳の時間」の授業づくりの基本について学び、考える。平常試験のレポート課題を提示する。 (必要な準備) テキスト、プリント			
第7回	「道徳の時間」の授業づくり(導入、資料分析など)		(内 容) 授業づくりの大切な導入と特に資料分析について演習を通して学ぶ。 (必要な準備) テキスト、プリント			
第8回	「道徳の時間」の授業展開(資料提示、発問など)		(内 容) 授業展開の資料提示と発問について演習を通して学ぶ。 (必要な準備) テキスト、プリント			
第9回	「道徳の時間」の指導方法(話し合い、表現活動、板書など)		(内 容) 指導方法の話し合い、役割演技などの表現活動、板書などについて演習を通して学ぶ。 (必要な準備) テキスト、プリント			
第10回	生き方を考える道徳の授業づくり(展開後段、終末など)		(内 容) 生き方を考える道徳の授業づくりに向けて大切な展開後段の発問や終末について具体例をもとに理解する。 (必要な準備) テキスト、プリント			

第 11 回	道徳授業の指導案の作成(主題設定の理由、ねらい)	(内 容) 道徳授業の指導案の作成に取り組む。第 1 回は、主題設定の理由とねらいなど。 (必要な準備) テキスト、プリント
第 12 回	道徳授業の指導案の作成(資料分析、発問)	(内 容) 道徳授業の指導案の作成に取り組む。第 2 回は、資料分析と発問など。 (必要な準備) テキスト、指導案
第 13 回	道徳授業の指導案の作成(指導方法、板書)	(内 容) 道徳授業の指導案の作成に取り組む。第 3 回は、指導方法と板書など。 定期試験のレポート課題を提示する。 (必要な準備) テキスト、指導案
第 14 回	作成した指導案をもとに模擬授業	(内 容) 代表 3 人の学生が、20 分間の模擬授業を行う。 (必要な準備) テキスト、指導案
第 15 回	道徳教育の要としての道徳科の授業	(内 容) 模擬授業について感想、意見交流を行い、道徳の授業づくりで大切にしたいことを考える。 指導案を仕上げ提出する。 (必要な準備) プリント
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。	

授業名	発達心理学		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Developmental Psychology		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	西川 由紀子		対象学生	全1回生		
授業の概要	発達を学ぶ意義を確認した上で、変化の著しい乳幼児期に焦点を当てて、運動、認知、言語、自我の発達などを、年齢をおって解説してゆく。また、発達の遅れや、偏りがある場合の援助についても紹介する。					
学習成果 到達目標	1) 子どもの発達を学ぶ意義を理解する。 2) 子どもの発達を理解する。 3) 子どもの発達の援助を行う際に留意すべき視点を獲得する。					
評価方法	定期試験 (80 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (20 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	①西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版 ②西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版					
参考書	使用しない					
留意事項						
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	なぜ発達を学ぶのか		(内 容) 保育における発達理解の必要性を解説する (必要な準備) テキスト① 1章を読んでくる			
第2回	乳児期前半		(内 容) 乳児期前半の子どもの発達を解説する (必要な準備) テキスト① 2章を読んでくる			
第3回	乳児期後半		(内 容) 乳児期後半の子どもの運動・認知発達を解説する (必要な準備) テキスト① 3章を読んでくる			
第4回	1歳児		(内 容) 乳児期後半の子どもの社会性の発達を解説する (必要な準備) テキスト① 4章を読んでくる			
第5回	1歳児まとめと2歳児		(内 容) 1歳の子どもの運動・認知の発達を解説する (必要な準備) テキスト① 4章を読んでくる			
第6回	2歳児まとめ		(内 容) 1歳の子どもの社会性の発達を解説する (必要な準備) テキスト② 2章を読んでくる			
第7回	3歳児		(内 容) 2歳の子どもの発達を解説する (必要な準備) テキスト② 3章を読んでくる			
第8回	3歳児まとめと4歳児		(内 容) 3歳の子どもの発達を解説する (必要な準備) テキスト② 4章を読んでくる			
第9回	4歳児まとめと5歳児		(内 容) 4歳の子どもの発達を解説する (必要な準備) テキスト② 4章を読んでくる			
第10回	5歳児まとめ		(内 容) 5歳の子どもの発達を解説する (必要な準備) テキスト② 5章を読んでくる			
第11回	児童期		(内 容) 児童期の発達を解説する (必要な準備) プリントを読んでくる			
第12回	思春期前期		(内 容) 思春期前期の発達を解説する (必要な準備) プリントを読んでくる			
第13回	思春期後期		(内 容) 思春期後期の発達を解説する (必要な準備) プリントを読んでくる			
第14回	発達の援助のあり方① 自閉症スペクトラム		(内 容) 自閉症スペクトラムの障害の特性と援助方法を解説する (必要な準備) テキスト② p108-119を読んでくる			
第15回	発達の援助のあり方② ADHD		(内 容) ADHD の特性と援助方法を解説する (必要な準備) テキスト② p108-119を読んでくる			
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。					

授業名	教育原理u	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Education	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	松浦 真理	対象学生	全1回生		
授業の概要	教育とは個人が社会人として生きていけるように成長発達を支援していくものであると同時に、社会全体を維持発展させていくものである。このような教育の重要性を理解するために、学校教育、歴史、政治経済、家庭教育など多様な観点から教育を考え、今後の教育のあり方を模索していく。				
学習成果到達目標	1) 個人及び社会の両方と教育とのかかわりを理解し、説明できる。 2) 教育が、学校だけでなく、社会のその他の部分と関わっていることを理解し、説明できる。 3) 現代の世界的な教育の流れを踏まえ、これからの教育について想定できる。				
評価方法	定期試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト					
参考書	『教育学の基礎と展開 (第3版)』(2015、ナカニシヤ出版) ほか適宜紹介する。				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	私体験としての教育と教育学	(内 容) 進め方の説明後、教育学が扱う領域について説明する。 (必要な準備) 自分が受けてきた教育について振り返っておく。			
第2回	教育の意味と役割	(内 容) 教育の意味や重要性について考える。 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第3回	発達と教育と子ども観	(内 容) 時代と地域による子ども観の変遷 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第4回	教育の目的	(内 容) 教育の理念、社会と個人に対する目的 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第5回	教育思想の展開(西洋)	(内 容) 西洋における教育概念と思想の歴史 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第6回	教育思想の展開(日本)	(内 容) 日本やアジアにおける教育概念と思想史 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第7回	学校教育の役割	(内 容) 学校教育の発展と意義について知る (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第8回	公教育と社会変動	(内 容) 公教育の機能と社会との関連を理解する。 (必要な準備) 資料の該当箇所を読む			
第9回	学力とカリキュラム	(内 容) カリキュラムの考え方と授業実践の概説。 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第10回	教育の実践技術	(内 容) 授業実践と技術について学ぶ。 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第11回	教育評価	(内 容) 評価の意義と種類を概説する。 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第12回	教育制度と法・行政	(内 容) 国と時代による教育制度・行政について知る。 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第13回	これからの教育(生涯学習の観点から)	(内 容) 生涯学習の観点から教育を考える。 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。			
第14回	これからの教育(世界的な流れから)	(内 容) 知識基盤社会における世界の流れを知る。 (必要な準備) 資料をよんでおく。			
第15回	まとめ	(内 容) 結局教育とは何か。 (必要な準備) これまでの授業を振り返っておく。			
オフィスアワー	毎水曜日昼休みほかメールにて受付				

授業名	精神保健u	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Mental Health	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	石井 信子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	近年メンタルヘルスについては大きな問題となっている。 社会の著しい変動により、生活スタイル、価値観の変化など、社会環境が大きく変化してきているからと思われる。 受講者自身が自己理解・他者理解を学び、社会で暮らしていく力を身につける。 さらに最近クローズアップされてきた発達障害・精神障害・認知症等についても学びを展開する。				
学習成果到達目標	1) 胎生期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期のメンタルヘルスの知識を理解する。 2) 自己理解・他者理解を学ぶ。 3) 発達障害児・精神障害・認知症等の理解と支援方法を学ぶ。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	<input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	「メンタルヘルスを学ぶ」 ミネルヴァ書房				
参考書					
留意事項	ワークを通し、具体的に学ぶ事を中心に実施するため、積極的参加を求める。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	メンタルヘルスを学ぶ目的意義	(内 容) 授業計画について (必要な準備) 全体的な授業の流れについて			
第2回	胎生期のメンタルヘルス	(内 容) 胎生期のメンタルヘルスとは (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第3回	乳幼児期のメンタルヘルス	(内 容) 乳幼児期のメンタルヘルスについて (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第4回	自分の歴史	(内 容) 自分の歴史(p.35-37) (必要な準備) レポート提出			
第5回	学童期のメンタルヘルス	(内 容) 学童期のメンタルヘルス (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第6回	思春期のメンタルヘルス	(内 容) 思春期のメンタルヘルス (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第7回	ワーク 1	(内 容) 自己理解を深める (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第8回	成人期のメンタルヘルス	(内 容) 成人期のメンタルヘルス (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第9回	老年期のメンタルヘルス	(内 容) 老年期のメンタルヘルス (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第10回	ワーク 2	(内 容) 自己理解を深める (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第11回	精神科の病気	(内 容) うつ病・統合失調症等、心の病気の理解 (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第12回	精神科の病気	(内 容) 認知症、ターミナルケアとメンタルヘルス (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第13回	こころとからだ(ストレス反応)	(内 容) ストレス反応 (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第14回	対人援助職のメンタルヘルス	(内 容) 対人援助職のメンタルヘルスについて考える (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第15回	まとめ	(内 容) 全体的な復習 (必要な準備) 今までの授業の中の質問を考えておくこと			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	教育心理学 u		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Educational Psychology		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	吉田 博子		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	教育心理学は、教育にかかわる心理現象を研究する心理学の分野であり、発達・学習・知能・思考・記憶・意欲・人格・適応・社会性・教育評価など多様な分野がある。本授業では、「教育とは」「発達とは」「学習とは」「適応とは」「評価とは」について、それぞれどういうことなのかを心理学的に解きほぐしていく。教育心理学の歴史、理論のよりどころとなっている実証的な研究との関係を理解するとともに、「人は本来自ら学び、学ぶことに喜びを見出す存在である」「生涯を通して学びつづける存在である」「人は誰もが自己効力感をもって創造的に生きることを願う存在である」を理解し、人間はどのような条件の下で学習・成長・発達し、それぞれどのような特性を身につけていくかを明らかにする。					
学習成果到達目標	1)自らの教育観・保育観・学習観・学力観・子ども観・人間観を見つめ把握する。 2)人間の本来の性質にたってより良い教育・保育のために教育心理学の知見を活用できるようになる。 3)現代の教育・保育にかかわる諸課題・諸問題についての理解を深め、問題解決に役立てることができる。					
評価方法	定期試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()				
テキスト	杉田千鶴子『教育心理学』(佛教大学通信教育部)					
参考書	随時参考資料を配付する。					
留意事項	かなり忙しい授業になるので、テキスト・配付資料を積極的に読み込むこと。 事前学習をしっかりと行うこと。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション 教育とは、教育心理学とは、発達とは			(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる 教育とは、教育心理学とは、教育心理学の研究領域、 発達とは、遺伝と環境、発達の原理について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章、第2章を読んでくる		
第2回	発達段階 (乳児期・幼児期・児童期・青年期)			(内 容) : 発達段階 (乳児期・幼児期・児童期・青年期) について学ぶ (必要な準備) テキスト第2章を読んでくる		
第3回	学習の理論 (学習の定義・条件付け・問題解決)			(内 容) : 学習の理論 (学習の定義・条件付け・問題解 決) について学ぶ (必要な準備) テキスト第3章を読んでくる		
第4回	学習の理論 (社会的学習理論等)			(内 容) : 学習の理論 (社会的学習理論・情報処理理 論) について学ぶ (必要な準備) テキスト第3章を読んでくる		
第5回	教授と学習			(内 容) 教授と学習について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第4章を読んでくる		
第6回	人格 (人格の意味・人格の理論)			(内 容) 人格・性格・気質、人格の理論について学ぶ (必要な準備) テキスト第5章を読んでくる		
第7回	人格 (人格の形成)			(内 容) 人格の形成について学ぶ (必要な準備) テキスト第5章を読んでくる		
第8回	適応と指導 (適応・動機づけ・葛藤)			(内 容) 適応・動機づけ・葛藤について学ぶ (必要な準備) テキスト第6章を読んでくる		
第9回	適応と指導			(内 容) 適応機制・防衛機制・不適応・個人指導と心理 療法について学ぶ (必要な準備) テキスト第6章を読んでくる		
第10回	社会性の発達 (自我・自己形成と社会化)			(内 容) 社会性の発達・幼児期の自我・自己形成と社会 化について学ぶ (必要な準備) テキスト第7章を読んでくる		
第11回	社会性の発達 (仲間・対人関係と社会性)			(内 容) 遊び仲間と社会性、アタッチメントと対人関係、 ワーキング・モデルについて学ぶ (必要な準備) テキスト第7章を読んでくる		
第12回	学級集団			(内 容) 学級集団の理解・学級集団の特性・教師の影響・ 生徒の態度形成の意義について学ぶ (必要な準備) テキスト第8章を読んでくる		

第 13 回	教育評価（測定と評価）	（内 容）測定と評価・知能の測定・学力の評価について学ぶ （必要な準備）テキスト第 9 章を読んてくる
第 14 回	教育評価（性格診断・性格検査）	（内 容）性格診断・性格検査について学ぶ （必要な準備）テキスト第 9 章を読んてくる
第 15 回	教育評価（性格診断・性格検査） まとめ	（内 容）教育心理学のまとめをする （必要な準備）自分の考えをまとめておく
オフィス アワー	毎週 1 回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約を。	

授業名	人間福祉論	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Human Welfare	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	藤井 伸生	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、社会福祉の役割について考える。社会福祉の歴史的社会的必然性、社会福祉の研究対象である対象・主体・方法、社会福祉制度の概要の理解をしていく。海外の社会福祉の実情も紹介し、わが国の課題を考察する。				
学習成果到達目標	1) 社会事象に目を向け、授業との関連性を認識していく。 2) 私たち人間のくらしにおいて社会福祉が果たしている役割について理解する。 3) くらしを支える最後の拠り所である社会福祉の重要性を理解する。				
評価方法	定期試験 (100 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(論理的な展開力) <input type="/> ()			
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。				
参考書	授業時に紹介				
留意事項	ノートをしっかり取ること。新聞を読むこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	なぜ我々は学ぶのか、どう学ぶか	(内 容)	社会福祉を学ぶ姿勢について話す (必要な準備) 社会福祉の事象に思いをよせる		
第2回	歴史的社会的存在としての社会福祉－慈善－	(内 容)	生活問題と生活保障の理解 (必要な準備) 社会福祉の歴史考察		
第3回	歴史的社会的存在としての社会福祉－慈恵・博愛・相互扶助－	(内 容)	慈恵・博愛・相互扶助について (必要な準備) 社会福祉の誕生考察		
第4回	社会事業・社会福祉の成立	(内 容)	社会福祉の成立について (必要な準備) 社会福祉の今日の考察		
第5回	社会福祉の動向と課題－対象－	(内 容)	社会福祉の対象理解について (必要な準備) くらしの基盤について考える		
第6回	社会福祉の動向と課題－主体－	(内 容)	社会福祉の主体について (必要な準備) 企業と社会福祉について考える		
第7回	社会福祉の動向と課題－方法－	(内 容)	社会福祉の方法について (必要な準備) 社会福祉の方法について考える		
第8回	社会福祉制度の概要－社会保険－	(内 容)	社会福祉としての保険制度について (必要な準備) 自らの加入している保険考察		
第9回	社会福祉制度の概要－社会手当－	(内 容)	社会手当について (必要な準備) 家族が受給している手当を考えてみる		
第10回	社会福祉制度の概要－生活保護－	(内 容)	生活保護制度について (必要な準備) 貧困について考える		
第11回	社会福祉制度の概要－児童福祉－	(内 容)	児童福祉について (必要な準備) 保育所をはじめ児童について考える		
第12回	社会福祉制度の概要－施設・サービス－	(内 容)	施設・サービスについて (必要な準備) 施設・サービスに関わっている事象考察		
第13回	社会福祉の国際比較－保育－	(内 容)	社会福祉の国際比較－保育－ (必要な準備) 海外の情報に目を向ける・保育		
第14回	社会福祉の国際比較－介護－	(内 容)	社会福祉の国際比較－介護－ (必要な準備) 海外の情報に目を向ける・介護		
第15回	社会福祉の今日的課題	(内 容)	社会福祉の動向と課題 (必要な準備) 新聞等から今日の話をつかむ		
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前に E メールしてください。				

授業名	生涯学習論		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Lifelong Learning		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	渡邊 雄一		対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	人は生まれたときから死ぬまで自ら学ぶ存在である。学びが多ければ多いほど人は自らをより高めることができ、豊かな人生を送ることができる。講義形式の授業によって生涯学習の理念やその歴史的展開を学ぶことを通して、生涯学び続ける女性を目指すとともに、学びを支える側の立場や考え方も知り、生涯学習の意義と重要性をまなび、自らの生活に生かしていける視点を与えることを目的とする。					
学習成果到達目標	1) 生涯学習の理念、現状と課題、推進方策について理解している。 2) だれもが・いつでも・どこでも学習できる「学習社会」の在り方を提示することができる。 3) 教育を学校教育に限定するのではなく、成人や高齢者を対象とするインフォーマルな学習なども含めた全ての教育活動を支援・推進する方策を提示することができる。					
評価方法	定期試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()				
テキスト	授業中に指示する。					
参考書	授業中に指示する。					
留意事項	授業中に出示された課題については主体的に取り組むこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス		(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)			
第2回	生涯学習とは何か		(内 容) 生涯学習の理念について概説する。 (必要な準備) 身近なところから生涯学習に関わることがないかどうかを調べておくこと。			
第3回	人間形成と生涯学習		(内 容) 人間形成と学ぶことの意味について考察する。 (必要な準備) 学習することの意味について考えておくこと。			
第4回	生涯発達と発達課題		(内 容) 人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について考察する。 (必要な準備) 人間の発達について調べておくこと。			
第5回	生涯学習論の発端と経緯について		(内 容) 生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について解説する。 (必要な準備) 前回までの復習をしておくこと。			
第6回	ラングランの生涯教育論		(内 容) ラングランの提唱した生涯教育の理念について解説する。 (必要な準備) ラングランに関する配付プリントを読んでおくこと。			
第7回	ハッチンスの学習社会論		(内 容) ハッチンスの学習社会論について解説する。 (必要な準備) 学習社会論に関する配付プリントをよく読んでおくこと。			
第8回	フォール報告にみる学習観		(内 容) フォール報告にみる学習観、人間観について解説する。 (必要な準備) フォール報告に関する配付プリントをよく読んでおくこと。			
第9回	OECD のリカレント教育		(内 容) OECD のリカレント教育について解説する。 (必要な準備) リカレント教育論に関する配付プリントをよく読んでおくこと。			
第10回	我が国における生涯教育論の展開		(内 容) 学習社会論や生涯教育論から生涯学習論への展開について概説する。 (必要な準備) 配付プリントをよく読んでおくこと。			
第11回	我が国における生涯学習の必要性和各種審議会答申について		(内 容) 社会教育審議会、中央教育審議会等に見られる生涯教育の理念と具体案について整理する。 (必要な準備) 配付プリントをよく読んでおくこと。			
第12回	生涯学習社会における家庭教育について		(内 容) 生涯学習社会における家庭教育の役割について考察する。 (必要な準備) 家庭教育の具体的内容について考えておくこと。			
第13回	生涯学習社会における学校教育について		(内 容) 生涯学習社会における学校教育の役割について考察する。 (必要な準備) 学校教育と生涯学習の関わりについて調べておくこと。			
第14回	生涯学習社会における社会教育について		(内 容) 生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (必要な準備) 社会教育の具体的内容について調べておくこと。			
第15回	生涯学習の事例発表		(内 容) 各地域の生涯学習の取り組みについて調査し、その内容を発表する。 (必要な準備) 発表用資料を準備する。			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。					

授 業 名	ターミナルケア論 u	開講学年	4回生	単位数	2単位
英 文 名	Theory of Terminal Care	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	野田 隆生	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	私たちは、この世に生を受けた瞬間からすでにあの世（死）へと向かう存在となっている。本講では、現代社会における誕生と死の実態を起点に、ターミナル・ケアのありようについて学んでいく。さらに、生殖補助医療や安楽死などについて正しく理解し、それに対応できるような事例を取り上げながら、その課題について考察を深めていく。				
学 習 成 果 到達目標	1) 現代社会における誕生と死の実態について説明することができる。 2) 全人的な痛みの背景について説明することができる。 3) 「ターミナル・ケア」「ホスピス」「ビハラー」「PCU」等の用語について理解し、説明ができる。				
評価方法	定期試験 (80 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テ キ ス ト	使用しない。配布資料あり。				
参 考 書	杉本一義著『人生福祉の根本問題 苦難と援助の人間学』彩流社、小畑万里編著『地域・施設で死を看取るときいのちと死に向き合う支援』明石書店、垂水雄二著『生命倫理と環境倫理—生物学からのアプローチ—』八坂書房、マリ・ロイド編、若林佳史訳『緩和ケアにおける心理社会的問題』星和書店、広井良典著『ケア学 越境するケアへ』医学書院				
留 意 事 項	安直な動機での履修は歓迎しない。問いかけに対して自ら問題意識をもつように心がけること。グループもしくはペアワークを取り入れながら、学生の意見を基調に進めていく。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第 1 回	はじめに	(内 容) 講義の進め方、成績評価の方法について解説 (必要な準備) シラバスから学びの道筋をイメージしておく			
第 2 回	現代社会における誕生と死	(内 容) 統計資料に基づく誕生と死について学ぶ (必要な準備) 『国民の福祉と介護の動向』を閲覧する			
第 3 回	社会問題としてのターミナル・ケア	(内 容) 社会問題としての死 (必要な準備) 『国民衛生の動向』を閲覧する			
第 4 回	ターミナルケアの歴史 ～キリスト教の場合～	(内 容) ターミナルケアの歴史について学ぶ (必要な準備) 紹介した書籍を読む			
第 5 回	ターミナルケアの歴史 ～仏教の場合～	(内 容) ターミナルケアの歴史について学ぶ (必要な準備) 紹介した書籍を読む			
第 6 回	ホスピス病棟の紹介	(内 容) 遺族について映像を通じて理解する (必要な準備) “考える”姿勢			
第 7 回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」 ～心理的・社会的ニード～	(内 容) 全人的痛みの理解とその援助 (必要な準備) 紹介した書籍を読む			
第 8 回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」 ～スピリチュアルニード～	(内 容) 全人的痛みの理解とその援助 (必要な準備) 紹介した書籍を読む			
第 9 回	ビハラー病棟の紹介 ～最期のことば～	(内 容) 映像を観て、シートに記録する (必要な準備) “考える”姿勢			
第 10 回	ビハラー病棟の紹介 ～痛みからの解放～	(内 容) 映像を観て、シートに記録する (必要な準備) “考える”姿勢			
第 11 回	宗教者の役割について ～ビハラー僧の場合～	(内 容) 映像を観ながら解説を行う (必要な準備) “考える”姿勢			
第 12 回	MSWの役割と機能について	(内 容) MSWの事例紹介 (必要な準備) 紹介した書籍を読む			
第 13 回	生死をめぐる課題 ～生殖補助医療と臓器移植～	(内 容) 生と死をめぐる課題について考える (必要な準備) 生殖補助医療と臓器移植について調べておく			
第 14 回	生死をめぐる課題 ～安楽死と尊厳死～	(内 容) 生と死をめぐる課題について考える (必要な準備) 安楽死と尊厳死について調べておく			
第 15 回	まとめ ～「生ききる」ことを支えるケアとは～	(内 容) 「生ききる」ことを支えるケアについて考える (必要な準備) これまでの学びについて各回の要点を押さえておくことと、配布資料に目を通しておくこと			
オフィス アワー	火曜日 午前8時より同10時まで				

授業名	家族関係論		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Family Romance		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	秋山 裕之		対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	社会の変化に伴い、家族の形態や機能も変化している。家族のあり方が多様化する中で、家族の機能低下や家族関係の希薄化などが問題点として指摘されている。その一方でバブル経済崩壊後は「一番大切なもの」に家族を挙げる人が4割以上を占めるなど、家族は現代人にとってもっとも重要な心の拠り所である。本講義では、家族を取り巻く複雑な状況をふまえ、家族関係の実態を概観しながら、望ましい家族関係について考察する。					
学習成果到達目標	1) 現代日本の家族の実態について先入観にとらわれずに客観的に把握するための視座を持つ。 2) 家族が持つ可能性と抱えている困難を理解したうえで望ましい家族について考えることができる。					
評価方法	定期試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> (思考力)	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力)	
テキスト	河合隼雄 1980『家族関係を考える』講談社現代新書					
参考書	岡田尊司 2014『母という病』2015『父という病』 尾木直樹 2015『親子共依存』 すべてポプラ新書					
留意事項	毎回の予習とグループ討議での活発な意見交換を求めます。座席は指定します。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション			(内 容) この授業のテーマと進め方について (必要な準備) シラバスを読んでくる		
第2回	いま家族とは何か			(内 容) テキスト第1章 (必要な準備) テキストの第1章を読んでくる		
第3回	個人・家・社会			(内 容) テキスト第2章 (必要な準備) テキストの第2章を読んでくる		
第4回	親子であること			(内 容) テキスト第3章 (必要な準備) テキストの第3章を読んでくる		
第5回	夫婦の絆			(内 容) テキスト第4章 (必要な準備) テキストの第4章を読んでくる		
第6回	父と息子			(内 容) テキスト第5章 (必要な準備) テキストの第5章を読んでくる		
第7回	母と娘			(内 容) テキスト第6章 (必要な準備) テキストの第6章を読んでくる		
第8回	父と娘			(内 容) テキスト第7章 (必要な準備) テキストの第7章を読んでくる		
第9回	きょうだい			(内 容) テキスト第8章 (必要な準備) テキストの第8章を読んでくる		
第10回	家族の危機			(内 容) テキスト第9章 (必要な準備) テキストの第9章を読んでくる		
第11回	老人と家族			(内 容) テキスト第10章 (必要な準備) テキストの第10章を読んでくる		
第12回	家族のうち・そと			(内 容) テキスト第11章 (必要な準備) テキストの第11章を読んでくる		
第13回	これからの家族			(内 容) テキスト第12章 (必要な準備) テキストの第12章を読んでくる		
第14回	現代日本の家族 親子共依存			(内 容) 親子共依存 (必要な準備) 自分の意見をまとめてくる		
第15回	家族関係を考える			(内 容) テキスト総復習 (必要な準備) 自分の意見をまとめてくる		
オフィスアワー	週に1時間×2回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。					

授業名	子どもと生活 u	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Children and Life	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	斧出 節子・山川 宏和	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	小学校及び幼稚園の生徒が、身近な人々や地域とのかかわりに関心を持つための生活について学ぶ。集団や社会への愛着、その中で果たす自らの役割について考え、適切に行動するためには何が必要かについても学ぶ。そのために、家族や学校、自然、動植物、公共が子どもの生活にどのようにかかわりを持つかについて総合的に学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 子どもが、自らをはじめ、身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもつような具体的な活動や体験とは何かを知る。 2) 生活が、子どもの成長・発達にどのような影響を及ぼすかを知り、身につけるべき生活上必要な習慣や技能とは何かについて知る。				
評価方法	定期試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省（日本文教出版）				
参考書	適宜配布する。				
留意事項	幼稚園・小学校教職に必要な科目であり、自ら実践する内容が多いので、積極的に学ぶ意欲を持つ人に履修してほしい。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	子どもと生活(オリエンテーション)		(内 容) 子どもと生活の目標、授業方法について (必要な準備) シラバスを読んでおく		
第2回	生活科の解説		(内 容) 生活科創設の経緯・変遷について説明する (必要な準備) 指導要領解説を読んでおく		
第3回	教育指導要領の解説		(内 容) 生活科に関する指導要領の内容を説明する (必要な準備) 指導要領解説を読んでおく		
第4回	季節の変化と生活① 秋を観察する		(内 容) 学外の自然観察に必要な内容を説明する (必要な準備) 前回のまとめをしておく		
第5回	授業計画の目的と意義について		(内 容) 生活科の9領域を説明し、グループに分かれる (必要な準備) 生活科の9つの領域を調べておく		
第6回	グループ・セッション①		(内 容) グループを移動しながら意見交換を行う (必要な準備) 前回の内容を振り返っておく		
第7回	グループ・セッション②		(内 容) グループを移動しながら意見交換を行う (必要な準備) グループ内で出された意見をまとめておく		
第8回	授業計画の策定①		(内 容) 授業計画をグループでまとめる (必要な準備) 計画作りに必要な材料や資料を用意しておく		
第9回	授業計画の策定②		(内 容) 各グループ内で授業計画を完成させる (必要な準備) 計画作りに必要な材料や資料を用意しておく		
第10回	季節の変化と生活② 秋を体験する		(内 容) 学外の自然に触れ、季節の変化について体験する (必要な準備) 体験するための準備をしておく		
第11回	ポスターセッション		(内 容) 授業計画を展示し、他グループの内容を参照する (必要な準備) 展示の準備をしておく		
第12回	発表①		(内 容) これまでの学びから1つ選択し、内容を発表する (必要な準備) 発表内容をまとめておく		
第13回	発表②		(内 容) これまでの学びから1つ選択し、内容を発表する (必要な準備) 発表内容をまとめておく		
第14回	季節の変化と生活③ 秋を伝える		(内 容) 学外で体験した季節の変化について振り返る (必要な準備) 観察体験をまとめておく。学外での体験を授業計画に反映させる方法を考えておく		
第15回	まとめ		(内 容) 半期の学びを総括し、試験について説明する (必要な準備) 半期間のまとめをしておく		
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください				

授業名	幼児理解	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Understanding Infants	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	西川 由紀子	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	講義形式の授業を通して、生活場面の随所に見られる子どもの力を正確にとらえ、その力が弱い場面では、的確な援助が出来るようになるための基礎的な学習を行う。具体的には、保育所での保育場面のビデオを視聴したり、指導計画とその展開の実践論文を読んだりして、保育場面でみられる子どもの姿を解説してゆく。また、子どもの理解にかかせない保護者と保育者の関係づくりに有効な、カウンセリングの基礎的トレーニングもおこなう。				
学習成果到達目標	1) 子どもの発達を理解する。 2) 保育の中でそれがどう展開していくことができるかを考えられるようにする。				
評価方法	定期試験 (90 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (10 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	①保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」ひとなる書房②西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版				
参考書					
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	子どもを理解するために必要なことは何か	(内 容) 子ども理解に必要なことを考える (必要な準備)			
第2回	0歳児の発達と保育	(内 容) 0歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト①p40から読んでくる			
第3回	1歳児の発達と保育	(内 容) 1歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト①p88から読んでくる。			
第4回	2歳児の発達と保育(ビデオ編)	(内 容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト①p127から読んでくる			
第5回	2歳児の発達と保育(場面記録編)	(内 容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト②2章を読んでくる			
第6回	3歳児の発達と保育(ビデオ編)	(内 容) 3歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト① p 1 4 6から読んでくる。			
第7回	3歳児の発達と保育(場面記録編)	(内 容) 3歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (必要な準備) テキスト②3章を読んでくる。			
第8回	4歳児の発達と保育(ビデオ編)	(内 容) 4歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト①p200から読んでくる。			
第9回	4歳児の発達と保育(場面記録編)	(内 容) 4歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (必要な準備) テキスト②4章を読んでくる。			
第10回	5歳児の発達と保育(ビデオ編)	(内 容) 5歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト①p232から読んでくる。			
第11回	5歳児の発達と保育(場面記録編)	(内 容) 5歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (必要な準備) テキスト②5章を読んでくる。			
第12回	保育相談の留意点	(内 容) ロジャースの3原則を解説する。 (必要な準備) プリントを読んでくる。			
第13回	カウンセリングの実際(ロールプレイ)	(内 容) ロールプレイを行う (必要な準備) 前週のプリントを復習する			
第14回	カウンセリングの実際(振り返り)	(内 容) ロールプレイの振り返りを行う。 (必要な準備) ロールプレイの振り返りをしておく。			
第15回	子どもの問題行動のとらえ方	(内 容) 子どもの問題行動をとらえる視点を解説する (必要な準備) プリントを読んでくる。			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。				

授業名	家族ソーシャルワーク論		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Family Social Work		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	流石 智子		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	<p>1) ソーシャルワークの包括的な理解と実際の援助活動への方法を学ぶ。 2) 家族を理解し、家族構成員の中に、障害を持っている子どもや介護の必要な高齢者、さらには精神的な疾患を持っている家族がいるなど、複雑化した問題があることを学ぶ。 3) クライエントの家族への様々な支援が必要となるので、家族へのアプローチを検討していくことになるが、その際、保育所、保健センター、児童相談所、地域包括支援センターなど多職種・多機関との連携のあり方を学ぶ。</p>					
学習成果到達目標	<p>1) 家族が抱える問題がどのようなものかを理解することができる。 2) ソーシャルワークの包括的な理解と実際の援助活動への方法を理解することができる。 3) 特に家族をとりまく問題解決を、ソーシャルワークを通して学びを深めることができる。</p>					
評価方法	定期試験 (70%) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験 (30%) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 □コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 □() □()				
テキスト	喜多祐荘・小林 理編著『よくわかる ファミリーソーシャルワーク』ミネルヴァ書房					
参考書	授業にて指示する					
留意事項	授業で次回までに準備をしてほしい学習課題を出すので、事前の学習を積極的にしてもらいたい。アクティブ・ラーニングを中心にして、グループでの討議を行い家族の問題を相互理解する時間を設ける。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	家族について・家族を学ぶ		(内 容) 現代の家族を学ぶ (必要な準備) 家族について調べる (現状)			
第2回	家族について・家族の変遷		(内 容) 家族の変遷を学ぶ (必要な準備) 家族の変遷についてまとめる			
第3回	家族について・女性と家族		(内 容) 女性がささえる家族 (必要な準備) 女性と家族について調べる			
第4回	家族ソーシャルワークとは・意義		(内 容) 家族ソーシャルワークの意義 (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第5回	家族ソーシャルワークとは・理論		(内 容) 家族ソーシャルワークの理論 (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第6回	家族援助の方法		(内 容) 家族療法などについて (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第7回	ドメスティック・バイオレンスの事例		(内 容) ドメスティック・バイオレンス (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第8回	児童虐待の事例		(内 容) 児童虐待 (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第9回	家族問題として事例		(内 容) 家族がかかえる問題 (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第10回	児童虐待の事例		(内 容) 児童虐待 (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第11回	ひとり親家庭の事例		(内 容) ひとり親家庭 (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第12回	高齢者支援の事例		(内 容) 高齢者 (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第13回	障害者の自立のための支援事例		(内 容) 障害者 (必要な準備) テキストの関係のところを読んでおく			
第14回	家族を支えるためのネットワーク・関係機関		(内 容) 関係機関について (必要な準備) 関係機関を調べる (テキストを参照)			
第15回	家族を支えるためのネットワーク・社会資源の活用		(内 容) 関係機関について・まとめ (必要な準備) 関係機関を調べる (テキストを参照)			
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。					

授業名	衣生活論	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Clothing and Human Life	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	馬場 まみ	対象学生	全1回生		
授業の概要	衣服について総合的に講義する。 1. 衣服の役割について、 2. 衣服の材料・構成・衛生・管理について				
学習成果到達目標	1) 衣服の機能を理解し、説明することができる。 2) 快適な衣生活を営むために必要な知識を身につけ、実践することができる。				
評価方法	定期試験 (90%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (10%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checkbox"="" checked="" type="checkbox/>(思考力</td> <td><input type="/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 2"="" type="checkbox/>(</td> <td colspan="/>			
テキスト	消費者の視点からの衣生活概論 [井上書院]				
参考書	随時指示する。				
留意事項					
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	科目ガイダンス	(内容) 講義の目的 (必要な準備)			
第2回	衣服の役割	(内容) 衣服の役割について解説する (必要な準備) テキストを読んでおく			
第3回	衣服材料1:布の構造	(内容) 織物と編物の構造 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第4回	衣服材料2:糸の種類	(内容) 紡績糸とフィラメント糸 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第5回	衣服材料3:糸の構成要素	(内容) 糸の太さと撚り (必要な準備) テキストを読んでおく			
第6回	衣服材料4:天然繊維	(内容) 天然繊維の種類と特徴 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第7回	衣服材料4:化学繊維	(内容) 化学繊維の種類と特徴 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第8回	衣服のデザイン	(内容) 衣服と色彩、デザイン (必要な準備) テキストを読んでおく			
第9回	体型と衣服	(内容) 体型と衣服の形 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第10回	衣服のサイズ表示	(内容) サイズ規格と表示 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第11回	型紙の作成	(内容) 自分にあった型紙を作成する (必要な準備) 配付資料を読んでおく			
第12回	型紙の完成	(内容) 型紙を完成させる (必要な準備) 配付資料を読んでおく			
第13回	快適な衣服:気候と衣服	(内容) 体温調節と衣服 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第14回	衣服の手入れと洗濯	(内容) 洗濯と洗剤 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第15回	現代社会と衣服	(内容) 高機能衣服素材・ユニバーサルデザイン (必要な準備) テキストを読んでおく			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで在室できない場合がある。				

授業名	衣生活実習	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Dress Making Practice	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	乾 眞理子	対象学生	全1回生		
授業の概要	市場には多種多様な衣料品が出回り、素材は日々変化している。そのような中、実習を通して、衣服の形状や布の特性、生産過程、管理の方法など衣服の基礎知識を深めることは、衣服の適切な選択、管理を行う上でも大変重要である。本実習では、基礎縫いおよび衣服のデザインから製作までを行う。				
学習成果到達目標	1) 基礎的な縫製の技術を身につける。 2) 目的に合った布の選択、デザインの創作ができる。				
評価方法	定期試験 (20 %) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		平常試験 (80 %) □筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 □口述 □実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (基本技術の習得) □()			
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	使用しない。				
留意事項	教職を志望する学生は履修すること。教員採用試験の受験予定者は必ず受講すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	「ズボンの製作1」採寸、型紙作図	(内 容) 採寸と作図を行う。 (必要な準備) 裁縫道具を必ず持ってくること。			
第2回	「ズボンの製作2」裁断・縫製	(内 容) 裁断と印付け、ミシンの使い方を知る。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第3回	「ズボンの製作3」縫製	(内 容) 本縫いと縫い代の始末を行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第4回	「ブラウス製作1」身頃の作図	(内 容) ブラウスの身頃を作図する。 (必要な準備) ズボンを完成させておく。			
第5回	「ブラウス製作2」袖・襟の作図	(内 容) ブラウスの袖・襟を製図する。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第6回	「ブラウス製作4」裁断としるしつけ	(内 容) 型紙から布を裁断し、しるしつけを行う。 (必要な準備) ブラウス用の布地・糸等を用意しておくこと。 前回までのところを完成させておく。			
第7回	「ブラウス製作5」仮縫いと補正	(内 容) 仮縫い合わせ、補正を行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第8回	「ブラウス製作6」「本縫い(1)」本縫いの 準備、身頃づくり①	(内 容) 縫い代を整理し、ダーツ縫い、見返しのしまつを行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第9回	「ブラウス製作7」「本縫い(2)」身頃つくり②	(内 容) 肩縫い合わせ、脇縫い合わせ、裾のしまつを行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第10回	「ブラウス製作8」「本縫い(3)」衿づくり	(内 容) 接着芯をはり、衿をつくる。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第11回	「ブラウス製作9」「本縫い(4)」袖づくり	(内 容) 袖山をいせ込み、袖下・袖口を縫う。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第12回	「ブラウス製作10」「本縫い(5)」衿つけ	(内 容) 衿を身頃につける。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第13回	「ブラウス製作11」「本縫い(6)」袖つけ	(内 容) 袖を身頃につける。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第14回	「ブラウス製作12」「本縫い(7)」ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ	(内 容) ボタンホールをつくり、ボタンをつけ、仕上げを行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
第15回	試着とまとめ	(内 容) 試着、観察。レポート作成。 (必要な準備) 前回までのところを完成させておく。			
オフィスアワー	初回に提示する				

授業名	生活と色彩	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Life and Color	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	松井 沙都子	対象学生	全1回生		
授業の概要	色彩理論を学び、色彩についての基礎知識と基礎能力の修得を目指すとともに、生活の中で色彩を有効に活用するため、他者とのコミュニケーションにおいて色彩が持ち得る役割について理解を深める。				
学習成果到達目標	1) 衣食住における色彩について学ぶ。 2) 科学的、心理的、文化的アプローチや様々な色彩理論によって色彩の理解を深める。 3) ワークシートを使って、配色や色彩計画の演習を行う。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『カラーコーディネーター入門色彩 改訂増補版』大井義雄、川崎秀昭著、(日本色研事業株式会社)				
参考書	使用しない。				
留意事項	実際に色カードや絵の具による配色演習を行なう				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	色彩について1	(内 容) 導入 色彩にふれる (必要な準備) テキスト持参			
第2回	色彩について2	(内 容) 光と色/目の働きについて理解する (必要な準備) テキスト p.2~7 を読む			
第3回	色彩の体系と属性1	(内 容) 色名と表色系: 色の記録と伝達について (必要な準備) テキスト p.8~15 を読む			
第4回	色彩の体系と属性2	(内 容) 日本色研配色体系 (PCCS) について (必要な準備) テキスト p.16~19 を読む			
第5回	色彩の体系と属性3	(内 容) マンセルシステム、オストワルトシステム他 (必要な準備) テキスト p.20~27 を読む			
第6回	色彩の混合1	(内 容) 色の混合: 加法混色、減法混色等を理解する (必要な準備) テキスト p.28~33 を読む			
第7回	色彩の混合2	(内 容) 色の混合の実験: 色彩の混合を体験する (必要な準備) 今までの講義内容を確認しておく			
第8回	照明/色彩の心理1	(内 容) 照明と色彩/色の見えの効果: 見えないものが見えることについて (必要な準備) テキスト p.34~39 を読む			
第9回	色彩の心理2	(内 容) 色の見えの効果: 見えやすさ、見え方の変化 (必要な準備) テキスト p.40~42 を読む			
第10回	色彩の心理3	(内 容) 色のイメージ: 色の社会的な意味について (必要な準備) テキスト p.43~47 を読む			
第11回	色彩調和の理論1	(内 容) 様々な基準に基づく色彩調和について (必要な準備) テキスト p.48~53 を読む			
第12回	色彩調和の理論2	(内 容) 配色技法の体験 (必要な準備) テキスト p.54~63 を読む			
第13回	色彩計画(カラープランニング)	(内 容) 配色技法の応用: 日常空間の配色を考える (必要な準備) テキスト p.70~71 を読む			
第14回	色彩計画(カラープランニング)	(内 容) 住空間の配色を考えてみる (必要な準備) テキスト p.72~73 を読む			
第15回	まとめ	(内 容) 色彩についてのまとめ (必要な準備) ワーキングシートを完成させておく			
オフィスアワー					

授業名	食の科学 I (調理学)	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Food Science I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	豊原 容子	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	調理は、安全で栄養効率のよいおいしい食べ物を調製するために行なう操作である。食物のもつ特性を理解し、科学理論に基づいた操作を行なうことができるよう基礎的事項について学ぶ。				
学習成果 到達目標	1) 調理の目的・調理理論を理解する 2) おいしさに関する因子について理解する 3) 理論を理解し日常の調理に実践することができる				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用的能力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	
テキスト	調理学の基本 第二版 中嶋加代子編著 同文書院				
参考書	使用しない。				
留意事項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理の役割について考えていくこと				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	調理の意義と目的	(内 容) 調理の変遷、食事形態の特徴などについて知り調理の目的・意義について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第2回	おいしさに関する要因1(食べ物の因子)	(内 容) おいしさに関与する食べ物の化学的・物理的因子などについて (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第3回	おいしさに関する要因2(食べる人の因子)	(内 容) おいしさに関与する喫食者側の生理的・心理的因子などについて (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第4回	食事計画と調理	(内 容) 食事計画における調理環境などについて (必要な準備) 献立の立て方について復習しておく			
第5回	調理操作1(予備操作)	(内 容) 浸漬、洗浄、切断、混合他の操作について (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第6回	調理操作2(非加熱操作)	(内 容) 生食などの注意事項 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第7回	調理操作3(加熱操作)	(内 容) 湿式加熱、乾式加熱、誘電・誘導加熱の特徴について (必要な準備) 調理器具の特徴について考えてまとめておく			
第8回	調理操作4(調味)	(内 容) 調味料の特徴と調味操作について (必要な準備) 家庭にある調味料の種類と利用状況について調べておく			
第9回	植物性食品の調理特性1(穀類)	(内 容) 米、小麦の成分と調理特性について (必要な準備) 米や小麦を使った調理例について調べておく			
第10回	植物性食品の調理特性2(豆類、イモ類)	(内 容) 豆、イモ類の成分と調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第11回	植物性食品の調理特性3(野菜類、果実類など)	(内 容) 野菜、果実の成分と調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第12回	動物性食品の調理特性1(食肉)	(内 容) 牛、豚、鶏肉の体組織の構造と調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第13回	動物性食品の調理特性2(魚介類)	(内 容) 魚介類の体組織の構造と調理特性について (必要な準備) よく利用される魚にどのようなものがあるか調べておく			
第14回	動物性食品の調理特性3(卵類、乳・乳製品)	(内 容) 卵の構造・成分と調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第15回	成分抽出素材・調味料の調理特性	(内 容) でんぷん、ゲル化材料、砂糖、塩などの調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく			
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。				

授業名	住生活論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Living Life Theory	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	川島 智生	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	住むことと生活との関わり合いについて学ぶ。住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識の習得をおこない、住宅図面の基礎的な読解能力ならびに作図能力を学習する。現在のわれわれが抱える少子高齢化や居住福祉、ライフスタイルなどといった居住をめぐる問題の解決方法を、住居のありようから探り、本当に快適な住環境とはどのようなものかについて総合的に考える。				
学習成果到達目標	1) 今後のあるべき住居の理想像を生活の観点から提示させることを目標とする。 2) 住宅図面の基礎的な読解能力ならびに作図能力の習得を目標とする。 3) 住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識の習得を目標とする				
評価方法	定期試験 (40 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	未定				
参考書	図説・近代日本住宅史 内田青蔵 他 鹿島出版会 2001、住まいと家族をめぐる物語 西川祐子 集英社新書 2004				
留意事項	外部の住宅見学を実施する。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	住生活論を学ぶ意義		(内 容) 住まいの意味・日本人の住居観・住まいの快適さ (必要な準備)		
第2回	生活空間の計画		(内 容) 生活の分析・各空間の機能・寸法と単位 (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習		
第3回	住居の計画		(内 容) 間取りの意味・室空間の取扱 (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習		
第4回	現代の住宅		(内 容) 和風と洋風の住まい (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習		
第5回	日本の住宅史		(内 容) 伝統的な住まいのありよう (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習		
第6回	住宅見学(1)		(内 容) 京都市内の名作住宅の見学 (必要な準備) 方眼紙とメジャー、カメラなど		
第7回	外国の住宅史		(内 容) ヨーロッパ・アメリカ・アジア・アフリカ (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習		
第8回	集合住宅の意義		(内 容) 共同して住む家 (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習		
第9回	環境と住まい		(内 容) 気候風土と室内環境 (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習		
第10回	都市と住まい		(内 容) 市街化住宅(町家と長屋)と郊外型住宅(ニュータウン) (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習		
第11回	住宅見学(2)		(内 容) 京都市内の名作住宅の見学 (必要な準備) 方眼紙とメジャー、カメラなど		
第12回	住宅図面の読解能力(1)		(内 容) 設計図面の内容・表記方法 (必要な準備) 物差しなどを用意		
第13回	住宅図面の読解能力(2)		(内 容) 設計図面の内容・表記方法 (必要な準備) 物差しなどを用意		
第14回	名作住宅の紹介(1)		(内 容) 聴竹居・町家など京都の住宅を事例に (必要な準備) 配布資料を事前学習		
第15回	名作住宅の紹介(2)		(内 容) 住吉の長屋、山邑邸などの建築を事例に (必要な準備) 配布資料を事前学習		
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を				

授業名	食の科学Ⅱ(食品学)	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Food ScienceⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山本 明美	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	食生活は著しく多様化し、健康を維持していくには、食品の栄養と特性を知って、分類しどの食品をどれだけ選択すればよいかを判断できる力が必要である。また食品の独特の物性や機能性成分、食品中の化学変化など食品を多角的に把握する力も必要である。また、世界の食糧事情と環境問題も併せて考える。				
学習成果到達目標	1) 食品に関する科学的知識と特性を理解できる。 2) 食品を分類し、選択する能力や健康を管理できる。 3) 食品を多角的に捉え把握できる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	食べ物と健康『マスター 食品学』 有田正信編 【建帛社】				
参考書	新ビジュアル食品成分表「新改訂版」「新しい食生活を考える会」編、(株)大修館書店				
留意事項	フードスペシャリスト希望者は履修すること。予習、復習をしっかりとすること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	「人間と健康」	(内 容) 食生活と健康、食嗜好 (必要な準備) 教科書 p.1-11 を予習しておくこと			
第2回	「食品の分類」	(内 容) 食品成分と食品の分類法 (必要な準備) 教科書 p.13-27 を予習しておくこと			
第3回	「食品成分表」	(内 容) 五訂増補日本食品標準成分表 (必要な準備) 教科書 p.29-40 を予習しておくこと			
第4回	「食品成分の構造と物性」	(内 容) 水分、炭水化物の特性と分類、働き (必要な準備) 教科書 p.43-64 を予習しておくこと			
第5回	「たんぱく質」	(内 容) たんぱく質の特性と分類、働き (必要な準備) 教科書 p.64-79 を予習しておくこと			
第6回	「脂質」	(内 容) 脂質の特性と働き (必要な準備) 教科書 p.80-94 を予習しておくこと			
第7回	「ビタミン」	(内 容) ビタミンの種類と働き (必要な準備) 教科書 p.94-105 を予習しておくこと			
第8回	「ミネラル」	(内 容) ミネラルの種類と働き (必要な準備) 教科書 p.105-112 を予習しておくこと			
第9回	「食品中の嗜好成分」	(内 容) 食品中のおいしさ (必要な準備) おいしい食品、好きな食品を考えておく			
第10回	「食品の色、味、香り」	(内 容) 食品中のおいしさに関わる成分 (必要な準備) 教科書 p.113-126 を予習しておくこと			
第11回	「食品の有害成分」	(内 容) 植物性、動物性有害成分 (必要な準備) 教科書 p.126-130 を予習しておくこと			
第12回	「食品成分の変化」	(内 容) でん粉や脂質、たんぱく質などの変化 (必要な準備) 教科書 p.131-168 を予習しておくこと			
第13回	「食品の物性」	(内 容) 個体食品。液体食品、半固体食品の物性 (必要な準備) 教科書 p.169-178 を予習しておくこと			
第14回	「バイオテクノロジーの食品への応用」	(内 容) 組換え DNA、細胞融合などの技術 (必要な準備) 教科書 p.183-192 を予習しておくこと			
第15回	「現代の食品事情と環境問題」	(内 容) 食糧事情と環境問題、プリント使用 (必要な準備) 日本の食糧事情を考えておく			
オフィスアワー	木曜日 午後 16 時から 18 時まで				

授業名	家庭経済学		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Home Economics		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	足立 正樹		対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	金銭で表わされる家庭の収入・支出関係を家計というが、ここで学ぶ家庭経済はこの家計よりも広い概念である。まず、生活経済システムの中で家庭経済はどのように位置づけられ、他のシステムとどのように関連しているのかを学ぶ。そしてさらに家計や家計費の構造、個人と家計の関係はどのようになっているのかを理解する。講義形式の授業を通して、多様化する個人の価値観やライフスタイルの変化も視野に入れながら、制度やシステムの課題にもアプローチしていく。					
学習成果到達目標	1) 家庭経済の基本的事実と経済システムとの関連についての基礎的知識を習得する。 2) 家庭経済が果たしている機能を理解する。					
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 6"="" type="checkbox/>()</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 使用しない				
参考書	使用しない					
留意事項						
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	家庭経済の概念			(内 容) 家庭経済とは何か (必要な準備) 家庭経済という言葉の意味を調べておく。		
第2回	家庭経済と経済学			(内 容) 経済学はどのような学問か (必要な準備) 経済学の考え方を理解しておく。		
第3回	近代化と生活の変化			(内 容) 「近代」という時代の特徴 (必要な準備) 「近代」について調べておく。		
第4回	市場システムの特徴			(内 容) 市場とはいかなるシステムでどのような役割を果たしているか (必要な準備) 物の価格がどのように決められているか考えてみる。		
第5回	市場の機能条件			(内 容) 市場が適切に機能するためにはいかなる条件が必要か (必要な準備) 完全競争について調べておく。		
第6回	市場の失敗			(内 容) 市場はいかなる限界をもっているか (必要な準備) 市場の失敗とはどのようなことか調べる。		
第7回	消費行動の経済分析(1)			(内 容) 消費の目的は何か (必要な準備) 自分が物やサービスを購入するときの目的を考えてみる。		
第8回	消費行動の経済分析(2)			(内 容) 個々の財の消費はどのように決定されるか (必要な準備) 自分が物やサービスの購入において考慮する項目・条件についてまとめておく。		
第9回	勤労行動の経済分析(1)			(内 容) 労働供給はどのように決定されるか (必要な準備) 働く目的にはどのようなものがあるかを調べる。		
第10回	勤労行動の経済分析(2)			(内 容) 労働・自由時間はどのように決定されるか (必要な準備) 労働時間の推移を調べる。		
第11回	家庭経済と無償労働			(内 容) 無償労働は如何なる役割を果たしているか (必要な準備) 無償労働にはどのようなものがあるか考えてみる。		
第12回	家庭経済と少子化問題			(内 容) 無償労働としての育児活動の困難 (必要な準備) 育児活動の困難を調べる。		
第13回	少子化と年金問題			(内 容) 年金制度が少子化を促進する (必要な準備) 少子化と年金のかかわりを調べておく。		
第14回	高齢化と家庭経済			(内 容) 高齢者介護にはいかなる方式が適しているか (必要な準備) 介護の諸方式を調べておく。		
第15回	家庭経済の展望			(内 容) これからの家庭経済はいかにあるべきか (必要な準備) 家庭経済のあるべき姿を考えておく。		
オフィスアワー	担当授業の前後に行う。					

授業名	生活経営学		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Life Management		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	斧出 節子		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	個人における日常の生活は、家族や家庭外のさまざまなシステムとかがかかわっており、それらといかにかうまく連携し、新たなシステムを作っていくかが生活の質を決定していく。つまり、生活者がいかに自分自身のもっている資源や自分の外にある外部資源をうまくマネジメントしていくかが重要なこととなる。そこで本講義では、暮らしを取り巻くシステム、システム間の連関、課題など、生活の諸次元の現状と問題点を学び、生活経営の新たな試みの現状を探っていく。					
学習成果到達目標	1) 生活を営んでいくということに関して、自分自身の生活だけでなく、社会全体を見通すことができる。 2) どのようなシステムが、個々のウェルビーイングの達成を可能にするのかを考えることができる。					
評価方法	定期試験 (50 %) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験 (50 %) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	☑知識・理解 □コミュニケーション能力 □(積極的な授業態度)		☑プレゼンテーション能力 ☑課題発見・解決能力) □()		
テキスト	『暮らしを作りかえる生活経営力』日本家政学会生活経営学部会編 (朝倉書店)					
参考書	『下層化する女性たち: 労働と家庭からの排除と貧困』宮本みち子ほか編 (勁草書房)、『ライフコースから見た女性学・男性学』乙部由子 (ミネルヴァ書房)					
留意事項	アクティブ・ラーニングの方法を積極的に用い、ワークショップを催し (10回程度)、個々のプレゼンテーションの機会を設ける。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション		(内 容) 授業の進め方について説明する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。			
第2回	生活枠組みの変容と新たな生活経営主体の形成		(内 容) 家族や雇用の変化について理解する。 (必要な準備) テキストを読んでおく。			
第3回	生活枠組み変容の事例		(内 容) 価値観の変化について理解する。 (必要な準備) テキストを読んでおく。			
第4回	経済システムのなかの家族の位置づけ		(内 容) 家族や個人が経済システムの中でどのように位置づけられているのかを理解する。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく。			
第5回	家事・ケアワークとは何か		(内 容) ワークショップを行い、家事・子育て・介護の社会的な位置づけについて理解する。 (必要な準備) ワークショップの準備をしておく。			
第6回	女性の就業と生活経営		(内 容) 女性の就業についての問題を理解する。 (必要な準備) 資料を収集し、まとめておく。			
第7回	就業と法律		(内 容) 就業に関連した法律について学ぶ。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく。			
第8回	就業と母性保護		(内 容) 母性保護に関連した法律について学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。			
第9回	生活の社会化と生活資源		(内 容) 生活資源の調達について考える。 (必要な準備) テキストを読んでおく。			
第10回	生活の社会化と生活資源をコントロールした事例研究		(内 容) 保育の社会化の事例などについて学ぶ。 (必要な準備) テキストを読んでおく。			
第11回	参加と協働でつくる組織		(内 容) 第3セクターの実態・可能性について考える。 (必要な準備) テキストを読んでおく。			
第12回	新しい協働のケーススタディ		(内 容) コレクティブハウス等の事例について学ぶ。 (必要な準備) テキストを読んでおく。			
第13回	福祉社会と生活保障		(内 容) 福祉レジームについて学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。			
第14回	個人と社会を結ぶ生活保障システムの構築		(内 容) 今後の生活保障システムについて考える。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく。			
第15回	まとめ		(内 容) これまでの授業のふりかえりをする。 (必要な準備) 半期間の授業のまとめをしておく。			
オフィスアワー	毎週1回 (休業期間中を除く。) オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください					

授業名	家族社会学		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Family Sociology		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	斧出 節子		対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	私たちは出生から死亡までの一生を通じて、あらゆるライフステージにおいて家族とさまざまな関わりをもちながら生活している。つまり多くの人が自分自身の「家族にかかわる体験」をもつため、個々が経験したり見聞きしたりすることを一般化しがちで、相対化することが難しい。そこで本講義では、家族にかかわる現象を理解するため、家族社会学についての基礎的な概念や家族社会学の方法を学び、家族の相対化を試みる。できるだけグループワークなどの手法を用いながら、参加型の授業にしていきたい。					
学習成果到達目標	1) 家族に関する現象を客観的に分析する視点をもつことにより、「家族問題」とされている事象を多角的に分析できるようになる 2) データを読み解く力がつく					
評価方法	定期試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 積極的な授業参画態度) <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著、ミネルヴァ書房 ほか配布プリント					
参考書	『21世紀家族へ 第3版』落合恵美子(有斐閣) 『家族を超える社会学』牟田和恵編著(新曜社) 『未来をひらく男女共同参画』西岡正子(ミネルヴァ書房)					
留意事項	3回生時に「生活経営学」を履修する人は、本授業を履修してほしい。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	家族とは何かーファミリー・アイデンティティ			(内 容) 主観的家族について考える (必要な準備) シラバスを確認しておく		
第2回	近代家族の成立			(内 容) 近代家族の成立について理解をする (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第3回	家族の変化: 家族機能			(内 容) 家族機能の変化について学ぶ (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第4回	家族の自助原則			(内 容) 家族の自助原則・地域社会との関係について (必要な準備) 前回の授業をまとめておく		
第5回	戦後の子育ての変化1			(内 容) 戦後から高度経済成長期までの子育てについて理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第6回	戦後の子育ての変化2			(内 容) 高度経済成長期以降の子育てについて理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第7回	家族の変化: 家族形態			(内 容) 家族形態の変化について学ぶ (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第8回	結婚の動向: 未婚化・晩婚化の実情			(内 容) 晩婚化・未婚化の実態について学ぶ (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第9回	結婚の動向: 未婚化・晩婚化の要因			(内 容) 未婚化・晩婚化の要因について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第10回	出産と少子化			(内 容) 少子化の現状とその要因・影響について学ぶ (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第11回	生殖技術と家族: 技術の現状			(内 容) 生殖技術の実態について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第12回	生殖技術と家族: 課題			(内 容) 生殖技術の家族への影響について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第13回	家族における抑圧と暴力			(内 容) 愛情規範と暴力の関係について考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第14回	「純粋な関係」について			(内 容) 「純粋な関係」の概念を理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく		
第15回	まとめ			(内 容) 半期間の学びの振り返りとまとめ (必要な準備) 半期間のまとめをしておく		
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください					

授業名	比較家族論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Comparative Study of Family	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	秋山 裕之	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	一口に家族といってもそのありようは様々であり、社会・文化・宗教によって多様な形態をとる。本講義では「子を育て、生をつなぐための、親族を基盤とした社会的装置」として家族を位置づけ、世帯レベルだけでなくそれを内包する親族集団をも射程にとらえて、多様な家族像を通文化的かつ人類史的に概観する。それらの多様性をふまえたうえで、現代日本における家族のありようの動態をとらえ、将来の日本の家族像を展望する。				
学習成果到達目標	1) 文化・地域・歴史などにより家族は多様であることを学び、家族の形と社会のあり方の関係を理解する。 2) 子を育てる社会的装置としての機能に注目し、日本の家族が抱える問題について考える。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	なし。プリントを配布する。				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
留意事項	受講生による討論を行います。積極的に発言してください。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	家族とは何か～はじめに	(内 容) 家族の定義について考える (必要な準備) 「家族とは何か」について考えておく			
第2回	家族の起源	(内 容) 霊長類の社会集団 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第3回	アフリカ狩猟採集民 1	(内 容) ブッシュマンの家族と親族集団 1 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第4回	アフリカ狩猟採集民 2	(内 容) ブッシュマンの家族と親族集団 2 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第5回	東アフリカ牧畜民	(内 容) 東アフリカ牧畜民の家族と親族集団 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第6回	アフリカ農耕民	(内 容) アフリカ農耕民の家族と親族集団 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第7回	極北インディアン	(内 容) ヘヤー・インディアンにおける家族 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第8回	イスラム圏	(内 容) イスラム教圏における家族 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第9回	西洋	(内 容) 西洋キリスト教社会における家族 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第10回	タイ	(内 容) 仏教圏の家族 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第11回	韓国	(内 容) 家父長制と儒教理念 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第12回	一妻多夫	(内 容) 一妻多夫性の家族 (必要な準備) 資料を読んでおく			
第13回	多様な家族：家族と社会の関係	(内 容) 家族と社会の関係・日本の家族 (必要な準備) 討論に備えて自分の考えをまとめておく			
第14回	子を育てる社会的装置	(内 容) 子育ての比較文化論 (必要な準備) 討論に備えて自分の考えをまとめておく			
第15回	家族とは何か～おわりに	(内 容) 授業をふまえて家族について考える (必要な準備) 討論に備えて自分の考えをまとめておく			
オフィスアワー	週に1時間×2回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。				

授業名	服装社会学		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Clothing Society		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	馬場 まみ		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	服装は、社会生活を営むうえで重要な役割を果たしている。歴史的にも、社会階層やジェンダー意識などを反映して形成されてきた。本講義では、近代以降、服装が社会制度や規範意識を反映してどのように変遷してきたのかをたどり、服装の社会的機能について考察する。					
学習成果到達目標	1) 服装の社会的な役割を理解できる。 2) 服装の社会的な役割を説明することができる。					
評価方法	定期試験 (90 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (10 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> (思考力))				
テキスト	使用しない					
参考書						
留意事項						
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス		(内 容) 授業の目的 (必要な準備)			
第2回	近代社会と服装		(内 容) 近代化とは (必要な準備) 配付資料を読む			
第3回	資料にみる近代庶民の生活と服装		(内 容) 近代化と庶民の装い (必要な準備) 配付資料を読む			
第4回	近代社会と服装－近代化と庶民の服装の変化		(内 容) 庶民の装いの変化 (必要な準備) 配付資料を読む			
第5回	近代社会と服装－上層階級の服装の変化		(内 容) 近代化と洋服の導入 (必要な準備) 配付資料を読む			
第6回	資料にみる上層階級の服装		(内 容) 近代化と洋服の意味づけ (必要な準備) 配付資料を読む			
第7回	近代社会と服装－近代化と洋服		(内 容) 洋服の定着 (必要な準備) 配付資料を読む			
第8回	近代社会と服装－和服の意味づけ		(内 容) 近代の和服観 (必要な準備) 配付資料を読む			
第9回	近代社会と服装－洋服・和服とジェンダー		(内 容) 近代の服装とジェンダー (必要な準備) 配付資料を読む			
第10回	近代社会と服装－近代的和服の形成		(内 容) 和服のデザインと百貨店 (必要な準備) 配付資料を読む			
第11回	ヨーロッパの服装		(内 容) 19世紀の西洋の服装 (必要な準備) 配付資料を読む			
第12回	コルセットからの解放とデザイナーの活躍		(内 容) 20世紀の女性の生活と服装 (必要な準備) 配付資料を読む			
第13回	服装と階層・ジェンダー		(内 容) 女性の生活と服装 (必要な準備) 配付資料を読む			
第14回	高度経済成長とアパレル産業の発達		(内 容) 現代ファッションとアパレル産業 (必要な準備) 配付資料を読む			
第15回	総括		(内 容) 総括 (必要な準備)			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで在室できない場合がある。					

授業名	食文化	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Food Culture	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	饗庭 照美	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	わが国は南北に細長く、地域により様々な自然環境や風土を有し、各地域で伝統的な食文化が形成されてきた。日本はアジアモンスーン圏として「米と魚」を柱とする特徴を持っており、各地域独特の伝統料理や在来の食材がある。京都、滋賀を中心に食文化の特徴をとらえ、お講や行事食、祭りの食についても学んでいく。				
学習成果到達目標	1) 日本食の特徴、地域の伝統食材、料理、行事食、祭りの食を学ぶこと。 2) 世界的な視野から日本の食文化を捉えて、継承していけること。 3) 故郷の伝統食材と食文化を学び、伝統料理がつけられるようになること。				
評価方法	定期試験 (80%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input "="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input "="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/>(</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 資料を配付する。			
参考書	『日本の食生活全集』『聞き書京都の食事』『聞き書滋賀の食事』【農文協】				
留意事項	授業で配布するプリント資料をしっかりと読むこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	「栽培植物の起源と食文化圏」	(内 容) 文明と栽培植物、世界の食文化マップ (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第2回	「雑穀文化」	(内 容) 世界の雑穀文化と日本の雑穀 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第3回	「いも文化」	(内 容) 世界の芋文化と日本の芋文化 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第4回	「豆文化」	(内 容) 世界の豆文化と日本の豆文化 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第5回	「稲作の歴史と米文化」	(内 容) アジアモンスーン圏と稲作、飯、餅文化 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第6回	「魚食文化」	(内 容) アジアの魚食文化 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第7回	「淡水魚文化とナレズシ」	(内 容) 淡水魚文化の特徴とナレズシ (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第8回	「野菜と漬物文化」	(内 容) 伝統野菜と京漬物 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第9回	「世界の発酵食品と日本の発酵食品」	(内 容) 発酵食文化、味噌、醤油、魚醤、乳発酵食品 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第10回	「日本の雑煮文化と地域ごとの特色」	(内 容) 全国の雑煮の特色と地域ごとの特色 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第11回	「寺院のお講の食、京滋の納豆餅文化」	(内 容) 寺院お講の食、僧坊の食の特徴 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第12回	「祭りの食文化、和菓子の文化」	(内 容) 祭りの食の特徴、ハレ食、和菓子の文化 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第13回	「酒文化と日本酒」	(内 容) 世界の酒文化と日本の酒造りの特徴 (必要な準備) 配布資料から学んでおく			
第14回	「茶の文化と茶道」	(内 容) 世界の茶文化と日本の茶文化 (必要な準備) 配付資料を読んでおく			
第15回	「自分の故郷の伝統料理に挑戦」	(内 容) 自分の故郷の伝統料理をつくってまとめる。 (必要な準備) 郷土の風土、食文化、歴史を調べておく			
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。				

授業名	服装文化	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Clothing Culture	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	馬場 まみ	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	「洋服」以外の衣服、民族服について、どのようにして形成されたのかについて講義する。興味をもった海外の民族服について調べ、発表する。さらに、日本の和服についてテーマを設定して調べ、発表する。これらのことを通し、服装に関する理解を深める。				
学習成果到達目標	1) 民族服について理解できる。 2) 日本の服飾文化について説明することができる。				
評価方法	定期試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input "="" checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力) <input 2"="" type="checkbox/>(</td> <td colspan="/>			
テキスト	指定しない				
参考書					
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 科目ガイダンス (必要な準備)			
第2回	民族服とは	(内 容) 民族服について (必要な準備) 配付資料を読む			
第3回	近代化と民族服形成	(内 容) 民族服の形成について (必要な準備) 配付資料を読む			
第4回	世界の民族服	(内 容) 世界の民族服について (必要な準備) 配付資料を読む			
第5回	民族服について調べる①国の歴史と服装	(内 容) 民族服について調べる (必要な準備) 必要な資料を用意する			
第6回	民族服について調べる②衣服の形	(内 容) 民族服について調べる (必要な準備) 必要な資料を用意する			
第7回	民族服について調べる③染織技法と文様	(内 容) 民族服について調べる (必要な準備) 必要な資料を用意する			
第8回	発表－世界の民族服	(内 容) 発表 (必要な準備) 発表資料の作成			
第9回	和服の概要	(内 容) 和服について (必要な準備) 配付資料を読む			
第11回	和服について調べる①歴史	(内 容) 和服について調べる (必要な準備) 必要な資料を用意する			
第11回	和服について調べる②種類	(内 容) 和服について調べる (必要な準備) 必要な資料を用意する			
第12回	和服について調べる③染織技法と文様	(内 容) 和服について調べる (必要な準備) 必要な資料を用意する			
第13回	発表－和服	(内 容) 発表 (必要な準備) 発表資料の作成			
第14回	現代の和服産業	(内 容) 現代の西陣の状況 (必要な準備) 配付資料を読む			
第15回	総括	(内 容) 全体のまとめ (必要な準備)			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで在室できない場合がある。				

授 業 名	児童文化論	開講学年	4回生	単位数	2単位
英 文 名	Cultural Studies of Children	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	遠藤 純	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	いつの時代にも子どもは存在するが、私たちの眼前に存在する子どもがいつの時代にも社会から同じまなざしを向けられてきたわけではない。近代以降、大人たちは子どもたちをいかに見、その文化を創り上げてきたのか、遊びや玩具、児童文化財の検討を通して具体的に検証しつつ、子どもが有する世界観について考える。				
学 習 成 果 到達目標	1) 〈子ども〉の社会的歴史の変遷に対する理解 2) 〈子ども〉に対するおとなのまなざしの歴史的認識 3) 具体的な遊び、児童文化財および子どもの世界観の把握				
評価方法	定期試験 (40 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の 観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input "="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力) <input 5"="" type="checkbox/>(</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td colspan="/> 別途指示する。			
参 考 書	別途指示する。				
留 意 事 項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第 1 回	ガイダンス 授業の目的および詳細について	(内 容) 授業の目的や内容、取り組みについて詳述する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。			
第 2 回	〈子ども〉とは何か 1	(内 容) 〈子ども〉という存在について考える (必要な準備) 〈子ども〉の定義について自分なりに考えておく。			
第 3 回	〈子ども〉とは何か 2	(内 容) 子どもの世界認識について考える 1 (必要な準備) 子どもの頃の忘れられない思い出について考えておく。			
第 4 回	〈子ども〉とは何か 3	(内 容) 子どもの世界認識について考える 2 (必要な準備) 子どもの頃の読書についてまとめておく。			
第 5 回	〈子ども〉とは何か 4	(内 容) 子どもの世界認識について考える 3 (必要な準備) 子どもと経済の関係について考えておく。			
第 6 回	〈子ども〉の遊びの種類について 1	(内 容) 遊びとは何かについて学習する。 (必要な準備) 子どもの頃の遊びについて考えておく。			
第 7 回	〈子ども〉の遊びの種類について 2	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 1 (必要な準備) かくれんぼの詳細について調べておく。			
第 8 回	〈子ども〉の遊びの種類について 3	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 2 (必要な準備) げたかくしについて調べておく。			
第 9 回	〈子ども〉の遊びの種類について 4	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 3 (必要な準備) めんこについて調べておく。			
第 10 回	〈子ども〉の遊びの種類について 5	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 4 (必要な準備) かごめかごめについて調べておく。			
第 11 回	〈子ども〉の遊びの種類について 6	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 5 (必要な準備) ビー玉について調べておく。			
第 12 回	〈子ども〉の遊び まとめ	(内 容) 子どもの遊びについて考える。 (必要な準備) かつて行われていた遊びについてまとめておく。			
第 13 回	玩具と子ども	(内 容) 子ども向け玩具について考える。 (必要な準備) かつて自ら遊んだ玩具を思い出し、気に入っていた点をまとめておく。			
第 14 回	現代の玩具	(内 容) 現代のさまざまな玩具を取り上げ、昔の玩具との 違いについて考える。 (必要な準備) 玩具とはなにか、自分なりに考えをまとめておく。			
第 15 回	まとめ	(内 容) 授業のまとめをする。 (必要な準備) 児童文化とは何か、考えをまとめておく。			
オフィス アワー	授業の初回に連絡する。				

授業名	保育原理 I u	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Child Care I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	流石 智子	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	子どもの育ちを考えると、保育の問題は社会状況と深くかかわりながら行われてきた。この授業では、保育の理念や概念、保育制度などの理解を深める。また、保育所保育指針や保育の特性、保育実践等について乳幼児の発達を理解しながら学ぶ。また、保育の歴史にもふれ、保育の現状と課題についても考える。				
学習成果到達目標	1) 現代家庭の保育事情を理解することができる。 2) 保育の理念、保育制度、保育所保育指針の内容、保育実践などについて理解することができる。 3) 保育の歴史を学び、これからの日本の保育について考察することができる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(思考・判断力) <input type="/> ()			
テキスト	天野珠路・北野幸子編著 『基本保育シリーズ 保育原理』中央法規 2015年				
参考書	随時指示する。				
留意事項	授業で課題を出し、レポート提出をする。そのテーマは、事前学習や事後学習との関連で行う。ビデオを見ることもあり、レポート提出で考察を求めることもある。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	保育の理念と概念		(内 容) 保育の理念、概念・子どもを育てること (必要な準備) テキスト p 2~13 を読み、まとめる		
第2回	保育の社会的役割		(内 容) 子どもの権利擁護・保育所の社会的責任 (必要な準備) テキスト p 14~25 を読み、まとめる		
第3回	保育の制度		(内 容) 保育制度と地域の子育て事業 (必要な準備) テキスト p 26~37 を読み、保育と制度を知る		
第4回	保育所保育指針について		(内 容) 保育所保育指針と幼保連携型認定子ども園 (必要な準備) テキスト p 38~46 を読む		
第5回	保育の特性と保育実践		(内 容) 養護と教育、保育実践の基本 (必要な準備) テキスト p 50~59 を読む		
第6回	保護者支援		(内 容) 保護者支援の基本と実際 (必要な準備) テキスト 62~73 を読む		
第7回	保育の目標		(内 容) 保育の目標と保育所の役割 (必要な準備) テキスト p 74~85 を読む		
第8回	保育の方法		(内 容) 保育所保育指針にみる保育の方法 (必要な準備) テキスト p 86~97 を読む		
第9回	保育の計画		(内 容) 保育の計画の意義 (必要な準備) テキスト p 98~101 を読む		
第10回	保育の評価		(内 容) 保育の計画、実践、省察、評価 (必要な準備) テキスト p 102~107 を読む		
第11回	諸外国の保育の思想と歴史		(内 容) 児童中心主義の思想の広がり (必要な準備) テキスト p 122~133 を読む		
第12回	日本の保育の思想と歴史		(内 容) 保育制度の整備と思想 (必要な準備) テキスト p 146~153 を読む		
第13回	諸外国の保育		(内 容) 諸外国の保育制度と子育て (必要な準備) テキスト p 158~169 を読む		
第14回	日本の保育の現状と課題		(内 容) 待機児童問題と少子社会 (必要な準備) テキスト p 170~173 を読む		
第15回	日本のこれからの保育		(内 容) 地域で育てる子ども、保育保障 (必要な準備) テキストを参照する		
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。				

授業名	児童福祉論	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Child Welfare	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山川 宏和	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	1. 少子化・保育・虐待など児童問題について 2. 現代の子どもの生活について 3. 諸外国の児童福祉について 4. 児童福祉の法制度について				
学習成果到達目標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。				
評価方法	定期試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	赤木正典・流王治郎 編著 「児童家庭福祉論 第2版」[建帛社]				
参考書	随時指示する。				
留意事項	レポートの出来が評価に影響する。予習・復習をしっかりと行うこと。積極的な発表も評価の対象となる。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	現代社会と子ども	(内 容) 人口減少社会 (必要な準備) テキスト1章を参照しておく			
第2回	児童の権利保障	(内 容) コルチャック、子どもの権利条約について (必要な準備) テキスト2章を参照しておく			
第3回	児童福祉の歴史	(内 容) 日本・欧米の児童福祉史 (必要な準備) テキスト2章を参照しておく			
第4回	児童福祉法について 児童相談所	(内 容) 児童福祉六法、行政機関について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく			
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(内 容) 児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく			
第6回	児童福祉法について 2004～2014年の改正	(内 容) 児童福祉法と児童虐待防止法について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく			
第7回	非行少年について	(内 容) 非行少年の対策とケアについて (必要な準備) テキスト10章を参照しておく			
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく			
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく			
第10回	児童福祉の専門職について	(内 容) 児童福祉に従事する専門職について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく			
第11回	保育支援と福祉について	(内 容) 日本と諸外国の保育政策・サービスについて (必要な準備) テキスト9章を参照しておく			
第12回	母子保健について	(内 容) 妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく			
第13回	ひとり親家庭の福祉について	(内 容) ひとり親家庭への福祉サービスについて (必要な準備) テキスト8章を参照しておく			
第14回	障がい児の福祉について	(内 容) 障がい児の現状と福祉サービスについて (必要な準備) テキスト4章を参照しておく			
第15回	児童の健全育成について	(内 容) 児童館・児童厚生員について (必要な準備) テキスト5章を参照しておく			
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。				

授業名	乳児保育u	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Infant Care	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	林 静香	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	乳児保育の保育観の歴史の変遷について概説し、現代の乳児保育のニーズと意義について確認する。0歳～2歳の年齢ごとの発達の特徴、それぞれの年齢で大切にしたいことを確認しながら、生活や遊びへの援助の実際について学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 乳児保育の理念と保育所における乳児の歩み、現状と課題について理解することができる。 2) 3歳児未満の保育内容、発達、生活と遊びについて理解することができる。 3) 3歳未満児の関わり方を理解することができる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(教材の工夫力) <input type="/> ()			
テキスト	乳児保育研究会/編 改訂新版 資料でわかる『乳児保育の保育新時代』(ひとなる書房)				
参考書	穴戸健夫監修 大阪保育研究所編 テキスト『乳児保育』(フォーラム・A)				
留意事項	各単元の節目ごとに対象年齢に合わせた教材(おもちゃ)を作ってもらうので、普段の中で使えそうな日用品などを確保しておくこと。また、日頃から子どもたちを意識してみている習慣をつけて講義に備える事。最終課題に、「わたしヒストリー」を作成するので、写真や母子手帳や保育所の記録などの資料を集めておくこと。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	乳児保育とは何か・歴史の変遷について		(内 容) 乳児保育について理解する (必要な準備) 乳児の関する時事に触れておく		
第2回	0歳児前半期の発達と保育		(内 容) 0歳児前半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(0歳前半)に目を通しておく		
第3回	0歳児後半期の発達と保育		(内 容) 0歳児後半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(0歳後半)に目を通しておく		
第4回	0歳児の保育の留意点		(内 容) 0歳児の保育の留意点を再確認する (必要な準備) 0歳児の教材について調べておく		
第5回	小テスト①(0歳児まとめ)・教材発表		(内 容) 0歳児の基本的な養護について確認する (必要な準備) 0歳児の発達のまとめについて確認しておく		
第6回	1歳児前半期の発達と保育		(内 容) 1歳児前半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(1歳前半)に目を通しておく		
第6回	1歳児後半期の発達と保育		(内 容) 1歳児後半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(1歳後半)に目を通しておく		
第7回	2歳児前半期の発達と保育		(内 容) 2歳児前半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(2歳)に目を通しておく		
第8回	2歳児後半期の発達と保育		(内 容) 2歳児後半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(2歳)に目を通しておく		
第9回	1・2歳児の保育と留意点		(内 容) 1・2歳児の保育の留意点を再確認する (必要な準備) 1・2歳児の教材について調べておく		
第10回	小テスト②(1、2歳児まとめ)・教材発表		(内 容) 1・2歳児の基本的な用語について確認する (必要な準備) 1・2歳児の発達を確認しておく		
第11回	あそびについて(0歳のあそび)		(内 容) 0歳に心地よいあそびを理解する (必要な準備) 乳幼児のあそびについて調べておく		
第12回	あそびについて(1、2歳のあそび)		(内 容) 1・2歳児のあそびのねらいを理解する (必要な準備) 乳幼児のあそびについて調べておく		
第13回	乳児保育の制度と課題		(内 容) 現代の保育制度や現状を学ぶ (必要な準備) テキストp132～140を読む		
第14回	乳児保育のまとめ		(内 容) 乳児保育における配慮と留意点を再確認する (必要な準備) 課題を作っておくこと		
第15回	教材発表		(内 容) 課題である教材を提出する (必要な準備) 課題を提出できるように完成させておくこと		
オフィスアワー					

授業名	障害児保育u	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Childcare for Children with Disability	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	林 静香	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	障害のある乳幼児の発達を保障する場として、保育所・幼稚園に求められる役割は大きい。健常児との生活が単なる「場の共有」ではなく、どちらもが健やかに発達できる条件を考える必要がある。本講義では、障害児を知る“はじめの一歩”と位置づけて、理念や歴史の変遷、支援の在り方など「障害児保育」の基礎について学び、理解を深めていく。そして、乳幼児としての発達を促す観点および特別ニーズに応える保育の必要性を学ぶ。				
学習成果到達目標	障害に関する基礎知識を身につける。生活と集団を大切に障害児保育を学ぶ。障害児保育を通して、人間発達の理解を深める。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『新・障害のある子どもの保育 第2版』伊藤 健次編 ((株)みらい) 2011年				
参考書	『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀・橋本・直島編 (ミネルヴァ書房) 2014年				
留意事項	保育士必修科目であることに留意し、授業の復習をしっかりとしておくこと				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	障害児理解と歴史の変遷	(内 容) 障害をどのように理解するか (必要な準備) 障害について知りたい情報を考えておく			
第2回	障害児保育の制度について	(内 容) 歴史の変遷や制度、発達保障など (必要な準備) 前回の復習			
第3回	障害児保育の思想について	(内 容) 障害モデルの変遷、乳幼児健診の内容 (必要な準備) 前回の復習			
第4回	障害の基礎知識と保育:発達の流れ(こころ)	(内 容) 子どもの発達の流れ(こころ) (必要な準備) 前回の復習			
第5回	障害の基礎知識と保育:知的障害(1)	(内 容) 知的障害について (必要な準備) 前回の復習			
第6回	障害の基礎知識と保育:知的障害(2) 情緒障害	(内 容) 知的障害②、情緒に課題のある子どもの特性 (必要な準備) 前回の復習			
第7回	障害の基礎知識と保育:発達障害(1)	(内 容) 発達障害①(自閉症スペクトラム) (必要な準備) 前回の復習			
第8回	障害の基礎知識と保育:発達障害(2)	(内 容) 発達障害②(ADHD、LD) (必要な準備) 前回の復習			
第9回	障害に関する基礎知識と保育:小テスト	(内 容) 今までの授業の理解を確認する (必要な準備) 今までの授業内容を復習しておく			
第10回	障害の基礎知識と保育:発達の流れ(頭・身体)	(内 容) 発達課題、発達の流れ(脳・身体) (必要な準備) テキスト、参考資料を読んでおくこと			
第11回	障害に関する基礎知識と保育:視覚・聴覚	(内 容) 視覚障害・聴覚障害 (必要な準備) 前回の復習			
第12回	障害に関する基礎知識と保育:言語・てんかん	(内 容) 言語障害・てんかん (必要な準備) 前回の復習			
第13回	障害に関する基礎知識と保育:運動障害	(内 容) 運動障害、重度重複障害児、要医療ケア児 (必要な準備) 前回の復習			
第14回	障害のある子どもの保育の現状と課題	(内 容) 保護者、きょうだいに対する援助 (必要な準備) 前回の復習			
第15回	障害に関する基礎知識と保育:小テスト(2)	(内 容) 今までの授業の理解を確認する (必要な準備) 今までの授業内容を復習しておく			
オフィスアワー					

授 業 名	子育て支援論 u	開講学年	4回生	単位数	2単位
英 文 名	Theory of Child-care Support	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	流石 智子	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	現代の家庭は、親のみでは子育てすることが難しくなっている。この現状を理解して子育て支援策の検討が必要である。現代家庭の抱える問題を把握して、現在、親は子育て支援を有効に活用しているか、必要な子育て支援策は何かを検討したい。子どもの育ちにとってどのような子育て支援が良いのかも考察する。				
学 習 成 果 到達目標	1) 家庭における様々な子育ての問題点を理解できるようになる。 2) 家庭における子育て支援策を具体化することができる。 3) 自分の子育て観の確認ができる。				
評価方法	定期試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (70 %) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (30 %) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テ キ ス ト	森田明美編著『よくわかる女性と福祉』ミネルヴァ書房 2012年				
参 考 書	授業中に適宜紹介する。				
留 意 事 項	ワークショップを実施する。アクティブ・ラーニングでの授業を行うので、事前準備など積極的な授業への取り組みを期待する。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第 1 回	少子化政策と子ども・子育て支援について	(内 容) 子育て支援とは (必要な準備) テキストのはじめにを読む。			
第 2 回	子ども子育て支援策の特徴と課題について	(内 容) 男女共同参画について考える (必要な準備) テキストのはじめにを読む。			
第 3 回	ライフスタイルの選択・自立、結婚、出産について	(内 容) 女性の自立、結婚、妊娠、出産について (必要な準備) テキストの p 42~47 を読み問題点をまとめる			
第 4 回	ライフスタイルの選択・子育て、貧困について	(内 容) 子育て、女性と貧困について (必要な準備) テキストの p 48~55 を読み、課題を発見する			
第 5 回	働くこと・女性の労働について	(内 容) 女性が働くことについて (必要な準備) テキストの p 56~63 を読む。			
第 6 回	女性の賃金と労働環境について	(内 容) 雇用環境と女性と子育てについて (必要な準備) テキストの p 64~69 を読み、働く環境を考える			
第 7 回	女性と家庭的責任について	(内 容) アンペイドワークとジェンダー (必要な準備) テキスト p 70~75 を読み、家事労働を考える			
第 8 回	母子保健・妊娠、出産の支援について	(内 容) 母子保健と妊娠期の支援について (必要な準備) テキスト p 78~83 を読み、支援策を把握する			
第 9 回	日本の子育て観・3歳児神話、育児不安について	(内 容) 日本の子育て観、育児不安、障害児の育児 (必要な準備) テキスト p 84~95 を読み、意見をまとめる			
第 10 回	保育・働きながら子どもを育てるとは	(内 容) 保育所の現状と課題について (必要な準備) テキスト p 96~103 を読み、保育所理解をする			
第 11 回	保育所と待機児童等の問題について	(内 容) 待機児童問題と保育所以外の子育て支援について (必要な準備) テキスト p 104~109 を読み、課題の発見をする			
第 12 回	子育て支援・家庭で子育てをすとは	(内 容) 家庭で子育て・児童虐待等の問題 (必要な準備) テキスト p 110~115 を読み、意見をまとめる			
第 13 回	子育て支援・社会が子育て家庭を支えるとは	(内 容) 家庭的養護と地域での子育て (必要な準備) テキスト p 116~121 を支援策の理解をする			
第 14 回	ひとり親家庭の養育問題について	(内 容) ひとり親家庭の支援策と養育問題 (必要な準備) テキスト p 122~133 を読み意見をまとめる			
第 15 回	ひとり親家庭の暮らしについて・本授業のまとめ	(内 容) ひとり親家庭の支援施設と暮らしの問題等 (必要な準備) テキスト p 134~141 を読み意見をまとめる			
オフィス アワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。				

授業名	図書館概論u	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Library	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	渡邊 雄一	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。				
学習成果到達目標	1) 図書館の概略を把握し、基本的な専門用語を覚えること。図書館司書資格を習得するための基礎的な知識を習得する。 2) 図書館というものが人間の暮らしにおいて持つ意味、歴史の中で果たしてきた役割について理解すること。				
評価方法	定期試験 (60%) ☑筆記試験 ☐レポート ☐制作物 ☐口述 ☐実習 ☐実技	平常試験 (40%) ☐筆記試験 ☑レポート ☐制作物 ☐口述 ☐実習 ☐実技			
評価基準	主たる評価の観点	☑知識・理解 ☐()	☑コミュニケーション能力 ☐()	☐プレゼンテーション能力 ☐()	☑課題発見・解決能力 ☐()
テキスト	『図書館概論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 1)、塩見昇、日本図書館協会、2012年				
参考書	随時指示する。				
留意事項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)			
第2回	図書館とは	(内 容) 図書館の定義、種類について概説する。 (必要な準備) テキスト P.13～P.20 をよく読んでおくこと。			
第3回	図書館の理念: 図書館の自由など	(内 容) 「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (必要な準備) テキスト P.57～P.64 をよく読んでおくこと。			
第4回	図書館の自由について考える	(内 容) 図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 (必要な準備) 「図書館の自由に関する宣言」(テキスト P.65～P.67) を読んでおくこと。			
第5回	図書館法規と行政	(内 容) 公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (必要な準備) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。			
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(内 容) 欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (必要な準備) テキスト P.225～P.228 をよく読んでおくこと。			
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(内 容) 日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (必要な準備) テキスト P.229～P.232 をよく読んでおくこと。			
第8回	公共図書館の制度と機能	(内 容) 「図書館法」の構成と性格を理解する。 (必要な準備) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。			
第9回	公共図書館のサービス	(内 容) 公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (必要な準備) テキスト P.146～P.150 をよく読んでおくこと。			
第10回	公立図書館の管理運営について考える	(内 容) 公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 (必要な準備) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。			
第11回	学校図書館の制度と機能	(内 容) 学校図書館の役割と機能について概説する。 (必要な準備) テキスト P.161～P.168 をよく読んでおくこと。			
第12回	大学図書館の制度と機能	(内 容) 大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (必要な準備) テキスト P.177～P.183 をよく読んでおくこと。			
第13回	専門図書館の制度と機能	(内 容) 専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (必要な準備) テキスト P.190～P.193 をよく読んでおくこと。			
第14回	国立図書館の制度と機能	(内 容) 国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (必要な準備) テキスト P.203～211 をよく読んでおくこと。			
第15回	出版文化と図書館	(内 容) 出版文化と図書館の貸出サービスとの関係について考察する。 (必要な準備) テキスト P.45～P.48 をよく読んでおくこと。			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。				

授業名	児童館の機能	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Function of Jido-kan	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	丸岡 敦子	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	子どもを取り巻く環境がどのように移り変わってきているかを解説し、子どもが子どもと自然に出会い、子どもの間であそびの継承を行い、あそびを創出するという、本来人が持っていたあそぶ力が弱まっている状況のなかでプレイリーダーとしての児童館職員の役割が大きくなってきていることを把握させる。その上で、児童館がどのような機能を持っているかを、子ども育成活動、子ども家庭支援活動、地域福祉促進活動、学童クラブ事業それぞれについて、解説する。講義形式の授業によって、具体的な児童館の活動事例を取りあげ、イメージを共有してゆく。				
学習成果到達目標	1) 子どもの成長・発達にとっての『あそび』の必要性を理解する。 2) 子どもや子育て中の保護者に寄り添い、支援する事の必要性を理解する。 3) 子どもを取り巻く地域や児童館など、大人の役割を理解する。				
評価方法	定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 () <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	無し				
参考書	使用しない。				
留意事項	・児童館の機能と役割について、講義を中心に、実技も交えて進めていく。 ・児童館については実習以外でも、見学や活動に参加する機会を持つと、理解が深まるであろう。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	児童館とは	(内 容) 児童福祉法と児童館 (必要な準備) 児童館がどんな所か考えておく。			
第2回	現代社会の子ども達 I	(内 容) 子どもを取り巻く環境の移り変わり (必要な準備) 子どもの頃、どんなあそびをどんな所でしていたか?			
第3回	現代社会の子ども達 II	(内 容) 子どもを取り巻く環境の移り変わり II (必要な準備) 自分の子どもの頃と今との違いを考える。			
第4回	子どものあそびと健全育成	(内 容) 子どもにとってのあそび (必要な準備) 「健全育成」の意味を自分なりに考えておく。			
第5回	子どものあそび(実技 ゲーム・運動) I	(内 容) 子どもにとっての「あそび」の検証 (必要な準備) 動きやすい服装			
第6回	児童館の機能 1 子ども育成活動	(内 容) 子どもたちの成長・発達を支援する活動 (必要な準備) 児童館のあそびの活動を調べておく。			
第7回	児童館の機能 2 子ども家庭支援活動	(内 容) 親子・家族を支援する活動 (必要な準備) 児童館の子育て支援プログラムを調べる。			
第8回	児童館の機能 3 地域福祉促進活動	(内 容) 地域の養育力を高め、子どもが育つ活動 (必要な準備) 児童館の活動になぜ地域が必要なのか考える			
第9回	児童館の機能 4 学童クラブ事業	(内 容) 学童クラブ事業の意義と役割 (必要な準備) 学童クラブがなぜ必要なのかを考える			
第10回	子どものあそび(実技 音楽・身体表現) II	(内 容) 子どもの伝承・表現あそびの検証 (必要な準備) 動きやすい服装で			
第11回	子どものあそびと発達(7歳まで)	(内 容) 0歳～7歳 心と身体の発達 (必要な準備) 乳幼児期から7歳くらいまでの思い出は何?			
第12回	子どものあそびと発達(8歳から)	(内 容) 8、9歳～ 心と身体の発達 (必要な準備) どんなあそびをしていたか。			
第13回	子どものあそび(実技 伝承・工作) III	(内 容) 子どもの伝承・工作あそびの検証 (必要な準備) 「おりがみ」子どもの頃何が折れましたか			
第14回	子どものあそびと児童館	(内 容) 子どもの育ちと児童館の役割 (必要な準備) もう一度、児童館の役割について考える			
第15回	子どもの自立と児童館 まとめ	(内 容) 子どもの自立～自律へと児童館の役割まとめ (必要な準備) 子どもの育ちと児童館の役割を考える。			
オフィスアワー					

授業名	生徒指導論	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Student Guidance	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	岡田 敏之	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	生徒指導・教育相談の目的や意義・役割について考えるとともに、実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論と方法を習得する。				
学習成果到達目標	1) 生徒指導・教育相談の全体像が理解できる。 2) それを具現するために教員として不可欠な内容・方法を認識できる。				
評価方法	定期試験 (40 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	「生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育」(教育出版)				
参考書	「生徒指導提要」				
留意事項	覚える学びでなく、調べ考える学びを重視する。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス 教育を取り巻く社会の状況	(内 容)	本講義の概要。教育を取り巻く社会の状況を理解する。 (必要な準備)		
第2回	生徒指導の基礎概念	(内 容)	生徒指導の全体像を理解する。 (必要な準備) 前講の復習。		
第3回	教育相談の概要 子どもの性格形成	(内 容)	教育相談の全体像を理解する。 (必要な準備) 前講の復習。		
第4回	学校で生起する問題を考える	(内 容)	学校で生起する様々な問題行動(いじめ・不登校・体罰・学級崩壊・出席停止等)を理解する。 (必要な準備) 前講の復習。学校教育法の関連条文。		
第5回	学級担任(ホームルーム担任)が行う教育相談「教育相談の基礎的な考え方」	(内 容)	学級担任(ホームルーム担任)が行う教育相談が機能するためのあり方を理解する。 (必要な準備) 前講の復習。		
第6回	学級担任(ホームルーム担任)が行う教育相談「こんな時どう対応する?」	(内 容)	学級担任(ホームルーム担任)が行う教育相談が機能するためのあり方を理解する。 (必要な準備) 前講の復習。		
第7回	生徒指導と問題行動	(内 容)	児童生徒の問題行動について理解する。 (必要な準備) 前講の復習。		
第8回	生徒理解のあり方	(内 容)	生徒指導の基本、発達観・指導観について理解する。 (必要な準備) 前講の復習。		
第9回	不登校の理解と対応「どうして不登校が起こるのか」	(内 容)	不登校の現状について理解する。 (必要な準備) 前講の復習。		
第10回	不登校の理解と対応「不登校が起きないために」	(内 容)	不登校の対応について考える。 (必要な準備) 前講の復習。関連報道記事の収集。		
第11回	いじめ問題の理解と対応「何故人はいじめをすのか?」	(内 容)	いじめ問題について理解する。 (必要な準備) 前講の復習。関連報道記事の収集。		
第12回	いじめ問題の理解と対応「いじめの未然防止とは?」	(内 容)	いじめ問題の対応について考える。 (必要な準備) 前講の復習。関連報道記事の収集。		
第13回	発達障害の理解と対応	(内 容)	発達障害について理解する。 (必要な準備) 前講の復習。		
第14回	学校と家庭・地域・関係機関との連携	(内 容)	学校と家庭・地域・関係機関との連携について理解する。 (必要な準備) 前講の復習。		
第15回	まとめ	(内 容)	本講義のポイントを整理して理解する。 (必要な準備) 前講の復習。レポート作成にむけた質問事項。		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授業名	教育相談	開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	School Counseling	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	吉田 博子	対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	教育・保育現場では相談・援助・カウンセリング・ガイダンスの必要性が増している。保育者や教師はカウンセリングの専門家ではないが、相談・援助・カウンセリング・ガイダンスに関する基礎・基本を身に付けておくことが必須となっている。この授業では、教育相談やカウンセリングの理論や歴史的経緯、扱われるさまざまな問題領域について学ぶとともに、教育相談・カウンセリングの基本技法を身に付け、教育保育現場において役立てることをめざす。また、予防的開発的技法として活用されている構成的グループエンカウンター、ソーシャル・スキル・トレーニングについても体験を通して学ぶ。				
学習成果到達目標	1)教育相談・カウンセリングにかかわる理論・人間観を理解する。 2)教育相談・カウンセリングの基本技法を身につけ、教育・保育、家族・保護者・仲間・ピアヘルピングなどに役立てることができるようになる。 3)「一人ひとりの心を育てる」とともに、「集団を育てる」を理解して集団対応ができるようになる。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	國分康孝著『カウンセリングの技法』誠心書房 配付資料				
参考書	必要に応じて紹介する。				
留意事項	積極的な授業への参画を求める。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 教育相談・カウンセリングとその人間観	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教育相談・カウンセリングの歴史・定義・人間観、折衷主義・育てるカウンセリングについて理解する。 (必要な準備) 教科書を準備する。			
第2回	教育相談・カウンセリングとは：定義・種類・倫理・社会的基盤・哲学的基盤	(内 容) 教育相談・カウンセリングの定義・種類・倫理・社会的基盤・哲学的基盤を理解する。 (必要な準備) テキスト「序論」を読んでくる。			
第3回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：リレーション・受容・支持・繰り返し	(内 容) リレーション・受容・支持・繰り返しについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト「第2章」を読んでくる。			
第4回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：明確化・質問	(内 容) 明確化・質問について学ぶ。 (必要な準備) テキスト「第2章、第3章」を読んでくる。			
第5回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：面接の初期・中期・後期	(内 容) 面接の初期・中期・後期について学ぶ。 (必要な準備) テキスト「第4章、第5章、第6章」を読んでくる。			
第6回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：構成的グループエンカウンター	(内 容) 構成的グループエンカウンターについて実際体験を通して理解する。 (必要な準備) 配付資料を読み、演習問題を解く。			
第7回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：構成的グループエンカウンター	(内 容) 構成的グループエンカウンターについて実際体験を通して理解する。 (必要な準備) 配付資料を読み、演習問題を解く。			
第8回	教育相談・カウンセリングを支える理論：自己理論	(内 容) 自己理論の理論・人間観を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読み、演習問題を解く。			
第9回	教育相談・カウンセリングを支える理論：精神分析理論	(内 容) 精神分析理論の理論・人間観を理解する。 (必要な準備) テキスト「第4章」、配付資料を読んでくる。			
第10回	教育相談・カウンセリングを支える理論：行動主義	(内 容) 行動主義の理論・人間観を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読み、演習問題を解く。			
第11回	教育相談・カウンセリングを支える理論：論理療法	(内 容) 論理療法の理論・人間観を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読み、演習問題を解く。			
第12回	教育相談・カウンセリングを支える理論：アドラー心理学	(内 容) アドラー心理学の理論・人間観を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読み、演習問題を解く。			
第13回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：ソーシャルスキルトレーニング	(内 容) ソーシャルスキルトレーニングについて学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読み、演習問題を解く。			

第 14 回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル： 心理テストの実際	(内 容) 心理テストについて体験を通して理解する。 (必要な準備) 配付資料を読み、演習問題を解く。
第 15 回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル： 心理テストの実際、授業のまとめ	(内 容) 心理テストについて体験を通して理解する。 この授業のまとめ。 (必要な準備) 配付資料を読み、演習問題を解く。
オフィス アワー	毎週 1 回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。	

授業名	ボランティア論u	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Volunteer	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	名賀 亨	対象学生	現代家政1回生		
サブテーマ	ボランティア活動の根本にある原理および具体的な活動などについて理解する				
授業の概要	人間性豊かな福祉社会を創出するためには市民の主体的な社会参加・参画が不可欠である。そうした視点から注目されているボランティア活動について、理論と実践事例などを交えながら全体像を理解できるように進める。				
学習成果到達目標	1) ボランティア活動の根本にあるボランティアの原理を理解している。 2) 市民活動の基本を理解することで、専門職と市民との協同のあり方、市民の活動のあり方を具体的に理解している。 3) 特に市民活動について一定の説明ができるようになる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	ボランティア論－「広がり」から「深まり」へー 編著者：柴田謙治・原田正樹・名賀亨 出版社：株式会社みらい				
参考書	学生のためのボランティア論 岡本栄一、菅井直也、妻鹿ふみ子 編 大阪ボランティア協会出版部 発行				
留意事項	単位取得のためだけに授業を受けるのではなく、主体的かつ積極的に授業を受講し参加する中でしっかりと内容を理解すること				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の枠組みや授業評価など全体像の説明 (必要な準備) シラバスを確認しておく			
第2回	ボランティア活動の基本 自発性・社会性	(内 容) ボランティア活動の基本的な考え方の概説 (必要な準備) P70 名賀の体験談を読む			
第3回	ボランティア活動の基本 根本にある思想	(内 容) 「ボランティア」について理解する (必要な準備) P1～3 ボランティアという思想の学習			
第4回	ボランティア活動の基本 根本にある思想	(内 容) ボランティア活動の意義について理解する (必要な準備) ボランティアに関して復習し整理する			
第5回	ボランティア活動の変遷 思想と活動の歴史	(内 容) ボランティア活動の歴史を理解する (必要な準備) P45 木谷先生のメッセージを読む			
第6回	ボランティア活動の変遷 活動支援の広がり	(内 容) ボランティア活動の広がりについて理解する (必要な準備) P72 岡本栄一先生のメッセージを読む			
第7回	ボランティア活動の変遷 ボランティア元年	(内 容) 阪神淡路大震災以降の活動を理解する (必要な準備) P63 からの活動支援の歩みを学習			
第8回	災害とボランティア活動 災害支援活動	(内 容) 災害時のボランティア活動について理解する (必要な準備) P137 石井の体験談を読む			
第9回	ボランティア活動の広がり 多彩な活動	(内 容) 多様な広がりを見せる活動について理解する (必要な準備) P122 西村・中神の体験談を読む			
第10回	ボランティア学習の理解 活動と学び	(内 容) ボランティア学習の基本について理解する (必要な準備) P178 松岡の体験談を読む			
第11回	ボランティア学習の理解 学びの実践事例	(内 容) ボランティア学習の学習効果を理解する (必要な準備) 地域福祉とボランティア学習の関係性の整理			
第12回	ボランティアコーディネーター つなぐ仕組み	(内 容) ボランティアコーディネーターの基本を理解する (必要な準備) P197 大井の体験談を読む			
第13回	ボランティア組織の運営 NPO等の運営	(内 容) ボランティアグループ等の組織運営について (必要な準備) P213 脇坂の体験談を読む			
第14回	ボランティアの可能性と展望 福祉の原点	(内 容) ボランティア活動の可能性について理解する (必要な準備) P226 永田の体験談を読む			
第15回	まとめ	(内 容) 全体の総括と今後の活動の展望を考える (必要な準備) 授業全体を踏まえて今後の展望について整理			
オフィスアワー	水曜日 昼休み				

授業名	地域福祉論 I	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Community Welfare I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	名賀 亨	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	地域福祉の基本的考え方、地域福祉の対象、地域福祉の主体、地域福祉にかかわる組織・団体及び専門職の機能、ネットワークや地域福祉の推進方法等について理解する。地域福祉を生活問題や社会保障の観点から実情を通して理解していく。				
学習成果到達目標	1) 地域福祉とは何かを理解する。 2) 地域福祉は生活問題の地域性を対象にした総合的体系的な社会制度であることを理解する。 3) 社会保障の一環であること、まちづくりの一環であることの認識をしていく。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	なし				
参考書	授業時に紹介する				
留意事項	地域における活動実践に触れる。アクティブラーニングの手法を用いたワークショップなども実施するので、主体的かつ積極的に授業に参加すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	授業オリエンテーション	(内 容) 授業の内容と進め方評価方法などを説明 (必要な準備) シラバスを確認しておく			
第2回	地域福祉とは 地域福祉という考え方	(内 容) 地域福祉の基本的な考え方を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第3回	地域福祉を支える思想と理念 基本的考え方	(内 容) 基本的思想や理念を総合的に理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第4回	地域福祉を支える思想と理念 ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン	(内 容) ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンについて理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第5回	地域福祉を支える思想と理念 ボランティア	(内 容) ボランティアの思想について理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第6回	地域福祉を支える思想と理念 エンパワメントとストレングス視点	(内 容) エンパワメント・ストレングス視点を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第7回	地域福祉計画の実際	(内 容) 地域福祉計画の内容を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第8回	地域福祉の歴史と展開	(内 容) 地域福祉の歴史の変遷について理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第9回	地域福祉に関わる方法	(内 容) 地域福祉の具体的な実践方法を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第10回	地域福祉に関わる人材 コミュニティワーカー	(内 容) コミュニティワーカー等担い手を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第11回	地域福祉に関わる人材 住民参加とボランティア	(内 容) ボランティア・市民活動について理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第12回	地域福祉に関わる機関・団体	(内 容) 地域福祉に関わる機関や団体を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第13回	地域福祉と福祉教育・ボランティア学習 理念	(内 容) 福祉教育等の理念について理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第14回	地域福祉と福祉教育・ボランティア学習 方法	(内 容) 福祉教育・ボランティア学習の具体的な方法について理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく			
第15回	授業全体の振り返りとまとめ	(内 容) これまでのまとめを行う (必要な準備) これまでの授業を振り返り要点を整理する			
オフィスアワー	水曜日 昼休み				

授業名	高齢者福祉論 I	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Welfare for Elderly People I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	張 帆	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	高齢者の身体的・心理的・社会的特性を取り上げ、高齢者の生活事態と高齢者を取り巻く諸問題について学ぶ。高齢者に関する法律や制度を整理し、高齢者保健医療福祉の現状と課題について説明する。				
学習成果到達目標	1) 高齢者の特性を多角的に捉え、説明できるようになること。 2) 高齢者を取り巻く社会的問題や高齢者保健福祉に関わる法制度の概要を説明できるようになること。 3) これからの高齢者福祉の在り方について考えることができるようになること。				
評価方法	定期試験 (70 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> (論理的思考力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度—高齢者福祉論』第 5 版 (2016 年) [中央法規]				
参考書	随時指示する				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 講義のねらいと計画 (必要な準備)			
第2回	高齢者の特性と健康1 身体的特性	(内 容) 高齢者によくみられる身体的特性について (必要な準備) テキスト第1章第2節をよく読む			
第3回	高齢者の特性と健康2 精神的特性	(内 容) 高齢者によくみられる精神的特性について (必要な準備) テキスト第1章第3節をよく読む			
第4回	高齢者の特性と健康3 体の病気	(内 容) 高齢者によく見られる体の病気について (必要な準備) テキスト第1章第2節をよく読む			
第5回	高齢者の特性と健康4 心の病気	(内 容) 高齢者によく見られる心の病気について (必要な準備) テキスト第1章第3節をよく読む			
第6回	高齢者の特性と健康5 社会的特性	(内 容) 高齢者の社会的特性について (必要な準備) テキスト第1章第1節をよく読む			
第7回	高齢者の特性と健康6 認知症	(内 容) 高齢者の認知症について (必要な準備) 認知症について調べておく			
第8回	少子高齢社会と高齢者1 少子高齢化の動向と要因	(内 容) 深刻化する日本の少子高齢化の原因 (必要な準備) テキスト第2章第1節をよく読む			
第9回	少子高齢社会と高齢者2 高齢者を取り巻く諸問題	(内 容) 高齢者の健康や経済状況、生活意識など (必要な準備) テキスト第2章第2節をよく読む			
第10回	高齢者保健福祉の発展1 老人福祉法の制定	(内 容) 老人福祉法制定までの高齢者保健福祉の発展 (必要な準備) テキスト第3章をよく読む			
第11回	高齢者保健福祉の発展2 介護保険法の制定	(内 容) 老人福祉法制定後の高齢者保健福祉の発展 (必要な準備) テキスト第3章をよく読む			
第12回	高齢者支援の関係法規1 基本法	(内 容) 高齢社会対策基本法と老人福祉法 (必要な準備) テキスト第4章第1, 2節をよく読む			
第13回	高齢者支援の関係法規2 医療面	(内 容) 高齢者の医療の確保に関する法律 (必要な準備) テキスト第4章第3節をよく読む			
第14回	高齢者支援の関係法規3 その他の法律	(内 容) 高齢者虐待防止法などその他の法律 (必要な準備) テキスト第4章第4, 5節をよく読む			
第15回	まとめ	(内 容) これまでの学習内容の復習 (必要な準備)			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	障害者福祉論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Welfare for Persons with Disability	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	武田 康晴	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	障害者福祉とは、障害によって生じた生活課題を抱えながら自分の人生を生活している当事者を側面から支えていくことである。また「障害」と一口に言っても、実に多種多様なニーズが考えられる。この講義では、障害者福祉を「生活」の視点から捉えることを通して、障害をもつ人達が生活していく上で必要な援助について考えていく。				
学習成果到達目標	1) 障害者福祉の歴史的展開や基本理念を理解している。 2) 障害をもつ人を援助する制度、施策、専門職その他を体系的に理解している。				
評価方法	定期試験 (80%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (自分自身の考え、見解を持つ) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	小澤温編『よくわかる障害者福祉 第5版』ミネルヴァ書房				
参考書	必要に応じて紹介する。				
留意事項	自分の意見、見解を常に意識しながら授業に参加して下さい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	障害者福祉とは何か？(導入)	(内 容) 隣接領域と比較しながら独自性を解説する。 (必要な準備) シラバスの内容を確認しておく。			
第2回	障害者福祉の基本理念①ノーマライゼーションと自立支援	(内 容) 障害者福祉の基本理念について学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第3回	障害者福祉の基本理念②リハビリテーションほか	(内 容) 障害、障害者の歴史的変遷を学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第4回	身体障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	(内 容) 統計資料も活用して現状を学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第5回	知的障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	(内 容) 統計資料も活用して現状を学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第6回	精神障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	(内 容) 統計資料も活用して現状を学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第7回	制度とサービスの動向①制度とサービスの変遷	(内 容) 歴史的経過を追い、障害者福祉の動向を学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第8回	制度とサービスの動向②障害者福祉の法体系	(内 容) 法体系を中心に障害者福祉の現状を学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第9回	障害者自立支援法の内容①法成立までの経過と経緯	(内 容) 措置費・支援費制度からの経過を含めて学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第10回	障害者自立支援法の内容②支給決定のプロセスほか	(内 容) 改革のポイントを含めて概要を学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第11回	障害者自立支援法の内容③自立支援給付の構成	(内 容) 事業、サービス内容について学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第12回	障害者自立支援法の内容④現状と課題	(内 容) 現状と課題、今後の展望について学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第13回	障害者福祉の実際①関連領域の動向と連携	(内 容) 事例を使って援助の実際について学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第14回	障害者福祉の実際②相談支援の充実	(内 容) 事例を使って援助の実際について学ぶ。 (必要な準備) 事前配布した資料に目を通しておく。			
第15回	障害者福祉の展望	(内 容) 講義内容を総括し、今後の在り方について考える。 (必要な準備) これまでの内容を確認しておく。			
オフィスアワー	水曜日、木曜日、金曜日の 12:30～13:00				

授業名	介護概論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Nursing Care	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	高岡 理恵	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	要介護者の生活支援においては、まず、自分自身がどんな思考過程を持っているのかという自己覚知できていることが大切です。また同時に対象である「その人」の理解もしなければなりません。人が生活する上で困難になり、それを支えていくために必要な生活支援技術の基礎理論を習得することを目的とします。				
学習成果到達目標	1) 介護を取り巻く社会的背景について説明できる。 2) 介護の範囲とそれに関わる他職種の役割を説明できる。 3) 生活を支援する具体的方法の根拠について説明できる。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会、新・社会福祉士養成講座『高齢者に対する支援と介護保険制度』、中央法規				
参考書	適宜紹介				
留意事項	講義を中心に授業を行うが、適宜、学生自身の発表も実施する。主体的且つ積極的な授業参加を期待します。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	社会福祉士と介護福祉士の役割	(内 容) 専門職の役割の違いを理解する (必要な準備) シラバス持参			
第2回	人を理解するということと自己覚知	(内 容) 観察方法と自分自身を理解する (必要な準備) 宿題をしてきてください			
第3回	介護の概念と範囲	(内 容) 介護の定義や法制度の位置づけを理解する (必要な準備) テキスト p 290～309 を読んでおく			
第4回	利用者理解	(内 容) 介護過程の展開方法を知る (必要な準備) テキスト p 326～346 を読んでおく			
第5回	介護をとりまく社会の変化1 措置から契約へ	(内 容) 社会福祉基礎構造改革を理解する (必要な準備) 戦後～介護保険法設立までの年表を作成する			
第6回	介護をとりまく社会の変化2 介護保険法	(内 容) 介護保険法の基礎知識を理解する (必要な準備) テキスト p 154～172 を読んでおく			
第7回	介護活動の場理解1 居宅	(内 容) 社会福祉基礎構造改革を理解する (必要な準備) テキスト p 189～193 を読んでおく			
第8回	介護活動の場理解2 施設	(内 容) 社会福祉基礎構造改革を理解する (必要な準備) テキスト p 194～204 を読んでおく			
第9回	介護各論1 体の使い方	(内 容) ボディメカニクスを理解する (必要な準備) テキスト p 357～366 を読んでおく			
第10回	介護各論2 食べること	(内 容) 食支援においての必要な視点を理解する (必要な準備) テキスト p 367～373 を読んでおく			
第11回	介護各論3 清潔にすること	(内 容) 入浴の意義や方法について理解する (必要な準備) テキスト p 374～379 を読んでおく			
第12回	介護各論4 排泄すること	(内 容) 排せつ動作や失禁について理解する (必要な準備) テキスト p 194～204 を読んでおく			
第13回	介護を必要とする人 認知症の身体的理解	(内 容) 認知症の原因と中核症状を理解する (必要な準備) テキスト p 382～391 を読んでおく			
第14回	介護を必要とする人 認知症の心理的理解	(内 容) 認知症の周辺症状の理解をする (必要な準備) テキスト p 392～391 の事例を予習しておく			
第15回	介護を必要とする人 終末期ケア	(内 容) 終末期の定義と高齢者の身体変化を理解する (必要な準備) テキスト p 399～410 を読んでおく			
オフィスアワー	木曜日 12:10～13:00				

授業名	保健医療サービス		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Health and Medical Teratment Services		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	榎原 直美		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	患者や利用者、その家族が、病気や障害を抱えながらも日常生活を継続させていくためには、包括的な保健・医療・福祉サービスの利用や支援が必要となる。そのような支援体制を構築するため（ネットワーク作り）に、保健・医療と福祉の連携は欠かすことができない。社会福祉士を目指す学生にとって、保健・医療分野の知識、そこで働く専門職の理解は、現場で働く時、ネットワーク作りやチームケアを行うために必須のスキルとなるだろう。この授業は講義を通して、保健医療の機関・専門職・サービス内容を理解し、社会福祉の専門職の役割や期待されていることを、事例などを用いて具体的に伝えていきたい。					
学習成果到達目標	1) 保健医療機関の基本的仕組みや現状や課題が理解できる。 2) 保健医療分野での社会福祉士の役割が理解できる。 3) 保健医療分野で働く時、自分が何をすればよいのか明確にすることができる。					
評価方法	定期試験 (70 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (30 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()				
テキスト	新・社会福祉士養成講座 1 7 保健医療サービス 第3版 中央法規出版					
参考書	適宜紹介する。					
留意事項	積極的な学習態度で授業にのぞむこと。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	ガイダンス			(内 容) 保健医療サービスとは何か概略を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章第1節を読む。		
第2回	医療保健サービスの歴史			(内 容) 戦後の保健医療サービスの歴史を知る。 (必要な準備) テキスト第1章第2節を読む。		
第3回	医療に係わる法律			(内 容) 主に医療法を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章第3節、第2章第1節を読む。		
第4回	「保健医療サービスの提供と経済的保障Ⅰ」 医療保険制度			(内 容) 医療保険制度について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第5章第1節を読む。		
第5回	「保健医療サービスの提供と経済的保障Ⅱ」 診療報酬			(内 容) 診療報酬と公費負担医療について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第5章第1・3節を読む。		
第6回	「保健医療サービスの提供と経済的保障Ⅲ」 介護保険制度			(内 容) 介護保険制度と介護報酬について学ぶ (必要な準備) テキスト第5章第2節を読む。		
第7回	「医療保健に関わる施設とシステムⅠ」 医療法に規定された医療施設			(内 容) 医療法による医療施設の機能・類型を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章第1節を読む。		
第8回	「医療保健に関わる施設とシステムⅢ」 診療報酬上に規定された医療施設			(内 容) 保健医療政策・診療報酬における医療施設を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章第2・3節を読む。		
第9回	「医療保健に関わる施設とシステムⅢ」 介護保険法による施設			(内 容) 介護保険法による施設の機能・類型を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章第4・5節		
第10回	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み			(内 容) 医療ソーシャルワーカーの定義や歴史を知る。 (必要な準備) テキスト第3章第1節を読む。		
第11回	「医療ソーシャルワーカーの業務Ⅰ」 医療ソーシャルワーカーの業務			(内 容) 基本的な業務内容を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第3章第2・3・4節を読む。		
第12回	「医療ソーシャルワーカーの業務Ⅱ」 医療ソーシャルワーカーの事例			(内 容) 事例を通じて具体的な業務内容を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第3章 事例を読む。		
第13回	保健医療サービスにおける連携			(内 容) 領域の専門職とその連携方法について学ぶ (必要な準備) テキスト第4章を読む。		
第14回	保健医療の専門職との連携の実際			(内 容) チームケアの実際を学ぶ (必要な準備) テキスト第6章を読む。		
第15回	まとめと今後の課題			(内 容) 今後の課題について検討する。 (必要な準備) テキスト第7章を読む。		
オフィスアワー						

授業名	社会福祉サービス運営	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Administration of Social Welfare Service	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	山西 辰雄	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	高齢者・障害者等の施設（居宅を含む）において利用者支援のみならず職員処遇の確保と施設経営の安定という課題が浮上しているが、このような動向を踏まえて社会福祉サービスの組織と経営のあり方を理解することを目的とする。講義形式の授業によって、措置制度や契約制度の内容を理解し、今日の施設経営に係る資金管理について知り、社会福祉サービスに従事する組織の運営について理解していく。社会福祉法人の理解、施設の設定、人事管理、リスクマネジメント等についても今日的なあり方を検討していきたい。				
学習成果到達目標	1) 社会福祉の組織と経営のあり方への疑問や意見を表明することができる。 2) 福祉サービスを提供する事業所の「質」の確保の必要性やその方法について見解をもつことができる。 3) 社会福祉の組織においてリーダーシップを発揮する必要性や方法について考えることができる。				
評価方法	定期試験 (80 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	新・社会福祉士養成講座第 11 巻『福祉サービスの組織と経営』中央法規				
参考書					
留意事項	社会福祉士国家試験のレベルにおいて学習する必要があるが、上記について基礎的な理解を養うことを優先する。自分の目指すところに添って、努力し学修してほしい。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	科目ガイダンス 社会福祉の「経営」への理解が必要な理由と背景		(内 容) 本講義の特徴を理解し、学習計画を立てる (必要な準備)		
第2回	福祉経営の基本指針		(内 容) 事業所経営の手順について理解する (必要な準備) 想像力		
第3回	福祉サービスの提供に関する基礎知識 法制度		(内 容) 社会福祉法が規定する内容を理解する (必要な準備) 法令への親近感		
第4回	同 上	提供組織	(内 容) 法人格をもつ手続や法人間の相違を理解する (必要な準備) 社会における多様な組織への親近感		
第5回	福祉経営の基礎理論	組織	(内 容) 経営組織の力動性を理解する (必要な準備) 想像力		
第6回	同 上	意思決定	(内 容) 組織の意思決定の手法、手続過程を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感		
第7回	同 上	リーダーシップ	(内 容) 組織の多層性と連携手法を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感		
第8回	同 上	経営戦略	(内 容) 組織の目標や内外の状況把握と分析を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感		
第9回	同 上	サービス・マネージメント	(内 容) 関連し影響する人・組織・機関を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感		
第10回	サービス提供組織のマネジメント 社会福祉法人		(内 容) 社会福祉法人の特色や独自性を理解する (必要な準備) 法令への親近感		
第11回	同 上	NPO法人	(内 容) NPO法人の特色や独自性を理解する (必要な準備) 法令への親近感		
第12回	同 上	株式会社等	(内 容) 株式会社等の特色や独自性を理解する (必要な準備) 法令への親近感		
第13回	福祉サービスの管理 苦情解決とサービス評価		(内 容) 苦情解決とサービス評価を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感		
第14回	同 上	人材確保と職員の管理	(内 容) 人材確保と職員の業務管理を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感		
第15回	まとめ 事業所における社会福祉専門職の役割		(内 容) 社会福祉専門職の位置づけと役割を考究する (必要な準備) 想像力		
オフィスアワー					

授業名	消費科学		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Consumption Science		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	井上 博子		対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	最新の消費者問題に目を向け、安全で豊かな消費生活のための法ルールや社会システムを解説する。「食」をめぐる新しい消費者問題（安全性、情報リテラシー、環境問題）を通して、消費スタイルの変化と食品市場・流通（食品流通・小売業・中食、外食産業）の現状を理解する。また、課題（テーマ）を設定し、考察した内容をまとめて発表する機会を与える。					
学習成果到達目標	1) 最新の消費者問題と「食品の消費と流通」の実態が理解できる。 2) 知識と判断力、実践力が結びついた消費者力を身に付ける。 3) 批判的思考を働かせながら、自ら情報をさばく力（情報リテラシー）を培う。					
評価方法	定期試験 (40 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()				
テキスト	『食品の消費と流通』（社）フードスペシャリスト協会編 [建帛社]					
参考書	『くらしの豆知識』国民生活センター編、 新聞・雑誌をよく読み、関連する記事はクリッピングしておくこと。					
留意事項	消費者問題は、政治・経済・社会システムと密接に関連しているので、時事問題や社会現象に関心を持つこと。 フードスペシャリスト資格試験の受験予定者は受講すること。予習、復習をしっかりとしておくこと。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	「消費者市民」、「フードスペシャリスト」とは			(内 容) 授業の到達目標、具体的な進め方、受講に関する諸注意 (必要な準備) シラバスを読んでおくこと		
第2回	現代社会(食生活の変化)と消費者問題			(内 容) 経済構造や家族形態など社会環境の変化と「食の外部化」について (必要な準備) 配布資料を事前学習		
第3回	消費者の権利と消費者教育			(内 容) 消費者基本法や消費者教育推進法など、消費者の権利や消費者教育について (必要な準備) 配布資料を事前学習		
第4回	若者の消費者トラブルと消費者行政			(内 容) 消費者庁や消費生活センターによせられる若者の消費トラブルについて (必要な準備) 配布資料を事前学習		
第5回	契約の基礎知識			(内 容) 消費者契約法や民法など契約に関する法ルールについて (必要な準備) 発表の準備や論点を整理しておくこと。		
第6回	食の消費スタイルとフードマーケティング			(内 容) 食生活の多様化、食品流通（卸売市場）、食の技術革新について (必要な準備) テキストをよく読み、配布資料を事前学習		
第7回	食品市場と流通Ⅰ 内食とスーパーマーケット			(内 容) 食品小売業、スーパーマーケット、店舗物流システム、PB商品について (必要な準備) 発表の準備、配布資料の事前学習		
第8回	食品市場と流通Ⅱ 外食と外食産業			(内 容) 外食産業、チェーンレストラン、フランチャイズチェーンシステムについて (必要な準備) 発表の準備、配布資料の事前学習		
第9回	食品市場と流通Ⅲ 中食と中食産業			(内 容) 「中食」市場と「中食」商品、コンビニエンスストアについて (必要な準備) 発表の準備、配布資料の事前学習		
第10回	情報をクリティカルに読み解く			(内 容) 誇大広告や不当表示(景品表示法)、フードフェイク、健康食品やサプリメントについて (必要な準備) 発表の準備、配布資料の事前学習		
第11回	食品消費と安全			(内 容) リスク分析(食品安全基本法)、遺伝子組み換え、HACCP、トレーサビリティについて (必要な準備) 発表の準備、配布資料の事前学習		
第12回	「食」と環境問題Ⅰ フードロスと食料問題			(内 容) 廃棄物問題(食品リサイクル法)、フードマイレージ、水環境、土壌汚染について (必要な準備) 発表の準備、配布資料の事前学習		
第13回	「食」と環境問題Ⅱ フード関連産業と環境問題			(内 容) CSR、環境ISO、グリーン調達、エネルギー問題について (必要な準備) これまでの復習、配布資料の事前学習		
第14回	グローバル社会における食品消費の課題			(内 容) フェアトレード、エシカル消費、絶滅危惧種(生物多様性)について (必要な準備) これまでの復習、配布資料の事前学習		
第15回	まとめ			(内 容) 総括 (必要な準備) これまでの授業内容を整理し、確認しておく		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。					

授業名	地方行政論	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Local Government	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	湯浅 俊郎	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	地方公共団体は、その財産を管理し、事務を処理し、及び行政を執行する機能を有すると、憲法に定められている。この地方公共団体、具体的には基礎自治体としての市町村、広域自治体としての都道府県、さらに道州制等の行政の役割と機能について理解することが本講義の目的である。今日、住民の身近な存在である市町村行政の役割が強調されているが、その果たすべき役割と内容等についてとくに重視していきたい。また一方で広域行政の議論が登場しているが、その意味するところは何かについても論究していきたい（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。				
学習成果到達目標	1) 市役所や町村役場、都道府県庁、中央省庁、そこに勤める公務員と言われる人たちの活動を把握することができるようになる。 2) 日常生活と行政との関わりが理解できるようになる。 3) 行政について、マスコミなどが指摘する問題が起こる「しくみ」が理解できるようになる。				
評価方法	定期試験 (60%) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	□筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート □制作物	平常試験 (40%) □筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 □コミュニケーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	
テキスト	新藤宗幸,2012,『新版 行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書				
参考書	授業時に適宜紹介します				
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション		(内 容) 授業の進め方について説明します。 (必要な準備)		
第2回	行政をみる眼		(内 容) 政治と行政との関係について説明します。 (必要な準備) テキスト 10～19 頁を読んできてください。		
第3回	行政の国家の広がりとその変化 I -福祉国家について		(内 容) 福祉国家への道とその反転について説明します。 (必要な準備) テキスト 22～39 頁を読んできてください。		
第4回	行政の国家の広がりとその変化 II -行政国家について		(内 容) 行政国家とは何かについて説明します。 (必要な準備) テキスト 39～53 頁を読んできてください。		
第5回	日本の行政制度の変遷と現状 I -日本国憲法 行政の国家の広がりとその変化		(内 容) 日本国憲法による原理の転換と戦前について (必要な準備) テキスト 56～66 頁を読んできてください。		
第6回	日本の行政制度の変遷と現状 II -議員内閣制 行政の国家の広がりとその変化		(内 容) 議員内閣制と内閣の位置について (必要な準備) テキスト 66～77 頁を読んできてください。		
第7回	日本の行政制度の変遷と現状 III -省庁		(内 容) 省庁の設置と管理について (必要な準備) テキスト 78～95 頁を読んできてください。		
第8回	日本の行政制度の変遷と現状 IV -公務員制度		(内 容) 公務員制度について (必要な準備) テキスト 96～106 頁を読んできてください。		
第9回	日本の行政制度の変遷と現状 V -中央省庁と自治体		(内 容) 中央省庁と自治体との関係について (必要な準備) テキスト 106～114 頁を読んできてください。		
第10回	行政の働きが変えた市民の暮らし I -行政の活動		(内 容) 行政の活動とその手段について (必要な準備) テキスト 116～131 頁を読んできてください。		
第11回	行政の働きが変えた市民の暮らし II -政府規制		(内 容) 政府規制について。 (必要な準備) テキスト 131～144 頁を読んできてください。		
第12回	行政の働きが変えた市民の暮らし III -公共事業		(内 容) 公共事業の問題について (必要な準備) テキスト 145～164 頁を読んできてください。		
第13回	行政の働きが変えた市民の暮らし IV -福祉政策		(内 容) 福祉政策について (必要な準備) テキスト 164～182 頁を読んできてください。		
第14回	行政の働きが変えた市民の暮らし V -政府の事業		(内 容) 政府の事業について。 (必要な準備) テキスト 182～200 頁を読んできてください。		
第15回	道州制について --大阪都構想について		(内 容) 道州制について説明します。 (必要な準備) 市町村合併について調べてきてください。		
オフィスアワー	毎週 1 回 (休業期間中を除く。) オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。				

授業名	公的扶助論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Public Assistance	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	張 帆	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	公的扶助制度の中心的制度である生活保護制度の仕組みについて学習する。生活保護制度の対象となる貧困問題とはどういう意味かを理解し、貧困問題が改めて社会問題となる現状を踏まえながら、貧困対策の在り方を考察する。				
学習成果 到達目標	1) 貧困・低所得問題を理解すること。 2) 生活保護制度を中心とした公的扶助制度について学ぶこと。 3) 公的扶助の今日の課題を考察することができるようになること。				
評価方法	定期試験 (70 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> (論理的思考力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『新・社会福祉士養成講座 16 低所得者に対する支援と生活保護制度—公的扶助論』第4版 (2016年) [中央法規]				
参考書	随時指示する				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 本講義のねらいと計画 (必要な準備)			
第2回	公的扶助の概念	(内 容) 公的扶助の概念と範囲 (必要な準備) テキストの第1章第1節をよく読む			
第3回	公的扶助の意義と役割	(内 容) 社会保障制度の1つとして公的扶助の意義と役割 (必要な準備) テキストの第1章第2節をよく読む			
第4回	貧困・低所得者問題と社会排除1 貧困の定義	(内 容) 貧困とは何を指すか (必要な準備) テキストの第2章第1節をよく読む			
第5回	貧困・低所得者問題と社会排除2 貧困の要因	(内 容) 貧困の要因と社会的排除 (必要な準備) テキストの第2章第2節をよく読む			
第6回	公的扶助制度の歴史(イギリス)	(内 容) イギリスにおける公的扶助制度の歴史 (必要な準備) テキストの第3章第1節をよく読む			
第7回	公的扶助制度の歴史(日本)	(内 容) 日本における公的扶助制度の歴史 (必要な準備) テキストの第3章第2節をよく読む			
第8回	生活保護制度の仕組み1 原理と原則	(内 容) 生活保護の原理・原則 (必要な準備) テキストの第4章第1節をよく読む			
第9回	生活保護制度の仕組み2 種類	(内 容) 生活保護の種類 保護施設 (必要な準備) テキストの第4章第2, 3節をよく読む			
第10回	生活保護制度の仕組み3 権利と義務	(内 容) 生活保護の権利・義務 不服申立て・訴訟 (必要な準備) テキストの第4章第4, 5, 6節をよく読む			
第11回	最低生活保障水準と生活保護基準	(内 容) 生活保護基準の具体的な計算方法 (必要な準備) テキストの第5章をよく読む			
第12回	生活保護実施体制	(内 容) 福祉事務所等の役割 (必要な準備) テキストの第8章をよく読む			
第13回	生活保護の動向と問題点	(内 容) 生活保護の動向と生活保護行政の課題 (必要な準備) テキストの第6章をよく読む			
第14回	生活保護制度改革	(内 容) 生活保護制度改革と将来の展望 (必要な準備) 関連する新聞記事を読む			
第15回	まとめ	(内 容) これまでの学習内容の復習 (必要な準備)			
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する				

授 業 名	教育制度論	開講学年	2年生	単位数	2単位
英 文 名	Theory of Educational Systems	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	松浦 真理	対象学生	現代家政2年生		
授業の概要	教免法に定められた「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を学ぶ基礎理論科目として、教育を枠組み、つまり制度から見つめ、その意義とこれまでの発展を理解し、今後の展開について考察することを目的とする。制度は政治経済的な側面と大きくかかわるため、それについても考えていく。				
学 習 成 果 到達目標	1) 教育制度、とくに学校制度に関する歴史的な変遷と現在、今後の課題について説明ができる 2) 幼稚園、小学校、中学校、の学校教育制度を理解して、課題をつかむことができる。 3) 日本の教育行政制度、教育課程行政、教職員制度、学校経営に関する基礎的な知識を身につける。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	<input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
テキスト	高妻紳二郎編著『新・教育制度論』（ミネルヴァ書房、2014）				
参 考 書	教育制度研究会編『要説教育制度』（学術図書出版）、尾崎ムゲン『日本の教育改革』（中公新書）など。				
留 意 事 項	教員免許取得必須科目であり、本学実習要件科目になっている課程もあるので、対象者は頑張ってもらいたい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第 1 回	イントロダクション「制度を学ぶ意義」	(内 容) 授業の進め方、教育制度を学ぶ意義 (必要な準備) シラバスを読んでおく			
第 2 回	教育制度の基本原則	(内 容) 日本の教育制度の基本原則と世界の制度 (必要な準備) テキスト 1 章に関する前週に出した課題			
第 3 回	学校制度の発展と現在	(内 容) 学校制度の定義、種類、系統、設置者など (必要な準備) テキスト 2 章に関する前週に出した課題			
第 4 回	就学前教育制度	(内 容) 日本の就学前教育制度の確認 (必要な準備) 教育基本法、幼稚園教育要領該当箇所を読む			
第 5 回	義務教育制度	(内 容) 日本の義務教育制度の確認 (必要な準備) 教育基本法、学習指導要領総則を読む			
第 6 回	教職員の職務内容と義務	(内 容) 教職員の責務と学校運営 (必要な準備) テキスト 3 章に関する前週に出した課題			
第 7 回	教員養成と現職研修	(内 容) 教員に求められる資質能力と免許高度化 (必要な準備) テキスト 4・5 章に関する前週に出した課題			
第 8 回	教育委員会制度	(内 容) 教育委員会の組織と権限 (必要な準備) テキスト 6 章に関する前週に出した課題			
第 9 回	学校評価の導入と手法	(内 容) 学校評価の目的と手法 (必要な準備) テキスト 8 章に関する前週に出した課題			
第 10 回	新しい教員評価制度の仕組み	(内 容) 新しい教員評価制度の仕組み (必要な準備) テキスト 9 章に関する前週に出した課題			
第 11 回	地域や親との連携に関わる諸制度	(内 容) 地域住民の学校参画、学校選択制度 (必要な準備) テキスト 14 章に関する前週に出した課題			
第 12 回	教科書制度	(内 容) 教科書検定・採択の特徴 (必要な準備) テキスト 11 章に関する前週に出した課題			
第 13 回	学校給食の制度	(内 容) 学校給食の具体的形態と食育 (必要な準備) テキスト 10 章に関する前週に出した課題			
第 14 回	奨学金制度の行方	(内 容) 教育費負担の諸課題 (必要な準備) テキスト 13 章に関する前週に出した課題			
第 15 回	まとめ	(内 容) これまでの内容から教育制度の意義の再確認 (必要な準備) 前週に出した課題			
オフィス アワー	毎水曜日昼休みほかメールにて受付				

授業名	ライフスタイルと法		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Lifestyle and Law		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	渡辺 暁彦		対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	法（法律）と聞いて、皆さんはどのようなイメージをもちますか。様々な反応が予想されますが、そのような皆さんのイメージを出発点に、私たちの身近な生活のなかで法がどのような働きをしているのか、裁判（所）の役割にも目を向けながら皆で考えていきたいと思ひます。最近では、小・中学校における「法教育」の取組みも進んできました。本講義では、法の概念や法の体系・種類、法の解釈といった法律学上の基本事項について学ぶとともに、小・中学校における法教育の実践等についても皆で話し合ひたいと思ひます。					
学習成果到達目標	1) 社会生活における法の意義・役割を認識すること。 2) 具体的な事案について、法的な考え方に照らして議論できるようになること。 3) 小・中学校における法教育の可能性を検討し、その成果を自ら実践できるようになること。					
評価方法	定期試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	W.キャンディ&R.イェーツ『小学校で法を語ろう』(2015年、成文堂) *詳細は、初回授業の際に説明します。					
参考書	できれば『六法』を準備していただきたいですが、この点も含めて、初回に詳しく説明します。					
留意事項	日々の新聞および雑誌記事の切り抜きを課題とします。そうした切り抜き(日々の出来事や事件など)を通して、私たちの生活のなかで、法や裁判がどのような役割を果たしているかについて考えてみてください。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス ～法律学への誘い～		(内 容) 法を学ぶことの意味について考えます。 (必要な準備)			
第2回	社会生活と法		(内 容) 社会規範としての法、法と道徳、法の存在形式、法の分類などについて理解を深めます。 (必要な準備) 配布資料、テキスト第1章に目を通しておくこと。			
第3回	法の解釈		(内 容) 法の解釈とはどのようなものか、様々な解釈手法について取り上げます。 (必要な準備) テキスト第1章に目を通しておくこと。			
第4回	私たちと裁判(1)裁判所の役割		(内 容) 裁判をめぐる昨今の状況について。 (必要な準備) 新聞・雑誌記事の切り抜き。			
第5回	私たちと裁判(2)国民の司法参加		(内 容) 裁判員制度とはどのようなものか。 (必要な準備) 新聞・雑誌記事の切り抜き。			
第6回	私たちと裁判(3)民事裁判と刑事裁判		(内 容) 民事裁判、刑事裁判の仕組み。 (必要な準備) 新聞・雑誌記事の切り抜き。			
第7回	学校教育と法(1)児童・生徒の権利と学校		(内 容) 子どもをめぐる法状況、特に学校生活における権利保護について取り上げます。 (必要な準備) テキストに目を通しておくこと。			
第8回	学校教育と法(2)法教育とは?		(内 容) 学校教育のなかで、法や人権をどのように扱うべきなのか、皆で考えてみたいと思ひます。 (必要な準備) テキストに目を通しておくこと。			
第9回	学校教育と法(3)法教育の実践例		(内 容) 法教育の実践例に基づいて (必要な準備) テキストに目を通しておくこと。			
第10回	学校教育と法(4)「裁判の仕組み」を考える		(内 容) 学校で、どのように「裁判の仕組み」を扱うべきか、皆で話し合ひます。 (必要な準備) テキストに目を通しておくこと。			
第11回	学校教育と法(5)「民主主義」を考える		(内 容) 学校で、どのように「民主主義」を扱うべきか、皆で話し合ひます。 (必要な準備) テキストに目を通しておくこと。			
第12回	市民生活と法(1)契約、消費者の権利		(内 容) 民法の基本原則や、契約のルールなどについて考えながら、消費者の権利の意義を確認します。 (必要な準備) 新聞・雑誌記事の切り抜き。			
第13回	市民生活と法(2)家族関係		(内 容) 男女平等、婚姻及び離婚、親子関係などをめぐる法律について理解を深めます。 (必要な準備) 新聞・雑誌記事の切り抜き。			
第14回	市民生活と法(3)情報社会に生きる私たち		(内 容) 個人情報の取扱いについて理解を深めます。 (必要な準備) 新聞・雑誌記事の切り抜き。			
第15回	まとめ ～社会の移り変わりとは法～		(内 容) 社会の移り変わりのなかで、法の役割について考えてみたいと思ひます。 (必要な準備) これまでの講義の振り返り。			
オフィスアワー	担当授業終了後実施します。					

授業名	就労支援サービス		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Work Support Service		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	大西 雅裕		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	講義形式の授業によって、ソーシャルワークにおいて必要となる各種の就労支援制度、就労支援に係る組織、団体及び専門職や就労支援分野との連携について理解することを目的とする。講義形式の授業を通して、労働法規についての概要、雇用・就労の全般的動向、就労支援制度の概要、就労支援に係る組織・団体の役割、就労支援に関わる専門職の役割と実際、就労支援分野との連携とその実際等について教授していきたい。障害者、母子世帯、被保護者等を対象とした具体的な就労支援の実態と課題について論究していきたい。					
学習成果到達目標	1) 今日の就労全体について理解できる。 2) 障害者に対する支援制度、サービスの状況が理解できる。 3) 今日の障害者等の就労支援の状況が理解できる。					
評価方法	定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	新・社会福祉士養成講座18 就労支援サービス 第3版 中央法規出版					
参考書	社会福祉学習双書編集委員会編「社会福祉援助技術論Ⅱ」全国社会福祉協議会 その他適宜紹介する					
留意事項	積極的な学習態度で授業にのぞむこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス就労支援の実際		(内 容) 就労支援についての現状 (必要な準備) 就労への支援には何が必要か考える。			
第2回	働くことの意味と社会福祉士の役割		(内 容) 労働の意味 (必要な準備) 働くということについて事前に考えてくる			
第3回	労働法規の概要		(内 容) 労働法を中心とした関連法について理解する (必要な準備) 労働法規について予習する			
第4回	障害者の就労状況		(内 容) 就労の現状 (必要な準備) 障害者に対する障壁について予習する			
第5回	雇用施策の状況		(内 容) 現状としての雇用制度を理解する (必要な準備) 就労サービス制度について予習する			
第6回	障害者福祉施策としての就労状況		(内 容) 福祉施策としての就労制度を観る。 (必要な準備) 事前資料を予習する			
第7回	就労支援に関わる機関等		(内 容) 就労支援に関わる公的機関等 (必要な準備) ハローワークの機能について予習する			
第8回	障害者就労支援に団体等		(内 容) 障害者就労支援に関わる団体 (必要な準備) 就労支援団体としてどんなものがあるか予習する			
第9回	障害者就労支援の現状		(内 容) 事例を通して就労支援の現状を理解する (必要な準備) 事例について予習してくる			
第10回	低所得者への就労支援		(内 容) 現状について (必要な準備) 今なにが問題となっているか予習する			
第11回	低所得者への就労支援制度		(内 容) 現状の支援制度と支援団体等 (必要な準備) 制度・サービスについて予習する			
第12回	低所得者への就労支援		(内 容) 専門職の役割等 (必要な準備) 専門職について予習する			
第13回	就労支援とネットワーク		(内 容) ネットワーキングの現状 (必要な準備) どんな機関、専門職が関わるか予習する			
第14回	連携ネットワークの実際		(内 容) ネットワーキングや連携の実際について (必要な準備) ネットワーキングの意味を予習する			
第15回	就労支援サービスの体系についてとまとめ		(内 容) 全体の振り返りとまとめ (必要な準備) 全体を通して質問を考えてくる			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する予定					

授業名	社会保障論 I u		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Social Security I		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	張 帆		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	社会保障は、現代社会においてすべての人が生きていく上で不可欠の貢献をしており、それに寄せられる期待はますます大きくなっている。しかしながら、人口構造の高齢化や財政難の深刻化によって様々な問題が急増しており、その将来像は決して明るいものではない。講義形式の授業を通して、社会保障の必要性の根拠、それを支える基本的な思想、それを構成する主要な原則と制度を検討しながら、社会保障の将来を展望するとともに現代社会における社会保障のあるべき姿を解明する。					
学習成果到達目標	1) 日本における各種の社会保障制度について基本的な内容を理解し説明できるようになること。 2) 少子高齢化が進む中、社会保障制度について自分なりの問題意識を持つようになること。 3) これからの社会保障制度の在り方について自分なりの考察を展開できるようになること。					
評価方法	定期試験 (70 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (30 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点		<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(論理的思考力) <input type="/> ()			
テキスト	足立正樹『高齢社会と福祉社会』高菅出版 2006年					
参考書	『はじめての社会保障』第13版(2016) 有斐閣					
留意事項						
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	科目ガイダンス			(内 容) 授業のねらいと計画 (必要な準備)		
第2回	少子高齢社会の到来			(内 容) 日本の少子・高齢化状況。 (必要な準備) テキストの第1章第1節をよく読む		
第3回	社会保障の概念と制度			(内 容) 社会保障とは何か (必要な準備) テキストの第1章第2節をよく読む		
第4回	社会保障の必要性の根拠			(内 容) 社会保障の必要性について (必要な準備) テキストの第1章第2節をよく読む		
第5回	社会保障の源流			(内 容) 中世における生活保障について (必要な準備) 中世の農業中心の生活について理解しておく		
第6回	社会保障の誕生と普及			(内 容) 社会保障誕生の歴史と発展 (必要な準備) テキストの第1章第3節をよく読む		
第7回	日本の社会保障			(内 容) 日本の社会保障制度の特徴。 (必要な準備) テキストの第1章第4節をよく読む		
第8回	医療保障制度1 医療の社会化の必要性			(内 容) 医療保障はなぜ必要になるかについて (必要な準備) テキストの第1章第5節をよく読む		
第9回	医療保障制度2 日本の医療保険制度の概要			(内 容) 日本の医療保険制度の基本内容について (必要な準備) 事前に配る資料をよく読む		
第10回	医療保障制度3 高齢化と医療			(内 容) 人口高齢化が医療に与える影響について (必要な準備) テキストの第1章第5節をよく読む		
第11回	医療保障制度4 高齢者医療制度の現状と課題			(内 容) 後期高齢者医療制度について。 (必要な準備) 事前に配る資料をよく読む。		
第12回	年金制度1 年金制度の概要			(内 容) 日本の年金制度の内容 (必要な準備) 事前に配る資料をよく読む		
第13回	年金制度2 積立方式と賦課方式			(内 容) 二つの年金の財源調達方式について。 (必要な準備) テキストの第1章第6節をよく読む		
第14回	年金制度3 年金制度の現状と課題			(内 容) 少子化が年金制度に与える影響について。 (必要な準備) 人口構造が年金のかかりについて理解しておく		
第15回	まとめ			(内 容) これまで学習内容の復習 (必要な準備)		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する					

授業名	社会福祉行政	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Social Welfare Administration	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	流石 智子	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	<p>1) 社会福祉の運営について、諸機関ならびに、そこで働く専門職の人がそれぞれの専門性について学ぶ。</p> <p>2) 社会福祉に関する行政の仕組み（各種社会福祉担当部局課、福祉事務所、児童相談所等）、社会福祉計画（高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画、児童育成計画、地域福祉計画等）の意義や目的について理解することを学ぶ。</p> <p>3) 国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、組織及び団体、専門職の役割等について学ぶ。</p>				
学習成果到達目標	<p>1) 社会福祉に関する行政の仕組みを理解できる。</p> <p>2) 社会福祉行政の実施体制を理解し、その現状を把握することができる。</p> <p>3) 社会福祉計画（高齢者福祉計画、障害者福祉計画、児童福祉計画、地域福祉計画等）の意義や目的について理解することができる。</p>				
評価方法	定期試験 (70%)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(思考・判断力) <input type="/> ()			
テキスト	畑本祐介著『社会福祉行政・行財政と福祉計画』法律文化社 2012年				
参考書	授業にて指示する				
留意事項	現状分析ができるように、新聞等から社会の動きを常に理解しておく。課題として、自分が住んでいる自治体の社会福祉計画について調べたりすることがある。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	社会福祉とは		(内 容) 社会福祉を理解するために (必要な準備) 新聞などから社会の現状を知っておく。		
第2回	社会福祉行政の定義		(内 容) 行政・財政の理解、それと福祉の関係 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第3回	社会福祉行政と効率的		(内 容) 行政の効率について (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第4回	社会福祉行政の歴史		(内 容) 戦前、戦後の社会福祉行政の展開 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第5回	社会福祉制度と法制度		(内 容) 憲法と社会福祉法 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第6回	社会福祉財政		(内 容) 地方財政の仕組み・社会福祉財源の動向 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第7回	社会福祉行政の実施体制①社会福祉行政の置かれた環境		(内 容) 地方分権改革と地方福祉行政 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第8回	社会福祉行政の実施体制②福祉事務所など		(内 容) 福祉事務所の業務と課題 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第9回	社会福祉行政の実施体制③社会福祉協議会など		(内 容) 社会福祉協議会の業務と課題 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第10回	社会福祉行政の実施体制④社会福祉法人など		(内 容) 老人福祉計画と介護保険事業計画 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第11回	社会福祉計画とは何か		(内 容) 社会福祉計画の類型、歴史、実施など (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第12回	社会福祉計画①高齢者と障害者		(内 容) 高齢者福祉の計画と障害者福祉の計画 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第13回	社会福祉計画②児童と地域		(内 容) 児童福祉の計画と地域福祉計画など (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む		
第14回	社会福祉行政のこれから①社会保障体系		(内 容) 社会福祉と社会保険化 (必要な準備) 自分の考えをまとめる（課題等の理解）		
第15回	社会福祉行政のこれから②行政空間の変容		(内 容) 社会福祉行政の制度改革 (必要な準備) 自分の考えをまとめる（課題等の理解）		
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。				

授業名	権利擁護の実際		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Actual Conditions of Right Protection		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	大西 雅裕		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	ソーシャルワークと法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり、成年後見制度（後見人等の役割を含む）の概要とその実際、成年後見制度に関する権利擁護活動について理解することを目的とする。社会福祉協議会、法務局、家庭裁判所等の組織団体の役割及び関連する専門職の役割を認識する。具体的には、認知症高齢者、被虐待児・者、非行少年、ホームレス、知的障害者、精神障害者等への支援対応の実際について事例を通して学んでいく。講義形式を基本とするが、学生にも発表してもらう。					
学習成果到達目標	1) 相談援助活動と法制度について理解できる。 2) 人権と成年後見制度について理解できる。 3) 実際の事例を通して制度・支援の実際について理解できる。					
評価方法	定期試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (80 %) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (20 %) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	秋元美世・平田 厚(著)「社会福祉と権利擁護- 人権のための理論と実践」(有斐閣アルマ)					
参考書	額田洋一監修 「成年後見制度とは・・・」社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度 第4版 中央法規出版 その他適宜紹介する					
留意事項	積極的な学習態度で授業にのぞむこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンスと権利擁護		(内 容) ガイダンスと権利擁護について (必要な準備) 基本的人権について予習する			
第2回	法制度についての理解を深める		(内 容) 日本の法体系について理解する (必要な準備) 日本国憲法について予習する			
第3回	成年後見制度はなぜ必要なのか		(内 容) 成年後見制度の背景を知る (必要な準備) 身近な人権について予習する。			
第4回	成年後見制度の概要(あらまし)		(内 容) 制度の概要を知る (必要な準備) 制度の概要について予習する			
第5回	補助制度について		(内 容) 補助制度の概要 (必要な準備) 補助人等について予習する			
第6回	保佐制度について		(内 容) 保佐制度の概要 (必要な準備) 保佐人等について予習する			
第7回	後見制度について		(内 容) 後見制度の概要を知る (必要な準備) 制度についての事前学習をする			
第8回	成年後見人等と成年後見監督人等		(内 容) 後見人の選任とその監督人について知る (必要な準備) 後見人について予習する			
第9回	制度の利用手続き		(内 容) 制度利用の流れを知る (必要な準備) 機関組織について予習する			
第10回	権利擁護に関わる機関		(内 容) 家庭裁判所等の機関について知る (必要な準備) 機関等の役割内容を予習する			
第11回	任意後見制度・日常生活自立支援事業について		(内 容) 高齢者の人権について考える。 (必要な準備) 事例について予習してくる			
第12回	権利擁護に関わる障害者事例の検討		(内 容) 障害者事例を通して考える (必要な準備) 事例の予習をする。			
第13回	権利擁護に関わる高齢者事例の検討		(内 容) 事例を通しての理解 (必要な準備) 事例について事前学習する			
第14回	人権侵害についての権利擁護活動の実際		(内 容) 人権侵害事例の検討 (必要な準備) 事例について事前学習する			
第15回	成年後見制度とそのまとめ		(内 容) まとめ (必要な準備) 全体について質問項目を考える			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する等で対応します。					

授業名	男女共同参画社会論	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Gender Equality	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	斧出 節子	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	男女が共同参画しながら社会を形成していくことは、男女平等を達成するために必要であるとともに、ポスト経済成長時代の社会形成にも重要である。グローバル化、脱工業化といった社会の仕組みが変化するにしたがって、なぜ男女共同参画が重要となってくるのかを、ジェンダー・人権という視点を基底におきながら考える。男女共同参画の現状は諸領域においてどのような状況であるのかを検証し、これからの課題を探る。				
学習成果到達目標	1) 日本社会の男女共同参画の現状について、国際動向に照らし合わせながら理解できる。 2) 受講生一人一人が、男女共同参画社会の担い手になる自覚をもつことができる。 3) 具体的な課題を設定し、その課題解決に向けての提言ができるようになる。				
評価方法	定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (積極的な授業への取り組み) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『未来をひらく男女共同参画—ジェンダーの視点から』西岡正子編 (ミネルヴァ書房)				
参考書	随時紹介する				
留意事項	参加型の授業を目指すので、授業内での積極的な発言を求める。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション—男女共同参画とは—	(内 容) ジェンダー概念について考える。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。			
第2回	メディアと男女共同参画: 幼児期の社会化	(内 容) 幼児期のジェンダー化について理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第3回	メディアと男女共同参画: アニメ	(内 容) アニメが子どもに与える影響を考える。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第4回	教育における男女共同参画: 教科書	(内 容) 教科書における男女共同参画について考える。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第5回	教育における男女共同参画: 隠れたカリキュラム	(内 容) 隠れたカリキュラムについて理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第6回	性暴力	(内 容) 性暴力の実態から男女共同参画社会を考える。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第7回	DV(ドメスティック・バイオレンス)	(内 容) 家庭内の暴力について考える。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第8回	ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画	(内 容) ワーク・ライフ・バランスについて理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第9回	男女共同参画社会の子育て: 母親	(内 容) 母親の子育ての現状を理解する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。			
第10回	男女共同参画社会の子育て: 父親	(内 容) 父親の子育ての現状を理解する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。			
第11回	男女共同参画社会における子育て支援の仕組み	(内 容) 北欧の子育て支援のしくみを学ぶ。 (必要な準備) 自分にとっての「優先課題」を決めてくる			
第12回	「課題解決型企画」のワークショップ	(内 容) グループで課題設定し、企画書について学ぶ。 (必要な準備) 企画する「課題」設定を考えてくる。			
第13回	各自のアクションプランの発表①	(内 容) これまでの復習と学んだことを発表する。 (必要な準備) 発表の準備をしてくる。			
第14回	各自のアクションプランの発表②	(内 容) これまでの復習と学んだことを発表する。 (必要な準備) 発表の準備をしてくる。			
第15回	全体のまとめと振り返り	(内 容) これまでのまとめと振り返りをする。 (必要な準備) 各自、授業を振り返っておく			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください				

授業名	情報ネットワーク論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Infomation Network	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	堀出 雅人	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	情報ネットワークの急速な発展は、社会に様々な変化を起こすとともに、大きな可能性を秘めている。その反面、これまでにはない新たな社会問題にも直面する。授業では、情報ネットワークに対する幅広い基礎知識との活用力の育成が求められている。テキストでの学習を踏まえ、授業の後半は、グループ学習を導入して、わたしたちの暮らしと情報ネットワークの関係をケーススタディによって知識・理解を深める。その中で、情報倫理と情報の安全性を厳守し、情報ネットワークを利用できることをめざす。				
学習成果到達目標	1) 普段利用している情報ネットワークの仕組みを理解する 2) 情報ネットワークの活用や安全性を考えたり、専門家に質問したりできるようになる				
評価方法	定期試験 (60 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	草野真一 (2014) メールは届くのか—インターネットのしくみがよくわかる, 講談社				
参考書	その他、適宜、授業中に紹介する				
留意事項	定期試験 60%、平常試験 40%の割合で評価する。平常試験 40%のうち、20%が授業でのグループ学習の成果、15%が毎回授業時に提出をもとめるコメントカード、5%が授業への貢献 (発言、進行促進など)				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	情報ネットワークの基礎① インターネットの誕生と発展を説明できる		(内 容) インターネットの歴史を学ぶ (必要な準備) シラバスを読んでくる		
第2回	情報ネットワークの基礎② デジタルデータの特徴を説明できる		(内 容) デジタルデータの特徴について学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト pp.14~29		
第3回	情報ネットワークの基礎③ ネットワークのプロトコルの必要性を説明できる		(内 容) プロトコルについて学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト pp.30~41		
第4回	情報ネットワークの仕組み① ウェブページを閲覧できる仕組みを説明できる		(内 容) ウェブページの閲覧ができる仕組みを学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト pp.44~58		
第5回	情報ネットワークの仕組み② 電子メールの通信の仕組みを説明できる		(内 容) 電子メールが届く仕組みを学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト pp.58~86		
第6回	情報ネットワークの仕組み③ クラウドサービスの特徴と危険性を説明できる		(内 容) クラウドサービスの特徴について学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト pp.88~119		
第7回	情報ネットワークの仕組み④ パケット通信とIP アドレスについて説明できる		(内 容) パケット通信とIP アドレスについて学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト pp.122~160		
第8回	情報ネットワークの仕組み⑤ プロトコルとOSI 参照モデルについて説明できる		(内 容) OSI 参照モデルについて学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト pp.160~184		
第9回	情報ネットワークのトラブル① 著作権・肖像権侵害の事例と対策を説明できる		(内 容) 著作権と肖像権を学ぶ/グループ学習① (必要な準備) ビジネスと情報ネットワークの事例を調査		
第10回	情報ネットワークのトラブル② 個人情報の流出の事例と対策を説明できる		(内 容) 個人情報の流出を学ぶ/グループ学習② (必要な準備) 教育と情報ネットワークの事例を調査		
第11回	情報ネットワークのトラブル③ SNS の炎上の事例と対策を説明できる		(内 容) SNS の炎上について学ぶ/グループ学習③ (必要な準備) 医療・福祉と情報ネットワークの事例を調査		
第12回	情報ネットワークのトラブル④ PC ウィルスの事例と対策を説明できる		(内 容) PC ウィルスについて学ぶ/グループ学習④ (必要な準備) 災害と情報ネットワークの事例を調査		
第13回	情報セキュリティ① データの安全性を守る技術的対策を説明できる		(内 容) データの安全性について学ぶ/グループ学習⑤ (必要な準備) まちづくりと情報ネットワークの事例を調査		
第14回	情報セキュリティ② 簡単なセキュリティ対策を実践できる		(内 容) セキュリティについて学ぶ/グループ学習⑥ (必要な準備) 自らの日常と情報ネットワークの関係を考察		
第15回	グループ学習の成果報告ができる 自己評価・相互評価ができる		(内 容) グループ学習の成果発表 (必要な準備) グループ発表の準備		
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み (研究室: 1号館3階)				

授業名	社会調査の基礎		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Basics of Social Survey		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	湯浅 俊郎		対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解することを目的とする。社会調査の歴史の変遷を押さえながら、その意義と調査方法としての「量的調査」(全数調査・標本調査・横断調査・縦断調査等)、「質的調査」(観察法・面接法等)の基本をふまえ、社会調査の方法(郵送法、留め置き法、訪問聴き取り法等)とその活用方法(社会福祉サービスの再考、社会福祉計画の策定等)について概観する。講義形式の授業を通して、社会調査の倫理、社会調査における個人情報保護の重要性についても教授する(授業の進展度合いにより予定の変更もあります)。					
学習成果到達目標	1) 社会調査の種類や方法・手順が理解できるようになる。 2) 調査設計の流れが理解できるようになる。 3) 新聞などマスコミが公表している調査結果の妥当性など検討することができるようになる。					
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()				
テキスト	玉野和志,2008,『実践社会調査入門-今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社.					
参考書	適宜、紹介します。					
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション			(内 容) 授業の進め方について説明します。 (必要な準備)		
第2回	社会調査にできること			(内 容) 社会調査の内容について説明します。 (必要な準備) 社会調査と聞いてイメージできることを整理してきてください。		
第3回	社会調査とはどんなものか			(内 容) 社会調査の3つの方法について (必要な準備) 聞き取り、書かれた資料、アンケートなど、身の回りで行われている調査の例を取ってきてください。		
第4回	聞き取り調査の方法			(内 容) インタビューについて (必要な準備) インタビュー記事など収集してきてください。		
第5回	書かれた資料の収集と分析			(内 容) 文献調査について (必要な準備) 生活史の例など収集してきてください。		
第6回	アンケート調査について			(内 容) アンケート調査の方法について (必要な準備) 新聞の世論調査など調べてきてください。		
第7回	サンプリングについて			(内 容) 対象者の選択の方法について (必要な準備) 新聞の世論調査など、どのように対象者を選んでいるのか、調べてきてください。		
第8回	統計的検定について			(内 容) 統計的な検定の考え方について (必要な準備) 全数調査とサンプリング調査の違いについて整理してきてください。		
第9回	アンケートの質問文のつくりかたについて—ワーディングの問題			(内 容) 質問文のつくりかたについて (必要な準備) 世論調査など、どのような質問文が出されているのか、調べてきてください。		
第10回	アンケートの作成Ⅰ—テーマの設定			(内 容) アンケート作成時におけるテーマの設定について (必要な準備) アンケート調べてみたい自分の関心のあることを決めてきてください。		
第11回	アンケートの作成Ⅱ—先行調査のアンケートを見る			(内 容) アンケート作成時における他のアンケートの参考の仕方について (必要な準備) 自分の関心のあることに関する先行のアンケートの調査票を収集してきてください。		
第12回	アンケートの作成Ⅲ—質問文を作成する。			(内 容) 質問文の作成 (必要な準備) 他のアンケートの質問文を参照しながら、質問文を作成してきてください。		
第13回	平均値の差の分析について			(内 容) 平均値の分析の仕方について (必要な準備) 平均、偏差の内容について、復習してきてください。		

第 14 回	クロス集計について	(内 容) クロス集計について (必要な準備) 単純集計からの展開について考えてきてください。
第 15 回	総括	(内 容) 総括 (必要な準備) これまでの学習を振り返ってきてください。
オフィス アワー	毎週 1 回 (休業期間中を除く。) オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。	

授業名	消費者調査法	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Consumer Survey	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	湯浅 俊郎	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	これまで、消費者は、製品の情報をテレビや雑誌などのマスメディアや知人から得ていました。それが今日では、全く会ったことのない人のブログを読み、その人のコメントにひかれてネットから簡単にモノを買うようになりました。インターネットの普及により、個人がアクセスできる情報は増え、情報は「企業から消費者」という流れだけでなく、「消費者から消費者」へと展開するようになっていきます。そのような時代になっても「欲しい」と感じてもらえる消費をつくるためには、どのようなニーズがあるのか分かる必要があります、リサーチはそのために有効な手段です。本授業では、リサーチの手順・仕方について学びます。				
学習成果到達目標	1) マーケティングにおける調査設計の流れが分かるようになる。 2) マーケティングに関するデータを読むことができるようになる。 3) マーケティングに関わる妥当な資料を収集することができるようになる。				
評価方法	定期試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	玉野和志,2008,『実践社会調査入門-今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社.				
参考書	適宜、紹介します。				
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について説明します。 (必要な準備)			
第2回	分析とは何か	(内 容) 分析とは何かについて説明します。 (必要な準備) 自分の関心のあることを整理してきてください。			
第3回	調査設計の準備について	(内 容) 調査設計の内容について説明します。 (必要な準備) 自分の関心のあることを整理してきてください。			
第4回	観察・聞き取りの手順について	(内 容) 観察・聞き取りの手順について (必要な準備) 自分の関心のあることについて、観察やインタビューをする対象について整理してきてください。			
第5回	アンケート調査の進め方-手法について	(内 容) アンケート調査の手法について (必要な準備) 自分の関心のあることに関する調査票を収集してきてください。			
第6回	データの捉え方	(内 容) データの捉え方について (必要な準備) 家計調査の内容について調べてきてください。			
第7回	グラフ化について	(内 容) データのグラフ化について (必要な準備) 自分の関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書を比較してみて、どのようなグラフが示されているのか整理してきてください。			
第8回	文章化について	(内 容) データの文章化 (必要な準備) 自分の関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書の結果を比較してみて、どのようにまとめられているのか整理してきてください。			
第9回	政府による統計データを利用するⅠ	(内 容) 信頼性の高いデータについての見極め方 (必要な準備) 家計調査の中で、自分の関心のあることについて調べてみてください。			
第10回	政府による統計データを利用するⅡ	(内 容) 統計データの加工の仕方について (必要な準備) 家計調査の中で、興味・関心のあるデータを、いくつか見つけてください。			
第11回	政府による統計データを利用するⅢ	(内 容) データの結果におけるディスカッション (必要な準備) 収集してきたデータを整理して、そのデータが示す内容について記述してきてください。			

第 12 回	仮説をたてる	(内 容) 仮説のたてかたについて (必要な準備) これまで整理してたデータを参照しながら、仮説をたててみてください。
第 13 回	検証する	(内 容) 検証の仕方について (必要な準備) 仮説の検証をしてきてください。もし、仮説にあてはまらなかった場合、その原因も考えてきてください。
第 14 回	報告書の作成	(内 容) 報告書の作成について (必要な準備) 仮説をたて、検証した結果について整理してきてください。
第 15 回	総括	(内 容) 総括 (必要な準備) これまでの学習を振り返ってきてください。
オフィス アワー	毎週 1 回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。	

授業名	経営学総論	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Outline of Business Administration	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	中西 孝平	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	経営学入門テキストを利用して講義を進める。できるだけ易しく、理解し易いように工夫をしたい。具体的な企業事例を利用し、現代の企業経営の概要を把握する。テキストとスライドを用いる。「交流の場」登場をお願いします。				
学習成果到達目標	1) 日本の大企業、中小企業の特徴や、経営の特徴について、述べるができる。 2) 企業や経営について、具体的にイメージし、経営戦略が構築できる力を身に付ける。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 (<input checked="" type="checkbox"/> 授業での質疑応答による理解力と回答力) <input type="checkbox"/>				
テキスト	上林憲雄ほか著『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス。				
参考書	授業中に紹介する。				
留意事項	「交流の場」に登場してもらい、Q&Aの力や、プレゼン力を身に付けてもらう。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	経営学と現代家政学、経営学の特徴、企業経営入門(補章、第1章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。補章、第1章を予習。		
第2回	会社はどのように社会に役立っているのか(企業)(第2章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第2章を予習。		
第3回	会社は誰が動かしているのか(コーポレート・ガバナンス)(第3章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第3章を予習。		
第4回	会社はどのような方針で動いているのか(経営理念と戦略)(第4章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第4章を予習。		
第5回	会社はどんな仕組みで動いているのか(組織形態)(第5章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第5章を予習。		
第6回	会社は他の会社とどのように協力しているのか(組織間関係)(第6章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第6章を予習。		
第7回	会社はどのようにモノを作るのか(生産管理)(第7章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第7章を予習。		
第8回	社員はどのようにして分担しているのか(職務構造と職務設計)(第8章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第8章を予習。		
第9回	社員はなぜ働くのか(モチベーションとリーダーシップ)(第9章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第9章を予習。		
第10回	社員はなぜ組織にとどまろうとするのか(雇用システム)(第10章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第10章を予習。		
第11回	社員はどのような報酬を求めるのか(報酬制度)(第11章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第11章を予習。		
第12回	社員はどのようにして育てられるのか(人材育成制度)(第12章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第12章を予習。		
第13回	会社はどのようにしてモノを売るのか(マーケティング)(第13章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第13章を予習。		
第14回	会社は海外でどのようにして経営しているのか(国際経営)(第14章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第14章を予習。		
第15回	会社の利益はどのようにして測定するのか(会計制度)(第15章)		(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストを用意。第15章を予習。		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授業名	循環型社会論	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Resource-circulating Society	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	湯浅 俊郎	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	今日、私たちは、多くのモノを生産、消費しながら生活している。そのような私たちの生活が自然の循環システムに乗っている状況では、問題は生じていなかった。ヒトは自然の循環システムに乗らなくなったモノを作り出し、私たちは、廃棄物が大量に発生する状況に置かれている。このように自然に再生されない資源を私たちが多量に消費し続ける状況を脱するために、私たちの社会そのもののありかたを転換しなければならない。その転換の道筋が循環型社会と言われているが、その具体的な姿はまだ見えてきていない。授業では循環型社会の形成における課題について、その入門編を目指します。				
学習成果到達目標	1) 物事を観察する力を身につけ、環境問題に関して自分の日常生活と結びつけながら、循環型社会のありかたについて「自分なり」に客観的に捉えて分析して、試みられる力を身につけることができるようになる。 2) 現代のライフスタイルを客観的に見ることができるようになる。 3) 環境に関するデータを読むことができるようになる。				
評価方法	定期試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	授業時に資料を配布します。				
参考書	『環境の社会学』、関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求、有斐閣アルマ、『サステナビリティ学③ 資源利用と循環型社会』、小宮山宏・武内和彦・住 明正・花本啓祐・三村信男、東京大学出版会				
留意事項	日常生活においても、資源のリサイクルの取り組みなどに注目し、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題（ミニツツペーパー）にも、その成果を出せるようにする。（授業の進捗度合いにより予定の変更もある）				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の内容と進め方について説明します。 (必要な準備)			
第2回	環境問題の社会史Ⅰ -産業公害から高速交通公害	(内 容) まず、環境問題の社会史を見ていき、資源循環型社会が求められる要因を考察していきます。 (必要な準備) 自分の身の回りにおいて生じている環境問題を整理してください。			
第3回	環境問題の社会史Ⅱ -生活公害から地球環境問題	(内 容) 現代における環境問題を説明します。 (必要な準備) 現代では、どのような環境問題が起こっているのか、自分で整理してみてください。			
第4回	開発と環境問題の歴史Ⅰ	(内 容) 今から半世紀前から始まった高度経済成長以前の開発による環境問題について考察します。 (必要な準備) 現代のライフスタイルの中で、何が環境問題の原因となっているのか整理してみてください。			
第5回	開発と環境問題の歴史Ⅱ	(内 容) 高度経済成長期以降の開発による環境問題を考察していきます。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、環境問題について考察してみてください。			
第6回	開発と環境問題の現状	(内 容) 開発による環境問題の現状について説明します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、現在の環境問題へと至ったプロセスについて整理してみてください。			
第7回	地球環境問題Ⅰ	(内 容) 地球環境問題の概要について説明します。 (必要な準備) 講義資料を読んで来ててください。			
第8回	地球環境問題Ⅱ	(内 容) 地球環境問題の特徴について説明します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、これまでの環境問題と地球環境問題との違いについて考察してみてください。			
第9回	リスク社会	(内 容) 近年議論されている科学技術の発展と自然環境の問題におけるリスクについて説明します。 (必要な準備) 講義資料を読んで来ててください。			

第 10 回	科学技術の発展と自然環境問題の特徴	(内 容) 科学技術の発展と環境問題との関係の特徴について説明します。 (必要な準備) 自分の日常生活を振り返って、科学技術と環境の問題について整理してください。
第 11 回	循環型社会への取組Ⅰ--生活様式の転換	(内 容) 循環型社会に向けた生活様式の転換について考察します。 (必要な準備) 自分の生活様式(ライフスタイル)を振り返りながら、循環型社会への課題について考えてみてください。
第 12 回	循環型社会への取組Ⅱ-自然と社会をデザインする。	(内 容) 生物多様性の問題について考察します。 (必要な準備) 生態系の問題について調べてきてください。
第 13 回	循環型社会への取組Ⅲ-コウノトリの野生復帰	(内 容) 豊岡市の事例について考察します。 (必要な準備) 生態系を再生するメリットについて考えてきてください。
第 14 回	効率よいエネルギー利用とは	(内 容) 効率よいエネルギー利用について考察します。 (必要な準備) 省エネなど自分の日常生活において、どのようなことが実践できるのか考えてみてください。
第 15 回	循環型社会の形成に向けて	(内 容) 総括として、循環型社会の形成に向けた課題について考察します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、自分なりに循環型社会の形成に向けた課題について考察してみてください。
オフィス アワー	毎週 1 回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。	

授業名	多文化共生論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Multiculturalism	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	秋山 裕之	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	世界中の多くの国々と同様に、現代日本社会は多文化社会である。人種・民族・言語・宗教・文化などの異なる多様な人々が一つの国・地域で共に生きるための「相互の承認と受容」はいかにして可能となるか。一方、経済活動や情報のネットワークがグローバル化した現代においては、地球全体を多文化社会とみなすこともできよう。本授業では、多文化共生のためのたしかな視座を得るための基礎概念について解説する。また、多文化状況に関する歴史的・現代的事象について概観し、現代日本社会の現状と将来について考察する。				
学習成果到達目標	1) 「学習項目」と「学習内容」欄に記載のキーワードを正しく理解し、多文化状況がもたらしたさまざまな事象について知識を深める。 2) 多文化共生のための方法について自ら考え、現代日本における多文化状況の将来を展望できるようになる。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	<input type="checkbox"/> ()
テキスト	なし (プリント配布)				
参考書	多文化共生キーワード事典編集委員会 (編) 2011『多文化共生キーワード事典』明石書店				
留意事項	座席は指定します。予習必須。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション～文化について		(内 容) 本授業の進め方について、文化について (必要な準備) シラバスを読んでくる		
第2回	文化とグローバリゼーション		(内 容) 文化の定義 (必要な準備) 文化とは何か調べ、考えてくる		
第3回	文化とマイノリティ I アメリカなど		(内 容) 多文化状況の発生過程 (必要な準備) キーワード予習		
第4回	文化とマイノリティ II 難民・先住民など		(内 容) 難民、先住民、セクシャルマイノリティ (必要な準備) キーワード予習		
第5回	移民と日本人		(内 容) 移民国家、日本人移民、移民政策 (必要な準備) キーワード予習		
第6回	在日外国人 I 在日コリアンなど		(内 容) 在日コリアン、日系ブラジル人 (必要な準備) キーワード予習		
第7回	在日外国人 II 国際結婚など		(内 容) 国際結婚、難民政策 (必要な準備) キーワード予習		
第8回	教育 I 識字・民族学校など		(内 容) 識字、民族学校、母語・継承語 (必要な準備) キーワード予習		
第9回	教育 II ニューカマー教育など		(内 容) ニューカマー、バイリンガル、開発教育 (必要な準備) キーワード予習		
第10回	政府・自治体 I 外国人施策など		(内 容) 外国人施策、社会保障、国籍条項 (必要な準備) キーワード予習		
第11回	政府・自治体 II 外国人登録など		(内 容) 外国人登録、在留資格、戸籍 (必要な準備) キーワード予習		
第12回	市民運動・NPO I 戦後補償など		(内 容) 戦後補償、民族差別、市民権 (必要な準備) キーワード予習		
第13回	市民運動・NPO II ボランティアなど		(内 容) ボランティア、エンパワーメント、NPO (必要な準備) キーワード予習		
第14回	外国人から見る日本文化		(内 容) 文化の相対化・客体化 (必要な準備) キーワード予習		
第15回	多文化共生の現状と課題		(内 容) EUの移民問題と日本の現状 (必要な準備) 配布資料を読んで考えてくる。		
オフィスアワー	週に1時間×2回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。				

授業名	経済統計学	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Statistics	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	中西 孝平	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	統計学は、ビジネスの様々な場面のみならず、社会の多くの場面で使われている。そのため、現代家政学部の卒業生には将来、市場調査やその他の社会的な調査を設計し、統計学的な処理・分析ができることが期待される。そこで、この授業では、統計学の基礎的な知識を、ビジネスの様々な局面を想定しながら身につけていく。				
学習成果到達目標	1) 統計学の基礎がわかる。 2) 解析したデータの意味するところが理解できるようになる。				
評価方法	定期試験 (40 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (計算する力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	プリントを適宜配布する。				
参考書	授業中に紹介				
留意事項	一度欠席すると、次回の内容理解が困難になる。また、毎回復習を怠らないこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	統計学とはどのような学問か	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第2回	統計学の基礎①	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第3回	統計学の基礎②	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第4回	統計学の基礎③	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第5回	標本分布の特性値	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第6回	確率と確率分布	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第7回	確率と確率分布	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第8回	一様分布と正規分布	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第9回	一様分布と正規分布	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第10回	T分布と母平均の推定	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第11回	X二乗分布と母標準偏差の推定	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第12回	仮説検定①	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第13回	仮説検定②	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第14回	相関分析	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
第15回	回帰分析	(内 容) プリント等を利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授 業 名	都市と農村	開講学年	3回生	単位数	2単位
英 文 名	City and Farming Village	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	湯浅 俊郎	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	「都市とは何か」という定義に関する歴史的な変遷と、日本の伝統的な農村社会のあり方についての把握を出発点として、地域社会の変容過程を理解していくために次のことを考察していく。講義形式の授業を通して、まず、日本の都市化の過程における都市－農村関係について、日本の農山漁村からの都市移住者の定住過程を視点を考察していく。次に、現在、グローバル化に伴う都市化の結果として生じた東京一極集中による地域間格差の問題が生じている中で、都市と農村は、どのような空間的・社会的な変容を遂げていったのかを考察していく。				
学 習 成 果 到達目標	1) 現代の地域社会の問題を、自分の日常生活の問題とつなげて考察することができるようになる。 2) 自分の住んでいる地域の景観や人間関係のありかたについて、自分なりの分析ができるようになる。 3) 地域社会に関するデータや資料などを読むことができるようになる。				
評価方法	定期試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (60 %) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (40 %) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テ キ ス ト	適宜、講義資料を配布します。				
参 考 書	『都市の社会学－社会がかたちをあらわすとき』町村敬志・西澤晃彦、2000、有斐閣アルマ				
留 意 事 項	積極的・主体的な学習参加を期待する（授業の進展度合いにより予定の変更もある）。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第 1 回	ガイダンス	(内 容) 授業についての説明 (必要な準備)			
第 2 回	都市化とは何か？Ⅰ	(内 容) 都市を定義することについて説明します。 (必要な準備) 「都会」の条件について考えてきてください。			
第 3 回	都市化とは何か？Ⅱ	(内 容) 「都市」の定義について人間関係からのアプローチについて説明します。 (必要な準備) 自分の住んでいる地域に人間関係について調べてください。			
第 4 回	都市化とは何か？Ⅲ	(内 容) 「都市」の定義について、専門機関の立地からのアプローチについて説明します。 (必要な準備) ファッションなど流行を発信する機関は、どのような場所にあるか、整理してきてください。			
第 5 回	伝統的な農村社会Ⅰ	(内 容) 自然村について説明します。 (必要な準備) 「田舎」のイメージについて整理してきてください。			
第 6 回	伝統的な農村社会Ⅱ	(内 容) 伝統的な農村社会における住民のまとまりのありかたについて説明します。 (必要な準備) 自分の住んでいる地域において「田舎」的なことを整理してきてください。			
第 7 回	日本社会における農村から都市への人口移動Ⅰ	(内 容) 日本社会における農村から都市への人口移動について、その実態を説明します。 (必要な準備) 自分の家族のルーツを調べてきてください。			
第 8 回	日本社会における農村から都市への人口移動Ⅱ	(内 容) 農村から都市への人口移動の結果、地域社会はどのように変容していったのか説明していきます。 (必要な準備) 自分の住んでいる地域住民組織について調べてきてください。			
第 9 回	郊外化Ⅰ	(内 容) 都市化から郊外化への展開について説明します。 (必要な準備) 買い物など目的に応じて出かける場所を整理してきてください。			
第 10 回	郊外化Ⅱ	(内 容) ニュータウン開発が与える地域社会の影響について説明します。 (必要な準備) ニュータウンと呼ばれている地域を整理してきてください。			
第 11 回	都心への人口回帰	(内 容) 郊外化から都心への人口回帰という過程について説明します。 (必要な準備) 駅前など中心地域の特徴について整理してきてください。			
第 12 回	グローバリゼーション	(内 容) グローバリゼーションという現象について説明します。 (必要な準備) 服や電化製品など日用品の製造元について整理してきてください。			

第 13 回	都市再生の問題	(内 容) 地域格差の問題として、地方都市の現状について説明します。 (必要な準備) 活性化している場と衰退していると思う場を整理してきてください。
第 14 回	世界都市の形成	(内 容) 世界都市について説明します。 (必要な準備) 関西と関東の違いについて整理してきてください。
第 15 回	創造都市の形成	(内 容) 創造都市について説明します。 (必要な準備) 現代芸術を取り込む試みを行っている地域を調べてきてください。
オフィス アワー	毎週 1 回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。	

授 業 名	現代企業論	開講学年	3回生	単位数	2単位
英 文 名	Theory of Modern Company	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	中西 孝平	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	スタートアップからのステージごとの起業の成長戦略、企業組織、資金調達方法など、イノベーション主導型経済における企業のあり方について検討する。また、講義の内容を踏まえたディスカッションを通じて、受講者の様々な関心からのアウトプットによる課題解決型の講義とする。				
学習成果 到達目標	1) ディスカッションを通じて、課題解決能力の養成を図る。 2) プレゼンテーション能力の向上を図る。				
評価方法	定期試験 (40 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の 観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	()
テ キ ス ト	三枝省三・竹本拓治編著『アントレプレナーシップ教科書』中央経済社、2016年				
参 考 書	なし				
留 意 事 項	現代社会は刻一刻と変化し、多数の課題を抱えている。そのため、日頃より、報道番組やインターネット記事に着目して、現代社会の抱える問題性の把握に努めてほしい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第 1 回	オリエンテーション	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 1 章を予習			
第 2 回	アントレプレナーシップとイノベーション	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 2 章を予習			
第 3 回	起業戦略と社会的インパクト	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 3 章を予習			
第 4 回	現代社会における起業	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 4 章を予習			
第 5 回	起業のマーケティングと販路開拓	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 5 章を予習			
第 6 回	起業、スタートアップの組織づくりと人材育成	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 6 章を予習			
第 7 回	起業の資金調達	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 7 章を予習			
第 8 回	起業の財務管理	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 8 章を予習			
第 9 回	スタートアップから企業成長段階へ	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 9 章を予習			
第 10 回	サービス系のベンチャービジネス	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 10 章を予習			
第 11 回	社会起業のその方法	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 11 章を予習			
第 12 回	知的財産とベンチャー	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 12 章を予習			
第 13 回	起業の危機管理	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 13 章を予習			
第 14 回	現代社会における起業の役割・社会的責任	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 14 章を予習			
第 15 回	ビジネスプランの実際	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第 15 章を予習			
オフィス アワー	毎回授業終了後に実施する。				

授業名	公衆衛生学 a・b		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Public Hygienic		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	岩永 資隆、里村 一成		対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	社会や環境と健康との関係を理解するとともに、健康情報の利用方法、情報管理や情報処理について理解する。また保健・医療・福祉・介護システムの概要を理解し、地域医療の現状や地域ケアシステム等を学ぶ。					
学習成果到達目標	1) 社会や環境と健康との関係が理解できる。 2) 健康情報の利用方法、情報管理、情報処理を理解できる。 3) 保健・医療・福祉・介護のシステム概要を理解できる。					
評価方法	定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (100%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (分析力) <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	四訂公衆衛生学 後藤政幸、中村信也編 建帛社 (2015)					
参考書	プリント配布					
留意事項	日本、世界の健康情報に関心を持つこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	公衆衛生の意義・概要		(内 容) 健康、公衆衛生の定義について (必要な準備) 健康の改善、公衆衛生について考えておく			
第2回	環境と健康		(内 容) 生態系と人々の生活について (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく			
第3回	環境汚染と環境衛生		(内 容) 環境汚染が健康に及ぼす影響について (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく			
第4回	健康・疾病に関する統計資料		(内 容) 保健統計の概要と調査について (必要な準備) 保健統計について調べておく			
第5回	健康情報		(内 容) その利用方法、情報管理、情報処理 (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく			
第6回	健康状態・疾病の測定と評価		(内 容) 疫学概念と指標、方法 (必要な準備) 疫学の方法について調べておく			
第7回	生活習慣病以外の現状と対策		(内 容) 感染症等について (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく			
第8回	生活習慣病の現状と対策		(内 容) 生活習慣病の概念と健康日本 21 や健康づくりのための指針について (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく			
第9回	主要疾患と予防対策 I		(内 容) がん対策基本法を中心に悪性新生物について (必要な準備) 現状について調べておく			
第10回	主要疾患と予防対策 II		(内 容) メンタルヘルス等精神疾患等について (必要な準備) 現状について調べておく			
第11回	社会保障制度の概念		(内 容) 社会保障の概念と行政の仕組みについて (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく			
第12回	保健・医療・福祉・介護の制度 I		(内 容) それぞれの制度の成立から関連性について (必要な準備) 保健法規について調べておく			
第13回	保健・医療・福祉・介護の制度 II		(内 容) 健康医療戦略法を中心に学ぶ (必要な準備) これらの保険制度について調べておく			
第14回	保健・医療・福祉・介護の制度 III		(内 容) 地域医療等、地域ケアシステムを中心に学ぶ (必要な準備) これらの保険制度について調べておく			
第15回	健康日本 21 (第二次)		(内 容) 重症化予防と健康格差について (必要な準備) 健康日本 21 (第二次) を読んでおく			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。					

授業名	解剖・生理学 I a・b		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Anatomy and Physiology I		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	南山 求		対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	正常な人体の各組織・器官の構造とその機能および内部環境の恒常性の維持を保つためのシステムを学び、理解を深める。解剖・生理学 I では、構造とその機能を理解するために必要となる細胞・組織および消化器系、血液系、循環器系、泌尿器系、呼吸器系について学ぶ。					
学習成果到達目標	1) 人体を構成する各組織・器官の構造およびその機能について理解できる。 2) 細胞レベルから、臓器レベルまでの構造およびその機能について系統的に理解できる。					
評価方法	定期試験 (100%)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 ()	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	()	
テキスト	解剖生理学 高野廣子著 南山堂					
参考書	プリント配布					
留意事項	教科書を熟読し、授業で用いた資料やノートをよく整理する。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	細胞 (細胞の基本構造とその機能)			(内 容) 細胞一般、細胞膜について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第2回	組織 I (上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴)			(内 容) 上皮細胞と支持組織について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第3回	組織 II (筋組織、神経組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴)			(内 容) 筋組織、神経組織 (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第4回	身体の概要 I (各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の組織構造)			(内 容) 体内の各臓器・器官の位置および構造について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第5回	身体の概要 II (各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の機能の概説)			(内 容) 体内の臓器・器官の機能について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第6回	消化器系 I (消化器系の構成と働き、咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組み)			(内 容) 咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組みについて (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第7回	消化器系 II (肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能)			(内 容) 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第8回	消化器系 III (食べ物の消化・吸収の仕組み)			(内 容) 消化吸収の仕組みについて (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第9回	血液・造血器・リンパ系 I (血液・造血器・リンパ系の構成と働き)			(内 容) 血液・造血器・リンパ系の構成と働きについて (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第10回	血液・造血器・リンパ系 II (血漿たんぱく質、血液の凝固・線溶系の役割)			(内 容) 血液成分および凝固・線溶系の仕組みと役割について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第11回	循環器系 I (心臓・血管の構造とその機能)			(内 容) 心臓および血管の構造と機能について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第12回	循環器系 II (血圧・循環調節機構)			(内 容) 血圧維持および循環調節の仕組みについて (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第13回	泌尿器系 I (腎臓の構造と尿の生成機構)			(内 容) 腎臓の構造と尿の生成機構について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第14回	泌尿器系 II (腎に作用するホルモン・血管作動物質、排尿機構)			(内 容) 血圧維持にかかわる因子、排尿の仕組みなど (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第15回	呼吸器系 (呼吸器系の構造、気道・肺の構造と機能、呼吸運動、ガス交換、呼吸調節機構)			(内 容) 呼吸器系の概観、肺の構造とガス交換の仕組み (必要な準備) 教科書を読んでおく		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。					

授業名	生化学a・b	開講学年	1 回生	単位数	2単位
英文名	Biochemistry	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	柴田 克己	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	生体を構成する成分について、その構造と機能、遺伝子の発現と調節などを学び、正常な人体の仕組みについて分子および遺伝子レベルで理解していく。				
学習成果到達目標	1) 生体を構成する物質の性質および機能について理解できる。 2) 遺伝子の発現とその調節について理解できる。				
評価方法	定期試験 (100 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 観察力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力) <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力)	
テキスト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」改定第2版 菌田勝 編 羊土社				
参考書					
留意事項	栄養生化学の学習につながり、他の科目の基礎となる科目であるので復習をしっかりと行うこと。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	生体を構成する成分について		(内 容) 生体を構成する成分の特徴を知る (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第2回	タンパク質の種類と構造		(内 容) タンパク質の特性を構造から理解する (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第3回	アミノ酸について		(内 容) アミノ酸の種類と特性、反応性 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第4回	アミノ酸の配列と高次構造		(内 容) アミノ酸の配列と特性と高次構造の形成 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第5回	糖質の構造と機能		(内 容) 糖質の種類と構造特性と機能 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第6回	脂質の構造		(内 容) 脂質の種類と構造特性と機能 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第7回	リン脂質と糖脂質の構造と機能		(内 容) リン脂質の種類と構造特性と機能 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第8回	体液の組成		(内 容) 体液の組成特性と機能、 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第9回	ミネラルの機能		(内 容) 体成分としてのミネラルの機能、 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第10回	生体膜と物質輸送		(内 容) 生体膜の構造特性と物質輸送の仕組み (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第11回	電子伝達系		(内 容) 酸化とエネルギー発生の仕組み、電子伝達系 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第12回	酸化的リン酸化		(内 容) エネルギー伝達、酸化的リン酸化と ATP (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第13回	染色体とDNA		(内 容) 染色体の構造特性とDNA (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第14回	遺伝子の転写と調節		(内 容) 遺伝子の転写と調節、タンパク質合成 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第15回	遺伝子多型について		(内 容) 遺伝子多型と表現型 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授業名	栄養生化学	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Nutritional Biochemistry	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	田代 操	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	本講義では、生化学で学んだ生体を構成する成分について、体内での代謝とそれらの成分の相互関係およびホメオスタシスの仕組みについて分子・遺伝子レベルで学び、解剖生理学で学ぶ個体レベルでの生体の機能とあわせ正常な人体の構造と機能について理解していく。				
学習成果到達目標	1) 生体成分の代謝について相互の関連性ととも理解できる。 2) 生体成分のホメオスタシスについて理解できる。				
評価方法	定期試験 (100%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 () <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用力) ()			
テキスト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」改定第2版 藺田勝 編 羊土社				
参考書					
留意事項	生化学の復習をしっかりとしておくこと				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	生体成分と代謝について	(内 容) 生体成分の特性と代謝の仕組み (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第2回	酵素について①種類と役割、活性の調節	(内 容) 酵素の種類と役割、活性の調節 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第3回	酵素について②生成の遺伝子における調節機構	(内 容) 酵素の遺伝子における調節機構 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第4回	情報伝達の経路	(内 容) 情報伝達の仕組みと経路 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第5回	核酸の代謝	(内 容) 核酸の役割と代謝の仕組み (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第6回	アミノ酸・タンパク質の遺伝子による代謝調節	(内 容) アミノ酸・タンパク質の遺伝子による代謝調節 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第7回	糖質の代謝	(内 容) 糖質の代謝の仕組み、エネルギーの発生 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第8回	脂質の代謝①脂肪酸・トリグリセリドの合成と分解	(内 容) 脂肪酸・トリグリセリドの合成と分解 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第9回	脂質の代謝②不飽和脂肪酸の代謝とエイコサノイドの代謝	(内 容) 不飽和脂肪酸の代謝とエイコサノイドの代謝 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第10回	脂質の代謝③コレステロールの代謝	(内 容) コレステロールの役割と代謝 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第11回	糖質・脂質・アミノ酸代謝の相関①生体成分の合成	(内 容) 生体成分の合成 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第12回	糖質・脂質・アミノ酸代謝の相関②エネルギーの生成	(内 容) エネルギーの生成経路とメカニズム (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第13回	ホメオスタシスの仕組み①フィードバック機構	(内 容) ホメオスタシスとフィードバック機構 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第14回	ホメオスタシスの仕組み②体液、電解質のバランス	(内 容) ホメオスタシスと体液、電解質のバランス (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第15回	免疫にかかわる生体成分	(内 容) 免疫の仕組みと生体成分 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授業名	生化学実験a・b	開講学年	1 回生	単位数	1 単位
英文名	Experiment of Biochemistry	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	柴田 克己	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	本科目では、生化学で学んだ個体を構成する成分について実験を通してその特質を確認し、正常な人体の仕組みについて理解を深めていく。また遺伝子多型に関する実験を通して遺伝子の発現に関する理解を深めていく。				
学習成果到達目標	1) 生体を構成する成分について深く理解できる。 2) 生体における遺伝子の発現について理解できる。				
評価方法	定期試験 (70 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> 観察力) <input 5"="" type="checkbox/>(</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 栄養生理学・生化学実験(栄養科学シリーズ NEXT) 加藤秀夫・木戸康博・桑波田雅士 編 講談社サイエンティフィック			
参考書					
留意事項	実験後レポートを作成し、次週 に提出する。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション (実験についての注意事項、レポート作成についてなど)	(内 容) 実験についての注意事項、レポートの作成法 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第2回	実験の基礎事項 (機器の取り扱いについて、データの処理についてなど)	(内 容) 実験機器の取り扱いとデータ処理 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第3回	タンパク質①定性	(内 容) タンパク質①定性分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第4回	タンパク質②比色法による定量	(内 容) タンパク質②比色法による定量分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第5回	タンパク質③電気泳動による分離	(内 容) タンパク質の電気泳動法による分離 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第6回	糖質の定性	(内 容) 糖質の定性分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第7回	糖質の定量	(内 容) 糖質の分離と定量分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第8回	脂質の定性	(内 容) 脂質の定性分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第9回	コレステロールの分析	(内 容) コレステロールの分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第10回	中性脂肪の定量	(内 容) 中性脂肪の定量 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第11回	ミネラルの定性および定量	(内 容) ミネラルの定性および定量分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第12回	核酸の抽出と定量	(内 容) 核酸の抽出と定量 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第13回	遺伝子多型分析①アルコール代謝系酵素遺伝子の増幅	(内 容) アルコール代謝系酵素遺伝子の増幅 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第14回	遺伝子多型分析②電気泳動による分析とパッチテストによる確認	(内 容) 電気泳動による遺伝子分析とパッチテスト (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
第15回	全実験結果の考察	(内 容) 実験結果の考察 (必要な準備) テキスト該当部分の予習			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授業名	食品学 I a・b		開講学年	1 年生	単位数	2 単位
英文名	Food Science I a・b		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	堀越 昌子		対象学生	食物栄養 1 年生		
授業の概要	食品中の成分や特性、また、食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程について学び、人体に対する栄養面や安全面等への影響や評価を理解する。食品分類法、日本食品標準成分表の利用法を学ぶ。食品の栄養特性（タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル）と物性を把握し、嗜好成分、機能性成分の構造と特性を理解する。					
学習成果到達目標	1) 食品の分類と食品に含まれる各種成分の特性が理解できる。 2) 食品の加工・貯蔵・調理における食品の取扱法、管理法が理解できる。 3) 食品中の栄養成分、機能性成分から、食品の機能を理解できる。					
評価方法	定期試験 (100 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用力) <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	食べ物と健康「食品学」 大石祐一・服部一夫編著 光生館					
参考書	日本食品標準成分表（文部科学省）					
留意事項	授業で配布するプリント資料をしっかりと読むこと。					
授業計画	学習内容			学習内容・課題		
第1回	人間と食品、食文化と食生活			(内 容) 人間と食品との関わり、食文化、食嗜好 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第2回	食生活と健康			(内 容) 食生活と健康維持、食生活管理の重要性 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第3回	食料の生産・加工			(内 容) 食料生産とその課題、食品加工 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第4回	日本食品標準成分表① 成分の分類と算出法			(内 容) 食品成分表の構成と食品成分の分類 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第5回	日本食品標準成分表② 食品成分表の利用			(内 容) 食品成分表の利用法 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第6回	食品の成分 食品中の水と水分活性			(内 容) 食品中の水の働きと特性、水分活性 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第7回	食品の成分 食品タンパク質とアミノ酸、アミノ酸価			(内 容) 食品タンパク質の特性とアミノ酸組成 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第8回	食品の成分 食品タンパク質の特性と利用			(内 容) 食品ごとのタンパク質の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第9回	食品の成分 食品中脂質の特性と性状			(内 容) 食品中脂質の特性と性状、油脂の酸化 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第10回	食品の成分 炭水化物、食品中の澱粉と食物繊維			(内 容) 食品中の炭水化物、澱粉と食物繊維 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第11回	ビタミン 食品中のビタミン			(内 容) 食品中の脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第12回	ミネラル 食品のミネラルと利用率			(内 容) 食品のミネラル組成特性 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第13回	その他の成分、毒性成分、機能性成分			(内 容) 食品中の毒性成分、機能性成分 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第14回	食品の分類と食品群			(内 容) 食品の分類方法、食品群の利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第15回	食品表示と規格基準			(内 容) 食品表示の必要性和日本の規格基準 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
オフィスアワー	毎週 1 回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます。					

授業名	食品学Ⅱa・b		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Food Science Ⅱ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	堀越 昌子		対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	人間と食べ物のかかわりについて、食品の歴史の変遷と食物連鎖の両面から理解する。主要な植物性食品、動物性食品、油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料、微生物利用食品、特定保健用食品について、それぞれの成分、特性、加工、利用法の基礎を習得する。食品の規格・基準、食品の機能性成分にかかわる表示についても学び、食品成分が健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割を理解する。					
学習成果到達目標	1) 主要な植物性食品、動物性食品の特性、加工、利用法が理解できる。 2) 食品の分類法、食品の機能性と加工調理特性、食品表示、食品の規格について理解できる。 3) 食品が健康に与える影響、疾病予防に対する役割を学び、環境に配慮した食品のあり方が理解できる。					
評価方法	定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (100 %) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用力) <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	食べ物と健康「食品学」 大石祐一・服部一夫編著 光生館					
参考書	日本食品標準成分表 (文部科学省)					
留意事項	授業で配布するプリント資料をしっかりと読むこと。					
授業計画	学習内容			学習内容・課題		
第1回	人間と食べ物のかかわりと食品の歴史の変遷			(内 容) 人の歴史と食べ物、食品の歴史の変遷 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第2回	食物連鎖、食べ物と環境、食料生産と流通			(内 容) 食物連鎖と環境、食料生産と流通の現状 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第3回	植物性食品の特徴① 穀類、いも類			(内 容) 穀類、いも類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第4回	植物性食品の特徴② 豆類、種実類			(内 容) 豆類、種実類の特性と利用 (必要な準備) の特性と利用テキスト該当部分の予習		
第5回	植物性食品の特徴③ 野菜類			(内 容) 野菜類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第6回	植物性食品の特徴④ 果実、きのこ類、藻類			(内 容) 果実、きのこ類、藻類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第7回	動物性食品の特徴① 食肉類、魚介類			(内 容) 食肉類、魚介類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第8回	動物性食品の特徴② 乳類、卵類			(内 容) 乳類、卵類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第9回	油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料			(内 容) 油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第10回	食品の成分と反応、物性 褐変化、コロイド			(内 容) 食品成分間の反応、物性の変化 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第11回	機能性成分の健康や栄養に関する表示			(内 容) 機能性成分と健康、栄養に関する表示 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第12回	食品表示制度と規格基準			(内 容) 食品の表示制度と規格基準、国際比較 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第13回	食品加工と栄養、加工食品の利用			(内 容) 食品加工と栄養成分、加工食品の開発と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第14回	食品流通・保存、新規食品の課題			(内 容) 食品流通・保存の課題、新規食品のあり方 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第15回	食品が健康に与える影響、疾病予防に対する役割			(内 容) 食品と健康、疾病予防における役割 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)オフィスアワーを設けます。					

授業名	食品学実験 I	開講学年	1 回生	単位数	1 単位
英文名	Experiment of food science I	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	高村 仁知	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	食品中に存在する一般成分(水分、灰分、タンパク質、炭水化物、脂質)の分析を通して、食品成分に関する理解を深め、日本食品標準成分表で示されている数値を理解する。食品分析試料を調製し、その成分を定性分析で検出するとともに定量する。				
学習成果到達目標	1) 分析器具、機器の使用法、食品の一般成分の分析法を修得し、成分の理解ができる。 2) 食品成分の分析と定量実験を通して、それぞれの成分の特性を理解できる。				
評価方法	定期試験 (70%)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 観察力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力) <input type="checkbox"/> ()
テキスト	基礎からの食品・栄養学実験 村上俊男編著 建帛社、配布プリント				
参考書	日本食品標準成分表 (文部科学省)				
留意事項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション、基本操作法		(内 容) 食品成分分析の基本操作 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第2回	牛乳の比重の測定		(内 容) 牛乳の比重測定と原理 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第3回	pHの変化と食品の性状		(内 容) pHの変化と食品の性状、pHの測定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第4回	容量分析 牛乳の酸度の測定 (中和滴定)		(内 容) 容量分析 牛乳の酸度の測定 (中和滴定) (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第5回	比色分析 食品中のアンモニア性窒素の測定		(内 容) 比色分析 食品中のアンモニア性窒素の測定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第6回	クロマトグラフィーによる分離と同定		(内 容) クロマトグラフィーによる色素の分離と同定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第7回	水分の定量、灰分の定量		(内 容) 水分の定量、灰分定性、定量分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第8回	食品中の食塩の測定		(内 容) 食品中の食塩分析、定量法 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第9回	食品中の糖質、炭水化物の分析		(内 容) 食品中の糖質、炭水化物の分離・分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第10回	食品中の脂質とタンパク質の分析		(内 容) 食品中の脂質とタンパク質の分離・分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第11回	食品中のビタミンCの分析		(内 容) 食品中ビタミンCの定量 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第12回	食品中の機能性成分の分析		(内 容) 食品中の機能性成分の分析 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第13回	食品の鮮度試験		(内 容) 食品の鮮度試験 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第14回	食品の加工特性		(内 容) 食品加工実験 (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
第15回	食品中の成分検出と特性のまとめ		(内 容) 食品中の成分検出と特性のまとめ (必要な準備) テキスト該当部分の予習		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授業名	調理学 a・b		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Introduction on Cooking		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	塩田 二三子		対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	本授業では、調理にかかわる食品の栄養特性、物性を理解し、さらに栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める調理について、その原理と方法を学ぶ。また、これらの調理に関する基礎的な知識とともに、日本の食生活の歴史の変遷について学び、献立作成を含む食事計画を立案する力を修得する。					
学習成果到達目標	1) 調理過程でおこる食品成分の変化を科学的な視点で理解できる。 2) 献立作成を含む食事計画のための基礎知識を修得している。 3) 食生活の指導において必要な調理や食事計画の基本的な知識を修得している。					
評価方法	定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (100%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(分析力) <input type="/> ()				
テキスト	エスカペーシク 食べ物と健康－調理学－ 渋川祥子編著 同文書院					
参考書						
留意事項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理の役割について考えていくこと					
授業計画	学習内容			学習内容・課題		
第1回	調理の意義と目的			(内 容) 調理学で何を学ぶか、なぜ学ぶか (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第2回	おいしさに関する要因1 (食べ物の因子)			(内 容) 食べ物の化学的特性、物理的特性 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第3回	おいしさに関する要因2 (食べる人の因子)			(内 容) 人の特性要因とそれを取り巻く環境要因 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第4回	調理操作1 (予備操作)			(内 容) 計測、洗浄、浸漬などの操作について (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第5回	調理操作2 (非加熱操作)			(内 容) 生食などの注意事項 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第6回	調理操作3 (加熱操作)			(内 容) 湿式、乾式、誘電・誘導それぞれの加熱の特徴 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第7回	調理操作4 (調味)			(内 容) 調味料の特徴と調理操作について (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第8回	植物性食品の調理特性1 (穀類)			(内 容) 米、小麦の成分と調理特性 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第9回	植物性食品の調理特性2 (豆類、イモ類)			(内 容) 豆類、イモ類の成分と調理特性 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第10回	植物性食品の調理特性3 (野菜類、果実類など)			(内 容) 野菜、果物の成分と調理特性 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第11回	動物性食品の調理特性1 (食肉・魚介類)			(内 容) 食肉、魚介類の体組織の構造と調理特性 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第12回	動物性食品の調理特性2 (卵類、乳・乳製品)			(内 容) 卵の構造・成分および乳の成分と調理特性 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第13回	成分抽出素材・調味料の調理特性			(内 容) でんぷん、ゲル化剤、砂糖、塩などの調理特性 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第14回	日本の食生活の変遷			(内 容) 日本の食事の形態の変遷 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第15回	献立作成と食事計画			(内 容) 栄養のバランスと献立の作成 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しお知らせします。事前にメールにて来室希望の連絡を入れることが望ましい。					

授業名	調理学実験 a・b		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of Cookery Science		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	塩田 二三子		対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	調理学実験では、調理操作によっておこる化学的、物理的变化を観察し、その諸現象について科学的に解明することで、調理学の理論を理解する。また、これによって、調理にかかわる食品の栄養特性、物性、食品材料の調理特性や調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行える能力を身につける。加えて、嚥下、咀嚼困難者用の食事などの理解を目的に、官能評価の方法や機器による物性測定などについても学ぶ。					
学習成果到達目標	1) 実験を通して、調理操作による物質の変化を科学的に解明する能力を修得している。 2) 調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行える能力を修得している。 3) 官能評価や機器による物性測定についてその方法を修得している。					
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (分析力) <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	プリント配布、調理学のテキスト (エスカベリック 食べ物と健康ー調理学ー 渋川祥子編著 同文書院) を復習のため用いる					
参考書						
留意事項	プリントに目を通し、実験方法等を予習しておくこと。グループ単位で実験を行い、実験後はレポートを作成、次週に提出すること。					
授業計画	学習内容			学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション			(内 容) 実験を行う上での注意、基本操作 (必要な準備)		
第2回	植物性食品の調理特性1 (米)			(内 容) 米の種類とデンプン (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第3回	植物性食品の調理特性2 (小麦粉)			(内 容) 小麦粉の種類とグルテン、添加物の影響 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第4回	植物性食品の調理特性3 (いも)			(内 容) デンプンの観察と加熱方法による変化 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第5回	植物性食品の調理特性4 (野菜)			(内 容) 生野菜の放水と吸水 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第6回	動物性食品の調理特性1 (鶏卵①: 起泡性)			(内 容) 卵白の起泡性と安定性 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第7回	動物性食品の調理特性2 (鶏卵②: 熱凝固性)			(内 容) ゆで卵、希釈卵液の熱凝固 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第8回	動物性食品の調理特性3 (乳)			(内 容) 生クリーム of 泡立て (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第9回	抽出素材の調理特性1 (ゲル化剤)			(内 容) 寒天、ゼラチン、カラギーナンの特徴 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第10回	抽出素材の調理特性2 (砂糖)			(内 容) 砂糖の加熱による変化 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第11回	抽出素材の調理特性3 (油脂)			(内 容) エマルションの中の油脂 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第12回	食品の官能評価			(内 容) 官能評価の手法 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第13回	だし汁に関する実験			(内 容) さまざまなだし汁のうま味の特徴 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第14回	食品の物性測定1 (テクスチャー測定法)			(内 容) 機器を使用したテクスチャーの測定 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
第15回	食品の物性測定2 (物性に影響を与える因子)			(内 容) 温度、水分、経過時間等が及ぼす影響 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。		
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しお知らせします。事前にメールにて来室希望の連絡を入れることが望ましい。					

授業名	調理学実習 I a・b	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Practical Exercise Cooking I	開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	塩田 二三子	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	本実習では、基本的な調理操作と調理の基礎知識を修得する。また、食品の安全性や衛生管理についての基本的な手法を学び、その重要性の理解につなげる。また、栄養的効率を高め、嗜好的に美味しい食事を提供できる実力を身につけるとともに、調理学と関連させながら、調理過程における食品材料の化学的・物理的变化を確認および把握する。				
学習成果到達目標	1) 調理の基本的な操作と基礎知識を修得している。 2) 安全・栄養・嗜好性も考慮した食事を提供できる力を修得している。 3) 調理学の理論と調理過程で生じる化学的・物理的变化を関連付けて説明できる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (基本的な調理技術の習得) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	これからの調理学実習 (基本手法から各国料理・行事食まで) 新調理研究会・編 オーム社 調理のためのベーシックデータ 女子栄養大学出版部 新カラーチャート 食品成分表 教育図書				
参考書					
留意事項	5～6名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること				
授業計画	学習内容		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション (食品の安全性、衛生管理等)		(内 容) 調理学実習を行う上での基本的な注意事項 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第2回	調理の基本 (計量・包丁法)		(内 容) 計量と廃棄率、庖丁の扱い方と切り方 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第3回	日本料理の基礎1 (炊く、ゆでる、だしをとる)		(内 容) 白飯、青菜のお浸し、みそ汁 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第4回	日本料理の基礎2 (すし飯、蒸す)		(内 容) ちらしずし、茶碗蒸し (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第5回	日本料理の基礎3 (揚げる、和える)		(内 容) 天ぷら、和え物、すまし汁 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第6回	日本料理の基礎4 (焼く、煮る)		(内 容) 魚の照り焼き、炊き合わせ (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第7回	西洋料理の基礎1 (スープストックをとる、ひき肉の調理)		(内 容) コンソメスープ、ハンバーグ、サラダ (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第8回	西洋料理の基礎2 (魚の扱い方、ゼラチンの扱い方)		(内 容) ムニエル、サラダ、ゼリー (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第9回	西洋料理の基礎3 (パスタの扱い方)		(内 容) スパゲティ、クッキー (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第10回	中国料理の基礎1 (湯をとる、炒める)		(内 容) 炒飯、湯菜 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第11回	中国料理の基礎2 (乾物の扱い方、寒天の扱い方)		(内 容) 炸菜、炒菜、点心 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第12回	中国料理の基礎3 (特徴的な調理法)		(内 容) 溜菜、拌菜 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第13回	食べる機能に合わせた食形態の展開の基本 (離乳食・介護食)		(内 容) 離乳食・介護食づくり (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第14回	菓子づくりの基本		(内 容) 米粉を使った和菓子 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第15回	パン生地づくりの基本		(内 容) ピザ、ラタトゥイユ (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しお知らせします。事前にメールにて来室希望の連絡を入れることが望ましい。				

授業名	調理学実習Ⅱa・b		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Practical Exercise CookingⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	塩田 二三子		対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	調理学実習Ⅰで学んだ基本的な技術や知識を基に、栄養面、安全面、嗜好面を考慮した食事の整え方の理解を深める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身につける。また、日本人の食事摂取基準および日本食品標準成分表に基づく献立作成についてその基本を修得し、実際に調理し、それについてグループで討論して献立構成や嗜好性の評価、また栄養評価を行い、計画の改善につなげることができる力を修得する。					
学習成果到達目標	1) 日本、西洋、中国、それぞれの食文化について理解を深めている。 2) 季節のもてなし料理や行事食、郷土食についての知識を持ち、提供できる力を修得している。 3) 給食実習に向けて、献立作成、調理、評価まで行うことができる力を修得している。					
評価方法	定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (70%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 (30%) <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (調理技術の習得) <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	これからの調理学実習 (基本手法から各国料理・行事食まで) 新調理研究会・編 オーム社					
参考書						
留意事項	5～6名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること					
授業計画	学習内容			学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション			(内 容) 調理学実習を受講するにあたっての諸注意 (必要な準備)		
第2回	日本料理1 (煮物、でんぷんの種類と特徴)			(内 容) 鯖のみそ煮、けんちん汁、わらびもち (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第3回	日本料理2 (味付飯、和え物の応用)			(内 容) 栗飯、土瓶蒸し、黄身酢和え (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第4回	日本料理3 (刺身)			(内 容) 刺身、あら煮 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第5回	西洋料理1 (魚介だし、油脂の調理特性)			(内 容) ブイヤベース、パウンドケーキ (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第6回	西洋料理2 (塊肉の調理、シュー生地)			(内 容) ボルシチ、サラダ、シュークリーム (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第7回	西洋料理3 (パイ生地)			(内 容) アップルパイ (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第8回	中国料理1 (パン生地の応用、砂糖の調理特性)			(内 容) 猪肉飽、清燉白菜、拔糸甘薯 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第9回	中国料理2 (魚介の調理、中国の特殊材料の扱い方)			(内 容) 炒墨魚、冷拌海蜇 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第10回	中国料理3 (点心)			(内 容) 粽子、水果西米露 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第11回	行事食			(内 容) 正月吉例料理、雑煮 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第12回	郷土料理			(内 容) 京都のおばんざい (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第13回	テーブルセッティングとマナー			(内 容) テーブルセッティングとマナーの基本 (必要な準備) テキストの関連部分をよく読んでおくこと。		
第14回	自由献立1 (計画)			(内 容) 班ごとにメニューを考案 (必要な準備) 参考にするレシピを集めておく		
第15回	自由献立2 (調理と評価)			(内 容) 班ごとに調理、全体で評価 (必要な準備) 材料の準備、手順の確認		
オフィスアワー	研究室に日時を貼付しお知らせします。事前にメールにて来室希望の連絡を入れることが望ましい。					

授業名	基礎栄養学a・b		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Basic Nutrition		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	田代 操		対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	基礎栄養学では栄養の概念と摂取した栄養素などの消化・吸収・排泄の仕組みについて学び、栄養とは何かについて正しく理解する。さらに健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割およびエネルギー、栄養の代謝とその生理的意義について理解する。					
学習成果到達目標	1) 栄養の概念について正しく理解できる。 2) 各栄養素の構造と機能、消化・吸収の仕組みについて理解できる。 3) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について正しく理解できる。					
評価方法	定期試験 (100%)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 ()	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (栄養の全体像の把握) <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学 (第4版) 鈴木和春・真鍋祐之・上原万里子 著 第一出版					
参考書						
留意事項	予習復習を必ず行うこと。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	栄養の概念			(内 容) 栄養の定義、健康・疾患予防における栄養の役割について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第2回	栄養素の欠乏と過剰の影響			(内 容) 低栄養と過栄養について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第3回	摂食行動について			(内 容) 摂食行動に関わる因子について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第4回	消化・吸収・排泄の仕組み			(内 容) 消化器官の働きと食物の流れ (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第5回	タンパク質について①役割、質の評価			(内 容) タンパク質・アミノ酸の種類、構造と機能について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第6回	タンパク質について②消化・吸収、代謝			(内 容) タンパク質の代謝、アミノ酸の代謝など (必要な準備) 前回の復習をしておく		
第7回	炭水化物について①役割			(内 容) 炭水化物の種類、構造と機能について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第8回	炭水化物について②消化・吸収、血糖とその調節機構			(内 容) 糖質の代謝、血糖とその調節などについて (必要な準備) 前回の復習をしておく		
第9回	脂質について①役割、質の評価			(内 容) 脂質・脂肪酸の種類、構造と機能について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第10回	脂質について②消化・吸収、代謝			(内 容) 脂質の代謝、コレステロール代謝の調節など (必要な準備) 前回の復習をしておく		
第11回	ビタミンについて			(内 容) 脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類構造と機能 (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第12回	ミネラルについて			(内 容) ミネラルの種類と機能 (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第13回	水・電解質の役割			(内 容) 水と電解質の分布と機能について (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第14回	エネルギー代謝について①エネルギー産生			(内 容) 三大栄養素のエネルギーの産生 (必要な準備) 三大栄養素の復習をしておく		
第15回	エネルギー代謝について②エネルギーの消費と蓄積			(内 容) エネルギー代謝量の測定法、基礎代謝などについて (必要な準備) 教科書を読んでおく		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。					

授業名	基礎栄養学実験a・b	開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Experiment of Basic Nutrition	開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	田代 操	対象学生	食物栄養1回生		
授業の概要	基礎栄養学で学んだ栄養の意義について実験を通して深く理解していく。まず栄養素の消化・吸収に関する実験や生体内の栄養素の測定を通して、栄養素の体内動態とその生理的な意義について理解する。さらにエネルギー代謝測定を行い身体の活動とエネルギー代謝の関連性について深く理解する。				
学習成果到達目標	1) 栄養素の代謝と生理的な意義について理解できる。 2) エネルギー代謝と身体活動の関連性について理解できる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 計画力) <input type="checkbox"/>			
テキスト	基礎からの食品・栄養学実験 村上俊雄 編著 建帛社およびプリント				
参考書					
留意事項	生化学の内容についても復習しておくこと。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション		(内 容) 実験器具・機器操作などの注意事項 (必要な準備)		
第2回	タンパク質の消化		(内 容) プロテアーゼによる試験管内消化実験を行う (必要な準備) 教科書を読んで実験の目的をよく理解しておく		
第3回	澱粉の消化		(内 容) でんぷんの試験管内消化実験を行う (必要な準備) 教科書を読んで実験の目的をよく理解しておく		
第4回	脂質の消化		(内 容) リパーゼによる試験管内消化実験 (必要な準備) 教科書を読んで実験の目的をよく理解しておく		
第5回	腸管吸収 (ミネラル、糖、アミノ酸など)		(内 容) 反転膜による吸収 (必要な準備) 教科書を読んで実験の目的をよく理解しておく		
第6回	肝臓グリコーゲンの定量		(内 容) グリコーゲンの抽出と定量 (必要な準備) 教科書を読んで実験の目的をよく理解しておく		
第7回	肝臓タンパクの定量		(内 容) タンパク質の抽出と定量 (必要な準備) 教科書を読んで実験の目的をよく理解しておく		
第8回	肝臓脂質の定量		(内 容) 脂質の抽出と定量 (必要な準備) 教科書を読んで実験の目的をよく理解しておく		
第9回	コレステロールの分析		(内 容) コレステロールの測定 (必要な準備) コレステロールについて復習しておく		
第10回	ビタミンの定量		(内 容) ビタミンCの定量をおこなう (必要な準備) ビタミンCの特性について復習しておく		
第11回	ミネラルの定量		(内 容) リン、鉄などの定量をおこなう (必要な準備) 原子吸光について復習しておく		
第12回	エネルギー代謝について①安静時の測定		(内 容) 安静時のエネルギー代謝測定をおこなう (必要な準備) エネルギー代謝について復習しておく		
第13回	エネルギー代謝について②測定値の比較・解析		(内 容) 結果の比較などを行い体格などとの関連性について検討する (必要な準備) 前回の実験結果についてまとめておく		
第14回	エネルギー代謝について③運動負荷による変化		(内 容) 運動負荷によるエネルギー代謝の変化について測定 (必要な準備) 食事摂取基準の生活活動強度について復習しておく		
第15回	エネルギー代謝について④測定値の比較・解析		(内 容) 測定値の結果から運動負荷の影響を検討する (必要な準備) 結果をまとめておく		
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。				

授業名	音楽 I ua・I ub・I uc・I ud・I ue	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Music I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	山中 信子・阿久津 啓・千田 浩美・服部さやか	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、以下の内容で授業を進める。 1. 子どもの歌の歌唱 2. ピアノ教則本レッスンおよび子どもの歌の弾き歌い 3. 基礎的な音楽理論の説明				
学習成果到達目標	1) 音楽理論を通して音楽の基礎的知識を習得する。 2) 子どもの歌の基本的な歌唱法やピアノ奏法の技術を習得する。				
評価方法	定期試験 (70 %) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 <input 5"="" checked="" type="checkbox/>(実技) □()</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社) 他、『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編)、『音楽の理論』小畑秀樹・渡辺明子・春日保人著(共同音楽出版)			
参考書					
留意事項	授業に出席するだけでなく、毎日のピアノ練習が必須。保育士・幼稚園・小学校免許取得希望者は必ず受講すること。レベルに合わせてクラス分けを行う。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) ピアノのレベルチェック、進度確認。 (必要な準備) ピアノ練習			
第2回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論①音階・音名	(内 容) ①子どもの歌の歌唱②ピアノレッスン③音楽理論(音階・音名の説明) (必要な準備) ピアノ練習、歌唱復習			
第3回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論②ト音記号	(内 容) ①(子どもの歌の歌唱)②(ピアノレッスン)③(ト音記号の説明) (必要な準備) ピアノ練習、歌唱復習、音楽理論の復習			
第4回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論③リズム	(内 容) ①②および③4・8・16分音符の説明 (必要な準備) ピアノ練習、歌唱復習、音楽理論の復習			
第5回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論④調性	(内 容) ①②および③主要な調性の説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習、歌唱復習、音楽理論の復習			
第6回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論⑤ハ長調のカデンツ	(内 容) ①②および③ハ長調カデンツの説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習、歌唱復習、音楽理論の復習			
第7回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論⑥ヘ長調のカデンツ	(内 容) ①②および③ヘ長調カデンツの説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習、歌唱復習、音楽理論の復習			
第8回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論⑦ト長調のカデンツ	(内 容) ①②および③ト長調カデンツの説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習、歌唱復習、音楽理論の復習			
第9回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論⑧ニ長調のカデンツ	(内 容) ①②および③ニ長調カデンツの説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習、歌唱復習、音楽理論の復習			
第10回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち練習	(内 容) ①②および単純な音符でのリズム打ち練習 (必要な準備) ピアノ練習、歌唱復習、音楽理論の復習			
第11回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち練習小試験	(内 容) ①②およびリズム打ち小試験 (必要な準備) ピアノ練習、リズム打ちの復習・練習			
第12回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論⑨コードネーム(基本形)	(内 容) ①②およびコードネーム(基本形)の説明 (必要な準備) ピアノ練習			
第13回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論(転回形)	(内 容) ①②およびコードネーム(転回形)の説明 (必要な準備) ピアノ練習、音楽理論の復習			
第14回	歌唱総復習、歌唱小試験	(内 容) 歌唱の総復習、小試験の実施 (必要な準備) ピアノ練習、2回目～13回目までの歌唱復習			
第15回	ピアノ総復習、ピアノ小試験	(内 容) ピアノ実技の総復習、小試験の実施 (必要な準備) ピアノ練習			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施				

授業名	音楽Ⅱua・Ⅱub・Ⅱuc・Ⅱud・Ⅱue	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	MusicⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山中 信子・千田 浩美・服部さやか	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、音楽Ⅰに引き続き以下の内容で授業を進める。1. 子どもの歌の歌唱 2. ピアノ教則本レッスンおよび子どもの歌の弾き歌い 3. 基礎的な音楽理論の説明				
学習成果到達目標	1) 音楽理論を通して音楽の基礎的知識を習得する。 2) 子どもの歌の基本的な歌唱法やピアノ奏法の技術を習得する。 3) ピアノのレベルは最低でもバイエル終了を目標とする。				
評価方法	定期試験 (70 %) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 実技) □()				
テキスト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他、『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編)、『音楽の理論』小畑秀樹・渡辺明子・春日保人著(共同音楽出版)				
参考書					
留意事項	授業に出席するだけでなく、毎日のピアノ練習が必須。保育士・幼稚園・小学校免許取得希望者は必ず受講すること。レベルに合わせてクラス分けを行う。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	歌唱・ピアノレッスン・コードネーム復習	(内 容) ①子どもの歌の歌唱②ピアノレッスン③音楽理論(コードネームの復習) (必要な準備) ピアノ練習、コードネーム復習			
第2回	歌唱・ピアノレッスン・ハ・ヘ長調の伴奏付け(基礎)	(内 容) ①②および③伴奏付け(ハ・ヘ長調) (必要な準備) 歌唱復習、ピアノ練習			
第3回	歌唱・ピアノレッスン・ト長調の伴奏付け(基礎)	(内 容) ①②および③伴奏付け(ト長調) (必要な準備) ピアノ練習、ハ・ヘ長調の伴奏付けの復習			
第4回	歌唱・ピアノレッスン・ニ長調の伴奏付け(基礎)	(内 容) ①②および③伴奏付け(ニ長調) (必要な準備) ピアノ練習、ト長調の伴奏付けの復習			
第5回	伴奏付け総復習(基本)歌唱・ピアノレッスン	(内 容) ①②および③伴奏付けの総復習(基本) (必要な準備) ピアノ練習、ニ長調の伴奏付けの復習			
第6回	歌唱・ピアノレッスン・ハ長調の視唱	(内 容) ①②および③ハ長調の視唱練習 (必要な準備) ピアノ練習、伴奏付けの総復習			
第7回	歌唱・ピアノレッスン・ヘ長調の視唱	(内 容) ①②および③ヘ長調の視唱練習 (必要な準備) ピアノ練習、ハ長調の視唱復習			
第8回	歌唱・ピアノレッスン・ト長調の視唱	(内 容) ①②および③ト長調の視唱練習 (必要な準備) 歌唱復習、ピアノ練習、ヘ長調の視唱復習			
第9回	歌唱・ピアノレッスン・ニ長調の視唱	(内 容) ①②および③ニ長調の視唱練習 (必要な準備) ピアノ練習、ト長調の視唱復習			
第10回	歌唱・ピアノレッスン・視唱小試験	(内 容) ①②および視唱の小試験(ハ・ヘ・ト・ニ長調) (必要な準備) ピアノ練習、ニ長調の視唱復習			
第11回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(付点リズム)	(内 容) ①②および付点リズム打ちの練習 (必要な準備) ピアノ練習、視唱の総復習			
第12回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(シンコペーション)	(内 容) ①②およびシンコペーションリズム打ちの練習 (必要な準備) ピアノ練習、付点リズム打ちの復習			
第13回	歌唱・ピアノ総復習	(内 容) 秋学期で学んだ曲(歌唱・ピアノ両方)の総復習 (必要な準備) 歌唱・ピアノ練習			
第14回	歌唱総復習・歌唱小試験	(内 容) 歌唱の総復習および小試験の実施 (必要な準備) ピアノ練習、1回目～13回目までの歌唱復習			
第15回	ピアノ総復習・ピアノ小試験	(内 容) ピアノ実技の復習および小試験の実施 (必要な準備) ピアノ小試験に向けた練習			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	図画工作 I ua・I ub		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Arts and Crafts I		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	平尾 隆史		対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	絵を描いたり、ものをつくったりすることは子どもの発達にとって大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶ。制作を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力に気付くことのできる授業にしたい。					
学習成果到達目標	1) 様々な表現方法を自らの体験を通して学び、その表現方法から柔軟な発想で作品をつくることのできる。 2) 作品や試みた表現方法について考察し、その記録を美しく分かりやすくまとめることのできる。 3) 制作した作品のプレゼンテーションを3分間行うことのできる。					
評価方法	定期試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点		<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(技術・技法) <input type="/> ()			
テキスト	新造形表現・実技編 花篤 實・岡田 愨吾 (三晃書房) 平成25年3月1日発行					
参考書	使用しない。					
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	ガイダンス		(内 容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 (必要な準備) テキストの全体に目を通しておく			
第2回	水彩絵の具による表現 にじみ・ドリッピング		(内 容) 水彩絵の具の使い方や技法 (にじみ絵など) (必要な準備) テキスト P.18～.19 を読んでおく			
第3回	水彩絵の具による表現 デカルコマニー		(内 容) 水彩絵の具の技法 (デカルコマニーなど) (必要な準備) テキスト P.22 などを読んでおく			
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ		(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく			
第5回	パスによる表現 スクラッチ		(内 容) パスによる技法 (スクラッチなど) (必要な準備) テキスト P.25 などを読んでおく			
第6回	パスによる表現・作品のまとめ		(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく			
第7回	版による表現 紙版画		(内 容) 紙版画の制作 (必要な準備) 自分の作品のアイデアを考えておく			
第8回	版による表現 紙版画		(内 容) 紙版画の制作 (必要な準備) 前回の内容を完成させておく			
第9回	版による表現・作品のまとめ		(内 容) 版画の学習についてまとめる (必要な準備) テキスト P.61 などを読んでおく			
第10回	動くおもちゃ制作の導入		(内 容) 子どものための造形活動と課題の説明 (必要な準備) 配布プリントを読む			
第11回	動くおもちゃ制作 しゃくとりむし・紙プロペラ		(内 容) 感性と創造性を育てる活動を計画する (必要な準備) 動く仕組みを理解しておく			
第12回	動くおもちゃ制作 クルクルロケット・折紙だこ		(内 容) 折紙による創作について (必要な準備) 飛ぶための条件を考えておく			
第13回	動くおもちゃ制作 風車鳥		(内 容) 鳥の動きから発想する (必要な準備) 動く仕組みを理解しておく			
第14回	動くおもちゃ制作 平行ジョイント		(内 容) リンクの動きから発想する (必要な準備) 動く仕組みを理解しておく			
第15回	まとめ・プレゼンテーション		(内 容) 授業全体の振り返り 作品返却 (必要な準備) テキストの P.163～P.168 などを読んでおく			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する					

授業名	図画工作Ⅱua・Ⅱub		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Arts and CraftsⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	平尾 隆史		対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	この授業では、図画工作の意義について理解し、感性と創造性を育てる造形表現を学ぶ。又、子どもの生活環境や経験、発達に応じた素材や課題の選択、意欲をひき出す動機付けや声かけ、用具の扱い方や環境の整備などについての理解を深め、自ら指導計画を立てるための土台となる力を養う。					
学習成果到達目標	1) 子どもの表現に関心を持ち理解しようとする態度とさまざまな方法で自ら表現する力を学習する。 2) 子どもの造形表現から、子どもの伝えたいことを理解できる感性を養う。 3) 制作した作品のプレゼンテーションを5分間行うことができる。					
評価方法	定期試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (80%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (技術・技法) <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のもの)平成25年3月1日発行					
参考書	使用しない。					
留意事項	華頂祭での「作品展」にむけてさまざまな造形体験から子どもの感性と創造性を育てる活動について考える。制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	作品展の導入		(内 容) 子どものための造形活動と課題の説明 (必要な準備) さまざまな技法を復習しておく			
第2回	作品展 動き出せ名画の制作 からくり制作		(内 容) 動き出す部分を制作 (必要な準備) アイデアを考えておく			
第3回	作品展 動き出せ名画の制作 からくり完成		(内 容) 動き出す部分を制作の完成 (必要な準備) 必要な材料用具を準備しておく			
第4回	作品展 動き出せ名画の制作 背景制作		(内 容) 背景を学習した技法などで表現 (必要な準備) 必要な材料用具を準備しておく			
第5回	作品展 動き出せ名画の制作 背景完成		(内 容) 背景を学習した技法などで表現 (必要な準備) 前回の内容を完成させておく			
第6回	作品展 動き出せ名画の展示準備		(内 容) 華頂祭での作品公開の準備 (必要な準備) 展示作業などの予定を立てておく			
第7回	作品展 動き出せ名画の考察		(内 容) 課題が達成できたか。レポート考察 (必要な準備) 自らの取り組みについて考えておく			
第8回	ドリームカー制作 車体制作		(内 容) ゴム動力で走る車の制作 (必要な準備) アイデアを考えておく			
第9回	ドリームカー制作 動力部制作		(内 容) ゴム動力で走る車の制作(仕組み) (必要な準備) 速く走る工夫を考えておく			
第10回	ドリームカー制作 外装部制作		(内 容) ゴム動力で走る車の制作(外装デザイン) (必要な準備) さまざまな材料を探しておく			
第11回	ドリームカー制作 競技会・プレゼンテーション		(内 容) 課題が達成できたか。レポート考察 (必要な準備) 自らの取り組みについて考えておく			
第12回	木工作 ガリガリプロペラ制作		(内 容) 木の材料を使って制作 (必要な準備) 自分の作品のアイデアを考えておく			
第13回	木工作 ガリガリプロペラ制作		(内 容) 木の材料を使って制作・デザイン (必要な準備) 前回の内容を完成させておく			
第14回	木工作・作品のまとめ		(内 容) 制作した作品の鑑賞 (必要な準備) アピール文を考えておく			
第15回	まとめ・プレゼンテーション		(内 容) 授業全体の振り返り (必要な準備) 自らの活動について考えておく			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する					

授業名	算数教育		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Elementary School Mathematics		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	重松 敬一		対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	算数指導において、関心・意欲・態度の目標をどう設定するか。数学的な考え方の目標をどう設定するかを中心として授業を進める。学習指導案を作る前段階となる目標分析について身につける。学習指導要領について数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解することを教授する。子どもを指導するときに、知識・理解にかかわる目標を教科書からとらえることができるような技術と表現について教授する。講義形式を中心に授業する。					
学習成果到達目標	1) 算数教育において、関心・意欲・態度や数学的な考え方の目標設定を理解し、学習指導案作成での算数の内容を理解する。 2) 数学的及び社会的な視点で算数の内容を考察し、算数科教育の意義を理解する。					
評価方法	定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技		平常試験 () <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」(平成20年8月、東洋館出版、250円)、講義中にプリントなどを配布する					
参考書	数学教育研究会：『新訂 算数教育の理論と実際』、聖文新社、2014					
留意事項						
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	はじめにー算数の教科内容の学習の現状			(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる (必要な準備)		
第2回	数学と算数の内容: 数学の特徴			(内 容) 自分の学習経験と算数の内容や考え方を比較する (必要な準備) 自分の学習経験を振り返る		
第3回	数学のいくつかの側面と算数の内容			(内 容) 算数の内容での数学的考え方など特徴を知る (必要な準備) 数学の持つ特徴をあらかじめメモする		
第4回	歴史的な視点からの算数教育: 戦前・戦後の算数の内容の特徴			(内 容) 今日の算数の内容を戦前・戦後の歴史的な視点から振り返る (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第5回	現代的な課題からの算数教育(1): 自然数や整数に関する内容			(内 容) ものを数えることなどの算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第6回	現代的な課題からの算数教育(2): 自然数や整数に関する内容			(内 容) ものを数えることなどの算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第7回	現代的な課題からの算数教育(3): 整数の計算に関する内容			(内 容) 整数の計算に関する算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第8回	現代的な課題からの算数教育(4): 分数や小数とその計算に関する内容			(内 容) 分数や小数とその計算に関する算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第9回	現代的な課題からの算数教育(5): 自然数・整数・有理数に関するまとめ			(内 容) 数の持つ体系的な性質や考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第10回	現代的な課題からの算数教育(6): 量と測定に関する内容			(内 容) 長さや広さなどの算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第11回	現代的な課題からの算数教育(7): 図形に関する内容			(内 容) 図形に関する算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第12回	現代的な課題からの算数教育(8): 数量関係に関する内容			(内 容) グラフなどに関する算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第13回	算数の内容と日常や社会との関係: 身近な生活			(内 容) 身近な生活への活用の視点から算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第14回	算数の内容と日常や社会との関係: 社会的な視点から			(内 容) 社会での活用の視点から算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
第15回	補足とまとめ			(内 容) 本講義の内容を振り返り算数の内容と考え方をまとめる (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する		
オフィスアワー	メールで対応します。					

授業名	社会科教育	開講学年	2 回生	単位数	2 単位
英文名	Elementary School Social Studies	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	湯浅 俊郎	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	戦後誕生した社会科の歴史と意義について理解を深め、戦後の社会科学学習指導要領の変遷や、社会科教材づくりの視点と方法、社会科授業案づくりなどを学ぶ。具体的には、教材づくりとして、基礎的なデータを用いた地域社会の捉え方など実践しながら、イメージ豊かに社会の現場をとらえ、社会科の授業のありかたについて考察していく。				
学習成果到達目標	1) 戦後社会科の歴史を理解したうえで、社会科教材づくりの視点と方法を踏まえて社会科授業案作りができる。 2) 民間社会科の理論と実践の成果を理解した上で、21 世紀の社会科の展望と課題をとらえることができる。				
評価方法	定期試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	前田賢次・荒井眞一編『学力と教育課程の創造—社会認識を育てる教育実践とその歩み』同時代社 2013 年				
参考書	適宜、紹介する。				
留意事項	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ガイダンス 授業の概要と目標	(内 容) 授業の目的や、授業の進め方について説明する。 (必要な準備)			
第2回	社会科の歴史(1)初期社会科と問題解決学習論	(内 容) 社会科とは、戦後教育改革と 1947 年版学習指導要領、社会科の本質と性格 (必要な準備) 第 1 章 戦後教育と社会科の歩み 1 社会科略史の講読			
第3回	社会科の歴史(2)民間社会科の実践と系統学習論	(内 容) 1955 年版から 1977 年版までの社会科学学習指導要領、文部省社会科と民間社会科の違い、民間社会科の歴史・地理教育の実践 (必要な準備) 第 1 章戦後教育と社会科の歩み 2 社会科学力論の変遷の講読			
第4回	社会科の歴史(3)社会科と生活科・総合学習の共存	(内 容) 1989 年版学習指導要領以後の社会科、生活科・総合学習と社会科の総合性、現代的課題と社会科 (必要な準備) 第 3 章現代の社会科の学力を問う 3 生活科・総合学習と社会科の講読			
第5回	社会科の歴史(4)現代の社会科の学力とシティズンシップ教育	(内 容) 2008 年版学習指導要領と「生きる力」、シティズンシップ教育 (必要な準備) 第 3 章現代の社会科の学力を問う 1 今、問われる社会科の学力の講読			
第6回	教材づくりについて	(内 容) 教科書研究から教材づくりと教材化 (必要な準備) 第 2 章 2 中学校社会科の授業づくりと学力の講読			
第7回	地域学習について	(内 容) 地域に根ざす教材づくり (必要な準備) 配付プリントの講読			
第8回	産業学習について	(内 容) 産業学習と日本社会の産業構造 (必要な準備) 第 2 章 1 小学校社会科の授業づくりと学力の講読			
第9回	グローバル化と情報化社会の学習について	(内 容) グローバリゼーションが進展し、情報化社会となった時代における日本社会の位置 (必要な準備) 第 2 章 1 小学校社会科の授業づくりと学力の講読			
第10回	指導案づくりの実習(1)	(内 容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (必要な準備) 配付プリントの講読			
第11回	指導案づくりの実習(2)	(内 容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (必要な準備) 配付プリントの講読			
第12回	模擬授業(1)	(内 容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (必要な準備) 作成した学習指導案			
第13回	模擬授業(2)	(内 容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (必要な準備) 作成した学習指導案			

第 14 回	模擬授業(3)	(内 容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (必要な準備) 作成した学習指導案
第 15 回	まとめ	(内 容) グローバリゼーションが進展している現在における将来の社会科のありかたについて考えてみる。 (必要な準備) 第 3 章 21 世紀社会科の展望と課題の講読
オフィス アワー	毎週 1 回 (休業期間中を除く。) オフィスアワーを設けます。※オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。	

授業名	国語教育(書写を含む)	開講学年	2年生	単位数	2単位
英文名	Elementary School Japanese and Calligraphy	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	遠藤 純	対象学生	現代家政2年生		
授業の概要	小学校国語科の教科専門の力を育てることを目的に、国語教育について学ぶ。小学校教員にふさわしい国語力を養い、言語と表現に関する問題について考察し理解を深める。物語、詩歌、民話、説明文等教材の構造と特徴、教材として扱う目的と留意点、読解の方法と理解を学習する。音声言語教材および書写についても取り上げる。基本的に講義形式で行うが、とりあげる題材により、具体的な授業の進め方は個人または共同でのワークや発表形式などを含む。				
学習成果到達目標	1) 国語科の授業内容および方法について理解する。 2) 現在の子どもの言語環境について理解を深める。 3) 物語や詩歌、民話、説明文など、それぞれの領域について教材研究の方法を理解し、実際の教科書教材を使って教材研究を行い、それぞれの教材の特徴について理解を深める。				
評価方法	定期試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input "="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input "="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input "="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 5"="" type="checkbox/>(</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 適宜プリントを配布			
参考書	講義中に指示する				
留意事項					
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	ガイダンス 授業の概要と目標		(内 容) 当該科目の目的やねらい、授業の進め方についての説明 (必要な準備)		
第2回	子どもの言語生活と国語力(1)		(内 容) 現代の子どもが置かれている物語環境について知り、教材としての児童文学について学ぶ。 (必要な準備) 教科書で習った児童文学作品を思い出ししておく。		
第3回	子どもの言語生活と国語力(2)		(内 容) 児童文学が持つ教材性について考え、読解教材としての要件について学ぶ。 (必要な準備) 教材としての児童文学に必要な要件は何か、考えておく。		
第4回	読むことの内容(1) 絵本をよむ①		(内 容) 絵本とは何かについて学び、その特性を理解する。 (必要な準備) 絵本の特徴について考えておく。		
第5回	読むことの内容(2) 絵本をよむ②		(内 容) 視覚メディアとしての絵本の特性をふまえ、その教材性について考える。 (必要な準備) 絵本を教材として活用する方法を考えておく。		
第6回	読むことの内容(3) 絵本をよむ③		(内 容) 絵本の創作を行うことで、絵本の特徴をより把握する。 (必要な準備) 絵本の特徴について復習しておく。		
第7回	読むことの内容(4) 文学教材をよむ①		(内 容) 物語教材(リアリズム)について学び、その特性と教材性について学ぶ。 (必要な準備) リアリズムについて調べておく。		
第8回	読むことの内容(5) 文学教材をよむ②		(内 容) 物語教材(ファンタジー)について学び、その特性と教材性について学ぶ。 (必要な準備) ファンタジーについて調べておく。		
第9回	読むことの内容(6) 文学教材をよむ③		(内 容) 物語教材(ファンタジー)について学び、その特性と教材性について学ぶ。 (必要な準備) ファンタジー教材について調べておく。		
第10回	読むことの内容(7) 古典教材をよむ		(内 容) 古典教材を取り上げ、その特質について理解を深め、授業で取り上げる際の留意点について考える。 (必要な準備) 教材として古典作品について調べておく。		
第11回	読むことの内容(8) 説明文教材をよむ		(内 容) 説明文教材を取り上げ、その特質について理解を深め、授業で取り上げる際の留意点について考える。 (必要な準備) 現在活用されている説明文教材について調べておく。		
第12回	書くことの内容 創作作文について		(内 容) 書くことの内容の教材研究の内容と方法について考え、学ぶ。 (必要な準備) 「書くこと」の内容について調べておく。		

第 13 回	話す・聞くことの内容 話し方・聞き方のスキル	(内 容) 話すこと・聞くことの教材研究の内容と方法について学ぶ。 (必要な準備) 「話すこと・聞くこと」の内容について調べておく。
第 14 回	書写: 書写の目的と内容	(内 容) 「書写に関する指導」の教材研究の内容と方法について学ぶ。 (必要な準備) 「書写」の概要について調べておく。
第 15 回	授業のまとめ	(内 容) 授業のまとめを行い、国語科授業のありようについて自分なりの考えをまとめる。 (必要な準備)
オフィス アワー	授業の初回に連絡する。	

授業名	家庭科教育	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Elementary School Home Economics	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	馬場 まみ	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	教科「家庭」の教育理念、教育目標、教育内容を講義する。学習指導要領で示された「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」の4つの内容を基底に、家庭科を学ぶ意義を講義する。				
学習成果到達目標	1) 小学校で「家庭」を学ぶ意義を理解する。 2) 児童に「家庭」を教授するための基礎的知識を身につける。				
評価方法	定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 3"="" checked="" type="checkbox/>(思考力) □()</td> <td colspan="/>			
テキスト	『小学校学習指導要領解説 家庭編』文部科学省 東洋館出版				
参考書					
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 科目の概要と目的 (必要な準備)			
第2回	家庭科教育の歴史:「女子のみ」教科	(内 容) 戦後の家庭科教育について (必要な準備) 配付資料を読んでくる			
第3回	家庭科教育の歴史:「男女共修」教科	(内 容) 家庭科教育の変遷について (必要な準備) 配付資料を読んでくる			
第4回	家庭科教育の目的	(内 容) 家庭科教育の目的 (必要な準備) 教科書を読んでくる			
第5回	教科内容と教科の特色	(内 容) 家庭科で学ぶ内容と特色 (必要な準備) 教科書を読んでくる			
第6回	家庭生活と家族	(内 容) 現代の家庭生活について (必要な準備) 教科書を読んでくる			
第7回	日常の食事と調理の基礎	(内 容) 食事の役割と栄養素の働きについて (必要な準備) 配付資料を読んでくる			
第8回	快適な衣服 1 衣服の機能	(内 容) 衣服の機能について (必要な準備) 配付資料を読んでくる			
第9回	快適な衣服 2 衣服の材料	(内 容) 衣服の材料と特徴について (必要な準備) 配付資料を読んでくる			
第10回	快適な衣服 3 衣服のサイズ表示	(内 容) サイズ表示の規定について (必要な準備) 配付資料を読んでくる			
第11回	快適な衣服 3 衣服の洗濯と管理	(内 容) 取り扱い絵表示と洗濯について (必要な準備) 配付資料を読んでくる			
第12回	基本的な縫製技術の習得:説明	(内 容) 基礎的な縫製技術の解説 (必要な準備) 配付資料を読んでくる			
第13回	基本的な縫製技術の習得:実習	(内 容) 布の裁断と実習 (必要な準備) 配付資料を読んでくる			
第14回	基本的な縫製技術の習得:仕上げ	(内 容) 仕上げと提出 (必要な準備) 各自の実習			
第15回	快適な住生活・消費生活	(内 容) 住生活と消費生活 (必要な準備) 教科書を読んでくる			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで在室できない場合がある。				

授業名	理科教育	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Elementary School Science	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山本 明美	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	講義形式の授業を通して、小学校理科の内容の背景になっている4領域（物理・化学・生物・地学）について、指導に必要な基礎的概念・知識を教授し、自然科学現象に対する理解の深化を図ると共に、指導者としての資質の向上を図る。実験・観察に必要な基本的知識を教授し、効果的な実験技術・方法について具体例を挙げながら教授する。また、自然の中での科学的な事象について観察・分析し、アクティブラーニング形式でも行う。				
学習成果到達目標	1) 自然の事物・現象についての実感を伴った理解ができる。 2) 見通しをもって観察・考察し、科学的な言葉や概念で表現できる。 3) 小学校理科の基本が理解でき、実際の指導が可能となる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	わくわく理科6、石浦 他 著、啓林館				
参考書	使用しない。				
留意事項	毎回の復習、予習は必要である。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	わたしたちの地球	(内 容) 水、大気、生命、緑について考える。 (必要な準備) 教科書 p 1～7 を一読しておくこと。			
第2回	ものが燃えるとき	(内 容) 燃焼時の空気の変化 (必要な準備) 教科書 p 8～21 を一読しておくこと。			
第3回	動物の構造	(内 容) 消化と吸収のしくみ (必要な準備) 教科書 p 22～31 を一読しておくこと。			
第4回	動物の機能	(内 容) 呼吸と循環のしくみ (必要な準備) 教科書 p 32～41 を一読しておくこと。			
第5回	植物の構造	(内 容) 維管束のしくみ (必要な準備) 教科書 p 42～50 を一読しておくこと。			
第6回	植物の機能	(内 容) 光合成のしくみ (必要な準備) 教科書 p 51～59 を一読しておくこと。			
第7回	生物のつながり	(内 容) 食物と空気によるつながり (必要な準備) 教科書 p 60～71 を一読しておくこと。			
第8回	自由研究	(内 容) 課題を決め計画をたて、まとめる (必要な準備) 教科書 p 72～77 を一読しておくこと。			
第9回	水溶液の性質	(内 容) 理科室の使い方や水溶液の性質 (必要な準備) 教科書 p 78～99 を一読しておくこと。			
第10回	月と太陽	(内 容) 月の運動と太陽の動き (必要な準備) 教科書 p 100～113 を一読しておくこと。			
第11回	大地のつくり	(内 容) 地層のでき方 (必要な準備) 教科書 p 114～129 を一読しておくこと。			
第12回	大地の変化	(内 容) 火山と地震 (必要な準備) 教科書 p 130～143 を一読しておくこと。			
第13回	てこのはたらき	(内 容) てこの原理 (必要な準備) 教科書 p 144～157 を一読しておくこと。			
第14回	発電と電気の利用	(内 容) 発電と蓄電、電気の変換 (必要な準備) 教科書 p 158～175 を一読しておくこと。			
第15回	自然とともに生きる	(内 容) 自然の事象について科学的分析を行い、発表する。 (必要な準備) 教科書 p 176～207 を一読しておくこと。			
オフィスアワー	木曜日 午後 16 時から 18 時まで				

授業名	子どもの英語活動	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Children and English Activities	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	松尾 章子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	小学校における「英語活動」（新指導要領では「外国語活動」として高学年で必修化）について学ぶことは、小学校教諭や民間の児童英語教師を目指す者にとっては必須の事項である。次に示す指導計画に沿って、必修化に至る経緯と教育課程上の位置付け、児童に英語を指導するために必要な理論を講義するとともに、小学校での優れた実践を紹介し、グループで意見交換し協同で活動を構想、発表すること等を通して、小学校英語活動への正しい理解を促す。担任主導授業のための教室英語練習も行う。				
学習成果到達目標	1) 小学校の外国語活動授業に関する基本知識を獲得し、指導時の注意点を指摘することができる。 2) 様々な教授法や言語習得に関する知識を駆使し「Hi, friends!」の内容に沿った指導案を書くことができる。 3) 簡単な教室英語を使用して、生徒に指示を出すことができる。				
評価方法	定期試験 (70%) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験 (30%) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『子どもに英語を教えるための教室英語』カレイラ松崎順子著（南雲堂）				
参考書	『Hi, friends!』文部科学省著（東京書籍） 『小学校英語の教育法：理論と実践』アレン玉井光江著（大修館書店） 『小学校学習指導要領の解説と展開：外国語活動』安彦忠彦監修（教育出版）				
留意事項	小学校の外国語活動の授業を見学に行くこと。模擬授業を行うこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業概要説明と小学校英語教育の意義と目的 (必要な準備) テキスト Lesson 1 の CD を聴いて練習			
第2回	新学習指導要領のねらいと外国語活動導入への歴史	(内 容) 外国語活動導入までの歴史とそのねらい (必要な準備) テキスト Lesson 2 の CD を聴いて練習			
第3回	子どもの言語習得	(内 容) 子どもの第一言語と第二言語習得について (必要な準備) テキスト Lesson 3 の CD を聴いて練習			
第4回	児童・発達心理学の観点からみる子ども	(内 容) 子どもの動機、態度、自尊心について (必要な準備) テキスト Lesson 4 の CD を聴いて練習			
第5回	英語教授法の基礎	(内 容) 様々な英語教授法について (必要な準備) テキスト Lesson 5 の CD を聴いて練習			
第6回	シラバスデザインの基礎	(内 容) 年間・単元のシラバスの組み立て方について (必要な準備) テキスト Lesson 6 の CD を聴いて練習			
第7回	レッスンプランの基礎	(内 容) 指導案の書き方について (必要な準備) テキスト Lesson 7 の CD を聴いて練習			
第8回	言語能力の測定と評価	(内 容) 言語能力の測定と評価法について (必要な準備) テキスト Lesson 8 の CD を聴いて練習			
第9回	小学校授業見学	(内 容) 実際の「外国語活動」授業の見学 (必要な準備) テキスト Lesson 9 の CD を聴いて練習			
第10回	グループワーク①(レッスンプラン作成)	(内 容) 模擬授業に向けてレッスンプランを作成 (必要な準備) テキスト Lesson 10 の CD を聴いて練習			
第11回	グループワーク②(発表準備)	(内 容) 模擬授業のための発表準備 (必要な準備) テキスト Lesson 11 の CD を聴いて練習			
第12回	模擬授業発表①	(内 容) 模擬授業発表 (必要な準備) 模擬授業の準備、テキスト Lesson 12 の CD を聴いて練習			
第13回	模擬授業発表②	(内 容) 模擬授業発表 (必要な準備) 模擬授業の準備、テキスト Lesson 13 の CD を聴いて練習			
第14回	模擬授業発表③	(内 容) 模擬授業発表 (必要な準備) 模擬授業の準備、テキスト Lesson 14 の CD を聴いて練習			
第15回	まとめ	(内 容) 模擬授業についての意見交換 (必要な準備) テキスト Lesson 15 の CD を聴いて練習			
オフィスアワー	月曜日 午後2時半～4時半（詳細については研究室に掲示している）				

授業名	保育内容(造形表現)	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Child Care: the Formative Arts for Expressions	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山中 隆	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	1) 子どもの造形表現につながる様々な演習で、仲間との学び合いを通して造形的感性、表現力、創造力、用具や材料に関する知識や技能の向上を図る。 2) 演習を通して幼児教育、保育における子どもの表現活動の発達をふまえた援助や指導方法について考察し理解を深める。				
学習成果到達目標	1) 演習を通して造形表現の多様性や豊かさ、自由さを理解する。 2) 描いたり作ったり発表したりする楽しさ、友達の表現や取り組みから学び合うことの大切さを知る。 3) 子どもの表現意欲を促し、表現力を育てる指導・支援のあり方について知識・考え方を深める。				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(造形表現力) <input type="/> ()			
テキスト	花篤實・岡田愨吾編『新造形表現 実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使用)				
参考書	使用しない。				
留意事項	1) 普段から造形表現とつながりのある「遊び」や「美術」に関心を持つようにすること。 2) 汚れを気にしなくても良い、活動しやすい服装で受講すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 領域「表現」、本科目の概要を知る (必要な準備) テキスト関連箇所(181ページほか)			
第2回	造形遊び①(材料体験:ねんど遊び)	(内 容) 小麦粉ねんどをつくり、造形を楽しむ (必要な準備) テキスト関連箇所(33,133ページほか)			
第3回	造形遊び②(触覚体験を伴う描画活動)	(内 容) フィンガーペインティング (必要な準備) テキスト関連箇所(24ページほか)			
第4回	造形遊び③(友達と作るソフトスカルプチュア)	(内 容) 新聞紙を用いた立体表現(共同制作) (必要な準備) テキスト関連箇所(49ページほか)			
第5回	簡単な劇表現①(人形の構想)	(内 容) ペープサートを制作する (必要な準備) テキスト関連箇所(86,87ページほか)			
第6回	簡単な劇表現②(人形の制作)	(内 容) ペープサートを制作する (必要な準備) 人形のデザインを考えておく			
第7回	簡単な劇表現③(作品を用いた発表)	(内 容) ペープサートを発表する (必要な準備) 自己紹介のアイデアを考えておく			
第8回	造形遊び④(身近にあるもので空間を変える)	(内 容) 大きなクモの巣を作る (必要な準備) テキスト関連箇所(48ページほか)			
第9回	造形遊び⑤(身近にあるもので遊ぶ)	(内 容) 不要になったA4版のチラシで作る (必要な準備) テキスト関連箇所(45,74,76,77ページほか)			
第10回	造形遊び⑥(凸凹を写し取る)	(内 容) いろいろなものをフロッタージュする (必要な準備) テキスト関連箇所(28ページほか)			
第11回	造形遊び⑦(前回の作品をコラージュする)	(内 容) フロッタージュを構成して貼る (必要な準備) テキスト関連箇所(29ページほか)			
第12回	造形遊び⑧(身体を用いた表現)	(内 容) 手の形を生かして演じる劇 (必要な準備) テキスト関連箇所(42ページほか)			
第13回	壁面構成①(構想・試作)	(内 容) 紙の加工法の探求、制作テーマを決める (必要な準備) テキスト関連箇所(151,152ページほか)			
第14回	壁面構成②(制作)	(内 容) アイデアを形にする (必要な準備) テキスト関連箇所(80ページほか)			
第15回	まとめ	(内 容) レポートの作成と指導者の講評 (必要な準備) 授業の取り組みを振り返っておく			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授業名	保育内容(音楽表現)	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Child Care:Musical Expression	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	山中 信子	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	子どもの生活の様々な表現活動を音楽の側面から支援する意義と方法について学ぶ。音(楽)あそびや歌唱指導の実践等を通し、乳幼児の豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる保育者となるための指導法を学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 子どもの発達段階・季節・機会に応じた歌唱・手遊びを習得する。 2) 基礎的な和声理論を習得し、臨機応変に伴奏を行えるようにする。 3) 人前で歌うことや身体表現することに慣れるとともに、子どもに対する指導法を習得する。				
評価方法	定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力
テキスト	『子どものうた』京都華頂大学・華頂短期大学編				
参考書					
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	導入	(内 容) (必要な準備)	授業運営上の注意事項等の説明		
第2回	手あそび(春～夏)・鍵盤和声復習	(内 容) (必要な準備)	季節の手あそびの実践とコードネーム・カデンツ復習 主要三和音復習		
第3回	手あそび(秋～冬)・鍵盤和声実践(コードに頼らない鍵盤和声)	(内 容) (必要な準備)	季節の手あそびの実践と伴奏付け演習(和音進行の把握)・和声・非和声音の把握 短3度・長3度の復習		
第4回	手あそび小テスト	(内 容) (必要な準備)	2組に分けて、手あそびの小テスト 手あそびの練習		
第5回	簡易楽器を使った合奏	(内 容) (必要な準備)	鈴・カスタネット等を用いた合奏の実践 楽器奏法の基礎練習		
第6回	音あそび	(内 容) (必要な準備)	様々な音素材を扱った音あそび 楽器以外の音素材を探しておく		
第7回	歌唱指導(基礎)	(内 容) (必要な準備)	幼児に歌唱指導をする際の流れ・留意点等を説明する 歌唱指導の流れを把握する		
第8回	歌唱指導(応用)	(内 容) (必要な準備)	歌唱指導する教材の年齢別に検討する。 教科書の内容に目を通しておく		
第9回	歌唱指導(発展)	(内 容) (必要な準備)	実際に歌唱指導を実施する際の留意点を踏まえ 模擬指導の流れを検討する 教科書の内容に目を通しておく		
第10回	歌唱指導発表(基礎)	(内 容) (必要な準備)	基本的な指導の流れを踏まえた歌唱指導発表 発表準備		
第11回	歌唱指導発表(応用)	(内 容) (必要な準備)	第1回目の発表を踏まえた応用 発表準備		
第12回	歌唱指導(発展)	(内 容) (必要な準備)	第2回目の発表を踏まえた発 発表準備		
第13回	歌唱指導(発展)	(内 容) (必要な準備)	第3回目の発表を踏まえた発展編 発表準備		
第14回	歌唱指導(討議)	(内 容) (必要な準備)	全ての発表を終えての討議 反省点等を予め書き出しておく		
第15回	まとめ	(内 容) (必要な準備)	歌唱指導をはじめとした表現(音楽)の指導に 関する総括 指導案の手直し		
オフィスアワー	火曜日 12:10 から 13:00 まで				

授業名	保育内容(健康)	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Child Care:Health	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	野崎 之暢	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	日頃、自身の健康についてどれくらい冷静な視点をもって生活しているだろうか？子どもにとって気持ちの良い生活とは何かを軸に、「健康」な環境を構成することができる知識と事例、先生としての在り方について学びを深める。併せて、子どもを守るという立場としての職業意識についても随時確認を行う。				
学習成果到達目標	1) 自身の健康について広くふりかえりを行い、保育者として人として適切な想いを体現できるようにする。 2) 保育現場では「おたより」等の作成を行うので、講義内容を適切にノート化できるようにする。				
評価方法	定期試験 (70 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	講義内配布プリント				
参考書	「保育所保育指針」				
留意事項	できるだけ噛み砕いた表現に努めるので、学びを自分自身の言動として表現しようとする努力と自覚を期待したい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション+保育者の専門性	(内 容) 半期の流れについて説明し、「保育」の意義および一般的に期待される保育者のあり方を知る。 (必要な準備) シラバスの確認			
第2回	保育者の役割(その1)	(内 容) 保育所保育に携わる者としてどのような資質が求められるのかを確認し、課題の持ち方を考える。 (必要な準備) それまでの保育内容系科目で習った内容の確認			
第3回	保育者の役割(その2)	(内 容) 保育所保育指針を中心に、保育者の基本姿勢について認識を深める。 (必要な準備) それまでの保育内容系科目で習った内容の確認			
第4回	保育所保育指針「健康」のねらいと内容(その1)	(内 容) 保育所保育指針全体の改定ポイントを復習した上で、「健康」の領域における記述内容を平易なことばで解説していく。 (必要な準備) 保育所保育指針の確認			
第5回	保育所保育指針「健康」のねらいと内容(その2)	(内 容) 「健康」における記述内容が現実にもどのように反映されているのか、事例を通して理解を深める。 (必要な準備) 保育所保育指針の確認			
第6回	心の健康と発達	(内 容) 情緒(情動)について理論を復習し、事例を参考に「子どもらしい特徴」を確認する。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認			
第7回	体の健康と発達	(内 容) 身体発達の一般的な特徴を復習し、家庭から投げかけられがちな子どもへの心配事について、想いも含めて認識を深める。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認			
第8回	生活習慣	(内 容) 基本的な生活習慣を振り返り、管理的な保育とならないよう生活の流れで気をつけたい事柄を共に考える。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認			
第9回	運動の意義	(内 容) 運動能力について一般的な年代特徴を押さえた上で、保育者として「運動あそび」で活かせるポイントを確認する。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認			
第10回	安全指導(その1)	(内 容) 保育所保育指針における「安全」をピックアップし、事故防止+安全指導について認識を高める。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認			
第11回	安全指導(その2)	(内 容) 保育現場でどのように危機管理が行なわれているのか、事例を通して理解を深める。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認			

第 12 回	家庭生活における「健康」	(内 容) 子どもにとって大きな影響を受けるのは家庭。近年の家庭環境における変化と養育に関する問題点を探っていく。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認
第 13 回	集団生活における「健康」	(内 容) 複数の人間が集う中で、判断力等は培われる…「経験」の大切さについて事例を通して理解を深める。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認
第 14 回	「あそび」の重要性～健康の側面から～	(内 容) 生活の中でどのように「健康」の領域が活かされているのか…半期の総括として事例を分析していく。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認
第 15 回	指導計画における「健康」	(内 容) 指導案はもちろん、「お手紙」等…現場ですぐに使える「健康」ネタについてその活用方法を知る。 (必要な準備) ノートのまとめと前回講義内容の確認
オフィス アワー		

授業名	保育内容(人間関係)	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Child Care: Human Relations	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	松浦 真理	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	乳幼児期の子どもが、人の存在を認識し、人といることや関わることを楽しいと感じることが、社会性を育むための第一歩である。人間が言語的・非言語的コミュニケーションスキルをどのように使いながら他者と人間関係を築いていくかを理解し、そのために子どもに身につけさせる能力はどのようなものか、保育者の援助はどのようなものかを、事例を参照しながら考察していく。				
学習成果到達目標	1) 保育領域としての「人間関係」の基本原理を、幼稚園教育要領・保育所保育指針から理解する。 2) 発達段階に応じた人間関係がイメージでき、援助の考え方を説明できる。 3) 社会変化にともなう人間関係の変化とそのための援助を予測できる。				
評価方法	定期試験 (80%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 3"="" type="checkbox/>()</td> <td colspan="/>			
テキスト	毎回資料を配布する。				
参考書	『新保育シリーズ 保育内容 人間関係』 友定啓子・小田豊編 (光生館) ほか適宜紹介する。				
留意事項	時間割にもよるが、現場での見学学習を入れることがあるため、日程変更する可能性がある。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	人間関係の意義と重要性	(内 容) 授業進め方説明の後、人間関係のはじまりや意味を考察する。 (必要な準備) シラバスに目を通しておく。			
第2回	領域「人間関係」を読み解く	(内 容) 領域のねらいなどを説明する。 (必要な準備) 該当箇所を読み、内容と意味を考えておく。			
第3回	発達段階と人との関わり(乳児)	(内 容) 3歳未満の子どもの人間関係を説明する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第4回	発達段階と人との関わり(3歳)	(内 容) おおむね3歳ごろの人間関係を説明する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第5回	発達段階と人との関わり(4歳)	(内 容) おおむね4歳ごろの人間関係を説明する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第6回	発達段階と人との関わり(5歳)	(内 容) おおむね5歳ごろの人間関係を説明する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第7回	現場での観察学習	(内 容) 子ども・教師の人間関係を現場観察から学ぶ。 (必要な準備) 見学先に関する事前学習をしておく。			
第8回	観察学習をもとにした考察	(内 容) 観察記録をもとに保育者の姿勢を考察する。 (必要な準備) テキストの該当箇所も参照しておく。			
第9回	道徳性の芽生えと人間関係	(内 容) 道徳性をどう育てるのかを説明する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第10回	特別支援を要する子どもとの関係	(内 容) 特別支援を要する子どもへの援助を知る。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第11回	トラブルがはぐくむ人間力	(内 容) 人間関係の葛藤の大切さを知る。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第12回	地域社会や関連機関との連携の大切さ	(内 容) 地域社会や関連機関との連携の大切さを知る。 (必要な準備) 配付プリントを読んでおく。			
第13回	小学校との連続性	(内 容) 将来を見通した人間関係のあり方を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。			
第14回	社会変化と人間関係	(内 容) 変化する社会と人間関係を予測する。 (必要な準備) 前回の授業時に出した課題を考えておく。			
第15回	まとめ	(内 容) これまでの内容を振り返り、重要な点の理解を深める。 (必要な準備) これまでの内容を復習しておく。			
オフィスアワー	毎水曜日昼休みほかメールにて受付				

授業名	保育内容(環境)	開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care:Environment	開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	浅田 瞳	対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	子どもが周囲の環境に好奇心や探求心をもって関わるために、保育者として必要な配慮は何かを考えていく。子どもの興味を養うためには、まず保育者自身が好奇心や探求心をもって、自然や社会に関わっていくことが必要である。そこで、日常的に目にする木々や植物の実り、昆虫や小動物の生態に関心をもてるようにすることや、動植物の飼育栽培の実践を紹介する。また、それらを図鑑で調べることによって文字や数に関心をもてるようにするなど、子どもの自発性を重視して、子どもの認識を高めるかかわりを考えていく。					
学習成果到達目標	1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2) 子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて学ぶ。 3) 身近な環境にかかわって展開する活動を指導する方法について学ぶ。					
評価方法	定期試験 (30 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技				
評価基準	主たる評価の観点 <input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> ()	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> ()		
テキスト	近藤幹生監修 徳安敦・瀧川光治著・編『生活事例からはじめる保育内容環境』(青踏社)					
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館)、厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館)					
留意事項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動事例をとりあげ、教材研究や体験を通し学生達自身で深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。授業への積極的な参加をし、日常生活への研究心をもち興味・関心を深める。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション・「環境」とは		(内 容) 授業進め方の説明・人と環境との関わりを理解する。 (必要な準備) 教科書 1～5			
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針改訂及び領域「環境」について、保育内容のとらえ方と考え方		(内 容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針における改訂の主旨と領域「環境」・保育内容「環境」について学ぶ (必要な準備) 教科書 11～44			
第3回	子どもの環境と保育者		(内 容) 環境への積極的なかかわりのあそびと子どもについて考え、意見交換をする (必要な準備) 環境領域の発表の準備 話し合い			
第4回	子どもの活動や生活と「環境」		(内 容) 乳幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく			
第5回	乳幼児の主体的な生活と領域「環境」		(内 容) 乳幼児の主体的な生活と領域「環境」との関わりについて学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第6回	園外活動によって育つもの		(内 容) 散歩、遠足、社会見学などのねらい、保育者の留意点 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第7回	季節による保育活動		(内 容) 身近な植物と保育活動でのかかわり、基礎的な知識を理解し発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第8回	身近な動物と保育活動		(内 容) 身近な動物の飼育など子どもとのかかわり、保育活動について調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第9回	科学性を伸ばすあそびと子ども①		(内 容) 空気、水の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第10回	科学性を伸ばすあそびと子ども②		(内 容) 音、光、磁石の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第11回	数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびと子ども		(内 容) 数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびについて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第12回	領域「環境」指導上の問題点		(内 容) 領域「環境」指導上の問題点を理解する (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく			
第13回	領域「環境」の留意事項		(内 容) 領域「環境」の留意事項を学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく			
第14回	領域「環境」における保育者の役割		(内 容) 領域「環境」における保育者の役割について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第15回	環境を通して子どもたちの保育を考える		(内 容) 「環境」と保育の関係性について振り返る。 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
オフィスアワー	第1回目の授業にて告知。					

授業名	保育内容(言葉)	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Child Care: Language	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	西川 由紀子	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	発達心理学で学んだ子どもの言語発達に関する知識を基礎に、子どもの言語に関する知見を深めてゆく。絵本や紙芝居などが保育場面でどのように活用されているのか、その中で子どもたちがどんな力をはぐくんでいるのかを考えたり、幼児の保育の総合活動である劇活動をどのように構成していくかを、発表会のビデオ視聴などを通して考えていき、自らも劇活動の体験をしたい。子どもたちがことばを伝え合い、表現する楽しさを実感することの意味を考えたい。				
学習成果到達目標	1) 絵本や紙芝居など、ものがたりにふれ、それらが保育現場でどのように活用されているかを理解する。 2) 総合活動としての劇を、それぞれの年齢の子どもたちがどのように楽しんでいるかを理解する。 3) 子どもがことばで表現する楽しさを理解する。				
評価方法	定期試験 (70 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()			
テキスト					
参考書					
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	ことばのおもしろさ(自称詞)	(内 容) 自称詞の使い分けによる自己表現を解説する (必要な準備)			
第2回	子どもにとっての絵本の楽しさ(DVDと比較して)	(内 容) 絵本とDVDの違いを考える (必要な準備) 違いを考えてくる。			
第3回	子どもにとっての絵本の楽しさ(誰と楽しむのか)	(内 容) 年齢や集団の規模による楽しさの違いを考える (必要な準備) 絵本をいくつか読んでくる。			
第4回	子どもにとっての絵本の楽しさ(絵を見る楽しさ)	(内 容) 絵本の絵が果たす役割を解説する。 (必要な準備) 絵本をいくつか読んでくる。			
第5回	子どもにとっての絵本の絵の魅力	(内 容) 幼児の絵本の見方を解説する (必要な準備) プリントを読んでくる			
第6回	絵本交流会	(内 容) 受講生が絵本の読み手になる体験をする。 [必要な準備] 絵本を選んで読み方を練習してくる。			
第7回	手遊びの楽しさ	(内 容) 手遊びの楽しさを解説する。 (必要な準備) 手遊びを思い出してくる。			
第8回	紙芝居の演じ方	(内 容) 紙芝居の演じ方を解説する (必要な準備) 紙芝居をいくつか読んでくる。			
第9回	手遊び交流会	(内 容) 受講生が考えてきた手遊びを実演する。 (必要な準備) 手遊びを実演できるよう練習してくる。			
第10回	3歳児の劇ごっこ	(内 容) 3歳児の劇ごっこについて解説する。 (必要な準備) プリントを読んでくる。			
第11回	4歳児の劇あそび	(内 容) 4歳児の劇あそびについて解説する。 (必要な準備) プリントを読んでくる。			
第12回	5歳児の劇あそび	(内 容) 5歳児の劇あそびについて解説する。 (必要な準備) プリントを読んでくる。			
第13回	劇あそびの実際	(内 容) 劇あそびのプロセスを解説し、案を作る。 (必要な準備) 劇あそびの題材を考えてくる。			
第14回	劇あそびの実演	(内 容) 劇あそびをグループごとに発表する。 (必要な準備) 劇あそびを練習してくる。			
第15回	おはなしつくりの楽しさ	(内 容) 子どものおはなしつくり実践を解説する。 (必要な準備) プリントを読んでくる。			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。				

授業名	教育方法論	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Teaching Method	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	松浦 真理	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	教育方法はよりよい授業を展開するために、常に試行され、刷新されなければならないものである。教授内容を、どのような手順で、どのような技術・方法で教えるべきかを考えるだけでなく、教員がどのような姿勢で授業に臨むか、子どものどのような点を捉えて、授業を進めるべきか知ることも重要になってくる。講義形式の授業を通して、教育方法が研究されてきた歴史を知ると同時に、教室内で生起するコミュニケーション過程を探り、カリキュラム研究や学習理論などについても学ぶことを目的とする。				
学習成果到達目標	1) 教育方法についての知識や見解を実践と結び付けて説明できる。 2) 教育方法の複合的性格や曖昧さを踏まえた上で、よりよい教育方法を試行錯誤する姿勢を身につける。				
評価方法	定期試験 (80 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	佐藤学『放送大学叢書 011 教育の方法』(左右社)				
参考書	田中耕治ほか著『新しい時代の教育方法』(有斐閣)				
留意事項	テキストや資料の予習を前提に、質疑応答を含めた授業形式を取ります。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	教育方法を学ぶことの意義	(内 容) (必要な準備)	授業進め方説明の後、教育方法とは何か、なぜ重要かを考える。 シラバスに目を通し、授業経験を振り返る。		
第2回	学校機能の変化と教育方法	(内 容) (必要な準備)	教育方法と学校機能の連動を踏まえ、近年の動向を知る。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第3回	欧米に見る教育方法の変遷	(内 容) (必要な準備)	欧米における教育方法の歴史的展開を把握する。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第4回	日本における教育方法の変遷	(内 容) (必要な準備)	日本における教育方法の歴史的展開を把握する。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第5回	心理学に基づく教育方法の展開	(内 容) (必要な準備)	行動主義・認知主義・活動主義にもとづく学習論の理解。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第6回	勉強から学びへの転換	(内 容) (必要な準備)	勉強と学びの違いを知り、授業の基本的考え方を知る。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第7回	授業の複合的性格	(内 容) (必要な準備)	授業内で生起する諸過程の複雑さと曖昧さを知る。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第8回	授業をどう「デザイン」するか	(内 容) (必要な準備)	授業づくりの過程について理解する。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第9回	授業をどう評価するか	(内 容) (必要な準備)	授業の評価方法の基本的な考え方を理解する。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第10回	授業分析の方法	(内 容) (必要な準備)	コミュニケーション分析について理解する。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第11回	授業の言語とディスコース	(内 容) (必要な準備)	授業言語とその文脈について理解する。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第12回	カリキュラムと単元の構成	(内 容) (必要な準備)	カリキュラムと単元の構成について理解する。 該当箇所を読み、課題を見つける。		
第13回	反省的实践家としての教師	(内 容) (必要な準備)	教育実践の主体である教師のあり方について考察する。 テキスト該当箇所を読み、事前質問について考えておく。		
第14回	教育方法の今後の展望	(内 容) (必要な準備)	今後求められる教育像と教育方法を予測する。 テキスト該当箇所を読み、事前質問について考えておく。		
第15回	まとめ	(内 容) (必要な準備)	これまでの内容を振り返り、重要な点の理解を深める。 これまでの学習を振り返り、質問点を整理しておく。		
オフィスアワー	毎水曜日昼休みほかメールにて受付				

授業名	保育原理Ⅱu	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Child CareⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	西川 由紀子	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	子ども子育て新制度について解説した後、保育の内容の歴史的な変遷を学んだ後、保育の計画を立てる際に考慮すべきことを実際の指導計画を通して学んでいく。また、長時間保育、異年齢保育など、現代の保育ニーズに応える保育内容をどうつくっていくかを検討する。				
学習成果到達目標	1) 保育所保育の特性を、保育内容の面で理解する。 2) 保育内容の変遷を理解する。 3) 保育の計画を立てるうえでたいせつにすべき点を理解する。				
評価方法	定期試験 (55 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (45 %) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()			
テキスト	厚生労働省「保育所保育指針解説書」 保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」(ひとなる書房)				
参考書					
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	保育所保育における保育の特性 1	(内 容) 幼稚園、認定こども園との比較から特性を解説する (必要な準備) 保育所保育指針第1章を読む			
第2回	保育所保育における保育の特性 2	(内 容) 低年齢からの長時間保育における配慮事項 (必要な準備) 保育所保育指針第1章を読む			
第3回	保育内容の変遷 1 明治期	(内 容) 明治期の保育 (必要な準備) 配布資料を読んでくる			
第4回	保育内容の変遷 2 大正から昭和初期	(内 容) 大正から昭和初期の保育 (必要な準備) 配布資料を読んでくる			
第5回	保育内容の変遷 3 系統的保育案の実際	(内 容) 系統的保育案の実際と現代の保育への継承 (必要な準備) 配布資料を読んでくる			
第6回	保育内容の変遷 4 戦時下	(内 容) 戦時下の保育 (必要な準備) 配布資料を読んでくる			
第7回	保育内容の変遷 5 終戦後	(内 容) 戦後の保育を教育要領・保育指針から学ぶ (必要な準備) 配布資料を読んでくる			
第8回	保育内容の変遷 6 1950年代	(内 容) 戦後の保育の映像をみて、当時の保育を学ぶ (必要な準備) 配布資料を読んでくる			
第9回	保育内容の変遷 7 1960年代以降	(内 容) 今日の教育要領・保育指針ができるまでの経過 (必要な準備) 保育所保育指針第1章を読んでくる			
第10回	保育の計画の実際 1 保育の計画とは	(内 容) 保育の計画の実際 (必要な準備) 保育所保育指針4章を読んでくる			
第11回	保育の計画の実際 2 指導計画	(内 容) 年間計画・月案の実際 (必要な準備) テキスト p54～、p168～を読んでくる			
第12回	保育の計画の実際 3 保育の展開	(内 容) 活きた保育の展開と指導計画の関連 (必要な準備) 配布資料およびテキスト p184～を読んでくる			
第13回	保育の計画の実際 4 保育の評価	(内 容) 自己評価・保育所の評価の実際 (必要な準備) 配布資料およびテキスト p40～を読んでくる			
第14回	長時間保育における保育内容の構造	(内 容) 長時間保育における保育者連携と計画 (必要な準備) 配布資料を読んでくる			
第15回	異年齢保育における保育内容の構造	(内 容) 異年齢保育における生活作りと計画 (必要な準備) 配布資料を読んでくる			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。				

授業名	養護原理u	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Principles of Corporate Parenting	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山川 宏和	対象学生	現代家政1回生		
授業の概要	保育士として必要な社会的養護の知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。 1. 補完・代替的養護について 2. 児童養護施設や乳児院、母子生活支援施設等について 3. 児童虐待の定義やその対応について 4. 里親ケアの概要について				
学習成果到達目標	1) 子育ての代替・補完として長い歴史を持つ児童養護が社会的に編成された過程を理解する。 2) 養護資源の有効性について理解する。 3) 乳児院や児童養護施設等の入所してくる児童の特徴や、抱えている問題を総合的に理解する。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	相澤仁・林浩康 編 「社会的養護」[中央法規]				
参考書	随時指示する。				
留意事項	視聴する DVD や映像素材の内容も試験の範囲となる。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	社会的養護について	(内 容) 日本と世界の比較、指針について (必要な準備)			
第2回	児童虐待の理解	(内 容) 被虐待児童の行動特性について学ぶ (必要な準備)			
第3回	家庭的養護について 里親	(内 容) 里親ケアの登録、委託、手当について (必要な準備)			
第4回	家庭的養護について 里子	(内 容) 里親ケアの研修、里子について (必要な準備) テキストを参照しておく			
第5回	特別養子縁組について	(内 容) 特別養子縁組について (必要な準備) テキストを参照しておく			
第6回	施設養護の実際 規模および形態について	(内 容) 児童養護施設のケアについて (必要な準備) テキストを参照しておく			
第7回	施設養護の実際 虐待対応	(内 容) 被虐待児の支援について (必要な準備) 児童虐待の種類を調べておく			
第8回	施設養護の実際 家庭復帰	(内 容) 児童養護施設のケアについて (必要な準備) テキストを参照しておく			
第9回	施設養護の実際 乳児院	(内 容) 乳児院でのケアについて (必要な準備) テキストを参照しておく			
第10回	少年院・保護処分について	(内 容) 少年院・家庭裁判所調査官について (必要な準備) テキストを参照しておく			
第11回	保護観察・保護司について	(内 容) 児童自立支援施設、保護観察について (必要な準備) 保護観察の種別を調べておく			
第12回	家庭的養護について 自立援助ホーム	(内 容) 自立援助ホームの役割と機能について (必要な準備) テキストを参照しておく			
第13回	障害児通所支援について	(内 容) 発達障害や障害児通所支援施設の理解 (必要な準備) テキストを参照しておく			
第14回	アタッチメント障がいについて	(内 容) アタッチメント(愛着)障がいについて (必要な準備) 発達障害の名称を調べておく			
第15回	施設養護の実際 情緒障害児	(内 容) 情緒障害児短期治療施設について (必要な準備) 情緒障害児短期治療施設の設置数を調べる			
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。				

授業名	人間福祉論Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Human WelfareⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	藤井 伸生	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、総合的体系的な生活保障を検討しつつ、社会福祉の役割について考える。生活問題の構造把握をもとに、社会福祉の果たす役割について検討する。生活問題対策として社会政策及び公共一般施策の役割も視野に入れながら社会福祉の位置と役割を考察する。				
学習成果到達目標	1) 私たち人間のくらしにおいて総合的体系的な生活保障を理解する。 2) 社会福祉が果たしている役割について理解する。 3) これからの人生において社会福祉がいかに関わるかを理解する。				
評価方法	定期試験 (100%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 () <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(論理的な展開力) <input type="/> ()			
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。				
参考書	授業時に紹介				
留意事項	ノートをしっかり取ること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	社会福祉の対象理解	(内容) 生活問題の構造把握について (必要な準備) ぐらしの実態について考える			
第2回	生活問題の構造	(内容) 生活問題の構造と社会福祉の関係 (必要な準備) 生活問題について考える			
第3回	総合的体系的な生活保障とは？	(内容) 総合的体系的な生活保障について (必要な準備) 教科書第2章を読んでおく			
第4回	総合的体系的な生活保障－労使関係制度と社会福祉－	(内容) 労使関係制度の内容と課題について (必要な準備) 労使関係制度と社会福祉との関連考察			
第5回	総合的体系的な生活保障－雇用保障制度と社会福祉－	(内容) 雇用保障制度について (必要な準備) 家族の雇用実態を知る			
第6回	総合的体系的な生活保障－労働者保護制度と社会福祉－	(内容) 労働者保護制度について (必要な準備) 家族の労働条件について知る			
第7回	総合的体系的な生活保障－育児・介護休暇と社会福祉－	(内容) 育児・介護休暇制度について (必要な準備) 家族の育児・介護休暇制度を知る			
第8回	総合的体系的な生活保障－最低賃金制度と社会福祉－	(内容) 最低賃金制度について (必要な準備) 家族の賃金について知る			
第9回	総合的体系的な生活保障－年金保険制度－	(内容) 年金保険制度について (必要な準備) 高齢者に年金のことについて聴く			
第10回	総合的体系的な生活保障－医療保険制度－	(内容) 医療保険制度について (必要な準備) 医療機関での実情を考える			
第11回	総合的体系的な生活保障－介護保険制度－	(内容) 介護保険制度について (必要な準備) 高齢者に介護保険のことについて聴く			
第12回	総合的体系的な生活保障－雇用保険と社会福祉－	(内容) 雇用保険について (必要な準備) 失業している人へ思いをよせる			
第13回	総合的体系的な生活保障－教育・医療・保健と社会福祉－	(内容) 教育・医療・保健について (必要な準備) 上記に関して実情を考える			
第14回	総合的体系的な生活保障－住宅・生活環境施設と社会福祉－	(内容) 住宅・生活環境施設について (必要な準備) 上記について近隣の実情を考える			
第15回	社会福祉の課題－財政問題を中心に－	(内容) 社会福祉の財政問題について (必要な準備) 政府予算に目を向け考察する			
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。				

授業名	園芸基礎	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Basic Gardening	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	片石 高幸	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	園芸に関する知識と技能の基礎について学ぶ。				
到達目標	1) 植物の種類を覚える。 2) 庭園の歴史を学び、実習を通してガーデンプランニングの基礎ができる。				
評価方法	定期試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> デザイン能力) <input type="checkbox"/>			
テキスト	資料を配布する				
参考書	『ランドスケープデザイン Vol.1~4』角川書店				
留意事項	現地見学や実習を行うので、天候によっては内容の変更がある。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	園芸とは何か	(内 容) ガイダンス・園芸の歴史 (必要な準備) 筆記用具			
第2回	日本庭園とは何か	(内 容) 庭園の見学と解説 (必要な準備) スケッチブック、カメラなど			
第3回	公園とは何か	(内 容) 公園の見学と解説 (必要な準備) スケッチブック、カメラなど			
第4回	庭園見学	(内 容) デザインを学ぶ (必要な準備) スケッチブック、カメラなど			
第5回	実習	(内 容) 樹木の手入れなど (必要な準備) 作業のできる服装			
第6回	素材学	(内 容) 園芸素材の解説 (必要な準備) スケッチブック、カメラなど			
第7回	植物園の植物	(内 容) 管理されている植物の紹介 (必要な準備) スケッチブック、カメラなど			
第8回	庭園の添景物について	(内 容) 石造物などの添景物の紹介 (必要な準備) スケッチブック、カメラなど			
第9回	森の生態	(内 容) 見学において植生を学ぶ (必要な準備) スケッチブック、カメラなど			
第10回	実習	(内 容) 作庭の基礎 (必要な準備) 作業のできる服装			
第11回	現地調査	(内 容) デザイン課題対象地の測量など (必要な準備) 筆記用具・定規			
第12回	ガーデンデザイン 平面図	(内 容) 平面図の作成手順の解説 (必要な準備) 筆記用具・定規			
第13回	ガーデンデザイン 立面図	(内 容) 立面図の作成手順の解説 (必要な準備) 筆記用具・定規			
第14回	ガーデンデザイン パース	(内 容) パースの作成手順の解説 (必要な準備) 筆記用具・定規			
第15回	プレゼンテーション	(内 容) 各自学んだ事を基本に最終デザイン発表 (必要な準備) 発表に必要な資料			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。				

授業名	小児保健Ⅱu	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Infant HealthⅡ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	石井 信子	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現在子どもの出生や発育を取り巻く環境は急速に変化してきている。子どもが本来持っている能力を十分発揮でき、その可能性を伸ばすことができるように、母子保健法に基づく、厚生労働省 乳幼児健康診査を基に基本的知識を身につける。				
学習成果到達目標	1) 医学的基礎知識の理解 2) 子どもの病気の看護、予防対策の獲得 3) 子どもの健康増進対策の獲得				
評価方法	定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	資料毎回配布				
参考書	精神医学・内科学・心理学の視点からメンタルヘルスを学ぶ (ミネルヴァ書房)				
留意事項	小児の病気等保育における環境として衛生管理並びに安全の実施体制について、学びを深めることが大切であるので、自分自身や子どもの健康について関心を持つ。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス・小児保健Ⅱの意義	(内 容) 小児保健Ⅱの目的と意義・授業の進め方 (必要な準備)			
第2回	子どもの成長と発達	(内 容) 保育における小児保健上の留意点について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第3回	乳幼児健康診査について	(内 容) 乳幼児健康診査について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第4回	乳幼児健康診査についてまとめる	(内 容) 乳幼児健康診査について調べる (必要な準備) レポート提出			
第5回	4か月児の健康診査	(内 容) 4か月児の特徴理解と対応 (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第6回	8か月児の健康診査	(内 容) 8か月児の特徴理解と対応 (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第7回	1歳6か月児の健康診査	(内 容) 1歳6か月児の特徴理解と対応 (必要な準備) 前回学習した部分をを読んでおくこと			
第8回	2歳児の健康診査	(内 容) 2歳児の特徴理解と対応 (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第9回	3歳児の健康診査	(内 容) 3歳児の特徴理解と対応 (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第10回	5歳児の健康診査	(内 容) 5歳児の特徴理解と対応 (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第11回	精神発達のみかた	(内 容) 精神発達のみかたを知る (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第12回	乳幼児の栄養	(内 容) 乳幼児の栄養全般について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第13回	母子保健	(内 容) 母子保健について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第14回	母子保健	(内 容) 母子保健について (必要な準備) 前回学習した部分を読んでおくこと			
第15回	まとめ	(内 容) これまでの総復習をする (必要な準備) 配布資料等持参			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	地域福祉論Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Community WelfareⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	藤井 伸生	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際とその推進方法について理解することを目的とする、講義形式の授業である。地域における生活問題についての認識方法としての調査の方法、地域懇談会の手法、関係機関の連携の方法等、地域福祉として関係者が協力して取り組むべき課題を明らかにし、それぞれの機関・団体が果たしていくべき役割と課題について考えていくことになる。その際、地域福祉（活動）計画の実際を通して理解する。				
学習成果到達目標	1) 地域福祉の課題をいかに把握するか、地域福祉調査の実際を学ぶ。 2) 地域福祉活動計画及び地域福祉計画の実際を通して地域福祉推進の方向性を学ぶ。				
評価方法	定期試験 (80 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 論理的な展開力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力)
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。				
参考書	授業時に紹介				
留意事項	我がまちの地域福祉（活動）の実際及び計画を知ろう				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	地域福祉をいかに推進するか	(内 容) 地域福祉の推進方策 (必要な準備) 地域福祉の推進について考える			
第2回	地域福祉の実際－鹿児島県の実例	(内 容) 地域福祉の実際 (必要な準備) 自分自身の地域を知る			
第3回	地域福祉の実際－京都市の実例	(内 容) 地域福祉の実際 (必要な準備) 自分自身の地域を見る			
第4回	地域福祉の実際－大阪府の実例	(内 容) 地域福祉の実際 (必要な準備) 自分自身の地域を考える			
第5回	地域福祉調査の方法・枠組み	(内 容) 地域福祉調査の方法・枠組み (必要な準備) 地域福祉調査について考える			
第6回	地域福祉調査の実施・分析	(内 容) 地域福祉調査の実施を知る (必要な準備) 地域福祉調査を考える			
第7回	地域福祉の推進と計画	(内 容) 地域福祉と計画の関係 (必要な準備) 我がまちの地域福祉（活動）計画を知る			
第8回	地域福祉活動計画－事業－	(内 容) 地域福祉活動計画の事業内容 (必要な準備) 我がまちの地域福祉活動計画を知る			
第9回	地域福祉活動計画－運動－	(内 容) 地域福祉活動計画の運動内容 (必要な準備) 我がまちの地域福祉活動計画を知る			
第10回	地域福祉計画－公民協同－	(内 容) 地域福祉計画における公民協同 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画を知る			
第11回	地域福祉計画－ヒト－	(内 容) 地域福祉計画におけるヒトの重要性 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画を知る			
第12回	地域福祉計画－モノ－	(内 容) 地域福祉計画におけるモノの重要性 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画を知る			
第13回	地域福祉計画－カネ－	(内 容) 地域福祉計画におけるカネの重要性 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画を知る			
第14回	地域福祉計画－情報－	(内 容) 地域福祉計画における情報の重要性 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画を知る			
第15回	地域福祉と自治体行政	(内 容) 地域福祉推進における自治体行政の役割 (必要な準備) 我がまちの地域福祉と行政責務を考える			
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前に E メールしてください。				

授業名	高齢者福祉論Ⅱ	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Welfare for Elderly People Ⅱ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	張 帆	対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	介護保険制度が2000年より実施されたことで、日本の介護保障システムは大きく転換した。この講義では、介護保険制度が創設された経緯、介護保険制度の仕組みや介護保険サービスの体系について解説する。さらに、日本の高齢者福祉制度をより深く理解するために、海外の介護保険システムを取り上げ比較するとともに、これからの日本の介護保障システムの方向性を探っていく。				
学習成果到達目標	1) 介護保険制度の実施より日本の介護保障システムの中で大きく変わった点、介護保険制度の基本的な内容について説明できるようになること。 2) 諸外国の制度を学び、日本の介護保障制度の特色を理解すること。 3) これからの日本の介護保障システムのあり方について自分なりの考察を展開できるようになること。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(論理的思考力) <input type="/> ()			
テキスト	『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度—高齢者福祉論』第4版(2016年) [中央法規]				
参考書	随時指示する				
留意事項					
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	介護保険制度の創設と改正1 制度の全体像と創設	(内 容) 介護保険制度創設の経緯 (必要な準備) テキスト第5章第1節をよく読む			
第2回	介護保険制度の創設と改正2 制度の目的と理念	(内 容) 介護保険制度の目的と理念 (必要な準備) テキスト第5章第2節をよく読む			
第3回	介護保険制度の創設と改正3 介護保険法改正	(内 容) 2005年、2008年と2011年介護保険法改正の背景と内容 (必要な準備) テキスト第5章第2節をよく読む			
第4回	介護保険制度の仕組み1 介護財政、保険者、被保険者	(内 容) 介護財政、保険者、被保険者について (必要な準備) テキスト第5章第3、4節をよく読む			
第5回	介護保険制度の仕組み2 要介護認定、保険給付	(内 容) 要介護認定、保険給付について (必要な準備) テキスト第6章第1、2節をよく読む			
第6回	介護保険制度の仕組み3 介護報酬	(内 容) 介護報酬、地域支援事業、事業計画について (必要な準備) テキスト第6章第3、4、5節をよく読む			
第7回	介護保険制度の仕組み4 介護保険制度の動向	(内 容) 介護保険制度の現状に関する諸議論 (必要な準備) 関連する新聞記事を読む			
第8回	介護保険サービスの体系1 介護保険サービスにおける専門職	(内 容) ケアマネージャー、ホームヘルパーなど (必要な準備) テキスト第7章第1節をよく読む			
第9回	介護保険サービスの体系2 居宅サービス	(内 容) 居宅サービスの内容について (必要な準備) テキスト第7章第2節をよく読む			
第10回	介護保険サービスの体系3 施設サービス	(内 容) 施設サービスの内容について (必要な準備) テキスト第7章第3節をよく読む			
第11回	介護保険サービスの体系4 介護予防サービス、地域密着型サービス	(内 容) 介護予防サービスと地域密着型サービスの内容と導入された経緯 (必要な準備) テキスト第7章第4、5節をよく読む			
第12回	世界各国の介護保障1 介護供給システムの分類	(内 容) 介護供給システム分類の基準と四種類の介護供給システム (必要な準備) 日本の介護システムについてまとめておく			
第13回	世界各国の介護保障2 アメリカとスウェーデン	(内 容) アメリカとスウェーデンの介護保障システム (必要な準備) アメリカとスウェーデンの介護保障システムについて調べる			
第14回	世界各国の介護保障3 ドイツ	(内 容) ドイツの介護保障システム (必要な準備) ドイツの介護保障システムについて調べる			
第15回	まとめ	(内 容) これまでの学習内容の復習 (必要な準備)			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	教育の方法と技術		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Methods and Techniques		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	渡邊 雄一		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、技術指導、プレゼンテーションの方法を学習することによって、情報発信型の教育に対応した授業設計・実践に関わる知識・技能を習得し、効果的な学習・教育を行うための方法について学ぶ。					
学習成果到達目標	1) 教育の方法と技術に関わる基礎的な内容(史的変遷・理論など)を理解している。 2) よい授業の構成の仕方を理解し、指導技術を身に付けている。 3) チームでの学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法を提示できる。					
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 6"="" type="checkbox/>()</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 随時指示する。				
参考書	西之園晴夫『学習ガイドブック 教育の技術と方法』ミネルヴァ書房, 2007年					
留意事項	授業中に出された課題については、主体的に取り組み、必ず提出すること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス		(内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)			
第2回	教育の方法・技術に関する諸概念		(内容) 教育方法、教授法、学習指導などの諸概念について解説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。			
第3回	教育方法の史的変遷①		(内容) 教授法の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。			
第4回	教育方法の史的変遷②		(内容) 教育の現代化と教授理論について解説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。			
第5回	カリキュラム開発		(内容) カリキュラム開発の概念について概説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。			
第6回	教育課程と学習指導要領		(内容) 教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。			
第7回	教育方法・技術を考える基本的視点		(内容) 完全習得学習について解説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。			
第8回	教育評価とは		(内容) 教育における評価の意味や意義について考察する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。			
第9回	教育評価の方法		(内容) 相対評価、絶対評価などの評価方法について解説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。			
第10回	学習指導方法を考える		(内容) 教育における今日的な課題を解決するための学習指導方法を考える。 (必要な準備) 事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。			
第11回	プレゼンテーション準備(学習指導方法)		(内容) プレゼンテーションの準備をする。 (必要な準備) チームの各人がそれぞれの役割を果たす。			
第12回	プレゼンテーション①(学習指導方法)		(内容) 各チームが提案する学習指導方法について発表する。 (必要な準備) チームの各人がそれぞれの役割を果たす。			
第13回	学習評価方法を考える		(内容) 各チームが提案した学習指導方法において、適切な学習評価方法を考える。 (必要な準備) 各人がそれぞれのチームに合った学習評価方法を考えておくこと。			
第14回	プレゼンテーション準備(学習評価方法)		(内容) プレゼンテーションの準備をする。 (必要な準備) チームの各人がそれぞれの役割を果たす。			
第15回	プレゼンテーション②(学習評価方法)		(内容) 各チームが提案する学習評価方法について発表する。 (必要な準備) チームの各人がそれぞれの役割を果たす。			
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。					

授業名	生活とアート	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Life and Art	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山部 泰司	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	アートは人生のさまざまな局面において、生活を豊かにし、人の心を豊かにする。本講義では、現代の生活空間の中で私たちが会おうアートについて紹介しながら、アートを生活の中に主体的に取り入れ、楽しみ、活用するための方法を学習する。また、食物サンプルを制作する活動を通して、食における美的な価値について知る。				
学習成果到達目標	1) アートについての理解力を深め、感性と想像力を高める。 2) 生活とアートの関わりを豊かに展開できる力を身につける。 3) さまざまな芸術表現を鑑賞し体験する能力を育てる。				
評価方法	定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 造形力) <input type="checkbox"/>			
テキスト	プリントを配布。				
参考書	授業時に必要なものを指示する				
留意事項	講義、ディスカッション、表現の追体験、制作、鑑賞など多角的な授業を行う				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	導入		(内 容) 生活とアートについての導入・実施 (必要な準備) 筆記用具		
第2回	アートに出会う1		(内 容) 美術館、ギャラリーについて調べる (必要な準備) 美術館、ギャラリーの情報を集める		
第3回	アートに出会う2		(内 容) 美術館、ギャラリーを体験する (必要な準備) 事前に指定する内容について調べておく		
第4回	アートをつくる(食とアート)1		(内 容) 食物サンプルとポップアート (必要な準備) 食べ物を観察しておく		
第5回	アートをつくる(食とアート)2		(内 容) 食物サンプルをつくる1 (必要な準備) 必要な材料を用意する		
第6回	アートをつくる(食とアート)3		(内 容) 食物サンプルをつくる2 (必要な準備) 彩色、仕上げ		
第7回	アートをつくる(食とアート)4		(内 容) 食物サンプルのプレゼンテーションと撮影 (必要な準備) カメラ等を持参する		
第8回	アートをつくる(食とアート)5		(内 容) 表現の発表と鑑賞と考察 (必要な準備) テーマとした食物について調べておく		
第9回	社会と関わるアート		(内 容) 地域や社会を活性化するアートについて学ぶ (必要な準備) 資料を配布する		
第10回	人と関わるアート		(内 容) アートセラピーやワークショップについて (必要な準備) 資料を配布する		
第11回	アートを育てること		(内 容) 同時代のアートを支える仕事について (必要な準備) 資料を配布する		
第12回	アート作品の研究1		(内 容) 作品を選んで調べる (必要な準備) 気になるアートを探しておく		
第13回	アート作品の研究2		(内 容) 作品について考察する (必要な準備) 必要な資料を集めておく		
第14回	アート作品の研究3		(内 容) 研究の発表 (必要な準備) 発表の準備を整えておく		
第15回	まとめ		(内 容) 生活とアートについてのまとめレポート (必要な準備) 授業の内容を復習しておく		
オフィスアワー	登録学生の希望により決定し研究室前に掲示する。				

授業名	室内デザイン実習	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Interior Design Training	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	川島 智生	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	快適な室内空間を作り上げるために必要な知識を学び、それらを具体的な形にする力を身につける。床、壁、カーテンなどの住空間のデザイン、家具や照明など室内で使用されるモノのデザインについて実習を通して学ぶ。生活するうえで大切な場である住いを総合的にデザインし、さまざまな状況にある生活者にとって豊かな室内空間を創出する力を養う。製図と模型の制作などの実習をおこなう。				
学習成果到達目標	1) 基本的な室内空間の仕組みを把握する。 2) 簡易な部屋を設計できる力を身につける。				
評価方法	定期試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	
テキスト	未定				
参考書					
留意事項	簡単な製図道具ならびに模型制作道具が必要。現地見学がある				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 室内デザイン実習を学ぶ意義 (必要な準備)			
第2回	寸法体系	(内 容) 寸法体系の話・畳の大きさ (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第3回	部屋の構成	(内 容) 部屋の仕組み (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第4回	床・壁・天井の仕上げと素材	(内 容) 室内の仕上げ・教室内で実地見学 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第5回	家具	(内 容) 家具の種類と特質 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第6回	室内環境工学	(内 容) 室内と採光・換気・空調・騒音の関係 (必要な準備) 教科書を読んでおく			
第7回	現地見学1	(内 容) 優れた室内空間の見学 (必要な準備) カメラ・メジャーなどの用意			
第8回	インテリア製図・平面図	(内 容) 室内のプランニングの理解と図面作成 (必要な準備) 製図道具			
第9回	インテリア製図・展開図	(内 容) 室内の立体方向の図面の理解と図面作成 (必要な準備) 製図道具			
第10回	インテリア・パース作図	(内 容) 室内の完成予想図の作成 (必要な準備) 製図道具			
第11回	模型制作1	(内 容) スチレンボードで室内の模型の制作 (必要な準備) 模型道具			
第12回	模型制作2	(内 容) スチレンボードで室内の模型の制作 (必要な準備) 模型道具			
第13回	現地見学2	(内 容) 優れた商業空間の見学 (必要な準備) カメラ・メジャーなどの用意			
第14回	部屋の設計	(内 容) 与えられた条件で部屋の内部空間の設計 (必要な準備) 製図道具			
第15回	設計作品の発表ならびに講評	(内 容) プレゼンテーションと講評会 (必要な準備) 各自がプレゼンテーションできる用意			
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を				

授 業 名	家庭工学演習	開講学年	3回生	単位数	2単位
英 文 名	Home Engineering Practice	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	川島 智生	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	住まいの安全ならびに設備・機器について基礎科学を学ぶ。近代生活は電気・ガス・水道なくしてはなりたらず、近年はあらかじめ設備計画に基づいて設備はビルトイン化している。そのためにそのしくみを知ることは重要である。また電気・ガス・水道に繋がれたそれらの機器類や家庭内の電化製品は生活上、大きな役割を果たしている。この授業では設備の工学ならびに、家庭生活に必要な電気・機械工学の基礎知識を習得し、機器類の安全な取り扱い方法から機器の適切な活用法など、能率的な生活の維持ができる技術を学習する。				
学習成果 到達目標	1) 住宅内の電気・ガス・給排水の仕組みを理解し、用いられる電化機器の科学的内容を習得する。 2) 理想的な設備計画の提案をおこなえる。 3) 住まいの安全を総合的に考えることができる。				
評価方法	定期試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> (図面解読能力 <input type="checkbox"/> (<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力)			
テキスト	授業中に配布				
参考書	飯野秋成『図とキーワードで学ぶ 建築設備』学芸出版社 柏木博『日用品の文化誌』(岩波新書)				
留意事項	住宅見学を実施する。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	家庭工学演習を学ぶ意義	(内 容) 家庭工学演習ガイドンス (必要な準備)			
第2回	住まいの性能1 安全	(内 容) 安全耐震・火災・防犯 (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第3回	住まいの性能2 設備	(内 容) 給排水・電気・ガス・照明計画 (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第4回	設備図面	(内 容) 設備図面の読解ならびに簡単な作図 (必要な準備) 定規類			
第5回	家庭の電気と安全性	(内 容) 屋内電気配線・感電防止・安全マークなどを学ぶ (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第6回	家庭の機器	(内 容) 冷蔵庫・洗濯機などのしくみを学ぶ (必要な準備) 自宅の機器の観察			
第7回	空調機器	(内 容) エアコンなどを学ぶ (必要な準備) 自宅の様態を観察			
第8回	照明のシステムと器具	(内 容) 照明器具の種類と選択のポイント (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第9回	給排水システムと器具	(内 容) 湯沸かし機器・給湯システム・排水システム (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第10回	現地見学	(内 容) 京都市内の住宅の内部見学 (必要な準備) 方眼紙とメジャー、カメラなど			
第11回	インテリア材料	(内 容) インテリア材料に要求される性能を学ぶ (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第12回	ヘルシーハウジングに向けて	(内 容) シックハウス症候群 (必要な準備) 配布資料を事前学習			
第13回	望ましい住まいの設備計画(1)	(内 容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (必要な準備) 製図道具			
第14回	望ましい住まいの設備計画(2)	(内 容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (必要な準備) 製図道具			
第15回	計画作品の発表ならびに講評	(内 容) プレゼンテーションと講評会 (必要な準備) 各自がプレゼンテーションできる用意			
オフィス アワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を				

授業名	社会保障論Ⅱu		開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Social Security II		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	張 帆		対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	この講義では、日本の介護保険制度、労働保険制度などの社会保険制度、公的扶助や社会福祉、社会手当などを取り上げる。少子高齢化や財政赤字が問題となっている現在、社会保障の在り方についても再考が求められている。その議論を理解するための基本となる各制度の内容や仕組み、そして現状と課題について解説する。					
学習成果到達目標	1) 日本における各種の社会保障制度について基本的な内容を理解し説明できるようになること。 2) 少子高齢化が進む中、社会保障制度について自分なりの問題意識を持つようになること。 3) これからの社会保障制度の在り方について自分なりの考察を展開できるようになること。					
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (論理的思考力) <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	『はじめての社会保障』第13版(2016) 有斐閣					
参考書	足立正樹『高齢社会と福祉社会』高菅出版 2006年					
留意事項	社会保障論Ⅰを履修済みであることが望ましい					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	介護保険1 介護保険制度の創設		(内 容) 介護保険制度創設の経緯 (必要な準備) テキスト第3章第1節をよく読む			
第2回	介護保険2 介護保険制度の概要		(内 容) 介護保険制度の内容について (必要な準備) テキスト第3章第2～6節をよく読む			
第3回	介護保険3 介護保険制度の現状と課題		(内 容) 介護保険制度の現状と問題点および展望 (必要な準備) 介護保険制度の最近の動向について調べる			
第4回	労働保険1 雇用保険		(内 容) 雇用保険の内容について (必要な準備) テキスト第5章をよく読む			
第5回	労働保険2 労災保険		(内 容) 労働者災害補償保険の内容について (必要な準備) テキスト第6章をよく読む			
第6回	社会保険と民間保険1 保険の仕組み		(内 容) 保険制度の基本仕組みについて (必要な準備) テキスト第7章第1節をよく読む			
第7回	社会保険と民間保険2		(内 容) 保険制度の3大原則について (必要な準備) テキスト第7章第1節をよく読む			
第8回	社会保険と民間保険2 社会保険と民間保険との相違		(内 容) 社会保険と民間保険の比較 (必要な準備) テキスト第7章第2節をよく読む			
第9回	公的扶助1 生活保護制度の概要		(内 容) 生活保護制度の内容について (必要な準備) テキスト第2章第1節をよく読む			
第10回	公的扶助2 生活保護制度の現状と課題		(内 容) 生活保護制度の現状と問題点および展望 (必要な準備) 生活保護制度の最近の動向について調べる			
第11回	社会福祉		(内 容) 社会福祉制度の内容について (必要な準備) テキスト第2章第2節をよく読む			
第12回	社会手当		(内 容) 児童手当などについて (必要な準備) テキスト第2章第2節をよく読む			
第13回	社会保障の機能		(内 容) 所得再分配、救貧・防貧機能などについて (必要な準備) テキスト第8章第3節をよく読む			
第14回	社会保障の課題と将来		(内 容) 日本の社会保障制度の現状および展望 (必要な準備) テキスト第8章第5節をよく読む			
第15回	まとめ		(内 容) これまでの学習内容の復習 (必要な準備)			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する					

授業名	簿記演習	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Bookkeeping Practice	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	中村 映美	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	授業で取り扱う商業簿記を要約すると「商業を営む企業を対象として、当該企業において日々行われる経済活動を二面的（複式）に把握し、継続的に記録・計算・整理する一連のシステム」、簡単に言えば「会社が日々の活動を行った結果、どれだけ儲かったかを計算し、またどれだけ財産や借金があるのかを把握するために一定の規則に従って記録する方法」となる。記録から経済活動を把握する方法を学ぶ、実践的な授業を演習形式で行う。				
学習成果到達目標	1) 複式簿記の基本原則を理解し、個人商店における諸取引の処理に適用できる。 2) 帳簿の記入から財務諸表作成までの一連の流れを理解できる。				
評価方法	定期試験 (30 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()			
テキスト	適宜プリントを配布いたします。				
参考書	『検定簿記講義 3級商業簿記』渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著、中央経済社				
留意事項	毎回の授業を受けるにあたって、予習・復習をしっかりと行うこと。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	科目ガイダンス 簿記の意義		(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる (必要な準備)		
第2回	簿記の基礎		(内 容) 貸借対照表、損益計算書の構造と簿記の基礎概念を説明する (必要な準備) 資産、負債、純資産、収益、費用に属する勘定科目に関する問題を解く		
第3回	仕訳と転記		(内 容) 仕訳のルールと総勘定元帳への転記を説明する (必要な準備) 取引の分解の問題を解く		
第4回	決算		(内 容) 仕訳から決算までの簿記の流れを説明する (必要な準備) 試算表、精算表の問題を解く		
第5回	現金と預金		(内 容) 簿記上の現金とは何か、小切手に関わる処理を説明する (必要な準備) 通貨代用証券、小切手について調べておく		
第6回	繰越商品・仕入・売上		(内 容) 商品売買の処理を説明する (必要な準備) 分記法、3分法、商品有高帳の問題を解く		
第7回	売掛金と買掛金		(内 容) 売掛金元帳、買掛金元帳について説明する (必要な準備) 前払金、前受金の問題を解く		
第8回	その他の債権・債務		(内 容) 貸付金、借入金、未収金、未払金、仮払金、仮受金、立替金、預り金について説明する (必要な準備) 前受金、前払金の問題を解く		
第9回	手形		(内 容) 約束手形、為替手形について説明する (必要な準備) 小切手の問題を復習し、手形との違いを調べる		
第10回	有価証券		(内 容) 有価証券について説明する (必要な準備) 株式、社債とは何かについて調べる		
第11回	固定資産		(内 容) 固定資産の購入、売却について説明する (必要な準備) 固定資産とは何かについて調べる		
第12回	資本金と引出金		(内 容) 引出金について説明する (必要な準備) 所得税の問題を解く		
第13回	収益と費用		(内 容) 収益と費用の見越し・繰延べについて説明する (必要な準備) 収益と費用の種類を調べる		
第14回	伝票		(内 容) 3伝票制、5伝票制について説明する (必要な準備) 伝票制度について調べる		
第15回	財務諸表の作成		(内 容) 財務諸表の作成プロセスを説明する (必要な準備) 貸借対照表、損益計算書の作成問題を解く		
オフィスアワー					

授業名	会計演習	開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Accounting Practice	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	中村 映美	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	財務会計に関する基本的知識を身につけることを目標とした演習方式の授業である。具体的には貸借対照表と損益計算書を理解できるようになるレベルを目指す。会計はビジネスの言語ともいわれ、企業は言うまでもなく、NPOであっても、公務員でも、今後ますますビジネス・センスが求められるようになる。この演習でビジネス・センス基礎力を養う。				
学習成果到達目標	1) 貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の構造を理解できる。 2) 収益の認識基準、資産評価基準を理解できる。				
評価方法	定期試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	適宜プリントを配布いたします。				
参考書	『新版 会計学入門』千代田邦夫著 中央経済社				
留意事項	簿記演習も履修することが望ましい。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 本授業の目標を理解し、学習計画を立てる (必要な準備)			
第2回	財務諸表の体系	(内 容) 財務諸表の体系を説明する (必要な準備) 計算書類、財務諸表について調べる			
第3回	企業会計原則の一般原則	(内 容) 一般原則について説明する (必要な準備) 財務諸表の体系の問題を解く			
第4回	損益計算書(1)	(内 容) 収益と費用の認識、測定について説明する (必要な準備) 収益の認識に関わる問題を解く			
第5回	損益計算書(2)	(内 容) 5つの利益の意味について説明する (必要な準備) 損益計算書の利益の算出の問題を解く			
第6回	貸借対照表(1)	(内 容) 資産の評価基準について説明する (必要な準備) 取得原価主義とは何かを調べる			
第7回	貸借対照表(2)	(内 容) 棚卸資産の評価方法について説明する (必要な準備) 先入先出法の問題を解く			
第8回	貸借対照表(3)	(内 容) 原価配分としての減価償却について説明する (必要な準備) 定額法の問題を解く			
第9回	貸借対照表(4)	(内 容) 純資産の構成について説明する (必要な準備) 資本金、剰余金について調べる			
第10回	キャッシュフロー計算書	(内 容) キャッシュフロー計算書の意義を説明する (必要な準備) キャッシュフロー計算書の作成問題を解く			
第11回	株主資本等変動計算書	(内 容) 株主資本等変動計算書の意義を説明する (必要な準備) 株主資本について調べる			
第12回	経営分析(1)	(内 容) 企業の収益性の分析指標を説明する (必要な準備) 興味のある企業の財務諸表を調べる			
第13回	経営分析(2)	(内 容) 企業の安全性の分析指標を説明する (必要な準備) 興味のある企業の財務諸表を調べる			
第14回	経営分析(3)	(内 容) 企業の成長性の分析指標を説明する (必要な準備) 興味のある企業の財務諸表を調べる			
第15回	経営分析(4)	(内 容) 企業の付加価値の分析指標を説明する (必要な準備) 興味のある企業の財務諸表を調べる			
オフィスアワー					

授 業 名	販売論	開講学年	3回生	単位数	2単位
英 文 名	Sales Theory	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	中西 孝平	対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	入門レベルのマーケティングのテキストを利用して講義を進める。流通業や小売業の基本的な仕組みを理解するだけでなく、生活者としても必要な知識が身に着くように、できるだけ多くの事例を取り上げ、理解しやすいように努めたい。「交流の場」への登場をお願いする。				
学習成果 到達目標	1) マーケティングの基礎的な知識を身につける。 2) 商品の販売の仕組みについて自分で考えられるようになる。				
評価方法	定期試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30 %) <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> (授業での質疑応答による理解力と回答力) <input type="checkbox"/> ()			
テ キ ス ト	沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣				
参 考 書	授業中に紹介				
留 意 事 項	「交流の場」に登場してもらい、Q&Aの力や、プレゼン力を身に付けてもらう。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第 1 回	イントロダクション	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 2 回	マーケティング・ミックス①	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 3 回	マーケティング・ミックス②	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 4 回	ターゲット市場の選定①	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 5 回	ターゲット市場の選定②	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 6 回	製品ライフサイクル①	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 7 回	製品ライフサイクル②	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 8 回	市場地位別のマーケティング戦略①	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 9 回	市場地位別のマーケティング戦略②	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 10 回	業界の構造分析①	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 11 回	業界の構造分析②	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 12 回	全社戦略①	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 13 回	全社戦略②	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 14 回	事業とドメインの定義①	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
第 15 回	事業とドメインの定義②	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)			
オフィス アワー	毎回授業終了後に実施する。				